TOKYO DENKI UNIVERSITY

2018

改訂版

東京電機大学理工学部

平成30(2018)年度　理工学部主要行事予定

【前期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定
4月	1	2	3	4	5	6	7	2 入学式
								2～5 オリエンテーション
								6～7 新入生研修行事
	8	9	10	11	12	13	14	9 前期授業開始
		①	①	①	①	①	①	
	15	16	17	18	19	20	21	
		②	②	②	②	②	②	
	22	23	24	25	26	27	28	29 昭和の日
		③	③	③	③	③	③	
	29	30						30 振替休日
5月			1	2	3	4	5	3 憲法記念日
			④	④				4 みどりの日
	6	7	8	9	10	11	12	5 こどもの日
		④	⑤	⑤	④	④	④	
	13	14	15	16	17	18	19	
		⑤	⑥	⑥	⑤	⑤	⑤	
	20	21	22	23	24	25	26	
		⑥	⑦	⑦	⑥	⑥	⑥	
	27	28	29	30	31			太線上：前前期
		⑦	⑧	⑧	⑦			太線下：前後期
6月						1	2	
						⑦	⑦	
	3	4	5	6	7	8	9	
		⑧	⑨	⑨	⑧	⑧	⑧	
	10	11	12	13	14	15	16	
		⑨	⑩	⑩	⑨	⑨	⑨	
	17	18	19	20	21	22	23	
		⑩	⑪	⑪	⑩	⑩	⑩	
	24	25	26	27	28	29	30	
		⑪	⑫	⑫	⑪	⑪	⑪	
7月	1	2	3	4	5	6	7	3～27 学期末試験期間
		⑫	⑬	⑬	⑫	⑫	⑫	
	8	9	10	11	12	13	14	
		⑬	⑭	⑭	⑬	⑬	⑬	
	15	16	(17)	18	19	20	21	16 海の日
			月⑭	予備	⑭	⑭	⑭	17 授業置換日(月曜日授業)
	22	23	24	[25]	[26]	[27]	28	18,23,24 授業予備日
		予備	予備	特定	特定	特定		25～27 特定日
	29	30	31					27 前期授業・試験終了
8月				1	2	3	4	
								7/28～9/9 夏季休業*
	5	6	7	8	9	10	11	
								8/11 山の日
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
9月							1	7/28～9/9 夏季休業*
	2	3	4	5	6	7	8	
	9							7 前期成績発表

カレンダーの見方

- (○) 授業置換日(他の曜日の授業を行います)
- [□] 特定日(授業・補講は行われません。学期末試験等を行います)
- ■ 授業を行わない日
- ①など 各曜日ごとの授業回数

※ 長期休業期間(*印)は、集中講義・補講などを実施する場合があります。
※ 授業予備日は、台風・降雪等により授業が休講になった場合の補講日とします。
※ 予定のため変更の可能性があります。変更の場合は事前に「DENDAI-UNIPA」等でお知らせします。
※ 四半期7週、半期14週の授業日程。

【後期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定
9月		10	11	12	13	14	15	10 後期授業開始
		①		①	①	①	①	11 創立記念日(9/11)
	16	17	18	19	20	21	22	17 敬老の日
			①	②	②	②	②	23 秋分の日
	23	24	25	26	27	28	29	24 振替休日
			②	③	③	③	③	
	30							
10月		1	2	3	4	5	6	
		②	③	④	④	④	④	
	7	8	9	10	11	12	13	8 体育の日
			④	⑤	⑤	⑤	⑤	
	14	15	16	17	18	19	20	
		③	⑤	⑥	⑥	⑥	⑥	
	21	22	23	24	25	26	27	
		④	⑥	⑦	⑦	⑦	⑦	太線上：後前期
	28	29	30	31				太線下：後後期
		⑤	⑦	⑧				
11月					1	2	3	11/1～6 鳩山祭に伴う休講
					準備	準備	学園祭	3 文化の日
	4	5	6	(7)	8	9	10	3～4 鳩山祭
	学園祭	片付	片付	月⑥	⑧	⑧	⑧	7 授業置換日(月曜日授業)
	11	12	13	14	15	16	17	
		⑦	⑧	⑨	⑨	⑨	⑨	
	18	19	20	21	22	23	24	23 勤労感謝の日
		⑧	⑨	⑩	⑩		⑩	
	25	26	27	28	29	30		
		⑨	⑩	⑪	⑪	⑩		
12月							1	
							⑪	
	2	3	4	5	6	7	8	
		⑩	⑪	⑫	⑫	⑪	⑫	12/12～1/17 学期末試験期間
	9	10	11	12	13	14	15	
		⑪	⑫	⑬	⑬	⑫	⑬	23 天皇誕生日
	16	17	18	19	20	21	22	24 振替休日
		⑫	⑬	⑭	⑭	⑬	⑭	
	23	24	(25)	26	27	28	29	25 授業置換日(月曜日授業)
			月⑬					26～1/6 冬季休業*
	30	31						
2019			1	2	3	4	5	9,10,12 授業予備日
								14 成人の日
1月	6	7	8	9	10	11	12	
		⑭	⑭	予備	予備	⑭	予備	15～17 特定日
	13	14	[15]	[16]	[17]	18	19	17 後期授業・試験終了
			特定	特定	特定			18～20 センター試験(18日準備日含む)
	20	21	22	23	24	25	26	1/18～ 春季休業*
	27	28	29	30	31			
2月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	11 建国記念日
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28			26 卒業発表・進級発表
3月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	18 卒業式
	17	18	19	20	21	22	23	21 春分の日
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							

UNIVERSITY CATALOGUE

学生要覧　2018

【(公財）大学基準協会による認証評価（大学評価）の受審について】

認証評価制度は、2002（平成14）年の学校教育法の改正に伴い、各大学は、教育・研究水準の向上に資するため、当該大学の教育・研究、組織・運営、施設・設備等の総合的な状況について、一定期間 (7年以内) ごとに文部科学大臣の認証を受けた者 (認証評価機関)による評価（認証評価）を受審することとなり、2004（平成16）年に導入されました。

本学は、2016（平成28）年度に（公財）大学基準協会（認証評価機関）において、認証評価を受審した結果、大学基準に適合していることが認定（認証期間：2017（平成29）年4月1日～2024（平成36）年3月31日）されました。

今後も更なる教育・研究活動の充実・発展のため、改善・改革を実施し、学生の皆さんの期待に応えられるよう、教育・研究の質の向上に取り組みます。

東京電機大学 理工学部

この学生要覧は卒業するまで使用しますので、大切に取扱いください。

大学・大学院英文名

東京電機大学	Tokyo Denki University
理工学部	School of Science and Engineering
理工学科	Department of Science and Engineering
理学系	Division of Science
生命科学系	Division of Life Science
情報システムデザイン学系	Division of Information Systems and Design
機械工学系	Division of Mechanical Engineering
電子工学系	Division of Electronic Engineering
建築・都市環境学系	Division of Architectural, Civil and Environmental Engineering

東京電機大学大学院	Graduate School of Tokyo Denki University
先端科学技術研究科	Graduate School of Advanced Science and Technology
博士課程（後期）	Doctoral Programs
数理学専攻	Mathematical Sciences
電気電子システム工学専攻	Electrical and Electronic Systems Engineering
情報通信メディア工学専攻	Information, Communication and Media Design Engineering
機械システム工学専攻	Mechanical System Engineering
建築・建設環境工学専攻	Architecture, Civil and Environmental Engineering
物質生命理工学専攻	Materials and Life Sciences
先端技術創成専攻	Advanced Multidisciplinary Engineering
情報学専攻	Informatics
理工学研究科	Graduate School of Science and Engineering
修士課程	Master's Programs
理学専攻	Science
生命理工学専攻	Life Science and Engineering
情報学専攻	Informatics
電子・機械工学専攻	Electronic and Mechanical Engineering
建築・都市環境学専攻	Architectural, Civil and Environmental Engineering

学校法人東京電機大学の個人情報保護に関する取組み

学校法人東京電機大学は、個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）に基づき、個人情報保護の重要性に鑑み、保有する個人情報の取扱いについて、適正な収集、利用、管理及び保存を図り、もって個人の権利利益及びプライバシーを保護するため、次の事項を遵守します。

1. 個人情報の収集
   個人情報の収集は、必要な範囲内において利用目的を明確に定めて、適正かつ公正な方法によって行います。
2. 個人情報の利用
   個人情報の利用は、目的達成に必要な範囲内で利用します。
3. 個人情報の提供
   個人情報は、法令に基づくとき、本人の同意があるとき等を除き、第三者に提供いたしません。
4. 個人情報の管理
   個人情報は、個人情報保護責任者を定めて、正確かつ安全に、管理及び保存を行います。
5. 個人情報に関する請求への対応
   個人情報の開示、不開示、訂正、利用停止等の請求に速やかに対応いたします。
6. 個人情報保護の推進等
   個人情報保護推進等のため、必要な組織（委員会）を設置します。

個人情報の取扱いについて

「個人情報保護に関する法律」および「学校法人東京電機大学個人情報保護に関する規程」に従い、以下に定める目的以外に利用することはありません。

㈠ 入学式、卒業式など、本学が主催する行事のため。
㈡ 正課授業および正課外活動のため。
㈢ 学籍（進級・休学・退学・除籍）管理、学生証発行、履修関連業務、試験の実施、成績処理、学位（申請・審査・授与）、奨学金業務（申請・受給）、各種証明書発行など、本学における教育・研究活動のため。
㈣ 学生の健康管理、学園祭等の学内行事、クラブその他学生組織の指導・連絡などの学生指導を行なうため。
㈤ 学生に対するキャリア･就職支援業務、インターンシップ支援業務、各種施設利用など、本学組織や本学施設の運営業務を行うため。
㈥ 教育・研究のために業務上必要な書類の郵送（成績通知書の送付を含む）、電話・メールなどでの連絡のため。
㈦ 学費等の請求、入金処理、督促等に必要な業務を行うため。
㈧ 官公庁等の調査依頼に対する回答のため。
㈨ 学生本人および保証人に対して、本学（本学組織含む）ならびにその関連機関である東京電機大学後援会および社団法人東京電機大学校友会から通知および連絡を行うため。
㈩ その他本学の教育・研究および学生支援に必要な業務を遂行するため。
㈠㈠ その他法令に基づく場合。

学生要覧　目次

第１章 はじめに（新入生の皆さんへ）

学長挨拶 …… 2
学部長挨拶 …… 3

第２章 学生生活を始めるにあたって

1　皆さんへの情報伝達・連絡の方法 …… 6
2　学生証 …… 7
3　通学定期乗車券 …… 9
4　スクールバス …… 9
5　車両通学 …… 10
6　交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置について …… 11
7　呼出・連絡・照会 …… 12
8　キャンパスルール …… 13
9　トラブルから身を守るために …… 14
10　防犯について …… 17

第３章 学修案内

理工学部の教育
東京電機大学 …… 20
理工学部 …… 21
カリキュラム
共通教育科目・専門教育科目（専門基礎科目） …… 25
理学系 …… 45
生命科学系 …… 65
情報システムデザイン学系 …… 79
機械工学系 …… 97
電子工学系 …… 111
建築・都市環境学系 …… 127
オナーズプログラム …… 143

第４章 履修案内

1　授業科目 …… 148
2　授業 …… 150
3　履修 …… 155
4　試験 …… 161
5　成績 …… 163
6　学生アドバイザーによる学修指導 …… 166
7　単位認定 …… 167
8　進級と留年 …… 171
9　卒業 …… 173
10　WebClass …… 177
【学生ポータルサイト「DENDAI － UNIPA」操作マニュアル】…… 181

第５章 資格と免許

1　本学卒業後に取得できる資格・免許 …… 240

第６章 教職課程

1　教職課程とは …… 246
2　大学入学から免許状取得まで …… 247
3　取得できる免許状の種類・教科と取得しやすい学系 …… 248
4　履修要件 …… 248
5　教職課程の履修手続 …… 257
6　教育実習 …… 258
7　免許状の申請・交付 …… 259

第 7 章 事務取扱い

1　事務取扱事項と取扱時間 …… 264
2　主な書類の提出先 …… 265
3　証明書の交付 …… 267
4　卒業後の証明書申請 …… 268

第 8 章 学籍と学費

1　学籍 …… 272
2　コース制とコースの選択 …… 274
3　学費について …… 276

第 9 章 生活案内

1　学生生活への助言・相談 …… 279
2　留学・海外語学研修 …… 280
3　学割証（学生旅客運賃割引証） …… 281
4　健康管理 …… 282
5　保険制度 …… 283
6　奨学金制度 …… 286
7　短期貸付金制度 …… 291
8　賃貸アパートの紹介 …… 291
9　課外活動 …… 291
10　アルバイト …… 292
11　後援会 …… 294
12　校友会 …… 295
13　東京電機大学シーサート（TDU − CSIRT） …… 297
【STOP!HARASSMENT】 …… 299

第 10 章 各種施設

1　スポーツ施設 …… 304
2　総合メディアセンター …… 306
3　東京電機大学学生向けセキュリティガイドライン …… 318

第 11 章 就職・進学

1　キャリア支援・就職 …… 323
2　大学院への進学 …… 328
3　科目等履修生 …… 328

第 12 章 学則および諸規程

1　東京電機大学学則 …… 330
2　東京電機大学理工学部規則 …… 340
3　東京電機大学学位規程 …… 344
4　試験に関する細則 …… 347
5　学生生活についての規程 …… 349
6　学生アドバイザーに関する規程 …… 351
7　部室使用に関する内規 …… 352
8　理工学部学生の車両通学に関する取扱細則 …… 354
9　特別奨学生規程 …… 356
10　東京電機大学大学院進学特別奨学金規程 …… 357
11　東京電機大学学生救済奨学金貸与規程 …… 358
12　東京電機大学学生支援奨学金貸与規程 …… 360
13　東京電機大学学生応急奨学生規程 …… 361
14　東京電機大学学生サポート給付奨学生規程 …… 362
15　東京電機大学科目等履修生規程 …… 363

第 13 章 沿革

1　沿革 …… 366

第 14 章 大学校歌・学生歌

東京電機大学校歌 …… 372
東京電機大学学生歌 …… 373
東京電機大学理工学部讃歌 …… 373

第 15 章 埼玉鳩山キャンパス案内

埼玉鳩山キャンパス案内図 …… 376
埼玉鳩山キャンパスフロア案内 …… 386
理工学部教員一覧 …… 388

第１章
はじめに
（新入生の皆さんへ）

科学技術により社会貢献を果たしてください



学長　安田　浩

東京電機大学は、社会が必要とする科学技術に関わる「実学」を尊重することを建学の精神として、1907年に廣田精一先生と扇本眞吉先生が、「技術で社会に貢献する人材を養成し国を発展させること」を目指して、神田に創立した電機学校が母体となっています。東京電機大学は、さらに初代学長の丹羽保次郎先生の名言である、「技術は人なり」を教育・研究の理念とし、建学の精神を連綿と受け継ぎ、学園の使命を果たしてまいりました。

本学は現在、工学部、工学部第二部、理工学部、情報環境学部、未来科学部、システムデザイン工学部の6学部と、工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科の4研究科（大学院修士課程）、および先端科学技術研究科（大学院博士課程後期）を擁しています。本学は学園創立110年を迎え、21万人以上の卒業生を輩出し、社会から高い評価を得ております。

現代は、社会活動、産業活動のすべての活動において、科学技術の知識を必要とする時代であり、知識自体が価値を持ち、さらに知識に基づく創案が付加価値を生み出す、「知識基盤社会」と言われております。すなわち、科学技術知識の修得さらには新たな科学技術知識の創案が、現代の「実学」であることは明らかです。本学は、この「実学」に長じて社会を支える科学技術者を養成することと、新たな科学技術知識を創案してより社会に貢献すること、により重要な役割を果たしてきました。

これから皆さんは、科学技術の基礎と専門を学び、科学技術の専門家として様々な問題発見と解決により、社会へ貢献されることを期待しています。大学時代は、人生で一番効率良く多くの知識を吸収し、自分の能力に出来る時代です。本学卒業後、最新知識と技術を駆使するために、まずは数学のような基礎学問の修得、さらにこれに加えて専門学問の修得に励んでください。

科学技術者として社会で活躍するためには、上で述べたように自分の専門に関する知識を修得するだけでなく、それを活用する能力も身につけてください。あなた方が社会に出て直面する課題のほとんどは、環境、資源、エネルギー、情報等、広い分野の知識と技術を統合しなければ解決されないからです。ほとんどの活動現場において、起案、研究、実用化、生産、販売を一つの国ないし地域の中でのみ行うことはまれになり、科学技術者も国際的な活動が求められる時代となり、国際的なコミュニケーション能力は必須になってきています。このような状況から、専門の修得は当然ですが、これに加えて、外国語に堪能になりかつ異文化を理解する能力を持つことが必要なことも、しっかり認識してください。

東京電機大学でこれから学ぶ基礎と専門によって得られる問題発見と解決能力が、皆さんと日本さらには人類の未来を創ります。本学卒業後、国際的な技術者として活躍できるように、意欲を持って大学生活に取り組んでください。

理工学部で学ぶために



理工学部長　川井　　悟

みなさん入学おめでとうございます。東京電機大学 理工学部の教職員を代表して心からお祝い申し上げます。

東京電機大学は、理工系大学としては我が国で最も長い伝統を持つ大学の一つです。2017 年には創立 110 周年を迎えるとともに、理工学部は開設 40 周年を迎えました。創立以来、先進的な教育システムのもと、多くの卒業生を社会に送り出してきました。

本学では、これからの 100 年を見すえた大学作りを進めています。この一環として、理工学部では、「学系制」と「主･副コース制」を取り入れました。「学系」という言葉は耳慣れないかも知れませんが、学科よりも幅広い分野を表しています。

20 世紀は大量生産と大量消費の時代であり、ほとんどの人々が同じような価値観の下、産業活動に邁進していました。しかし、21 世紀の日本は少子高齢化を背景に、様々な分野での国際競争力の低下が懸念されています。これからの不透明な時代を生き抜くためには、深い洞察力に基づいた高度な専門性とともに、幅広い知識が必要となります。従来の学科では、このような幅広い分野の勉強や研究に対応することが困難になったため、理工学部では学科の枠を取り払い学系制に移行しました。

一見、幅広い知識と深い専門性は、相反するように感じられるかもしれません。しかし、低学年次に幅広く勉強し、その中から自分が本当に追求したい分野を探し出すことができれば、上級学年次になってその分野を深く学ぶことができるでしょう。また、「主・副コース制」により関連する分野の勉強をすることができるので、自分が興味を持った分野を別の観点から眺めることができるようになります。「学系制」と「主・副コース制」は、真に人類のためとなるシステムや社会を築いていく人材を養成するための教育システムなのです。

「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に夢なき者に成功なし」、これは明治維新で重要な働きをする多くの若者に思想的影響を与えた吉田松陰のことばです。もちろん人それぞれに「夢」は異なりますから､「成功」も人それぞれかも知れません。しかし、みなさんが理工系大学を目指して勉学に励んできた背景には、実現したい夢や達成したい目標があったはずです。勉強や研究で行き詰まったときには、何を目指していたのかをもう一度思い出してみて下さい。そうすることで、進むべき道が見えてくると思います。

理工学部で、勉強したこと、経験したことを糧として、人々が健康で安心して生活できる社会を築きあげるために、みなさんが活躍することを私たちは願っています。

第２章
学生生活を始めるにあたって

1　皆さんへの情報伝達・連絡の方法

皆さんへの告示、通知、呼出しなどは、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA（以下、UNIPA（ユニパ））で「掲示」します。「掲示」とは、UNIPA の閲覧システムに表示される通知や連絡のことです。

大学は、高校などとは異なりホームルームがありません。学生生活に必要な情報の取得、履修登録、スケジュール管理等は全て自身で行う必要があります。

授業の休講・補講、教室の臨時変更などの連絡をはじめ、履修登録（受講する科目の選択）や成績の発表など、あらゆる連絡・手続きの手段として UNIPA を利用します。

自分で責任を持って、必ず毎日複数回 UNIPA を確認し、見落としや手続き漏れが生じないよう注意して、充実した学生生活を送ってください。

UNIPA に関しては、第 4 章で詳しく案内していますので確認してください。



UNIPA 画面

2　学生証

⑴ 学生証の携帯

学生証は、皆さんが本学の学生であることを証明するものです。常に携帯してください。また、盗難や悪用などされないよう大切に扱ってください。学生証は、授業の出席や証明書自動発行機での各種証明書発行、図書館での本の貸出の際や大規模災害時の安否確認などに必要です。特に、試験等を受ける際には必要ですので、注意してください。登校に際し、学生証を忘れていないか確認する習慣を身につけてください。

学生証の取扱いは、本館１階理工学部事務部（学生厚生担当）で行っています。

⑵ 学生証の交付と年度更新

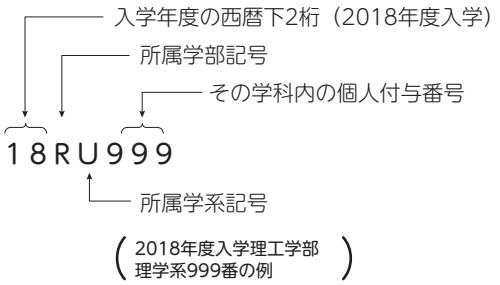
新入生：４月のオリエンテーションにて交付。

在学生：毎年４月に学生証の年度更新（裏面シールの交換）を実施しますので、定められた期間内に必ず理工学部事務部（学生厚生担当）にて手続きを行ってください。裏面シール配付時期については、UNIPA にてお知らせします。

⑶ 学籍番号のしくみ

学生証に記載された７桁の数字・記号を学籍番号といいます。

学籍番号のしくみは次の通りです。



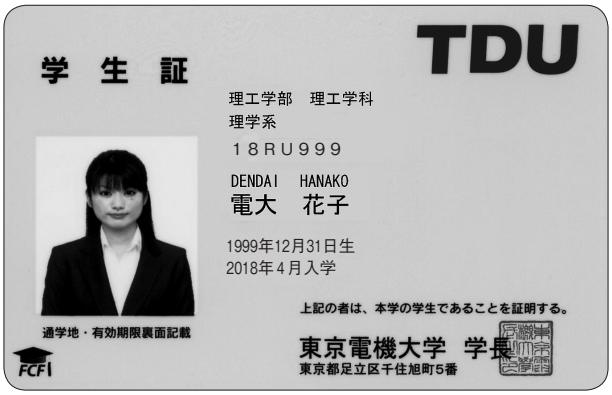
理学系	RU
生命科学系	RB
情報システムデザイン学系	RD
機械工学系	RM
電子工学系	RE
建築･都市環境学系	RG

⑷ 学生証の紛失・汚損

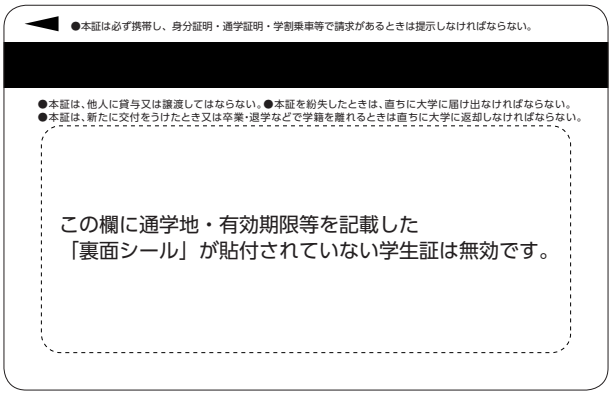
学生証を紛失・汚損した場合は、直ちに学生証再発行の手続きをとってください。

本館１階の証明書自動発行機で学生証再発行の申請書（2,000 円）を出力し、必要事項を記入の上、理工学部事務部（学生厚生担当）へ提出してください。原則として、2 日後（土･日・祝を除く）に交付します。

なお、退学・除籍の場合は、学生証を直ちに返納してください。



〔表面〕



〔裏面〕

通学地	埼玉県比企郡鳩山町大字石坂　049-296-0496(ダイヤルイン)						有効期限
現住所							2019.3.31
通学区間	～						東京電機大学
通学定期乗車券発行控	発行年月日	通用期間	発行駅	発行年月日	通用期間	発行駅	大学記載欄
		箇月			箇月		
		箇月			箇月		
		箇月			箇月		

〔裏面シール〕

＊裏面シールが定期券購入時の通学証明書となります（年度毎に交換更新）

3　通学定期乗車券

通学のための電車・バス等を利用する場合の通学定期乗車券の購入方法は、次のとおりです。

⑴ **JR・私鉄の場合**

通学途中の主要駅で、駅備付の「通学定期乗車券購入申込書」に記入して、学生証を添えて駅窓口に提出すれば購入できます。

⑵ **バス**

バス会社によっては大学の通学証明書を必要とする場合があります。その場合には学生厚生担当で証明書を発行しますので申し込んでください。(P267 参照)

⑶ **実習用通学定期**

卒業研究、教育実習等により埼玉鳩山キャンパス以外の場所へ一定の期間通学する必要が生じた場合は実習用通学定期を申請することができます（通常の通学定期と同様に１ヶ月単位での購入になります)。

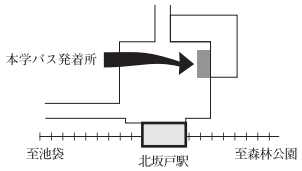
購入するには学生厚生担当窓口で手続きを行い、各鉄道会社へ申請し、発行許可を受ける必要があります。**鉄道会社から発行の許可が下りるまでは１ヶ月程度かかります**ので早めに（１ヶ月以上前に）手続きを行うようにしてください。

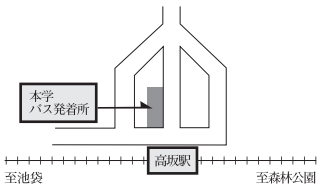
4　スクールバス

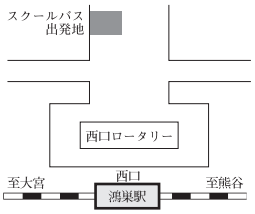
東武東上線高坂駅・北坂戸駅～大学間に、平日・土曜のみ授業時間にあわせてスクールバスを運行しています。運行時刻は大学本館前バス停、高坂駅・北坂戸駅の発着場所に掲示されています。なお、北坂戸駅発着のスクールバスは北坂戸に住んでいる学生を主な対象としています。便数が少ないため、できるだけ高坂駅発着のスクールバスを利用してください。

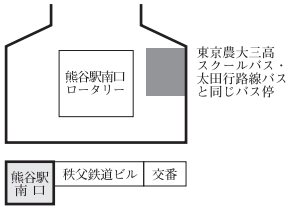
また、ＪＲ熊谷駅・鴻巣駅～大学間にもスクールバスを運行しています（原則的に熊谷便は平日・土曜、鴻巣便は授業期間の平日のみ)。ただし便数が少ないため、運行時間には注意してください。熊谷便・鴻巣便のスクールバスは、道路事情や天候などにより所要時間や運行時刻が大幅に変わる場合があるので、利用する学生はその点をよく理解した上、利用してください。

スクールバスは、日曜・祝日、大学の休業日は運行しておりません。また運行時刻が変更になることがあります。その場合には DENDAI-UNIPA でお知らせしますので、DENDAI-UNIPA をよく確認するようにしてください。









スクールバスの他、高坂駅から路線バス（有料）も大学まで運行されています。路線バスはスクールバスの運行がない日曜・祝日も運行されています。

○路線バス

運行時間帯：高坂駅発 6：30 頃～大学発 22：50 頃（平日）
土・日・祝日は始発が遅くなり、終発が早くなります。
詳しくは路線バスのバス停で時刻表を確認してください。

運　　賃：片道￥210（IC カード　￥206、平成 30 年 2 月現在）

5　車両通学

本学では「駐車許可証」の発行を受けていない者の自動車等による通学（一時的な来校を含む）は一切認めていません。

自動車等での通学を希望する場合は、年 2 回（5 月、10 月）行われる「安全運転講習会」を受講し、「車両通学願」を学生厚生担当に提出して許可を受けてください。

なお、「駐車許可証」の発行を受けるには、保証人と連名の「車両通学願」、該当車両の「任意保険証等の写し」、「免許証」の写し等が必要です。

※車両とは、ここでは「四輪」「軽四輪」「自動二輪」「原動機付自転車」を指します。「駐車許可証」の発行を受けていない学生は、車両を運転して大学に来ることは（例え一度でも）できません。

⑴ 許可条件

1. 公共の交通機関を利用しての通学が困難な者
2. 運転免許取得後 6 ヶ月以上経過している者
3. 道路運送車両法による 12 ヶ月定期点検整備の適用を受けられる者
4. 自動車損害賠償責任および次の自動車任意保険の適用を受けられる者

	対人賠償	対物賠償	搭乗者賠償
四　　輪	7,000 万円以上	100 万円以上	500 万円以上
自動二輪	5,000 万円以上	100 万円以上	200 万円以上

⑵ 駐車許可証

車両通学を許可した者に対しては、駐車許可証を発行します。学内に駐車する場合には、この駐車許可証を、四輪車の場合には常にダッシュボード上に提示し、自動二輪・原付の場合には常に携帯していなければなりません。

⑶ 自動車・バイク・自転車は指定の置き場に

自動車・バイク・自転車などの車両は必ず学生駐車場（第一・第二・体育館前）・駐輪場に駐車してください。特に来客用駐車場は来訪者にも迷惑をかけ、みなさんの就職にも影響しますので絶対に駐車しないでください。また、バイク・自転車は盗難防止のため錠前をつけるなど各自で防犯対策をとりましょう。

学生駐車場・駐輪場以外の場所に駐車した場合には罰せられますので注意してください。

⑷ 違反者の処置

無許可で車両通学をした場合および車両通学者が道路交通法等の関係法令および学内諸規程に違反し、大学の指示に従わない場合は、学則第 50 条に則り退学を含む厳しい処分や処置を行います。

⑸ 車両通学は安全運転を心がけましょう

電車やバスなど公共交通機関を利用しての通学が困難な場合には車両通学を認めています。しかしながら、ここ数年、車両事故による残念な報告が後を断ちません。

みなさんは、通学中に尊い生命を失ったり、重傷を負い長期間学業を中断せざるをえなくなったり、また、周囲の方々にも多大な迷惑をかけることをしてはなりません。また、交通ルールを守り、他人の駐車場を使ったり、マナー違反をしないでください。できるだけ車両通学をひかえて電車やスクールバスを利用することを勧めます。

6　交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置について

交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置については原則、下記のとおりの対応となりますが、緊急事態の発生状況により別途授業措置が行われる場合があります。この授業措置については、大学発表の大学ホームページ及びポータルサイトにて周知します。また授

業開始以後に発令された場合には、学内放送等でも最新情報を発信しますので注意してください。

⑴ 東武東上線がストライキ等により運休の場合

東武東上線がストライキ等により運休した場合の授業の取り扱いは、次のとおりです。

①午前６時において

・運休あり ⇒ 第１・２時限目の授業は休講

・運休なし ⇒ 平常どおり授業

②午前９時において

・運休あり ⇒ 終日休校（第１時限目～夜１時限目の授業まで休講）※

・運休なし ⇒ 第３時限目以降は平常どおり授業

⑵ 台風・大雪等による暴風警報、暴風雪警報または大雪警報が発令された場合

秩父地方を除く埼玉県内に暴風警報、暴風雪警報または大雪警報（以下、警報という）が発令されている場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

①午前６時において

・警報発令あり ⇒ 第１・２時限目の授業は休講

・警報発令なし ⇒ 平常どおり授業

②午前９時において

・警報発令あり ⇒ 終日休校（第１時限目～夜１時限目の授業まで休講）※

・警報発令なし ⇒ 第３時限目以降は平常どおり授業

注】午前６時を過ぎてから警報が発令されて、午前９時においても警報が発令されている場合は、終日休校（第１時限目～夜１時限目の授業まで休講）となりますので、通学途中の場合は、自身の安全を確保するように行動してください。

なお、警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。大学発表の情報を必ず確認してください。

また、授業開始以後に警報が発令された場合は、学内放送、大学ホームページ及びDENDAI-UNIPA で授業措置の情報を発信します。

7　呼出・連絡・照会

家族・知人などから大学へ電話等で、学生の呼び出しを依頼されることがありますが、呼び出しには応じていません。大学では学生の居場所については明確に把握しかねますので、あらかじめ承知しておいてください。

また、電話等による学生の住所、連絡先、成績などの問合せにも一切応じないことになっています。

8　キャンパスルール

●マナーの向上について

近年、一般に公共の場所でのマナーについて、社会意識が高まっています。「マナー」とは社会の中で守るべき礼儀・作法であり、人間関係の基本的なつながりを作り上げるために必要なもです。皆さんは、社会の中で立派な大人として扱われる大学生です。

社会の一員としてのマナーを守り、東京電機大学ならびに地域住民の一員として、キャンパス内・キャンパス周辺において、お互いが気持ちよく生活できるよう、心がけてください。

埼玉鳩山キャンパスでは、定期的にクリーンプロジェクトを実施しています。皆さんもぜひ、参加してください。

⑴ ゴミは分別してゴミ箱に捨ててください。

学内には、可燃ゴミ、不燃ゴミ、かん・びん、ペットボトル、ペットキャップ、弁当ゴミ、カップ麺容器などのゴミ箱が設置されています。ゴミは放置しないで、分別を徹底し、環境への配慮と学内美化の推進に協力してください。

⑵ 喫煙は指定場所で行い、吸殻は灰皿へ捨ててください

指定の喫煙場所以外では禁煙です。灰皿の設置されていない場所や歩行中の喫煙は厳禁です。吸殻は必ず灰皿へ捨ててください。健康管理のうえでも喫煙は控えましょう。

⑶ 通行マナーを守ってください

・道路は複数人で広がって通行しないでください
・路上では大声で騒がないでください
・生活道路、住宅街の通り抜けはやめましょう

⑷ 無届けの「掲示」「印刷物の配布」は禁止しています

学内での連絡、呼びかけ（クラブ・サークル勧誘を含む）の掲示や印刷物の配布は、許可を得ねばなりません。意見、主張などを書いたパンフレット、チラシなどを配布したい場合も同じ取扱いとなりますので、必ず事前に、理工学部事務部（学生厚生担当）に届けてください。

また、そのような行為が、不審な団体によって行われているのを見かけた際は、理工学部事務部（学生厚生担当）まで連絡してください。

⑸ 良識をもって行動しましょう

・授業中の私語、居眠り
・授業中の携帯電話・スマートフォン等の使用
・カンニング・レポートの丸写し
・大声を出して騒ぐ、落書き

・ゴミ、空カン、タバコの投げ捨て
・スマートフォンによる脇見歩行

これらの行動は、クラスメイトのみならず学生・教職員、地域住民に多大な迷惑をかけ、社会的マナーにも反することですので各々が自分の行動を振り返り、良識のある行動をとってください。

⑹ 落とし物・忘れ物には気を付けましょう

キャンパス内では落とし物の数が多いにもかかわらず、持ち主に引き取られるものは約半数に過ぎません。これらの落とし物は、理工学部事務部（学生厚生担当）で１年間保管していますので、気が付いたときは速やかに申し出てください。また、落とし物を拾ったときにも理工学部事務部（学生厚生担当）に届け出てください。教科書など自分の持ち物に記名することを習慣づけ、物を大切にする気持ちを養ってください。

・持ち主が明らかな物　→　大学メールアドレス、携帯電話で本人に連絡
・持ち主不明の物　→　本館１階事務室前陳列棚で１年間保管後、法に基づき処分する。

⑺ 教室内での飲食は原則禁止です

教室内での飲食により室内に匂いが充満し、授業運営の妨げになります。飲食は食堂またはラウンジ等で行ってください。

9　トラブルから身を守るために

⑴ 飲酒

大学生といえども未成年者は飲酒することができません。サークルやゼミ、友人達とお酒を飲む機会ができると思いますが、毎年各地で、短時間での多量の飲酒（イッキ飲み等）により急性アルコール中毒になり、救急車で病院に運ばれるケースも発生しています。

急性アルコール中毒になると吐き気、言語障害などの症状をおこすだけでなく、意識喪失から死に至る場合もあります。

●未成年の飲酒・飲酒の強要について

未成年が飲酒すること・未成年に飲酒をすすめることはもちろん、それを見過ごすことも重大な違法行為です。また、相手が未成年かどうかにかかわらず、飲酒の強要はハラスメントであり、許されないことです。人それぞれに合った酒量とペースがあります。

●万が一、友人が酔いつぶれてしまった場合の介護方法は

・絶対に一人にしない。

・衣服をゆるめて楽にする。
・毛布などをかけて、体温の低下を防ぐ。
・水分補給をする。
・吐しゃ物による窒息死も多いので、寝ている場合は横向きのまま吐かせること。
・体温が低い、呼吸が速くて浅い、時々しか呼吸をしない、ゆすって呼びかけてもまったく反応がないなどの症状の場合、救急車を呼ぶこと。

⑵ ドラッグ

薬物を始めるきっかけは、繁華街で誘われて、あるいは友人に勧められてというものが多いようですが、一度くらいならと興味本位で始めると取り返しのつかないことになります。

薬物使用は、薬物依存、急性中毒、心身の後遺障害など、脳と心を蝕む大きな危険をはらんでいます。薬物乱用の害は半永久的に続き、治療を行っても完全には回復しません。大切な人生を棒に振ることのないよう、誘いはきっぱりと断りましょう。

また、麻薬等の違法薬物を使用することは、たとえ一回でも重大な犯罪です。本学は、学生が決して禁止薬物に関わることのないよう強く要請し、このような違法行為に対して罰則をもって臨みます。

●持っているだけでも罰せられる主な薬物

大麻・MDMA・コカイン・覚せい剤・危険ドラッグ（脱法ドラッグ）※・アヘン・ヘロイン

※法律で所持や使用を禁止されていないが、犯罪に使用されたり、乱用による死亡事故を招くこともあり、その多くは薬事法等で製造、輸入、販売等が禁止されている。

⑶ 金融ローン

「学生証だけで低利融資します」と言うこれらのローンは、利用手続きの簡便さが特徴です。しかし、実際には高金利の利息を支払うことになり、わずかな借金でも、利息が利息を生み、その返済で学業に支障をきたすばかりでなく、両親や身近な友達にまで迷惑をおよぼす結果となります。どうしてもお金が必要なときは、両親などによく相談してください。

⑷ インターネット

インターネット上のトラブルが増加し、大学への相談も増えています。誰もが巻き込まれる可能性がありますので、特に以下の点等に注意してください。

●被害者にならないために

個人情報の公開によるトラブル	個人情報の公開は思わぬトラブルを引き起こすことがあります。自分自身の情報であっても、むやみな公開は控えましょう。 実名や年齢、所属など、個人が特定できる情報を公開する場合には、ネット上の言動にいっそう注意してください。脅しや嫌がらせを受けた例があります。
有料サイトの利用	有料サイトは利用規約をよく確認し、料金体系を理解した上で利用してください。また、請求が来たら、支払い義務があるかどうかよく確認しましょう。
ワンクリック詐欺	HP 上のリンクや画像等をクリックしただけで勝手に登録され、利用料金を請求されることがあります。 たとえ IP アドレス等が登録されても、そこから氏名や連絡先などの個人情報が判明することはありません。身に覚えのない請求は原則として無視してください。
フィッシング詐欺	実在のクレジット会社や銀行になりすまして案内メールを送り、暗証番号などを盗み出す手口です。メール本文中のリンクをクリックすると、フィッシングサイトに誘導される危険性があります。電話や公式 HP で確認しましょう。

●加害者にならないために

他人の権利侵害	他人の名誉を傷つけるような発言や他人の個人情報の公開は厳に慎んでください。また、自分の公開している情報が他人の著作権や肖像権、プライバシーを侵害していないか注意することも大切です。裁判に発展した例もあります。

⑸ 悪徳商法

路上で「アンケートに協力して」と言って声を掛けられたことはありませんか。それがキャッチセールスで、金銭トラブルの多い商法です。また、投資用 DVD の販売、英会話学習教材の割賦販売などでもトラブルが多発しています。これらは、「もうかる話がある」「海外留学の特典がある」などの甘い誘いや、「すばやい契約」がつきもので「解約に応じてくれない」「多額の違約金を請求された」などのトラブルが多いようです。

いずれも安易な契約がトラブルの原因ですので、契約に際しては、相手がどのような者かしっかり確認し、その内容について時間をおいて十分に検討した上で判断してください。そして、甘い誘いにはのらず「断る勇気」を持ちましょう。

●クーリング・オフ制度

セールスマンの巧みな言葉に乗せられてうっかり契約してしまった時に、申し込みの撤回や契約の解除ができる制度です。

契約した日を含めて、訪問販売（キャッチセールスやアポイントメントセールスを含む）や電話勧誘販売の場合は８日以内、マルチ商法の場合は 20 日以内に、内容証明郵便や配達記録（コピーをとっておくこと）で相手先に解約通知を出してください（当日消印有効）。

・マルチ（連鎖販売取引）商法
「販売員を増やせば多額の手数料が入ります」などの触れこみでネズミ算式に販売組織を広げる商法です。ノルマ達成のため詐欺的、強迫的な勧誘に奔走せざるをえない末路となりますので、こうした商法に関与しないよう充分注意してください。
・点検商法
「消防署から点検にきました」などと公的機関の職員の身分をかたり消火器などの商品を売りつける商法です。他に布団、換気扇フィルターなどの点検商法も多発しています。
・アポイントメント商法
「あなたが選ばれました」という電話や手紙で勧誘され、商品を買わされる商法です。粗悪品と多額の請求書が送られてきます。
・資格商法
講座を受けるだけで「○○資格が取れます。」という手紙で勧誘されて、多額の受講料を払わせる商法です。

⑹ 宗教団体の勧誘

いくつかの宗教団体に関するトラブルが大きな社会問題になっています。洗脳されてさまざまな活動をさせられたり、多額の献金を要求されたりするケースもありますので、貴重な学生生活を無にしないよう十分な注意が必要です。

大学構内で勧誘されたり、勧誘しているところを見かけたりしたときは、至急埼玉鳩山キャンパス事務部（学生厚生担当）に連絡してください。

●様々な勧誘方法

①スポーツやボランティアのサークルを装った勧誘
スポーツやボランティアのサークルと偽り、宗教団体であることを隠して勧誘した団体が宗教の話を始めたら要注意です。正当な宗教サークルは名前を詐称しません。

②平和を考える会や自己啓発セミナーを装った勧誘
真面目な会合を装い、勉強会と称してビデオなどで洗脳します。特に拘束時間が長いものには注意してください。

③街頭勧誘
「アンケートに答えてください」「手相の勉強をしてます」等と誘い、高額な商品の購入をすすめ、団体に引き込もうとします。

10　防犯について

体育館、図書館、学生ラウンジなど、大学構内で盗難が多発しています。日頃からのちょっとした用心や心構えが盗難防止につながりますので、自分の持ち物の管理には十分注意してください。

⑴ 被害に遭わないために

①貴重品は必ず携帯する。
②所持品から目を離さない。
③カードの暗証番号には安易にわかるものを設定しない。
④施錠管理を徹底する。

⑵ 被害の事例

・食堂で席取りのためにカバンを置き、財布だけ持って席を離れた時にカバンを盗まれた。
・教室や図書館で机に荷物を置き、ほんの 2、3 分席をたった間に財布を抜き取られた。
・図書館の閲覧席で、居眠りをしている間に荷物がなくなっていた。
・学生ラウンジに荷物を置いたまま体育館で練習していたら、財布から現金を抜き取られた。
・教室でサークル活動中、廊下に置いていた荷物がなくなった。
・部室や研究室を数分無人にした隙に侵入され、財布を盗まれた。

⑶ 盗難に遭った場合

理工学部事務部（学生厚生担当）に速やかに報告してください。被害が現金やカードなどの貴重品の場合は、直ちに交番や銀行等にも届け出てください。また、盗難に遭った物やその一部が拾得物として理工学部事務部（学生厚生担当）に届けられていることもありますので確認してください。

なお、学内で不審者を見かけた場合は、理工学部事務部（学生厚生担当）または守衛室に連絡してください。

第３章
学修案内

東京電機大学

建学の精神「実学尊重」

1907 年（明治 40 年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げました。

教育・研究理念「技術は人なり」

1949 年（昭和 24 年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽保次郎（にわ やすじろう）先生は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基づいた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げました。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

本学に所定の期間（※）在学して、各学部で定められた卒業に必要な単位を修得し、次の学修成果を上げた者に対して学士の学位を授与します。

⑴ 専門分野の科学技術の知識と技術をもつこと。
⑵ 課題に挑戦し、解決する実践力をもつこと。
⑶ 理工系の幅広い基礎知識をもつこと。
⑷ 科学技術と人間・社会との関わりを理解すること。
⑸ グローバルな視野をもつこと。

※ 標準修業年限は４年。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

教育課程を、学位授与の方針（1）～（3）を実現する専門教育と（3）～（5）を実現する大学教育に分け、以下のように教育課程を編成・実施します。

⑴ 専門教育として、各学部・学科・学系ごとに、その教育目標を達成させるために講義、演習、実験・実習を体系的に配置します。
⑵ 課題解決型学習を取り入れ、課題解決能力を涵養します。
⑶ 理工系の基礎知識を涵養する科目を配置します。
⑷ 豊かな人間性、科学技術者としての倫理性を培うことを目的とした科目を配置します。
⑸ グローバルな環境で意思疎通できる能力を涵養します。

理工学部

人材養成に関する目的ならびに教育研究上の目的

（人材の養成に関する目的）

高度に発展を続ける将来の科学技術分野では、科学技術者自身が社会的ニーズを的確に捉え自立した発想のもとに企画・開発していくことが望まれます。そのような科学技術者を「未来型科学技術者」として、その養成を目的とします。また、未来型科学技術者は同時に社会に立脚し、リーダーとしての魅力が望まれます。人間性および教養の豊かな研究者・技術者および学校教員の育成をも目的とします。

（教育研究上の目的）

基礎分野としての理学と応用分野としての工学・情報学を基盤として学系およびコースを構成し、それらよりなる複合分野の教育研究を推進することを目的とします。

理工学科の教育目標

理工学部の「人材養成に関する目的その他教育研究上の目的」に基づき、以下の教育目標を掲げます。

幅広い教養教育及び課題解決型学習の実施により、科学技術に関する高度な倫理性およびコミュニケーション能力を備えた人間性豊かな社会人を育成します。

理学・工学・情報学分野それぞれの基幹、及びそれらを相乗的に融合させるための教育システムと科目を設置することで創造的かつ自由な発想と自立性を有する研究者および技術者を育成します。

英語教育にも力を入れることでこれからの時代を見据えたグローバルな視野をもつ研究者および技術者を育成します。

教職課程の設置により中等教育に対する深い理解あふれる人材を育成します。

理工学科の学位授与の方針（ディプロマポリシー）

理工学部に所定の期間在学し（※）、卒業に必要な単位を修得して、次の学修成果を上げた者に対して、学士の学位を授与します。

⑴ 理学、生命科学、情報学、機械工学、電子工学、建築・都市環境学の理工学６分野のうち、主となる専門分野（主コース）と副となる専門分野（副コース）の科学技術の知識・技術をもつこと。

⑵ 自立した発想のもとに解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。

⑶ 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。

⑷ 倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。

⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。

理工学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

理工学部は、「未来型科学技術者」を養成するために、１年次に専門基礎科目および学系共通科目を履修させたのち、２年次になるときに主コースおよび副コースを各々１つずつ選択させます。自主的な学びのために副コースは他学系からも選択できるようにします。

また、理工学部の「学位授与の方針」を実現するために、以下のように教育課程を編成し、実施します。

⑴ 理工学部の６つの専門分野（学系）それぞれに複数のコースを設置し、学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意します。これらの専門科目を講義、演習、実験・実習によって構成し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目 (教職科目を含む) を配置します。

⑵ 自立した発想のもとに解くべき課題を見つけ出す能力、課題解決能力、コミュニケーション能力を涵養するために、課題解決型学習を取り入れた演習、実験･実習科目およびアクティブラーニングの手法を取り入れた科目を配置します。

⑶ 理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に１年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

⑷ 科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

⑸ 国際的なコミュニケーション力を身につけるために、必修の英語科目に加え、他言語科目や国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

理工学科の入学者受入れの方針

理工学部は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに従い、高度な専門性と豊かな人間性を兼ね備えた「未来型科学技術者」を養成します。この理念に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

⑴ 求める学生像

- ●理工学分野に強く興味を持ち、理工学部で修得した知識と技術を活かして未来の社会で活躍することを望む学生
- ●理工学部における主コース・副コースの選択を通して、主体性を持って自らの学びを追求し、さらに多様な人々と協働して問題を解決しようとする意欲のある学生
- ●各種のプロジェクト科目や学部共通教育を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、幅広い教養を備えた未来型科学技術者を目指す学生

⑵ 入学前に学習しておくことが望ましい内容

高等学校等の課程全般の基礎的な知識・技術を学習しておくこと。

特に数学および英語は、理工学部の全学系で求められる知識であるため、十分な基礎学力を身に付けておくこと。

加えて、理工学部の各学系が求める教科に関する基礎学力を身に付けておくこと。

共通教育科目・各学系のカリキュラム

共通教育科目
【人間基礎力科目群】
【人間形成科目群】
【英語科目群】

教育目標
カリキュラムマップ
教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）
履修モデル
留学生のための共通教育科目
授業科目配当表

専門教育科目
【専門基礎科目群】

教育目標
教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）
カリキュラムマップ

【共通教育群・基礎教育センター】

教育目標

理工学部の共通教育群・基礎教育センターは、心身ともに豊かな人間を形成するための教養と確かな基礎学力を有し、自己肯定感と批判的な思考力、そしてコミュニケーション能力を兼ね備え、同時に科学・技術にかかわる倫理上の問題への理解を深め、人類の幸福と希望に満ちた将来に貢献できる学生の育成を目指します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

理工学部の共通教育群・基礎教育センターは、豊かな人間を形成するための教養と確かな基礎学力を有し、国際社会に対応できる人材の養成を目指し、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

- （DP1 に対応）教職課程科目を配置し、教師として子どもを教育する上で必要な教育実践を行い、かつ教師としての力量の基礎を培います。
- （DP3 に対応）具体的に、かつ計算を重視して思考する基礎力を身につけるために、数学の魅力を知る数学科目を配置します。自然現象を物理的に見る目を涵養するとともに、専門科目の基礎となる実験的手法と論理的思考を身につけるために、物理科目を配置します。物質を理解し創製するという科学技術の基礎能力を養うために、化学科目を配置します。
- （DP4 に対応）科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。
- （DP5 に対応）国際的なコミュニケーション力を身につけるために、必修の英語科目に加え、他言語科目や国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

理工学部　理工学科　共通教育科目・専門基礎科目・教職科目

平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分			1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
学部DP1	教職課程		教職入門	2			教職入門	2			教職入門	2			教職入門	2		
			教育課程論	2	教育課程論	2	教育課程論	2	教育課程論	2	教育課程論	2	教育課程論	2	教育課程論	2	教育課程論	2
							教育心理学	2	教育相談	2								
													教育の方法と技術	2	教育実習セミナー	2	教職実践演習（中・高）	2
															教育実習Ⅰ（通年）			2
															教育実習Ⅱ（通年）			2
			生徒・進路指導論	2			生徒・進路指導論	2			生徒・進路指導論	2			生徒・進路指導論	2		
			道徳教育論	2			道徳教育論	2			道徳教育論	2			道徳教育論	2		
			教育学概論	2			教育学概論	2			教育学概論	2			教育学概論	2		
					教育社会学	2			教育社会学	2			教育社会学	2			教育社会学	2
			介護福祉論	2	介護福祉論	2	介護福祉論	2	介護福祉論	2	介護福祉論	2	介護福祉論	2	介護福祉論	2	介護福祉論	2
					特別活動論	1			特別活動論	1			特別活動論	1			特別活動論	1
							工業科教育法（通年科目）			4								
							情報科教育法（通年科目）			4								
							理科教育法（通年科目）			4	理科指導法（通年科目）			4				
							数学科教育法（通年科目）			4	数学科指導法（通年科目）			4				
学部DP3	専門基礎	実験・レポート	基礎物理学実験	2	基礎物理学実験	2												
			基礎化学実験	2	基礎化学実験	2												
			基礎理工学実習	2														
		数学	数学基礎（前前期）	1														
			数学基礎（前後期）	1														
			基礎微積分学A（前期）	2	基礎微積分学A	2												
			基礎微積分学A（前後期）	2	基礎微積分学B	2												
			基礎線形代数学A	2	基礎線形代数学B	2												
		物理学・化学・生物・自然科学	物理学入門	2														
			物理学入門演習	1														
			物理学A	2	物理学A	2												
					物理学B	2												
			化学基礎	1														
			化学基礎演習	1														
			化学A	2	化学A	2												
			化学B	2	化学B	2												
					生命科学	2												
			環境科学	2	環境科学	2												
		情報	情報リテラシ（前前期）	1	情報リテラシ（後前期）	1												
			表計算（前後期）	1														
			C言語プログラミング	2	C言語プログラミング	2												
			実用プログラミング（前前期）	1	実用プログラミング（後前期）	1												
			実用プログラミング（前後期）	1	実用プログラミング（後後期）	1												

理工学部　理工学科　共通教育科目・専門基礎科目・教職科目

平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
学部DP4	技術者倫理	科学技術者の心得	2	科学技術者の心得	2												
	人間基礎力	東京電機大学で学ぶ	1														
		フレッシュマンゼミA	1														
		フレッシュマンゼミB	1														
		日本語リテラシー	1	日本語リテラシー	1	日本語リテラシー	1	日本語リテラシー	1	日本語リテラシー	1	日本語リテラシー	1	日本語リテラシー	1	日本語リテラシー	1
	人間形成	哲学A	2	哲学B	2	哲学A	2	哲学B	2	哲学A	2	哲学B	2	哲学A	2	哲学B	2
		経済学A	2	経済学B	2	経済学A	2	経済学B	2	経済学A	2	経済学B	2	経済学A	2	経済学B	2
		社会学A	2	社会学B	2	社会学A	2	社会学B	2	社会学A	2	社会学B	2	社会学A	2	社会学B	2
		法学A	2	法学B	2	法学A	2	法学B	2	法学A	2	法学B	2	法学A	2	法学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	倫理学A	2	倫理学B	2	倫理学A	2	倫理学B	2	倫理学A	2	倫理学B	2
		政治学A	2	政治学B	2	政治学A	2	政治学B	2	政治学A	2	政治学B	2	政治学A	2	政治学B	2
		心理学A	2	心理学B	2	心理学A	2	心理学B	2	心理学A	2	心理学B	2	心理学A	2	心理学B	2
		文学A	2	文学B	2	文学A	2	文学B	2	文学A	2	文学B	2	文学A	2	文学B	2
				日本国憲法	2			日本国憲法	2			日本国憲法	2			日本国憲法	2
		歴史学A	2	歴史学B	2	歴史学A	2	歴史学B	2	歴史学A	2	歴史学B	2	歴史学A	2	歴史学B	2
		科学技術史	2			科学技術史	2			科学技術史	2			科学技術史	2		
				科学技術と社会	2			科学技術と社会	2			科学技術と社会	2			科学技術と社会	2
		世界経済の現在	2			世界経済の現在	2			世界経済の現在	2			世界経済の現在	2		
				日本経済の現在	2			日本経済の現在	2			日本経済の現在	2			日本経済の現在	2
				日本の文化と倫理	2			日本の文化と倫理	2			日本の文化と倫理	2			日本の文化と倫理	2
		現代青年の心理と論理	2			現代青年の心理と論理	2			現代青年の心理と論理	2			現代青年の心理と論理	2		
		国際社会と法	2			国際社会と法	2			国際社会と法	2			国際社会と法	2		
				社会の成り立ち	2			社会の成り立ち	2			社会の成り立ち	2			社会の成り立ち	2
				社会福祉論	2			社会福祉論	2			社会福祉論	2			社会福祉論	2
		人文社会学ゼミA	2	人文社会学ゼミB	2	人文社会学ゼミA	2	人文社会学ゼミB	2	人文社会学ゼミA	2	人文社会学ゼミB	2	人文社会学ゼミA	2	人文社会学ゼミB	2
		教養ワークショップA	2	教養ワークショップB	2	教養ワークショップA	2	教養ワークショップB	2	教養ワークショップA	2	教養ワークショップB	2	教養ワークショップA	2	教養ワークショップB	2
		スポーツ実習Ⅰ～Ⅵ	1	スポーツ実習Ⅰ～Ⅵ	1	スポーツ実習Ⅰ～Ⅵ	1	スポーツ実習Ⅰ～Ⅵ	1	スポーツ実習Ⅰ～Ⅵ	1	スポーツ実習Ⅰ～Ⅵ	1	スポーツ実習Ⅰ～Ⅵ	1	スポーツ実習Ⅰ～Ⅵ	1
		アウトドア実習A，B	1	アウトドア実習A，B	1	アウトドア実習A，B	1	アウトドア実習A，B	1	アウトドア実習A，B	1	アウトドア実習A，B	1	アウトドア実習A，B	1	アウトドア実習A，B	1
学部DP5	国際化教育	英語ⅠA	1	英語ⅠB	1	英語ⅢA	1	英語ⅢB	1	英語ⅤA	1	英語ⅤB	1				
		英語ⅡA	1	英語ⅡB	1	英語ⅣA	1	英語ⅣB	1								
		海外英語研修A～C	2	海外英語研修A～C	2	海外英語研修A～C	2	海外英語研修A～C	2	海外英語研修A～C	2	海外英語研修A～C	2	海外英語研修A～C	2	海外英語研修A～C	2
		海外英語研修D	1	海外英語研修D	1	海外英語研修D	1	海外英語研修D	1	海外英語研修D	1	海外英語研修D	1	海外英語研修D	1	海外英語研修D	1
		欧米文化研究	2	欧米文化研究	2	欧米文化研究	2	欧米文化研究	2	欧米文化研究	2	欧米文化研究	2	欧米文化研究	2	欧米文化研究	2
		アジア文化研究	2	アジア文化研究	2	アジア文化研究	2	アジア文化研究	2	アジア文化研究	2	アジア文化研究	2	アジア文化研究	2	アジア文化研究	2
		ドイツ語入門Ⅰ	1	ドイツ語入門Ⅱ	1	ドイツ語入門Ⅰ	1	ドイツ語入門Ⅱ	1	ドイツ語入門Ⅰ	1	ドイツ語入門Ⅱ	1	ドイツ語入門Ⅰ	1	ドイツ語入門Ⅱ	1
		基礎ドイツ語Ⅰ	1	基礎ドイツ語Ⅱ	1	基礎ドイツ語Ⅰ	1	基礎ドイツ語Ⅱ	1	基礎ドイツ語Ⅰ	1	基礎ドイツ語Ⅱ	1	基礎ドイツ語Ⅰ	1	基礎ドイツ語Ⅱ	1
		初級ドイツ語Ⅰ	1	初級ドイツ語Ⅱ	1	初級ドイツ語Ⅰ	1	初級ドイツ語Ⅱ	1	初級ドイツ語Ⅰ	1	初級ドイツ語Ⅱ	1	初級ドイツ語Ⅰ	1	初級ドイツ語Ⅱ	1
		フランス語入門Ⅰ	1	フランス語入門Ⅱ	1	フランス語入門Ⅰ	1	フランス語入門Ⅱ	1	フランス語入門Ⅰ	1	フランス語入門Ⅱ	1	フランス語入門Ⅰ	1	フランス語入門Ⅱ	1
		基礎フランス語Ⅰ	1	基礎フランス語Ⅱ	1	基礎フランス語Ⅰ	1	基礎フランス語Ⅱ	1	基礎フランス語Ⅰ	1	基礎フランス語Ⅱ	1	基礎フランス語Ⅰ	1	基礎フランス語Ⅱ	1
		初級フランス語Ⅰ	1	初級フランス語Ⅱ	1	初級フランス語Ⅰ	1	初級フランス語Ⅱ	1	初級フランス語Ⅰ	1	初級フランス語Ⅱ	1	初級フランス語Ⅰ	1	初級フランス語Ⅱ	1
		中国語入門Ⅰ	1	中国語入門Ⅱ	1	中国語入門Ⅰ	1	中国語入門Ⅱ	1	中国語入門Ⅰ	1	中国語入門Ⅱ	1	中国語入門Ⅰ	1	中国語入門Ⅱ	1
		基礎中国語Ⅰ	1	基礎中国語Ⅱ	1	基礎中国語Ⅰ	1	基礎中国語Ⅱ	1	基礎中国語Ⅰ	1	基礎中国語Ⅱ	1	基礎中国語Ⅰ	1	基礎中国語Ⅱ	1
		初級中国語Ⅰ	1	初級中国語Ⅱ	1	初級中国語Ⅰ	1	初級中国語Ⅱ	1	初級中国語Ⅰ	1	初級中国語Ⅱ	1	初級中国語Ⅰ	1	初級中国語Ⅱ	1
		留学生のための日本語中級AⅠ	1	留学生のための日本語中級AⅡ	1	留学生のための日本語中級AⅠ	1	留学生のための日本語中級AⅡ	1	留学生のための日本語中級AⅠ	1	留学生のための日本語中級AⅡ	1	留学生のための日本語中級AⅠ	1	留学生のための日本語中級AⅡ	1
		留学生のための日本語中級BⅠ	1	留学生のための日本語中級BⅡ	1	留学生のための日本語中級BⅠ	1	留学生のための日本語中級BⅡ	1	留学生のための日本語中級BⅠ	1	留学生のための日本語中級BⅡ	1	留学生のための日本語中級BⅠ	1	留学生のための日本語中級BⅡ	1
		留学生のための日本語中級CⅠ	1	留学生のための日本語中級CⅡ	1	留学生のための日本語中級CⅠ	1	留学生のための日本語中級CⅡ	1	留学生のための日本語中級CⅠ	1	留学生のための日本語中級CⅡ	1	留学生のための日本語中級CⅠ	1	留学生のための日本語中級CⅡ	1
		留学生のための日本語上級Ⅰ	1	留学生のための日本語上級Ⅱ	1	留学生のための日本語上級Ⅰ	1	留学生のための日本語上級Ⅱ	1	留学生のための日本語上級Ⅰ	1	留学生のための日本語上級Ⅱ	1	留学生のための日本語上級Ⅰ	1	留学生のための日本語上級Ⅱ	1
		留学生のための日本事情Ⅰ	2	留学生のための日本事情Ⅱ	2	留学生のための日本事情Ⅰ	2	留学生のための日本事情Ⅱ	2	留学生のための日本事情Ⅰ	2	留学生のための日本事情Ⅱ	2	留学生のための日本事情Ⅰ	2	留学生のための日本事情Ⅱ	2
		海外事情	2	海外事情	2	海外事情	2	海外事情	2	海外事情	2	海外事情	2	海外事情	2	海外事情	2

共通教育科目履修モデル

1. 共通教育科目とは

大学に進学したみなさんには、「幅広く深い教養と総合的な判断を身につけ、豊かな人間性を育む」ことが期待されます（文部科学省大学設置基準 19 条 2 項）。大学で学んだ人には、それぞれの専門知識を身につけた人というだけではなく、教養を身につけた人として社会へ出ることが求められるのです。本学の建学の精神である、初代学長の丹羽保次郎博士の格言「技術は人なり」は、このような教養ある技術者の養成を目指したことばであるといえます。共通教育科目は、みなさんが東京電機大学の卒業生として、教養ある知識を携えた人となって社会へ巣立つためのカリキュラムを提供します。

科学や技術の発展は非常に速く、現代の社会に生きるみなさんは、これまでにない新たな状況に直面しています。かつては、工業の機械化などの進展によって、単純作業が人から機械へと置き換えられるという現象が問題となってきました。しかしながら、いまや人工知能の発達により、頭脳労働といわれている分野においても、同様の問題がすすむことは確実です。みなさんがこのように変化する社会で活躍するためには、科学に関する知識や優れた技術だけでなく、物事を幅広く様々な角度から考えるための教養を身につけることが必要です。このような時代には、機械や人工知能にできないことを見つけていくことができる創造性を養うことが望まれます。また、高度な科学的知識や技術を扱うためには、高いモラルも要求されます。さらに、身につけた教養は、人生に躓いたときにも、再び立ち上がるための手がかりを与えてくれるはずです。共通教育科目に配置された様々な科目を上手に履修して、自ら考え、人生を充実させ、そして社会貢献のできる人として、世界の大海原に漕ぎ出してください。

2. 各科目群の案内

⑴ 人間基礎力科目群（卒業要件単位数　2単位）

なぜ、みなさんは大学で学ぶのでしょうか。卒業して社会人として活躍するにはもちろん専門性を高めることも必要です。ただ、昨今の社会は日々変化しており、専門能力以外に、広い視野をもってものごとを判断できる、柔軟で豊かな人間性を身につけることが重要です。

そこで、これからの大学における教育を受けるにあたって、はじめに受講して大学での学習を理解し、「大学生」としての基礎をつくる授業を用意しています。

⑵ 人間形成科目群（卒業要件単位数　14 単位）

概論科目

概論科目は、今日まで確立されてきた人文学・社会科学の学問分野（哲学、歴史学、経済学、法学、社会学など）について、その概要を見渡せるような講義を行います。

主題科目

主題科目は、教員が自らの専門分野の中でも特に注目すべき話題（トピック）について集中的に論じ、学生の問題関心や現在の時代状況が抱える問題に対して進んで応えよ

うとする内容を講義しながら、学問の奥行きを実感できるように工夫した講義を行います。

教養ゼミ

教養ゼミは、参加者が自ら「問い」を設定し、その答えを追求し、自身の考えを発信し、仲間との議論の中で鍛えていく、実践的な科目です。

授業の特徴によって、次の 2 つの科目に分けられています。

「人文社会学ゼミ」は、芽生え始めた文化や、社会問題を発見・分析したり、自分自身の奥深くを探求したりして、人間や社会に対する理解を深めます。

「教養ワークショップ」は、参加者が共通のテーマに共に取り組むことにより、社会性を磨き、人間関係を良好に保つ術や、組織運営を円滑に行う力を育むことを目指します。

健康スポーツ

心身の健康を保ち、充実した人生を過ごすには、継続的にスポーツに親しむ習慣、「生涯スポーツ」の習慣を身につけることが必要です。身体を動かすことに喜びを感じることができるということも、努力して獲得すべき大切な教養のひとつです。

第二外国語

ドイツ語・フランス語・中国語のクラスが用意されています。いずれも「入門Ⅰ・Ⅱ」では主に文法を、「基礎Ⅰ・Ⅱ」では会話を、「初級Ⅰ・Ⅱ」では簡単な文章を読めるように学びます。一つだけ履修して語学としての基本を知ることもできますし、複数を履修してかなりの力をつけることもできます。

実践英語

必修の英語 8 科目（8 単位）を修得した後、3 年次以降英語の力をより高度にしていくために、「英語ＶＡ・Ｂ」（選択科目）が設けられています。担当教員の専門性を活かしながら、年度により、各種英語資格試験を目指すクラスや、英語によるプレゼンテーションを学ぶクラス、英語の論文や文章を読解するクラスなどの開設が予定されています。

また、「海外英語研修」（2 単位）として認定される英語短期研修プログラム（コロラド大学・シドニー大学・ケンブリッジ大学）も準備されています。

⑶ 英語科目群（卒業要件単位数　8単位）

社会の急速なグローバル化の進展の中で、特に理工系の分野では、より高度な英語の運用能力を身につけることが国内外で活躍するために必須の条件となっています。

また、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になり、国際共通語である英語力の向上はみなさんの将来にとって不可欠です。

英語科目群では、「読む」「書く」「話す」「聴く」という英語の４つの技能を、基礎的なことからより実践的なことまで錬成できるよう、日本人教員と英語を母国語とするネイティブスピーカーの教員が協力して授業を展開しています。

なお、みなさんの能力をより効率よく進展させるため、能力別クラス制を導入しています。

受講クラスは、入学直後に新入生全員を対象に行われる「プレースメントテスト」や、各学期の終わりに英語履修者を対象として行われる「英語実力テスト（統一テスト）」により決定します。

留学生のための共通教育科目

本学で学ぶ留学生のみなさんのために、「留学生のための共通教育科目」を開設しています。なお、「留学生のための共通教育科目」により取得した単位は、人間形成科目群の卒業要件単位数として扱われます。

日本語科目： 日本語で聞き、話し、読み、書けるようになることは、留学生のみなさんにとって、必須です。みなさんの日本語能力向上のために、日本語科目を８科目用意しています。そのうち、６科目が日本語中級、２科目が日本語上級です。単位は、英語と同様、各科目１単位です。

中級は終えたと考えるみなさんでも、単位取得のためだけでなく、日本語中級科目に挑戦することをすすめます。また、日本語上級科目も２つ用意しました。これらの科目を取って、日本語能力を向上させることは、みなさんの留学生活にとって、欠かせません。

日本語中級　ＡⅠ、ＢⅠ、ＣⅠ　　日本語上級Ⅰ
日本語中級　ＡⅡ、ＢⅡ、ＣⅡ　　日本語上級Ⅱ

日本事情科目： 留学生活をする上で、専門の学修とは別に、日本の社会、地理、文化、歴史などを理解することは必要です。みなさんに日本について学んでいただくために、２つの科目（各科目２単位）を用意しました。

日本事情Ⅰ、日本事情Ⅱ

☆留学生のための共通教育科目を履修できるのは、留学生に限られます。

平成30(2018)年度カリキュラム 人間基礎力・人間形成・英語 授業科目配当表

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	授業形態			単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
					講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
共通教育科目	人間基礎力科目	人間基礎力	東京電機大学で学ぶ	選択	○			1	1	1	1				
			フレッシュマンゼミA	選択	○			1	1	1					
			フレッシュマンゼミB	選択	○			1	1		1				
			日本語リテラシー	選択		○		1	全	1/4期1コマ					
	人間形成科目	概論	哲学A	選択	○			2	全	1	1				
			哲学B	選択	○			2	全			1	1		
			経済学A	選択	○			2	全	1	1				
			経済学B	選択	○			2	全			1	1		
			社会学A	選択	○			2	全	1	1				
			社会学B	選択	○			2	全			1	1		
			法学A	選択	○			2	全	1	1				
			法学B	選択	○			2	全			1	1		
			倫理学A	選択	○			2	全	1	1				
			倫理学B	選択	○			2	全			1	1		
			政治学A	選択	○			2	全	1	1				
			政治学B	選択	○			2	全			1	1		
			心理学A	選択	○			2	全	1	1				
			心理学B	選択	○			2	全			1	1		
			文学A	選択	○			2	全	1	1				
			文学B	選択	○			2	全			1	1		
			日本国憲法	選択	○			2	全			1	1		00100
			歴史学A	選択	○			2	全	1	1				
			歴史学B	選択	○			2	全			1	1		
			科学技術史	選択	○			2	全	1	1				
			科学技術と社会	選択	○			2	全			1	1		
			教職入門	選択	○			2	全	1	1				10100
			教育心理学	選択	○			2	2	1	1				10200
			教育学概論	選択	○			2	全	1	1				10200
			教育社会学	選択	○			2	全			1	1		10200
		主題	世界経済の現在	選択	○			2	全	1	1				
			日本経済の現在	選択	○			2	全			1	1		
			日本の文化と倫理	選択	○			2	全			1	1		
			現代青年の心理と論理	選択	○			2	全	1	1				
			社会の成り立ち	選択	○			2	全			1	1		
			社会福祉論	選択	○			2	全			1	1		
			国際社会と法	選択	○			2	全	1	1				
			欧米文化研究	選択	○			2	全	半期1コマ ※1					
			アジア文化研究	選択	○			2	全	半期1コマ ※1					
			海外事情	選択			○	2	全	半期2コマ					
		教養ゼミ	人文社会学ゼミA	選択		○		2	全	1	1				
			人文社会学ゼミB	選択		○		2	全			1	1		
			教養ワークショップA	選択		○		2	全	1	1				
			教養ワークショップB	選択		○		2	全			1	1		
		健康スポーツ	スポーツ実習Ⅰ	選択			○	1	全	半期1コマ					00200
			スポーツ実習Ⅱ	選択			○	1	全	半期1コマ					00200
			スポーツ実習Ⅲ	選択			○	1	全	半期1コマ					00200
			スポーツ実習Ⅳ	選択			○	1	全	半期1コマ					00200
			スポーツ実習Ⅴ	選択			○	1	全	半期1コマ					00200
			スポーツ実習Ⅵ	選択			○	1	全	半期1コマ					00200
			アウトドア実習A	選択			○	1	全	半期1コマ				集中講義	
			アウトドア実習B	選択			○	1	全	半期1コマ				集中講義	

平成30(2018)年度カリキュラム 人間基礎力・人間形成・英語 授業科目配当表

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	授業形態			単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
					講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
共通教育科目	人間形成科目	留学生科目	留学生のための日本語中級AⅠ	選択		○		1	全	1	1			(文法・語彙) ※2	
			留学生のための日本語中級AⅡ	選択		○		1	全			1	1	(文法・語彙) ※2	
			留学生のための日本語中級BⅠ	選択		○		1	全	1	1			(聴解・口頭表現) ※2	
			留学生のための日本語中級BⅡ	選択		○		1	全			1	1	(聴解・口頭表現) ※2	
			留学生のための日本語中級CⅠ	選択		○		1	全	1	1			(読解) ※2	
			留学生のための日本語中級CⅡ	選択		○		1	全			1	1	(読解) ※2	
			留学生のための日本語上級Ⅰ	選択		○		1	全	1	1			(文章表現) ※2	
			留学生のための日本語上級Ⅱ	選択		○		1	全			1	1	(文章表現) ※2	
			留学生のための日本事情Ⅰ	選択	○			2	全	1	1			※2	
			留学生のための日本事情Ⅱ	選択	○			2	全			1	1	※2	
		第二外国語	ドイツ語入門Ⅰ	選択		○		1	全	1	1				00300
			ドイツ語入門Ⅱ	選択		○		1	全			1	1		00300
			基礎ドイツ語Ⅰ	選択		○		1	全	1	1				00300
			基礎ドイツ語Ⅱ	選択		○		1	全			1	1		00300
			初級ドイツ語Ⅰ	選択		○		1	全	1	1				00300
			初級ドイツ語Ⅱ	選択		○		1	全			1	1		00300
			フランス語入門Ⅰ	**選択**		○		1	全	1	1				00300
			フランス語入門Ⅱ	**選択**		○		1	全			1	1		00300
			基礎フランス語Ⅰ	**選択**		○		1	全	1	1				00300
			基礎フランス語Ⅱ	**選択**		○		1	全			1	1		00300
			初級フランス語Ⅰ	**選択**		○		1	全	1	1				00300
			初級フランス語Ⅱ	**選択**		○		1	全			1	1		00300
			中国語入門Ⅰ	**選択**		○		1	全	1	1				00300
			中国語入門Ⅱ	**選択**		○		1	全			1	1		00300
			基礎中国語Ⅰ	**選択**		○		1	全	1	1				00300
			基礎中国語Ⅱ	選択		○		1	全			1	1		00300
			初級中国語Ⅰ	選択		○		1	全	1	1				00300
			初級中国語Ⅱ	選択		○		1	全			1	1		00300
		実践英語	英語VA	選択		○		1	3	1	1				00300
			英語VB	選択		○		1	3			1	1		00300
			海外英語研修A	選択			○	2	全	半期2コマ				集中講義	
			海外英語研修B	選択			○	2	全	半期2コマ				集中講義	
			海外英語研修C	選択			○	2	全	半期2コマ				集中講義	
			海外英語研修D	選択			○	1	全	半期1コマ				集中講義	
	英語科目	英語	英語ⅠA	必修		○		①	1	1	1				00300
			英語ⅠB	必修		○		①	1			1	1		00300
			英語ⅡA	必修		○		①	1	1	1				00300
			英語ⅡB	必修		○		①	1			1	1		00300
			英語ⅢA	必修		○		①	2	1	1				00300
			英語ⅢB	必修		○		①	2			1	1		00300
			英語ⅣA	必修		○		①	2	1	1				**00300**
			英語ⅣB	必修		○		①	2			1	1		00300

※1 ただし、前期・後期開講　　※2 留学生のみ履修が可能

※ 教職コードは、「教職課程」参照。 ※ 単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

専門基礎科目群履修モデル

近年の科学技術の進歩・発展はめざましく、大学で現在最先端といわれる科学技術を学んで卒業しても、その中の多くは皆さんが卒業後、実社会で活躍する頃すぐに一時代前のものになってしまいます。未来に対して創造性・発展性のある科学技術は、確固たる学問体系に裏付けられたものしか成り立ち得ません。理工学部では、どの学系・専門コースで専門を体系的に学ぶ際にも必要となる基礎知識・学力を身につけるため、専門基礎科目を充実させています。その土台の上に各学系、コースの専門科目が築かれて行きます。従ってこれらの科目を 1、2 年次のうちに習得しておくことが重要です。

専門基礎科目の構成と履修の順序

専門基礎科目群の科目構成は、「理工学総論」、「実験・レポート」、「数学」、「物理学・化学・生物・自然科学」、「情報」、「リメディアル教育」の 6 分野から成ります。

上級年次の専門教育の基幹分野としての「数学」分野および「物理学･化学･生物･自然科学」分野には、共通科目や他の専門科目を学ぶために必要な数学・物理学・化学の専門基礎科目が用意されています。これら 2 つの分野と「実験･レポート」分野および「情報」分野においては、所属する学系により推奨科目や進級条件に指定されているため、それらの指定条件に合わせて履修しましょう。

「リメディアル教育」分野の 3 科目は、高校でその分野を履修していない学生、あるいは履修したとしても自信が持てない学生、もう一度基礎から固めたい学生を対象とした大学の授業を理解するための基礎学力の支援を目的とした科目です。卒業所要単位数には含まれませんが履修上限単位数にも含まれませんので、基礎に不安のある学生は履修してください。

具体的にどの科目をどの順序で履修するかは、履修モデルと各科目系統別説明を参考に、学系・コースの進級条件・卒業要件を考慮して学生自らの判断で決めなくてはなりません。専門基礎科目は、卒業するまでに、「理工学総論」2 単位、「実験･レポート」4 単位、「数学」6 単位、「物理学・化学・生物・自然科学」7 単位、「情報」3 単位の全部で 22 単位取得しなくてはなりません。そのうち「科学技術者の心得」、「基礎微積分学Ａ」、「基礎線形代数学Ａ」、「情報リテラシ」の 4 科目は必修科目ですから、全て履修するようにしましょう。

科目分野別の履修について：

①「理工学総論」分野

「科学技術者の心得」

理学・工学の様々な分野を開拓していくための素養を身につけることが理工系大学での学びの基本の一つです。しかし過去を振り返っても、原子爆弾のように、元来は科学に著しい進展をもたらすはずの理論が人類の大きな問題になったり、論文の捏造・剽窃のように開発

者自身の倫理が問われた場面も多く見られます。したがって大学で諸分野を学ぶと同時に科学者・技術者が心得ておくべきこと、すなわち倫理性を養っておくことが重要です。この授業はその育成を目指します。

「科学技術者の心得」は必修科目ですから、必ず履修してください。

②「実験・レポート」分野

「実験･レポート」分野には､基本的な実験技術及び表現力の修練のために「基礎物理学実験」､「基礎化学実験」､「基礎理工学実習」の３科目が配置されています。卒業までにこれらの科目の中から２科目以上（4 単位以上）を単位取得しなければなりませんが、高学年の専門科目を確実に習得する上で要となる自立的に学び続ける態度を、早いうちに身につけるために、初年次の段階で履修するとよいでしょう。学系やコースにより、履修が推奨される科目が異なりますので、各学系、コースの指導に従って履修してください。

「基礎物理学実験」

教室で授業を受ける座学と並行して「基礎物理学実験」があります。理論で予想されたものが実験結果と一致するかを実体験してください。実験室に常設されている計 10 種類の実験テーマから１人当り９テーマの実験とワークショップ２回を行います。ワークショップは簡単な電気回路の工作を行います。こうした実験を通じてこれまで憶えてきた物理学的知識を再確認するとともに、物理学が現実世界を描写する学問であることを学びます。さらに、実験結果をレポートにまとめることで論理的な思考能力と構成力を養います。また、実験結果を核にして調査検討を行うことでより深く知識を伸ばし、またさらに新しい知識を増やして行きます。「基礎物理学実験」は、座学で学ぶ理論と現実を結ぶ貴重な体験の場です。

「基礎化学実験」

化学は現象の発見や実験を通して発展してきた学問です。化学現象の本当の姿を理解し化学の面白さを体験するためには是非「基礎化学実験」を履修することを勧めます。基本的な実験器具の扱い方から本格的な化学分析まで自ら行い実験技術を習得します。また、「基礎化学実験」では学問としての化学ばかりではなく、実験の準備から後かたづけと報告書の作成に至るまで、科学技術者に必要な全ての要素を練習し身につけることも学習目標となっています。

「基礎理工学実習」

理工学全般にわたる基礎となる内容のうち、従来各々の実験科目のはじめの部分で取り扱っていた事項を学びます。計測、データの収集、処理、検討、設計、製作に至る流れの中で理工学に必要なセンスを身につけ、社会においてどのように実際に活用されているかを習得します。

③「数学」分野

「基礎微積分学Ａ」
「基礎微積分学Ｂ」
「基礎線形代数学Ａ」
「基礎線形代数学Ｂ」

数学は数の基本法則を追求する学問です。自然現象や科学技術を客観的に表現する際にも数式で表現されるので、理工学全分野に必須の学問です。数学関連科目の「基礎線形代数学Ａ・Ｂ」、「基礎微積分学Ａ・Ｂ」の４科目は理工学部でこれから学んで行くいろいろな分野の基礎として、最も基本的な知識を習得するためのものです。そのためにも、これらの科目はできるだけ１年次のうちに全科目を履修しておいて、その後の各学系・コースでの、より専門的な科目を学習するときに支障とならないようにしましょう。

特に「基礎線形代数学Ａ」、「基礎微積分学Ａ」は必修科目ですから、必ず履修してください。また「基礎線形代数学Ｂ」、「基礎微積分学Ｂ」は選択科目ですが少なくともどちらか１科目は卒業までに単位を取得しなければなりません。これら２科目「基礎線形代数学Ｂ」、「基礎微積分学Ｂ」の履修推奨程度の詳細は学系によって異なるため、学系での説明に従うか、数学担当教員に相談してください。

なお「基礎微積分学Ａ・Ｂ」を履修するためには４月に行われるプレースメントテストの「数学」の結果が基準点以上であるか、または「数学基礎」の単位を取得していなければならないため注意しましょう。

④物理学・化学・生物・自然科学分野

物理学、化学、生物学などの自然科学の修得には、先人達が自然現象を注意深く観測した結果から洞察した原理・理論を学ぶという面と、その原理・理論から予測される現象を実験的に確かめる技術を学ぶという面との両面が必要です。先の「実験・レポート」分野は後者の修得に対応し、この「物理学・化学・生物・自然科学」分野が前者の修得に対応します。卒業までにここに配当されている科目の中から７単位以上を取得しなければなりませんので、できるだけ初年次の段階で履修するとよいでしょう。また、学系やコースにより、履修が推奨される科目が異なりますので、各学系、コースの指導に従って履修してください。

「物理学入門」
「物理学入門演習」
「物理学Ａ」
「物理学Ｂ」

物理学は読んで字のごとく、物事（自然現象）の理（ことわり）を探求する学問です。「自然現象が何故どのように起きているのか、それをどう理解していくのか」という、理工系の学問全体に共通する考え方の基礎を学びます。また専門分野への直接的なあるいは間接的な基礎ともなっています。

4月最初に実施されるプレースメントテストの結果に基づき、各人が「物理学A」または「物理学入門」のどちらを受講すればよいのかが指定されます。ある程度、物理の基礎が身についている学生は「物理学A」を履修します。主に力学を中心として講義を行います。微分積分を用いた力学の再定式化を行い、運動方程式の“物理的”意味などを理解します。

「物理学入門」では物理学の基本原理である力学の初歩をゼロから学びます。これまでに物理学に触れたことのない者、触れては来たが考え方が不十分な者に対し、より徹底して理解を促しながら大学生としての物理学の基礎を習得することを目的とします。よって「物理学入門演習」を同時に履修してください。「物理学A」と「物理学入門」どちらの科目においても、物理学の考え方や現象をどう理解し、どう説明するのかを、物体の運動の解析を通じて学んでいきます。

後期の「物理学B」では、物理学のもう一つの柱である電磁気学を学び、自然の理解をさらに進めます。例題や演習問題を通して、電磁気の現象を具体的に理解し、その数理的な扱いにも慣れ親しみます。習熟度別に2種類のクラスに分けて講義を行います。詳しくはオンラインシラバスで内容を確認してください。

「化学A」
「化学B」

化学では物質とは何か、物質はどのように変化し物質集合体にはどのような性質があるかを学びます。現在の科学技術は物質抜きでは成り立ちません。従って、直接化学物質を扱わない専門コースの学生にとっても、理工系である以上化学は重要な基礎科目です。

基礎がある程度、身に付いた学生は「化学A」または「化学B」を履修します。いずれも「化学基礎」で基礎を補いながら履修することができます。「化学A」と「化学B」はどちらを先に履修しても良く、同時に履修してもかまいません。卒業するまでには、いずれかの単位を取得してください。「化学A」では量子化学によって解き明かされた原子と分子の成り立ちと化学結合を理解します。「化学B」では物質の状態を物質エネルギーの学問体系である化学熱力学の観点から理解し、反応速度や有機高分子・金属・セラミックなどの化学材料についても概観します。

「生命科学」

「生命科学」は、生命活動に関わる反応や現象を分子レベルで解明する科学であり、現在も急速な進歩・発展をし続けている分野の一つです。この科目では、生命を理解する上で不可欠な生体分子（核酸、アミノ酸・タンパク質、脂質、糖質）について、それらの構造や機能・性質を理解します。

「環境科学」

「環境科学」も専門分野で関係する諸君には必要となる科目ですが、自然科学の素養を付けたい人にも見逃せません。現代の技術は環境を配慮しないと生き残ることはできません。この科目では、現在の地球環境問題の科学技術的側面を見渡し、技術者として身につけるべ

き環境保全・修復の基礎を勉強します。また、地球上での人類の位置づけについて、グローバルな視点と地球史的な視点から考えていきます。

⑤情報

情報技術は昨今の社会を担う人材に不可欠な素養で、特に理工系学生にとっては分野を問わず高いレベルで理解し実践する能力が当然のこととして要求されます。また、情報技術を修得しコンピュータを使いこなすことで、一見無関係な様々な分野の諸問題が同時に解決可能となる場合があります。

情報分野では、情報技術について基礎的な能力を涵養するために、各学系、コースの必要に応じて 4 科目「情報リテラシ」、「表計算」、「C 言語プログラミング」、「実用プログラミング」を設置しています。卒業までにこれらの科目の中から 3 単位以上を取得しなければなりませんが、専門課程において必要となる場合が多いので、なるべく 1 年次に修得しておく必要があります。分野によって必要とされる情報技術の素養が異なるため、履修する情報科目については各学系、コースの指導に従ってください。学系ごとに履修が推奨される情報分野の科目は次の通りです。

「情報リテラシ」

アプリケーションプログラムを用いた情報の扱い方と、ネットワークの利用の技術を修得し、これらを通じて情報技術の社会的な必要性とモラルについて学習します。この科目の単位は全ての学生が卒業するまでに取得する必要があります。

「表計算」

コンピュータの利点を生かした様々な情報処理の技術を、表計算ソフトウェアを利用することで学習します。プログラムで処理できることを視覚的に処理でき簡便に行うことができるので、実用面で強力な情報処理ツールとして機能します。また、表計算の基礎はプログラミング技術であることを理解します。

「C言語プログラミング」

プログラミングに関する基礎的知識を、コンピュータの構造を簡潔に理解しつつ、上級年次の専門課程において役立てられるよう、諸分野での応用や、より高度な情報学の修得に繋げます。様々なプログラミング言語が存在しますが、これらの基礎となる C 言語を修得しておくことで、他の言語への応用が可能となります。理工系の学生にとっては情報技術の涵養に必須となります。

「実用プログラミング」

様々なプログラミング言語のうち、よりソフトウェア開発に有益なプログラミング言語を扱います。ここでは昨今注目されている、人工知能の研究開発に有益である言語について学習します。

⑥リメディアル教育分野　※ 卒業単位には含まれない

「数学基礎」

この科目はプレースメントテストの「数学」の結果が基準点未満の人が対象の科目です。

「数学基礎」は高校では十分に数学を学んでこなかった人、例えば、「数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」はやったけれども、「数学 A・B」の中にはやっていないものがあるという人のために、大学での学習の橋渡しを行う科目です。数学の実力にあまり自信が持てない人も履修すると良いでしょう。「数学基礎」は前前期（前期の前半）に週 2 回の授業があります。前前期の成績が不合格となった場合は前後期（前期の後半）に再履修しなくてはなりません。

またプレースメントテストの「数学」が基準点未満の人は「数学基礎」を履修して合格しないと、必修科目である「基礎微積分学 A」と選択科目の「基礎微積分学 B」を履修することができないため注意が必要です。

「化学基礎」、「化学基礎演習」

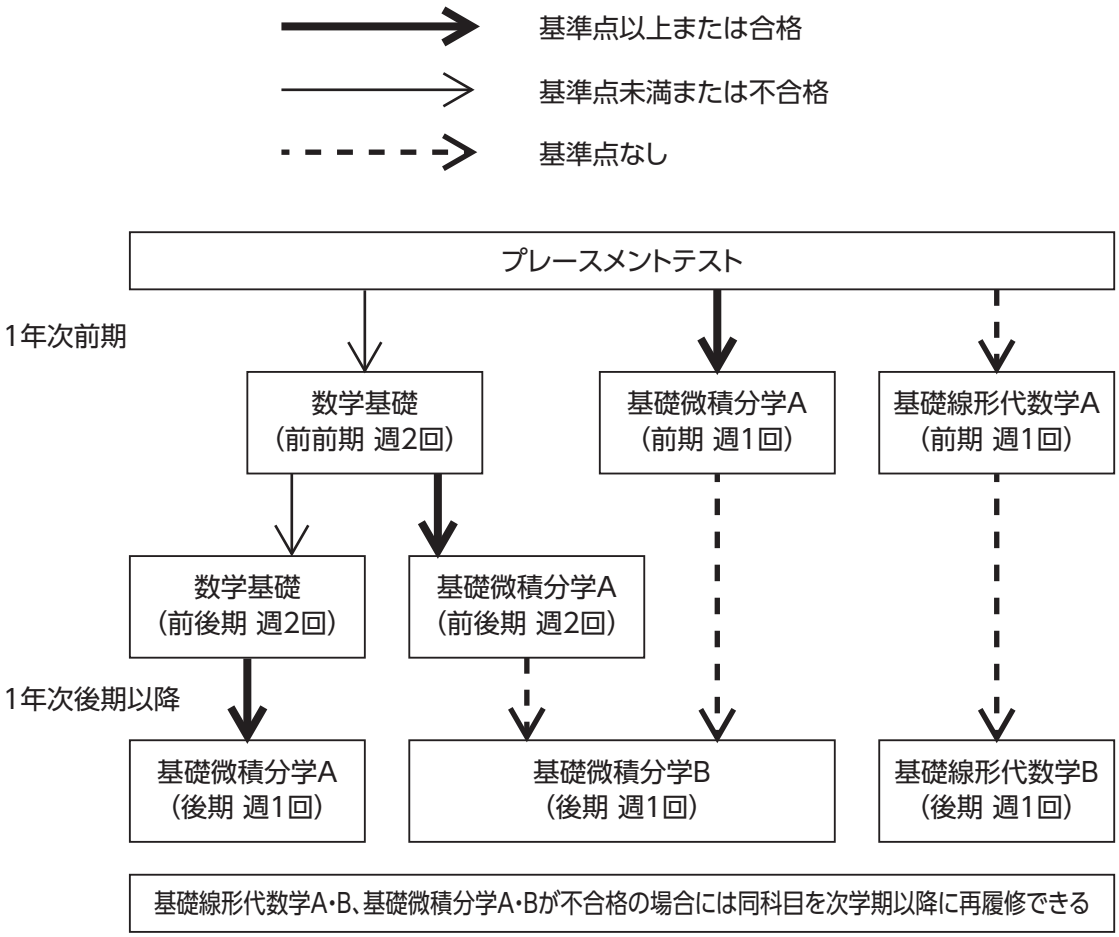
「化学基礎演習」は「化学基礎」の演習として行われるので「化学基礎演習」のみを履修することはできません。これらの科目は学力別クラス編成を取り、どの科目を履修するかはプレースメントテストの結果によって指示されます。

基準点以上　　：いずれの科目も履修する必要はありません。
最低限の学力あり　：「化学基礎」のみを履修してください。
学力不足　　：「化学基礎」と「化学基礎演習」を同時に履修してください。*

*）これらの科目の単位を取得するまで、「化学 A」および「化学 B」を履修できません。

専門基礎科目群の科目配置図〔履修の順序に注意が必要な科目〕

数学の履修モデル図

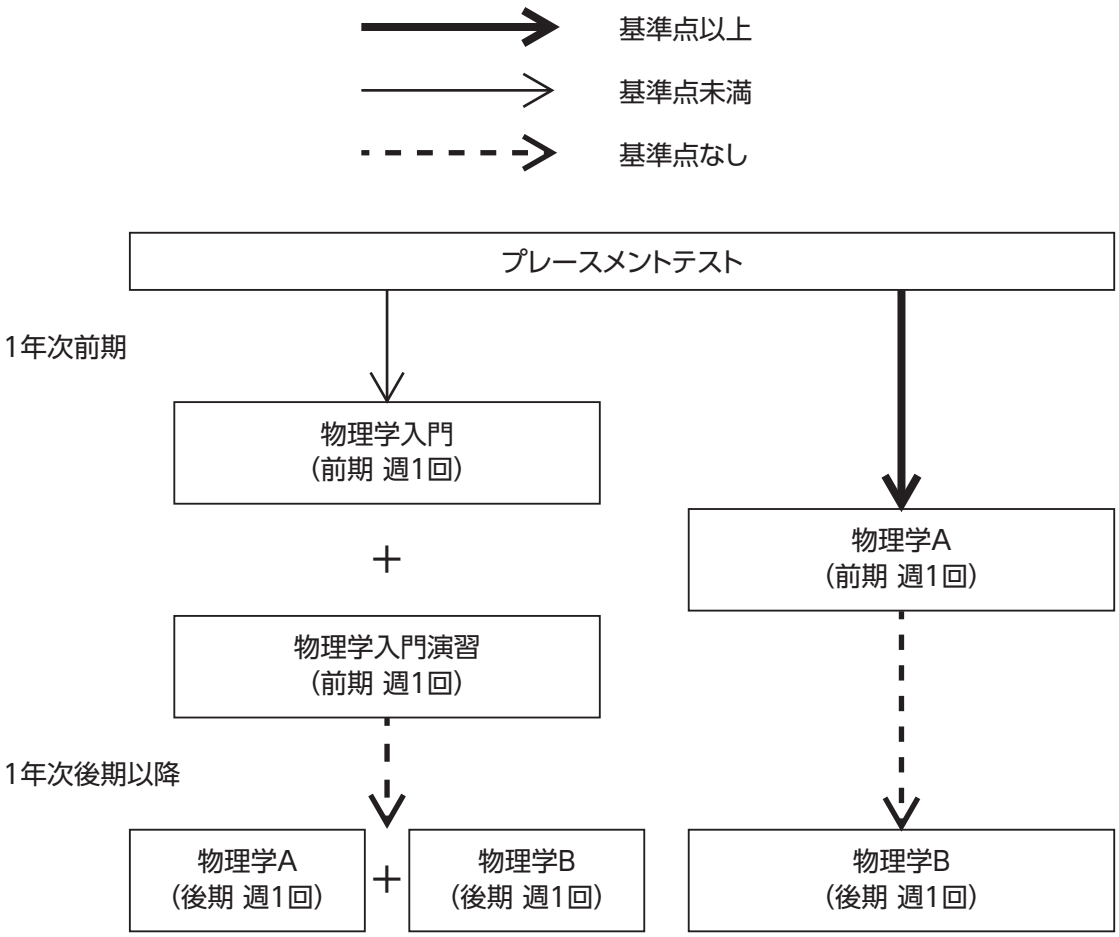


【数学】1 年次配当表

プレースメントテスト	1 年次前期		1 年次後期
	前前期	前後期	
基準点未満	**数学基礎**（前前期 週 2 回）	**基礎微積分学 A** ※ 1（前後期 週 2 回）	**基礎微積分学 B**（後期 週 1 回）
基準点未満	**数学基礎**（前前期 週 2 回）	**数学基礎（再履修）** ※ 2（前後期 週 2 回）	**基礎微積分学 A** ※ 3（後期 週 1 回）
基準点以上	**基礎微積分学 A**（前期 週 1 回）		**基礎微積分学 B**（後期 週 1 回）
基準点なし	**基礎線形代数学 A**（前期 週 1 回）		**基礎線形代数学 B**（後期 週 1 回）

※ 1　対象：前前期配当科目「数学基礎」合格者
※ 2　対象：前前期配当科目「数学基礎」不合格者
※ 3　対象：前後期配当科目「数学基礎」合格者

専門基礎科目群の科目配置図〔履修の順序に注意が必要な科目〕
物理学の履修モデル図



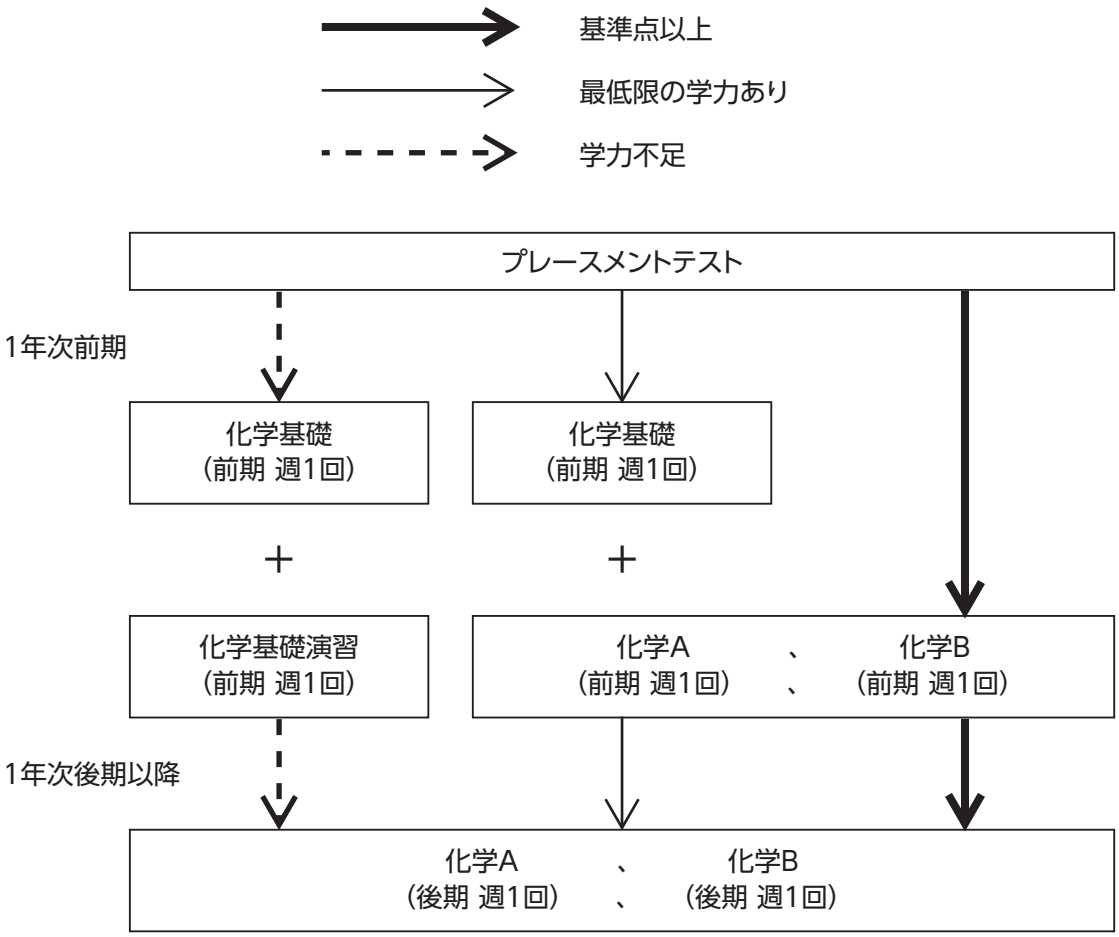
【物理学】1 年次配当表

プレースメントテスト	1 年次前期	1 年次後期
基準点未満	**物理学入門** ※1（前期 週 1 回）	**物理学 A**（後期 週 1 回）
	物理学入門演習 ※1（前期 週 1 回）	**物理学 B**（後期 週 1 回）
基準点以上	**物理学 A**（前期 週 1 回）	**物理学 B**（後期 週 1 回）

※ 1 「物理学入門」と「物理学入門演習」を同時履修すること

専門基礎科目群の科目配置図〔履修の順序に注意が必要な科目〕

化学の履修モデル図



【化学】1 年次配当表

プレースメントテスト	1 年次前期	1 年次後期
学力不足	**化学基礎** ※1 （前期 週 1 回）	**化学A** ※2 （後期 週 1 回）
	化学基礎演習 ※1 （前期 週 1 回）	**化学B** ※2 （後期 週 1 回）
最低限の学力あり	**化学基礎** ※3 （前期 週 1 回）	**化学A** （後期 週 1 回）
	化学A （前期 週 1 回）	
	化学B （前期 週 1 回）	**化学B** （後期 週 1 回）
基準点以上	**化学A** （前期 週 1 回）	**化学A** （後期 週 1 回）
	化学B （前期 週 1 回）	**化学B** （後期 週 1 回）

※1 「化学基礎」と「化学基礎演習」を同時履修すること
※2 「化学基礎」と「化学基礎演習」の単位を取得してから履修すること
※3 「化学基礎」のみを履修すること（「化学基礎演習」は履修しなくてもよい）

平成30(2018)年度カリキュラム　専門基礎科目　授業科目配当表

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	授業形態			単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
					講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
専門教育科目	専門基礎科目	理工学総論	科学技術者の心得	必修	○			②	1	半期1コマ ※3					60100
		実験・レポート	基礎物理学実験	選択			○	2	1	半期2コマ ※3					30200
			基礎化学実験	選択			○	2	1	半期2コマ ※3					30400
			基礎理工学実習	選択			○	2	1	2	2				
		数学	基礎微積分学A	必修	○			②	1	※2					20300
			基礎微積分学B	選択	○			2	1			1	1		20300
			基礎線形代数学A	必修	○			②	1	1	1				20100
			基礎線形代数学B	選択	○			2	1			1	1		20100
		物理学・化学・生物・自然科学	物理学入門	選択	○			2	1	1	1			★	
			物理学入門演習	選択		○		1	1	1	1			★	
			物理学A	選択	○			2	1	半期1コマ ※3				★	30100
			物理学B	選択	○			2	1			1	1		30100
			化学A	選択	○			2	1	半期1コマ ※3				☆	30300
			化学B	選択	○			2	1	半期1コマ ※3				☆	30300
			生命科学	選択	○			2	1			1	1		30500
			環境科学	選択	○			2	1	半期1コマ ※3					30700
		情報	情報リテラシ	必修		○		①	1	四半期1コマ ※5					00400
			表計算	選択		○		1	1		1				00400
			C言語プログラミング	選択		○		2	1	半期1コマ ※3					70100
			実用プログラミング	選択		○		1	1	四半期1コマ ※4					70100
		リメディアル教育	数学基礎	自由	○			1	1	※1					
			化学基礎	自由	○			1	1	1	1				
			化学基礎演習	自由		○		1	1	1	1				

※1　1/4期2コマ(ただし、前前期・前後期開講)
※2　1/4期2コマまたは半期1コマ
※3　ただし、前期・後期開講
※4　1/4期1コマ(ただし、前前期・前後期・後前期・後後期開講)
※5　1/4期1コマ(ただし、前前期・後前期開講)
※　教職コードは「教職課程」参照
★　「物理学入門」「物理学入門演習」「物理学A」から2単位以上取得すること
☆　「化学A」「化学B」から2単位以上取得すること
◇　単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

専門教育科目

理　学　系

(Division of Science)

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

教育目標

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

カリキュラムマップ

理学系履修モデル

授業科目配当表

【理学系】

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

(人材の養成に関する目的)

理学系では、数理学及び自然科学における基本理論及び基本法則を身につけた、問題を本質的に捉えて解決できる応用力の高い理学分野の専門家を養成します。また、理学分野としての学校教員の育成をも目的とします。

(教育研究上の目的)

理学系では、数学及び自然科学を共通の基礎とし、演習や実験を行いながら理学の専門分野として、数学、物理学、化学及び数理情報学の四つの専門分野の教育を行います。また、自然の仕組みを解析し、理論的モデルを用いて表現、体系化することによって発展してきた近代の自然科学の諸分野を研究します。

教育目標

理学系の「人材養成に関する目的その他教育研究上の目的」に基づき、以下の教育目標を掲げます。

数学・物理学・化学・数理情報学の４つのコースにおいて、理学的側面を強調しつつ、基礎科学から応用科学に至る幅広い専門知識を習得させると共に、人間性・社会性・国際性を涵養することを目標とします。

学位授与の方針（ディプロマポリシー・DP）

理工学部の理学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（理学）の学位を授与します。

※標準修業年限は ４年

⑴ 理学分野における専門的知識や技術を身につけていること。(DP1)

⑵ 自立した発想のもとに理学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力を有し、解決に向けた取り組みの内容と結果を口頭及び論文により表現できること。(DP2)

⑶ 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の基礎知識を幅広くもつこと。(DP3)

⑷ 倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。(DP4)

⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。(DP5)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

理工学部の理学系は、４つの専門コースを設け、数学、物理学、化学、数理情報学などの専門知識と理工学の基礎を身につけることおよび人間性・社会性・国際性を育むことを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コー

スを理学系から１つ、副コースを理学系または他学系から１つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

⑴ (DP1 に対応) 理学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目 (教職科目を含む) を配置します。

⑵ (DP2 に対応) 課題・問題解決能力の育成を目的とした演習、実験、輪講科目を学年進行に従い体系的に配置し、卒業研究論文の執筆と口頭発表に至るまでの一貫した指導を行います。

⑶ (DP3に対応)理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に１年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

⑷ (DP4 に対応) 科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

⑸ (DP5 に対応) 国際的なコミュニケーション力を身につけるために、必修の英語科目に加え、他言語科目や国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

＜数学コース U1 ＞

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、数学コースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

①（DP1 に対応）代数学、解析学、幾何学に関する科目を体系的に配置します。 歴史や社会と数理科学のかかわりを学べる科目を配置します。

②（DP2 に対応）問題解決能力を涵養し、より具体的な計算力を身につけるための科目や少人数制の科目を配置します。

＜物理学コース U2 ＞

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、物理学コースは以下に特に配慮して、教育課程を編成し、実施します。

①（DP1 に対応）力学、電磁気学、量子力学、熱・統計力学、物性物理学を主とし、それぞれの分野の科目を体系的に配置します。さらに、実験、演習及びプログラミングに関する科目を配置します。

②（DP2 に対応）物理学に関する課題探求・解決能力を涵養する科目を、各学年に配置します。

＜化学コース U3 ＞

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、化学コースは以下に特に配慮して、教育課程を編成し、実施します。

①（DP1 に対応）化学を原理から理解するために、分析化学、有機化学、無機化学、物理化学に関する分野の科目を体系的に配置します。

②（DP2 に対応）問題解決能力を涵養し、より高度な専門知識を獲得できるよう、課題探求、

セミナー、輪講科目を配置します。さらに、講義で学習したことを深く理解し、実験技術を確かなものとするため、実験科目を体系的に配置します。

＜数理情報学コース U4 ＞

理学系における教育課程編成の方針を踏まえ、数理情報学コースは以下に特に配慮して、教育課程を編成し、実施します。

①（DP1 に対応）数理科学と情報科学の分野の専門科目群を中心としながら、それに関係する数学や情報系科目を含めて、各専門科目を体系的に配置します。

②（DP2 に対応）問題解決能力を涵養し、より実践的な知識を獲得できるよう、コンピュータ演習科目や少人数制の輪講科目を配置します。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー・AP）

理学系は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに従い、問題を本質的にとらえて解決できる創造性と専門性を備えた、21 世紀の社会に求められる人材を育成します。この理念に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

⑴ 求める学生像

◆理学分野（数学、物理、化学、数理情報学）に強く興味を持ち、専門的知識や技術を身につける能力を持った学生

◆演習、実験、輪講科目を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

◆専門および人文社会系の分野の科目の学習を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、理学分野において未来社会に貢献しようと志す学生

⑵ 入学前に学習しておくことが望ましい内容

◆理工学部のアドミッションポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B の範囲を十分理解し、さらに数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。
また、理科（物理・化学のいずれか）に関して十分な基礎学力を身につけておくこと。

理工学部　理工学科　理学系（ U1 数学コース ）

平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	解析学					解析学Ⅰ 常微分方程式	2 2	解析学Ⅱ 複素解析学 フーリエ解析入門	2 2 2	解析学Ⅲ	2	解析学Ⅳ	2				
	幾何学					幾何学Ⅰ	2			幾何学Ⅱ	2	幾何学Ⅲ	2				
	代数学					線形代数学 代数学Ⅰ	2 2	代数学Ⅱ	2	代数学Ⅲ	2	代数学Ⅳ	2				
	数理科学			数理のふしぎ 物理数学Ⅰ 力学	2 2 2	数学セミナーⅠ 物理数学Ⅱ 離散数学	2 2 2	数学セミナーⅡ 量子力学Ⅰ 確率論	2 2 2	統計学	2	数学特論	2				
	その他の学系共通	※その他の学系共通科目（詳細は理学系授業科目配当表を参照）															
	教職課程	※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	輪講									理学輪講Ａ	2	理学輪講Ｂ	2				
	卒業研究											理学特別卒業研究	3	理学卒業研究Ⅰ	3	理学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎	数学演習Ⅰ	2	数学演習Ⅱ 数理プログラミングⅠ	2 2	数理プログラミングⅡ	2										
DP4	人間形成	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門	1			理学インターンシップＡ	2	理学インターンシップＢ	2	理学インターンシップＣ	2	理学インターンシップＤ	2	理学インターンシップＥ	2	理学インターンシップＦ	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2								
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については，該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部 理工学科 理学系 （ U2 物理学コース ）

平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	力学			力学	2	振動と波動	2	連続体の物理	2								
				物理数学Ⅰ	2	物理数学Ⅱ	2										
	電磁気学					電磁気学Ⅰ	2										
								電磁気学Ⅱ	2	計測と分析	2						
	量子力学							量子力学Ⅰ	2	量子力学Ⅱ	2	量子力学Ⅲ	2				
										量子力学演習	2						
	熱統計力学，物性物理									統計力学Ⅰ	2	統計力学Ⅱ	2				
										統計力学演習	2	物性論	2				
	化学素養					化学熱力学Ⅰ	2	無機化学Ⅰ	2								
						有機化学Ⅰ	2	化学熱力学Ⅱ	2	量子化学	2						
	数学素養					解析学Ⅰ	2	解析学Ⅱ	2	統計学	2						
						代数学Ⅰ	2	確率論	2								
						線形代数学	2	複素解析学	2								
						常微分方程式	2	フーリエ解析入門	2								
						幾何学Ⅰ	2										
	地学									地学実験（通年科目）			2				
	その他の学系共通	※その他の学系共通科目（詳細は理学系授業科目配当表を参照）															
	教職課程	※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	実験					物理学実験	2										
	課題探求							物理学課題探求Ⅰ	2			物理学課題探求Ⅱ	2				
	輪講											理学輪講Ｂ	2	理学輪講Ｃ	2		
	卒業研究											理学特別卒業研究	3	理学卒業研究Ⅰ	3	理学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は基礎教育センターのカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎	数学演習Ⅰ	2	数学演習Ⅱ	2												
				数理プログラミングⅠ	2	数理プログラミングⅡ	2										
DP4	人間形成	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門	1			理学インターンシップＡ	2	理学インターンシップＢ	2	理学インターンシップＣ	2	理学インターンシップＤ	2	理学インターンシップＥ	2	理学インターンシップＦ	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2								
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については，該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　理学系（ U3 化学コース ）

平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	物理化学					計算化学	2	量子力学Ⅰ	2	量子化学	2	物性論	2				
						化学熱力学Ⅰ	2	化学熱力学Ⅱ	2	量子力学Ⅱ	2						
								界面化学	2								
								化学反応速度論	2	統計力学Ⅰ	2	統計力学II	2				
								連続体の物理	2								
	有機化学			基礎有機化学	2	有機化学Ⅰ	2	有機化学Ⅱ	2	有機・高分子化学	2						
	無機・分析化学							無機化学Ⅰ	2	無機化学Ⅱ	2						
						分析化学	2	機器分析	2								
	材料化学									基礎高分子科学	1						
	工業化学							化学工学	2			工業化学要論	1				
	地学									地学実験(通年科目)			2				
	数学			物理数学Ⅰ	2	解析学I	2										
						常微分方程式	2										
	生命科学					生命物理化学	2	分子生物学	2								
								生物情報科学Ⅰ	2								
	その他の学系共通	※その他の学系共通科目(詳細は理学系授業科目配当表を参照)															
	教職課程	※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	実験					物理学実験	2	化学実験A	2	化学実験B	2						
										化学実験C	2						
	輪講											理学輪講B	2				
												化学探求	2	理学輪講C	2		
	卒業研究											理学特別卒業研究	3	理学卒業研究Ⅰ	3	理学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎	数学演習Ⅰ	2	数学演習Ⅱ	2												
				数理プログラミングⅠ	2	数理プログラミングⅡ	2										
DP4	人間形成	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門	1			理学インターンシップA	2	理学インターンシップB	2	理学インターンシップC	2	理学インターンシップD	2	理学インターンシップE	2	理学インターンシップF	2
	教職(教科に関する科目)			情報と職業	2			情報倫理	2								
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については，該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部 理工学科 理学系 （ U4 数理情報学コース ）

平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	数理科学					常微分方程式 数理科学演習	2 1	最適化法 フーリエ解析入門 確率論	2 2 2	システム理論 統計学	2 2	制御理論	2				
	情報科学					離散数学	2	情報論	2	人工知能 画像処理 学習理論	2 2 2	データ科学 ロボット科学	2 2				
	数理情報学共通	数理情報学入門	1	数理のふしぎ	2	解析学Ⅰ 線形代数学 代数学Ⅰ 幾何学Ⅰ	2 2 2 2	解析学Ⅱ 複素解析学	2 2								
	その他の学系共通	※その他の学系共通科目（詳細は理学系授業科目配当表を参照）															
	教職課程	※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	演習							数理情報学基礎演習	2	数理情報学応用演習	2						
	輪講									理学輪講A	2	理学輪講B	2				
	卒業研究											理学特別卒業研究	3	理学卒業研究Ⅰ	3	理学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は基礎教育センターのカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎	数学演習Ⅰ	2	数学演習Ⅱ 数理プログラミングⅠ	2 2	数理プログラミングⅡ	2										
DP4	人間形成	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門	1			理学インターンシップA	2	理学インターンシップB	2	理学インターンシップC	2	理学インターンシップD	2	理学インターンシップE	2	理学インターンシップF	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2								
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については，該当するコースのカリキュラムマップを参照

理学系履修モデル

学系の学習・教育目標

「理学は自然現象や数理の法則を探求し、それを体系的に記述し、理解する学問です。」理学は工学や農学など様々な分野において基礎であると同時に、それ自身が多くの研究対象をもつ分野です。近代の自然科学は自然を観察し、その仕組みを解析し、理論的モデルを用いて表現し、そして体系化することによって発展してきました。数学・物理学・化学は理学の代表的な学問分野です。また、数理情報学は代数学や解析学などの数学をベースとする数理的なアプローチによって情報の本質を理解し考える理学系の学問です。

理工学では、さまざまな未知の問題に興味を持ち挑戦していく姿勢が求められます。そのために、基本的な理論を習得し、それが問題解決のためにどのように使えるかを学びます。問題を本質的に捉えて解決できるような創造性豊かで高度な専門性をもった人材を世に送り出すことを学習・教育の目標としています。

学系のカリキュラムの概要

理学系では他の学系とも連携を進め、基礎を大切にしながらも幅広い応用力も身につけられる教育システムを構築しています。いくつかの専門コースに共通で必要な基礎科目は学系共通科目として配置しています。学系共通科目は、数学、物理学、化学、その他の自然科学および数理情報学の基礎科目から成り、それぞれ科目はその分野と関連する専門コースの専門科目の学習につながる内容となるよう配慮されています。特に数学分野の学系共通科目は各コースの専門科目の前提科目となっている場合が多いため、履修計画を立てる際に注意が必要です。

コースの専門科目は 2 年次から 3 年次にかけて、基礎から段階的に応用、発展的内容になるよう配置されています。また、演習、実験が多いのも理学系の特徴です。専門の応用力を確実にするため演習、実験科目はできるだけ配当年次に履修する必要があります。配当年次に単位修得できなかった場合、上級年次での再履修が困難になる場合があるので注意が必要です。一部の専門科目は理学系内および他学系にある複数のコースに同一科目名で配置されていますが、同じ科目であるため一度しか履修することはできません。

＜各コースの概要＞

数学コース：

数学コースでは代数学、幾何学、解析学等の基礎から現代数学までの分野を学んで習得すること、ならびにそれを通じて自由な発想を持った柔軟な論理的思考力を身につけた人材を養成することを目標としております。この目標に沿って、学部共通科目・理学系共通科目・数学コース専門科目を連携して、基礎数学から現代数学に至るまでの数学を体系的に学ぶことができるようにカリキュラムが用意されております。

・数学の学習には講義だけでなく自分で問題を解く演習が大切なため、本コースのカリキュラムでは将来どの方向に進むとしても共通に必要となる 1 、2 年次の科目で演習科目が用意されています（「数学演習Ⅰ・Ⅱ」「数学セミナーⅠ・Ⅱ」）。

・各自の興味を持ったテーマを選択してその理解をさらに深めることができるように、本コースでは少人数で行われる理学輪講 A、理学輪講 B があり、さらに理学卒業研究Ⅰ、理学卒業研究Ⅱが用意されています。

物理学コース：

物理学は、力学・電磁気学・量子力学・統計力学を基盤として、様々な分野が互いに関連した学問です。特に近年は分野の細分化と統合が同時に起き、ある分野で発達した方法などが他分野に応用されることも珍しくありません。その意味で、物理学コースでは、数学はもとより化学・情報など、普通の物理学科では学びにくい幅広い分野の科目を履修することができるようになっています。物理だけにとどまらず多くの他のコースや他学系の分野も学び、多彩な能力と興味を身につける必要があります。それぞれの科目を履修するためには予め履修しておく方が望ましい科目があります。科目履修に当たってはそれぞれの科目の履修要件をシラバス等で確認しておくことが必要です。

本コースでは、物理学実験、物理学課題探求、理学輪講などの小人数教育を通して、物性物理学を中心に新しい課題に取り組み、解決する能力を涵養します。

化学コース：

科学技術の急速な進歩によって、多くの分野で物質に関する認識・知識が重要となってきています。とくに、環境分野、エネルギー分野、バイオテクノロジー分野、ナノテクノロジー分野、電子工学分野など、現代の重要技術分野のほとんどにおいて、化学が重要基盤の一つになっています。化学コースでは、このような多くの分野に対応するため、化学の基礎中の基礎をみっちり勉強します。そのため、2 年生、3 年生、4 年生と学年が上がるにしたがって、内容は連続性を持って高度化します。

化学には、無機化学、有機化学、生物化学、高分子化学および物理化学があります。化学コースでは、物質の構造・性質・反応を系統的に扱う物理化学を中心に勉強し、それ以外の分野の化学と連係することによって、最終的には化学の大系を学んでいきます。講義のあいまには、「化学実験Ａ」（2 年後期）、「化学実験Ｂ・Ｃ」（3 年前期）を行って感覚的に物質に親しみます。また、「化学探求」で問題解決力を身につけます。4 年生では、先生の指導のもとに興味を持った研究テーマで自発的に研究を行い、それまでに学んだ化学の知識を応用します。

数理情報学コース：

数理情報学コースは、数学とコンピュータを基礎に情報について学び研究するコースです。カリキュラムでは、演習科目を系統的に配置し、情報の基礎から応用まで段階的に学習できるよう構成しています。まず 1 年次と 2 年次では、学部共通科目や理学系共通科目によって数学やコンピュータ、情報の基礎をしっかり学ぶことが重要と考えています。特に学系共通科目の数理情報学入門と、数理プログラミングⅠ・Ⅱはぜひ履修することを期待します。コースに配属された 2 年次からは、徐々に数理情報学の専門に進み、3 年次での専門科目（人工知能、ロボット科学、学習理論、システム理論など）を経て 4 年次で卒業研究を行います。この間、少人数制での理学輪講 A・B や、情報分野の課題を題材とするコンピュータ演習科目である数

理情報学基礎演習、数理情報学応用演習もあり実践的な学習が継続できます。なお、3年次から4年次への進級の際には本コース固有の進級条件があり注意が必要です。また中学高校の「数学」や高校の「情報」の教員免許を取得することもできます。

1年次の履修計画の立て方・学習の進め方

1年次はできるだけ学部共通の数学、物理学、化学、情報の専門基礎科目、英語科目および教養科目を中心に履修し、専門科目を学ぶ上での基礎を確かなものにします。また、理学系では他学系以上に自然科学の基礎が重要となるので、学系共通科目としても数学、物理学、化学分野の科目が配置され、特に数学分野には多くの科目があります。1年次配当の理学系共通科目の数学分野の科目のうち、「数学演習Ⅰ・Ⅱ」は2年次以降の理学系の科目を学ぶ際に基礎として必要な数学的概念や論理的言い回しを学ぶ科目です。

さらに、2年次から学ぶ専門分野により基礎として重視される科目が異なりますので、希望する主専攻コースに応じて下記を考慮する必要があります。

数学コース：

数学コースを希望する学生には、対応する講義科目だけでなく、2単位演習科目**数学演習Ⅰ**、**数学演習Ⅱ**の履修も強く勧めます。

さらに**数理のふしぎ**も数学の面白さを実感させてくれる科目として履修を勧めます。

（これらの3科目は本コースの3年次から4年次の進級条件で必ず単位を修得する必要のある科目となっています。）

物理学コース：

物理学は特に基礎から理論と実験を積み上げていく学問です。例えば力学を理解しないで量子力学を理解することは困難です。そこで物理学コースを志望する学生は、**物理学A・B**、**力学**および**物理数学Ⅰ**を履修する必要があります。理論だけでなく**基礎物理学実験**も大切です。物理学は多くの面で数学を利用するので、基礎数学（**基礎微積分学A・B**、**基礎線形代数学A・B**と**数学演習Ⅰ・Ⅱ**）も身につける必要があります。

また、この時期に英語はもちろんのこと、**表計算**、**化学A・B**、**生物学**を履修しておくことが必要です。**C言語プログラミング**は「物理学課題探求Ⅰ」で使用します。人文・社会系の科目である人間形成科目群もこの時期に修得しましょう。

化学コース：

化学コースを選択しようと考えている学生は、プレースメントテストの合否にかかわらず、**化学基礎**を履修し、高校までに学んだ基礎をきっちり身につけておくことをすすめます。2年次以降で行う専門的な実験に先立ち、実験の基礎を身につけるために、専門基礎科目の**基礎化学実験**と**基礎物理学実験**は必ず履修してください。また、大学における化学と物理の基礎を身につけるために、専門基礎科目の**化学A**、**化学B**および**環境科学**は必ず履修し、さらに**物理学A・B**、**生命科学**および学系共通科目の**基礎有機化学**を履修することを特にすすめます。

数理情報学コース：

1年次では数学や情報、コンピュータの基礎の学習に努めてください。数学では学部共通科目の基礎微積分学A・B、基礎線形代数学A・Bの4科目すべてを履修してください。また並行して開講されている演習科目（理学系共通科目の数学演習Ⅰ・Ⅱなど）も履修することを勧めます。情報やコンピュータ関係では、まずは数理情報学入門（1年後期）は必ず履修し、また前期にC言語プログラミング、後期に数理プログラミングⅠも履修してください。プログラミングを含む演習科目は2年次以降にも継続して開講されます。

主専攻コースの選択と履修について（2～4年次）

1年次に理学系の共通科目を学ぶことで、各専門分野がどのような性格・内容の学問分野であるかが入学段階と比べて良く理解されたでしょう。専門コースの選択は卒業後の歩み方に大きな影響を与えますので、入学段階でのコース希望にとらわれず各コースの内容を理解した上で、自分にあったコースを主専攻コースとして選ぶ必要があります。2年次以上では主専攻コースとして選んだコースに応じて、履修計画の立て方・学習の進め方に以下の注意が必要です。

数学コース：

・理学系共通科目に分類されている2年次の数学分野の科目も、将来数学のどの分野に進むにも基本となる内容ですからそれらを履修してください。2年次は本コースで基本となる科目を学習する大切な学年です。
・3年次には、興味や将来の進路などを考えて履修科目を選択していくことになります。本コースの理学輪講A・Bの単位修得は進級のために必要です。
・本コースを主コースとした場合、3年次から4年次への進級には理工学部で共通の進級条件の他に本コース独自の進級条件もみたす必要があります。詳しくは進級条件表（理学系）の数学コースの欄を見てください。

物理学コース：

力学、電磁気学Ⅰ・Ⅱ、量子力学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、物理数学Ⅰ・Ⅱ、振動と波動、連続体の物理、計測と分析、統計力学Ⅰ・Ⅱおよび**物理学実験**がどの物理分野を学ぶ上でも必須項目となります。また、それぞれに付随した演習科目および**物理学課題探求Ⅰ・Ⅱ**は学んだことを身につけるための授業なので、これも必須科目です。

物理学を理解するためには学習の順序があります。物理学の基礎としてはじめに**力学**と**電磁気学Ⅰ**、物理で使う数学の基礎として、**物理数学Ⅰ**を学びます。また、**基礎物理学実験・物理学実験、物理数学Ⅱ**および**振動と波動**も早めに履修すると良いでしょう。次に**化学熱力学Ⅰ・Ⅱ、連続体の物理**と**量子力学Ⅰ・Ⅱ**を履修します。以上の基礎が理解できたら**計測と分析、統計力学Ⅰ・Ⅱ、量子力学Ⅲ**および**物性論**に進みます。

物理学の講義科目を学びながら**演習科目**を履修し、さらに、**物理学課題探求Ⅰ・Ⅱ**や**理学輪講B・C**で物理学の知識を確かなものとします。物理コースの卒業研究を受けるには、**物理学実験**及び**物理学課題探求Ⅰ・Ⅱ**の単位取得が必要です。

また、**数理プログラミングⅠ・Ⅱ**、**解析学Ⅰ・Ⅱ**とその演習、**線形代数学**、**代数学Ⅰ**、**確率論**、**複素解析学**、**幾何学Ⅰ**、**常微分方程式**、**フーリエ解析入門**、**統計学**の履修も推奨されます。これらの科目は必ずしも履修年次にこだわらなくともよいでしょう。

化学コース：

化学コースを主コースとする学生は、2年次において「学系共通科目」と「コース専門科目」の両方から、学問分野を考慮しバランスよく科目を履修してください。例えば、**分析化学**、**有機化学Ⅰ**、**無機化学Ⅰ**、**化学熱力学Ⅰ**など化学の大きな部門をなす分野名のついた科目は低学年次において学習しておく必要があります。また、**計算化学**、**統計力学Ⅰ**、**量子力学Ⅰ**、**化学反応速度論**など化学のための数学と物理分野を履修し学習しておくことは高学年次にそれらを基盤とする化学の科目を履修する際に大きなアドバンテージとなります。3年次においては高度に専門化された科目が多くなり、それらの多くは「コース専門科目」として準備されています。**基礎高分子科学**や**工業化学要論**など初めて学習する分野もありますが、**化学熱力学Ⅱ**、**量子化学**や**無機化学Ⅱ**など、2年次に配当される科目の内容をふまえて講義を進めるような科目が多くあります。更に、2年次、3年次では講義で学習した内容などを実際に実験で確かめてみる意味で**化学実験A・B・C**を履修します。実験で確認することによって理論がより鮮明に理解できるでしょう。**理学輪講B**、**化学探求**ではいくつかの各論を学び、化学の知識と課題解決力を確かなものとします。4年次においては**理学卒業研究Ⅰ・Ⅱ**を履修し、各人が個別のテーマで研究を行います。また、**理学輪講C**では卒業研究の内容をまとめて報告する方法を学んだり、研究テーマに関連する文献の輪講などを行なったりします。これらは化学コースで学習したことの総仕上げの意味がありますので、非常に重要な科目です。

数理情報学コース：

2年次からは、徐々に数理情報学の専門的な科目に移っていきます。本コースに所属して順調に進級し卒業できるよう、以下の点に注意しながら今後の履修計画を立てて勉学に取り組んでください。

①進級・卒業条件：主コース、副コースの条件も含め、学部共通の条件をよく確認してください。なお、数理情報学コースでは3年次から4年次への進級条件として、コース専門科目の数理情報学基礎演習と数理情報学応用演習の2科目、および理学輪講A・Bの2科目が単位修得できていることが必要です。注意してください。

②取得単位数の目安：4年次では理学卒業研究Ⅰ・Ⅱ（計6単位）や進学、就職の活動が中心となります。卒業に必要な単位数は124単位ですから、3年次までは各年次40単位強を目安に単位修得するとよいでしょう。

③科目履修ガイド：進級・卒業に必要な単位を修得していくことはもちろんですが、人間形成科目や英語科目、主コース、副コースの科目もバランスよく履修するように計画することを勧めます。理学系共通科目の中でも離散数学、フーリエ解析入門を始めとする数理情報学分野の科目はすべて履修してください。コース専門科目では、数理情報学基礎演習と数理情報学応用演習の2科目、またその他の科目もできる限り多く履修し修得するよう心がけてください。

④教員免許：中学高校の「数学」、高校の「情報」の教員免許が取得できます。教員免許の項を参照してください。

副専攻コースの選択と履修について（2～4年次）

どの副専攻コースを選択するかは、主専攻コースとして選んだ専門分野と合わせてどのようなスペシャリストを目指すのか、またはどの分野の進学やどのような業種の就職を目指すのかを考えて決定する必要があります。主コースと副コースとの組み合わせと進学、就職分野がわからない場合は各コースの教員に相談すると良いでしょう。副専攻コースとして理学系の各コースを選んだ場合、履修計画の立て方・学習の進め方に以下の注意が必要です。

数学コース：

他のコースを主コースとしたが数学も学んでみたいという場合や、主コースのために数学による基礎付けをしておきたいなど、数学コースを副コースとして希望する目的にはいろいろな場合が考えられます。いずれにしろ本コースを副コースとする場合、数学全体を学ぶだけの科目数を履修する余裕がもてないことも考えられますので、各自の趣味、将来の希望、主コースとの関連、科目間のつながり等を考慮して有効に履修科目を選択する必要があります。

数学コースの専門科目の中には準備が想定されている科目もあります。本コースを副コースとする学生も、学系共通科目から対象となる科目を履修しておくことが望ましいです。詳しくは各科目のシラバスをご覧ください。また、数学コースのホームページに「数学を副コースとする学生のための履習科目ガイド」がありますので、それを参考にしてください。

物理学コース：

力学、**電磁気学Ⅰ**、**物理数学Ⅰ・Ⅱ**、**化学熱力学Ⅰ**、**量子力学Ⅰ**、**統計力学Ⅰ**が何を学ぶにしても必須項目です。それぞれの科目の前提となる科目については、主コースの欄と同じですので参照してください。専門科目は、**振動と波動**、**連続体の物理**、**化学熱力学Ⅱ**等の履修を勧めます。**物理学課題探求Ⅰ・Ⅱ**は、主に**物理学コースを主コースとする学生**が対象の科目です。

化学コース：

化学コースを副コースとして選んだ学生は、興味の対象が何であるかで履修すべき科目が異なります。例えば、「材料」に興味があるのか、それとも「化学反応」に興味があるのかは大きな違いです。前者の場合は**工業化学要論**を、後者の場合は**化学反応速度論**を履修するのがよいでしょう。また、材料であっても、それが「無機」材料であるのか「有機」材料であるのか、はたまた「高分子」に分類される材料であるのかで、**有機化学Ⅰ**、**無機化学Ⅰ・Ⅱ**や**基礎高分子科学**の履修が適している場合もあります。何に興味があるのか、勉強したいのは何なのかをよく考慮した上で履修科目を選択してください。また、コース専門科目に準備されている科目で**化学熱力学Ⅱ**や**無機化学Ⅱ**などのように「Ⅱ」がつく科目は理学系の学系共通科目にそれらに対応する「Ⅰ」の科目がありますので、まずそちらを履修してください。**化学探求**は化学コースの学生を対象とする科目です。

数理情報学コース：

数理情報学コースは、数学とコンピュータを基礎に情報について学び研究するコースです。カリキュラムでは、低学年次で数学やコンピュータ、情報の基礎を学び、その後、情報の基礎から応用まで段階的に学習できるよう構成しています。従って、数理情報学コースを副コースとして選び、コース専門科目を履修する際には、できるだけその前提となる基礎科目を履修しておいてください。また、科目の一部には履修制限する場合がありますので注意してください。

理学系における 3 年以上在学での卒業について（3 年卒業、3.5 年卒業）

理学系での 3 年以上在学での卒業には、理工学部で定められた 3 年以上在学での卒業の条件に加えて、下記の卒業研究に関する条件をみたす必要があります。

・3 年在学での卒業の場合は 3 年後期の理学特別卒業研究の単位修得が必要です。
・3.5 年在学での卒業の場合は 4 年前期の理学卒業研究Ⅰは早期卒業の計画に沿った卒業研究としての単位修得が必要です。

なお、**3 年以上在学での卒業を希望する学生は事前に学系長に申しでて、上記の卒業研究履修の承諾**を得ることが必要です。

その他注意事項

理学系の教職科目に指定されている科目履修で数学、理科または情報の教員免許を取得することができます。学系共通科目、コース専門科目には教職科目に指定されている科目が多数あるため、教員免許取得を目指す学生は教職課程の章を良く読んで目指す免許状に応じて履修計画を立てる必要があります。例えば､数学の教員免許の「教科に関する科目」としてコンピュータに区分された科目があり、理学系の学生に対しては「数理プログラミングⅠ」が必修となっています。

理学系の科目配置図

	数学コース	物理学コース	化学コース	数理情報学コース	
4年	理学卒業研究Ⅰ・Ⅱ 理学輪講C （必要に応じて）理学インターンシップE・F				
3年	〔数学コース専門科目〕 代数学Ⅲ 代数学Ⅳ 幾何学Ⅱ 幾何学Ⅲ 数学特論 解析学Ⅲ 解析学Ⅳ	〔物理学コース専門科目〕 統計力学Ⅱ 量子力学Ⅲ 物性論 物理学課題探求Ⅱ 量子力学演習 統計力学演習	〔化学コース専門科目〕 無機化学Ⅱ 基礎高分子科学 有機・高分子化学 工業化学要論 化学実験B・C 化学探求	〔数理情報学コース専門科目〕 人工知能 データ科学 ロボット科学 統計学 学習理論 システム理論 制御理論 数理情報学応用演習	共通教育科目 人間形成科目 英語科目
	〔学系共通科目〕 （数学・物理学・化学・数理情報学・地学分野） 計測と分析・量子力学Ⅱ・統計力学Ⅰ 量子化学・画像処理・地学実験				
	〔コース専門科目〕 理学輪講A・B （必要に応じて）理学特別卒業研究、理学インターンシップC・D				
2年	〔数学コース専門科目〕 代数学Ⅱ・解析学Ⅱ 数学セミナーⅠ 数学セミナーⅡ 学系共通科目の数学分野科目を履修すること	〔物理学コース専門科目〕 電磁気学Ⅱ 振動と波動 化学熱力学Ⅱ 物理学課題探求Ⅰ 連続体の物理	〔化学コース専門科目〕 化学熱力学Ⅱ 界面化学 計算化学 化学反応速度論	〔数理情報学コース専門科目〕 最適化法 数理情報学基礎演習	
	〔学系共通科目〕 （数学分野） 解析学Ⅰ 線形代数学 代数学Ⅰ 複素解析学 幾何学Ⅰ	（物理学・化学分野） 化学熱力学Ⅰ・量子力学Ⅰ 化学工学・化学実験A 物理学実験・電磁気学Ⅰ 物理数学Ⅱ・機器分析 有機化学Ⅰ・無機化学Ⅰ 分析化学	（数理情報学分野） 離散数学 常微分方程式 数理科学演習 情報論 フーリエ解析入門 確率論 数理プログラミングⅡ		
	（コース専門科目）理学インターンシップA、B				
1年	〔学系共通科目〕 （数学分野） 数学演習Ⅰ、Ⅱ 数理のふしぎ	（物理学・化学分野） 物理数学Ⅰ・力学・基礎有機化学	（数理情報学分野） 数理プログラミングⅠ・数理情報学入門		
	〔専門基礎科目〕 （基　礎）：数学基礎・物理学入門・化学基礎・物理学入門演習・化学基礎演習 （数　学）：基礎微積分学A・B、基礎線形代数学A・B （物理学）：物理学A・B・基礎物理学実験 （化　学）：化学A・B・基礎化学実験 （情報学）：情報リテラシ・表計算・C言語プログラミング・実用プログラミング （その他）：環境科学・生命科学・工学基礎・科学技術者の心得・基礎理工学実習 東京電機大学で学ぶ				

理学系　進級条件表　RU

（2018年度カリキュラム）

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。

2年次→3年次

進級条件を設けない。

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

1．下記の単位を修得のこと。

区分			単位数	卒業要件
人間基礎力			1	2
人間形成			11	14
英語			6	8
理工学総論			2	2
実験・レポート			2	4
数学			4	6
物理学・化学・生物学・自然科学			4	7
情報			2	3
副コースが自学系の場合	学系共通科目	自学系	23	34
	コース専門科目	主コース	18	26
		副コース	5	8
副コースが他学系の場合	学系共通科目	自学系	19	28
	コース専門科目	主コース	18	26
	指定科目群	副コース	9	14

2．理学系の各コースを主コースで選んだ場合，下記科目を履修し単位を全て修得していること。

数学コース	物理学コース	化学コース	数理情報学コース
数学演習Ⅰ	物理学実験	化学実験A	数理情報学基礎演習
数学演習Ⅱ	物理学課題探求Ⅰ	化学実験B	数理情報学応用演習
数理のふしぎ	物理学課題探求Ⅱ	化学実験C	理学輪講A
理学輪講A	理学輪講B	理学輪講B	理学輪講B
理学輪講B		化学探求	

平成30(2018)年度カリキュラム 理学系 授業科目配当表

RU

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態			単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
						講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
専門教育科目	学系共通科目	数学	数学演習Ⅰ	選択			○		2	1	1	1				
			数学演習Ⅱ	選択			○		2	1			1	1		
			数理のふしぎ	選択		○			2	1			1	1		
			解析学Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				20300
			線形代数学	選択		○			2	2	1	1				20100
			代数学Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				20100
			複素解析学	選択		○			2	2			1	1		20300
			幾何学Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				20200
		物理学	力学	選択		○			2	1			1	1		
			電磁気学Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				30100
			物理学実験	選択				○	2	2	2	2				30200
			計測と分析	選択		○			2	3	1	1				30100
			統計力学Ⅰ	選択		○			2	3	1	1				30100
			量子力学Ⅰ	選択		○			2	2			1	1		30100
			量子力学Ⅱ	選択		○			2	3	1	1				30100
			物理数学Ⅰ	選択		○			2	1			1	1		30100
			物理数学Ⅱ	選択		○			2	2	1	1				30100
		化学	基礎有機化学	選択		○			2	1			1	1		30300
			有機化学Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				30300
			機器分析	選択		○			2	2			1	1		
			分析化学	選択		○			2	2	1	1				
			無機化学Ⅰ	選択		○			2	2			1	1		30300
			化学工学	選択		○			2	2			1	1		
			化学実験A	選択				○	2	2			2	2		30400
			量子化学	選択		○			2	3	1	1				30300
			化学熱力学Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				30300
		地学	地学実験	選択				○	2	3	1	1	1	1	集中講義 通年科目	30800
		数理情報学	数理プログラミングⅠ	選択			○		2	1			1	1		20500
			数理プログラミングⅡ	選択			○		2	2	1	1				60200
			数理情報学入門	選択		○			1	1		1				60100
			数理科学演習	選択			○		1	2	1	1				
			常微分方程式	選択		○			2	2	1	1				20300
			離散数学	選択		○			2	2	1	1				20500
			確率論	選択		○			2	2			1	1		20400
			情報論	選択		○			2	2			1	1		60400
			フーリエ解析入門	選択		○			2	2			1	1		20300
			画像処理	選択		○			2	3	1	1				60500

コースコードは、U1:数学コース・U2:物理学コース・U3化学コース・U4:数理情報学コース
教職コードは、「教職課程」参照。

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態			単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
						講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
専門教育科目	U1 数学コース専門科目	数学	解析学Ⅱ	選択	U1	○			2	2			1	1		20300
			解析学Ⅲ	選択	U1	○			2	3	1	1				20300
			解析学Ⅳ	選択	U1	○			2	3			1	1		20300
			代数学Ⅱ	選択	U1	○			2	2			1	1		20100
			代数学Ⅲ	選択	U1	○			2	3	1	1				20100
			代数学Ⅳ	選択	U1	○			2	3			1	1		20100
			幾何学Ⅱ	選択	U1	○			2	3	1	1				20200
			幾何学Ⅲ	選択	U1	○			2	3			1	1		20200
			数学セミナーⅠ	選択	U1		○		2	2	1	1				
			数学セミナーⅡ	選択	U1		○		2	2			1	1		
			数学特論	選択	U1	○			2	3			1	1		
	U2 物理学コース専門科目	物理学	連続体の物理	選択	U2	○			2	2			1	1		30100
			振動と波動	選択	U2	○			2	2	1	1				30100
			物理学課題探求Ⅰ	選択	U2	○			2	2			2	2		30200
			物理学課題探求Ⅱ	選択	U2	○			2	3			2	2		30200
			化学熱力学Ⅱ	選択	U2・U3	○			2	2			1	1	※1	30300
			統計力学Ⅱ	選択	U2	○			2	3			1	1		30100
			量子力学Ⅲ	選択	U2	○			2	3			1	1		30100
			物性論	選択	U2	○			2	3			1	1		30100
			電磁気学Ⅱ	選択	U2	○			2	2			1	1		30100
			量子力学演習	選択	U2		○		2	3	1	1				
			統計力学演習	選択	U2		○		2	3	1	1				
	U3 化学コース専門科目	化学	化学探求	選択	U3	○			2	3			1	1		
			化学熱力学Ⅱ	選択	U2・U3	○			2	2			1	1	※1	30300
			計算化学	選択	U3	○			2	2	1	1				
			界面化学	選択	U3	○			2	2			1	1		30300
			無機化学Ⅱ	選択	U3	○			2	3	1	1				30300
			化学反応速度論	選択	U3	○			2	2			1	1		30300
			基礎高分子科学	選択	U3	○			1	3			1			30300
			工業化学要論	選択	U3	○			1	3				1		
			有機・高分子化学	選択	U3	○			2	3	1	1				30300
			化学実験B	選択	U3			○	2	3	1/4期4コマ				前前期および前後期開講	30400
			化学実験C	選択	U3			○	2	3	1/4期4コマ				前前期および前後期開講	30400
	U4 数理情報学コース専門科目	数理情報学	人工知能	選択	U4	○			2	3	1	1				60500
			データ科学	選択	U4	○			2	3			1	1		60300
			最適化法	選択	U4	○			2	2			1	1		
			ロボット科学	選択	U4	○			2	3			1	1		
			統計学	選択	U4	○			2	3	1	1				20400
			学習理論	選択	U4	○			2	3	1	1				20500
			システム理論	選択	U4	○			2	3	1	1				
			制御理論	選択	U4	○			2	3			1	1		
			数理情報学基礎演習	選択	U4		○		2	2			1	1		60300
			数理情報学応用演習	選択	U4		○		2	3	1	1				60500
専門教育科目	コース専門科目	卒研等	理学輪講A	選択	U1・U4	○			2	3	1	1				
			理学輪講B	選択		○			2	3			1	1		
			理学輪講C	選択	U2・U3	○			2	4	1	1				
			理学特別卒業研究	選択				○	3	3			3	3	3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			理学卒業研究Ⅰ	必修				○	③	4	3	3				
			理学卒業研究Ⅱ	必修				○	③	4			3	3		
		キャリアデザイン	理学インターンシップA	選択				○	2	2	2	2			随時	
			理学インターンシップB	選択				○	2	2			2	2	随時	
			理学インターンシップC	選択				○	2	3	2	2			随時	
			理学インターンシップD	選択				○	2	3			2	2	随時	
			理学インターンシップE	選択				○	2	4	2	2			随時	
			理学インターンシップF	選択				○	2	4			2	2	随時	
			情報と職業入門	選択		○			1	全	1					
			情報と職業	選択		○			2	全			1	1		60600
			情報倫理	自由		○			2	2			1	1		60100

※1の科目を履修した場合は、同一科目名の他コース科目を履修することはできません。

※ 単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

コースコードは、U1:数学コース・U2:物理学コース・U3化学コース・U4:数理情報学コース
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

生命科学系

(Division of Life Science)

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

教育目標

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

カリキュラムマップ

生命科学系履修モデル

授業科目配当表

【生命科学系】

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

(人材の養成に関する目的)

生命科学系では、生物がもつ高度な機能の本質を解明し理解すると同時に、それら機能の制御や活用を目指した教育と研究を通して、生命科学に関連する様々な課題に取り組む能力を備えた人材を養成します。

(教育研究上の目的)

生命科学系では、専門知識や技術を体系的に習得するとともに、学際領域を視野に入れた応用力や正しい倫理観を養うことにより、今後直面する生命科学分野の諸問題の解決に貢献できる人材の育成を目的とした教育研究を行います。

教育目標

理工学部生命科学系の「人材養成に関する目的その他教育研究上の目的」に基づき、以下の教育目標を掲げます。

⑴ 理工学分野広範にわたる基礎教育と教養教育により、広い視野を備えた人間性豊かな人材を育成します。
⑵ 論理的な思考力を身につける教育を行うことで、主体的に考え行動できる人材を育成します。
⑶ 生命科学分野における専門的な知識と技能を有する人材を育成します。
⑷ 英語教育や多様性ある考えを身につける教育を行うことで、グローバル化した社会で活躍できる人材を育成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー・DP）

理工学部の生命科学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

※標準修業年限は 4年

⑴ 生命科学分野で必要とされる知識や技術を身につけること。(DP1)
⑵ 自立した発想のもとに生命科学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。課題解決の過程や結果を適切に表現し、議論する能力を身につけること。(DP2)
⑶ 理工学全般に共通する基礎知識や考え方を身につけること。(DP3)
⑷ 倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。(DP4)
⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。(DP5)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

理工学部の生命科学系は、2つの専門コースを設け、健康・医療分野あるいは食品・環境工学分野の専門知識や応用技術の基礎を身につけるとともに、その知識や技術を活用できる人材

を育成することを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コースを生命科学系から１つ、副コースを生命科学系または他学系から１つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

⑴ (DP1 に対応）生命科学全般の核となる生物学、化学、情報・統計学に関する科目や、２つの専門コースに特化した知識や技術を学ぶ科目を配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目 (教職科目を含む) を配置します。

⑵ (DP2 に対応）他者と協力して課題・問題解決する能力や、主体的に取り組む姿勢の養成を目的とし、ゼミ、実習、実験科目を学年進行に従い体系的に配置します。

⑶ (DP3 に対応）理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に 1 年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

⑷ (DP4 に対応）科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

⑸ (DP5 に対応）国際的なコミュニケーション力を身につけるために、必修の英語科目に加え、他言語科目や国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

＜分子生命科学コース B1 ＞

生命科学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、分子生命科学コースは健康・医療分野で活躍できる人材の育成に重点をおき、以下の特色ある教育課程を編成します。

① (DP1 に対応）生命現象を分子レベルで解き明かし、人々の健康維持や医療に活用する能力を養うため、それらに関係する専門科目を体系的に配置します。

② (DP2 に対応）生体分子の生理機能や相互作用を解明するための研究手法や考察力を養うため、小グループによる実験・演習を進級条件科目として配置します。

＜環境生命工学コース B2 ＞

生命科学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、環境生命工学コースは食品工学や環境工学分野で活躍できる人材の育成に重点をおき、以下の特色ある教育課程を編成します。

① (DP1 に対応）環境保全および食料や生物資源の生産・活用に必要な知識や思考力を育むため、それらに関係する専門科目を体系的に配置します。

② (DP2 に対応) 環境保全や食品製造に必要な技術や実践力を養うため、小グループによる実験・演習を進級条件科目として配置します。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー・AP）

生命科学系は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに従い、生物がもつ高度な機能の本質を理解し、生命科学分野（「健康・医療」、「食品製造・物質生産」、「環境保全」の各分野）において、生命に関わる諸問題の解決に取り組む力を備えた人材を育成します。この理念に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

⑴ 求める学生像

◆生命科学分野（「健康・医療」、「食品製造・物質生産」、「環境保全」）に強く興味を持ち、化学・物理学や生物学を基礎として生命現象の解明や生物機能の活用に取り組む意欲のある学生

◆生命科学系における学系共通科目と主コース専門科目の学びを通して、生命科学に関連した様々な分野で自らの役割を認識し、他者と協働して課題・問題を解決する意欲のある学生

◆生命科学系における実験・実習・ゼミ科目を通して、専門性を活かした思考力・判断力・表現力を修得し、実践力と倫理観を兼ね備えた科学技術者を目指す学生

⑵ 入学前に学習しておくことが望ましい内容

◆理工学部のアドミッションポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを十分理解しており、さらに数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。

　加えて、理科（物理・化学・生物のいずれか1つ以上）は十分な基礎学力を身につけておくこと。

理工学部　理工学科　生命科学系（ B1 分子生命科学コース ）
平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分			1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	学系共通	生物			細胞の科学	2	生化学	2	分子生物学	2	遺伝子工学	2						
							微生物学	2										
							生物学	2										
		化学			基礎有機化学	2	有機化学Ⅰ	2	有機化学Ⅱ	2	生体高分子科学Ⅰ	2						
							生命物理化学	2	機器分析	2								
		情報・その他					生物統計学	2	生物情報科学Ⅰ	2								
		地学									生態地球科学	2						
											地学実験（通年）			2				
	生命科学						生体組織学	2	免疫学	2	細胞生物学	2	薬理学	2				
											生物情報科学Ⅱ	2	再生医科学	2				
	物質科学										生体材料学	2	生体高分子科学Ⅱ	2				
													創薬化学	2				
	教職課程		※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	実験						生命科学基礎実験Ⅰ	2	生命科学基礎実験Ⅱ	2	分子生命科学実験Ⅰ	2	分子生命科学実験Ⅱ	2				
	ゼミ						生命科学演習Ⅰ	2	生命科学演習Ⅱ	2	分子生命科学ゼミⅠ	2	分子生命科学ゼミⅡ	2				
	卒業研究												生命科学特別卒業研究	3	生命科学卒業研究Ⅰ	3	生命科学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎		※詳細は基礎教育センターのカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎		生命科学概論	2														
DP4	人間形成		※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン												生命科学キャリア開発ゼミ	2				
			情報と職業入門	1			生命科学インターンシップA	2	生命科学インターンシップB	2	生命科学インターンシップC	2	生命科学インターンシップD	2	生命科学インターンシップE	2	生命科学インターンシップF	2
	教職（教科に関する科目）				情報と職業	2												
DP5	国際化教育		※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　生命科学系（ B2 環境生命工学コース ）
平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分			1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	学系共通	生物			細胞の科学	2	生化学	2	分子生物学	2	遺伝子工学	2						
							微生物学	2										
							生物学	2										
		化学			基礎有機化学	2	有機化学Ⅰ	2	有機化学Ⅱ	2	生体高分子科学Ⅰ	2						
							生命物理化学	2	機器分析	2								
		情報・その他					生物統計学	2	生物情報科学Ⅰ	2								
		地学									生態地球科学	2						
											地学実験(通年)			2				
	生物環境工学						環境生物学	2	植物生理学	2	植物育種工学	2	生物プロセス工学	2				
											環境計測学	2	生命環境工学	2				
	食品工学								食品製造学Ⅰ	2	食品化学	2	食品製造学Ⅱ	2				
	教職課程		※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	実験						生命科学基礎実験Ⅰ	2	生命科学基礎実験Ⅱ	2	環境生命工学実験Ⅰ	2	環境生命工学実験Ⅱ	2				
	ゼミ						生命科学演習Ⅰ	2	生命科学演習Ⅱ	2	環境生命工学ゼミⅠ	2	環境生命工学ゼミⅡ	2				
	卒業研究												生命科学特別卒業研究	3	生命科学卒業研究Ⅰ	3	生命科学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎		※詳細は基礎教育センターのカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎		生命科学概論	2														
DP4	人間形成		※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン												生命科学キャリア開発ゼミ	2				
			情報と職業入門	1			生命科学インターンシップA	2	生命科学インターンシップB	2	生命科学インターンシップC	2	生命科学インターンシップD	2	生命科学インターンシップE	2	生命科学インターンシップF	2
	教職（教科に関する科目）				情報と職業	2												
DP5	国際化教育		※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

生命科学系履修モデル

1. カリキュラムの概要

生命科学系は、生物や化学などに基礎を置いたいくつかの分野から構成されています。カリキュラムは、大学院進学も視野に入れ、基礎から応用まで無理なく知識や技術を身につけることができる編成を組んでいます。

本学系では、学生の自主性を重んじ自らが履修計画を立て、卒業に向けしっかりと学習していく姿勢が求められます。講義で学んだことを実験や演習を通じて確実に自分のものにするように努力するとともに、わからなかった部分をそのままにしないで予習・復習もしっかりと行ってください。

カリキュラムは生命科学全般の核となる生物学、化学、情報・統計学に関する科目を基盤として、2 つの専門コースに特化した専門科目を配置、編成しておりますので、自分の将来なりたい夢にあった履修計画を立てるようにしてください。

1. 1. コースの概要

生命科学系の教育分野は次の 2 つの専門コースにわけて編成しています。
各コースの概要は後述します。

⑴「分子生命科学コース」

生命現象を分子レベルで解き明かし、人々の健康維持や医療に活用するために、生体分子の生理機能や相互作用を解明したり、生命と調和した物質を創生したりするための知識や技術を学びます。

⑵「環境生命工学コース」

さまざまな環境変化や刺激に対する生物の応答機能を解明するとともに、環境保全及び食料や生物資源の生産・活用につなげるための知識や技術を学びます。

1. 2. 授業科目

生命科学系の授業科目は大きく分けて次のように分類されます。

1) 専門科目・・・学系共通科目群、コース専門科目群
2) 人間基礎力科目群、人間形成科目群、英語科目群
3) 専門基礎科目群

生命科学系の各学年における進級条件や卒業要件などの詳細は生命科学系の進級条件表を参照してください。

2. 各コースの概要

2. 1. 分子生命科学コース

分子生命科学コースでは、さまざまな生命現象を分子のレベルで説明できることを目標としています。DNA やタンパク質の構造・機能を理解し、これらの相互作用にもとづく高次の生命現象について学びます。このため本コースは、生化学や分子生物学、有機化学などの基盤的

な科目からはじまり、遺伝子工学、細胞生物学、再生医科学や創薬化学などの専門性の高い科目にいたる幅広いカリキュラムから構成されています。このカリキュラムのもと、バイオテクノロジー、バイオインフォマティクス、医薬品、化粧品、再生医療に関連する領域での最先端の教育・研究を行います。

カリキュラム：1 年生では生命科学概論、細胞の科学、基礎有機化学など、生命科学の基盤となる科目の履修を勧めます。2 年生では有機化学などの化学科目の他に分子生物学や生体組織学、免疫学などの細胞や生体レベルで生命現象を解説する科目や生物統計学、生物情報科学など生命現象の情報処理機構について、また 3 年生では遺伝子工学、薬理学、再生医科学、創薬化学などの応用科目を中心に履修することを勧めます。

2. 2.　環境生命工学コース

環境生命工学コースでは、環境や食料など人類の生存と発展に関わる分野を扱います。環境からのさまざまな刺激に対する生物の応答機能を解明するとともに、環境要因を明らかにすることで、植物・微生物を利用した環境保全及び食料や生物資源の生産・活用方法について学びます。このため本コースは、生化学や分子生物学、有機化学などの基盤的な科目からはじまり、環境生物学や植物生理学、食品製造学、生物プロセス工学などの専門性の高い科目にいたる幅広いカリキュラムから構成されています。このカリキュラムのもと、バイオテクノロジー、食品、環境計測に関連する領域での最先端の教育・研究を行います。

カリキュラム：1 年生では生命科学概論、細胞の科学、基礎有機化学など、生命科学の基盤となる科目の履修を勧めます。2 年生では有機化学などの化学科目の他に植物生理学や微生物学、食品製造学などの植物や微生物のしくみやその応用利用について、また 3 年生では環境計測学、食品化学、生物プロセス工学、生命環境工学などの応用科目を中心に履修することを勧めます。

3.　1 年次における学習の進め方

大学入試を終え、新しい生活に向けて期待に胸ふくらませていることと思います。大学に入って最初の年は大学生活の中でも重要な年になります。1 年生の時は焦らずに基礎の勉強をしっかりと行っておくことが求められます。1 年生の基礎科目がしっかりと身に付いていないと 2 年生以降の専門科目の学習が理解できずに習得できなくなってしまい、結局高学年でその影響が大きく生じてきます。このため 1 年生時における勉学への取り組みには十分注意をしてください。スタートが肝心です。

また、1 年生から 2 年生へは進級条件をクリアしなくてはいけません。生命科学系では 1 年次における単位数が 30 単位に達していないと 2 年生の進級を許可していません。

1 年次には人間基礎力科目、人間形成科目、英語科目、専門基礎科目を主に履修をしていきます。これらの科目群は 3 年生から 4 年生の進級条件や卒業条件に深く関わっています。表の進級条件を見て計画を立て 1 年次にとるべき単位数を各自決めてください。

英語はこれからの国際社会において必要不可欠な科目です。積極的に取り組んでください。また、大学を卒業した学生には高い専門的な学力ばかりでなく、社会で通用する一般教養の知識も求められます。哲学や経済学、心理学など理工学系の学生でも身につけておくべき科目が

人間形成科目群です。これからの大学における勉強について理解し、「大学生」としての基礎をつくる人間基礎力科目群も大事な科目です。シラバスや 4 月当初のガイダンスを参考にして、自分の興味のある分野を積極的に履修してください。

専門科目には専門基礎科目と学系共通科目があります。まず、専門基礎科目で数学、物理、化学の基礎を学んでいきます。高校で学んだことの復習と同時に大学で学ぶことの根幹をなす科目です。一方、2 年次にコースを選択する際に必要となる学系共通科目があります。学系共通科目は生命科学系で学んでいくための基盤となる科目になります。生命科学概論は学系共通科目の導入科目ですので、どのコースを選ぶかにかかわらず履修するようにしてください。上記以外の学系共通科目も幅広く履修しておくことを勧めます。1 年生の学系共通科目履修は、2 年次に進むコース選択の際の参考になると思います。 1 年生の間は希望のコースに進むために各自努力を怠らないようにしてください。

4.　2 年生～ 4 年生（主コース学生と副コース学生の履修計画と学習の進め方）

（主コース・副コース共に生命科学系の学生）

2 年生以上になるとコース専門科目がいよいよ始まります。2 年生、3 年生では主に学系共通科目とコース専門科目を履修していくことになります。学系共通科目は、生命科学系に所属するのであればどのコースに所属するにしても必要となる科目群です。特に実験は重要な科目ですので必ず履修するようにしてください。学系共通科目、コース専門科目ともに 3 年生から 4 年生への進級条件があります。表で確認して不足の無いように計画を立てて履修してください。

また、英語科目や人間基礎力科目、人間形成科目の履修も進級条件を考え、不足のないようにすることが重要です。進級条件は、進級に必要な最低条件です。ぎりぎりの単位数で進級や卒業しようとするとまずうまくいきません。条件に書かれている数字は最低条件と理解して、条件は余裕を持ってクリアできるだけの単位数を履修するようにしてください。

4 年生になりますと、いよいよ学部時代の仕上げになります。4 年生に進級するときには進級条件である 104 単位でなく卒業単位の 124 単位もクリアできるようにすることを勧めます。4 年生では卒業研究で忙しくなるからです。この卒業研究では 1 年間かけて各自が独自の研究テーマに取り組みます。4 年生までに授業や実験で身につけた知識と技術を総動員して取り組んでください。卒業研究では、高い技術力と研究能力、プレゼンテーション能力を養います。また、大学院へ進学する際の準備段階にもなります。社会人あるいは大学院生なるために必要な知識と技術などを研究を行いながらしっかり身につけるようにしてください。

（主コースのみを生命科学系とした学生）

人間基礎力科目、人間形成科目、英語科目、専門基礎科目に関しては、進級条件を考慮し不足のないよう余裕を持って履修してください。3 年生から 4 年生への進級条件では学系共通科目およびコース専門科目に進級条件があり、実験も履修することになっています。条件をよく確認し履修を行ってください。また副コースに関しても他学系の副コースの履修条件をよく確認し不足のないようにしてください。

（副コースのみを生命科学系とした学生）

進級条件は、主コースを選択している学系によりますので主コースのある学系の進級条件を確認して不足のないように履修を行ってください。副コースでとらなくてはいけない科目群から、卒業までに必要な学系共通科目および副コースの科目の単位を修得するようにしてください。

5. 大学院進学を考えている学生

大学院に進学するということは、研究開発ができると言うことだけでなく、将来企業や社会のリーダーとなって活躍できる道に進むということを意味します。このために、研究開発ができる能力だけでなく、人格的にも優れたものを持つ必要があります。大学院では学部生時代に学んだ事をさらに深く追求すると同時にそれをきっかけとして幅広い知識を吸収するように心がけてください。このために、国内や国際的な学会へも参加し広く社会を知ることなどが要求されます。

知識を吸収し工学者としても人間としても成長するためには自分の意志をしっかりと持ち、勇気を持って新しい道を切り開かなくてはなりません。1 年次にすでに大学院進学を目指している学生もいることと思いますが、4 年生になって進学を決める学生もいると思います。進学希望を持った時点からしっかりと自分の将来を見つめ計画を立ててください。大学院に進学する際にこの科目は履修しておかなくてはいけないというものはありません。すでに述べたように、幅広い知識が必要になりますので自分のペースに合わせバランスよく科目を履修するようにしてください。

また修士課程の上には博士課程も準備されています。さらに研究能力を深めて行こうという意志のある学生は博士課程への進学も視野に入れ、真に社会のリーダーとなれるように努力してください。

生命科学系　進級条件表
（2018年度カリキュラム）

RB

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。

2年次→3年次

進級条件を設けない。

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

1．下記の単位を修得のこと。

区分			単位数	卒業要件
人間基礎力			1	2
人間形成			11	14
英語			6	8
理工学総論			2	2
実験・レポート			2	4
数学			4	6
物理学・化学・生物学・自然科学			4	7
情報			2	3
副コースが自学系の場合	学系共通科目	自学系	23	34
	コース専門科目	主コース	18	26
		副コース	5	8
副コースが他学系の場合	学系共通科目	自学系	19	28
	コース専門科目	主コース	18	26
	指定科目群	副コース	9	14

2．上の条件に加えて、以下に定める科目を修得のこと。

①「生命科学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」および所属する主コースの実験科目を全て修得すること。

②「生命科学演習Ⅰ・Ⅱ」および所属する主コースの「ゼミⅠ・Ⅱ」を全て修得すること。

平成30(2018)年度カリキュラム 生命科学系 授業科目配当表

RB

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態			単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
						講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
専門教育科目	学系共通科目	生物	生命科学概論	選択		○			2	1	1	1				
			細胞の科学	選択		○			2	1			1	1		30500
			生物学	選択		○			2	2	1	1				30500
			生化学	選択		○			2	2	1	1				30500
			分子生物学	選択		○			2	2			1	1		30500
			微生物学	選択		○			2	2	1	1				30500
			遺伝子工学	選択		○			2	3	1	1				30500
		化学	基礎有機化学	選択		○			2	1			1	1		30300
			有機化学Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				30300
			生命物理化学	選択		○			2	2	1	1				30300
			有機化学Ⅱ	選択		○			2	2			1	1		30300
			機器分析	選択		○			2	2			1	1		
			生体高分子科学Ⅰ	選択		○			2	3	1	1				30300
		情報・その他	生物統計学	選択		○			2	2	1	1				
			生物情報科学I	選択		○			2	2			1	1		
		地学	生態地球科学	選択		○			2	3	1	1				30700
			地学実験	選択				○	2	3	1	1	1	1	集中講義 通年科目	30800
		職業	生命科学キャリア開発ゼミ	選択			○		2	3			1	1		
		ゼミ	生命科学演習Ⅰ	選択			○		2	2	1	1				
			生命科学演習Ⅱ	選択			○		2	2			1	1		
		実験	生命科学基礎実験Ⅰ	選択				○	2	2	2	2				30600
			生命科学基礎実験Ⅱ	選択				○	2	2			2	2		30600
	B1 分子生命科学コース専門科目	生命科学	生体組織学	選択	B1	○			2	2	1	1				30500
			免疫学	選択	B1	○			2	2			1	1		30500
			細胞生物学	選択	B1	○			2	3	1	1				
			生物情報科学II	選択	B1	○			2	3	1	1				
			薬理学	選択	B1	○			2	3			1	1		30500
			再生医科学	選択	B1	○			2	3			1	1		
		物質科学	生体材料学	選択	B1	○			2	3	1	1				
			生体高分子科学Ⅱ	選択	B1	○			2	3			1	1		
			創薬化学	選択	B1	○			2	3			1	1		
		ゼミ	分子生命科学ゼミⅠ	選択	B1		○		2	3	1	1				
			分子生命科学ゼミⅡ	選択	B1		○		2	3			1	1		
		実験	分子生命科学実験Ⅰ	選択	B1			○	2	3	2	2				30600
			分子生命科学実験Ⅱ	選択	B1			○	2	3			2	2		30600
	B2 環境生命工学コース専門科目	環境生命	環境生物学	選択	B2	○			2	2	1	1				30500
			植物生理学	選択	B2	○			2	2			1	1		30500
			植物育種工学	選択	B2	○			2	3	1	1				
			環境計測学	選択	B2	○			2	3	1	1				
			生物プロセス工学	選択	B2	○			2	3			1	1		30500
			生命環境工学	選択	B2	○			2	3			1	1		30500
		食品工学	食品製造学I	選択	B2	○			2	2			1	1		
			食品化学	選択	B2	○			2	3	1	1				
			食品製造学II	選択	B2	○			2	3			1	1		
		ゼミ	環境生命工学ゼミⅠ	選択	B2		○		2	3	1	1				
			環境生命工学ゼミⅡ	選択	B2		○		2	3			1	1		
		実験	環境生命工学実験Ⅰ	選択	B2			○	2	3	2	2				30600
			環境生命工学実験Ⅱ	選択	B2			○	2	3			2	2		30600

※ コースコードは、B1:分子生命科学コース・B2:環境生命工学コース。　　※ 教職コードは、「教職課程」参照。

平成30(2018)年度カリキュラム 生命科学系　授業科目配当表

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態			単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
						講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
専門教育科目	コース専門科目	卒研等	生命科学特別卒業研究	選択				○	3	3			3	3	3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			生命科学卒業研究Ⅰ	必修				○	③	4	3	3				
			生命科学卒業研究Ⅱ	必修				○	③	4			3	3		
		キャリアデザイン	生命科学インターンシップA	選択				○	2	2	2	2			随時	
			生命科学インターンシップB	選択				○	2	2			2	2	随時	
			生命科学インターンシップC	選択				○	2	3	2	2			随時	
			生命科学インターンシップD	選択				○	2	3			2	2	随時	
			生命科学インターンシップE	選択				○	2	4	2	2			随時	
			生命科学インターンシップF	選択				○	2	4			2	2	随時	
			情報と職業入門	選択		○			1	全	1					
			情報と職業	選択		○			2	全			1	1		60600

※ 単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

※ コースコードは、B1:分子生命科学コース・B2:環境生命工学コース。　　※ 教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

情報システムデザイン学系

(Division of Information Systems and Design)

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

教育目標

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

カリキュラムマップ

情報システムデザイン学系履修モデル

授業科目配当表

【情報システムデザイン学系】

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

(人材の養成に関する目的)

情報システムデザイン学系では、複雑化・高度化する社会環境において、高度な情報システム技術を駆使できると同時に、幅広い視野から自律的に分析・判断・企画・行動できる実践力とコミュニケーション能力を備えた次世代型スペシャリストを養成します。

(教育研究上の目的)

情報システムデザイン学系では、情報、ネットワーク、コンピュータに関わる知識・技術を基盤として人間、社会システムから、文化、芸術、アミューズメントにいたるまで文理複合的視点から幅広い分野の教育研究を行います。

教育目標

情報システムデザイン学系の「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に基づき、以下の教育目標を掲げます。

情報技術の基盤科目そして日本語、芸術、文化、社会に至る科目群を学系共通科目として設置し、実践的な教育を行います。さらに各コースには、より高度な専門科目を配置し「未来の情報学」を担う人材を育成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー・DP）

理工学部の情報システムデザイン学系は、学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し (※)、以下の能力を身につけた者に対して、学士 (情報学) の学位を授与します。

※標準修業年限は 4年

⑴ 情報学の分野における専門的知識や技術を身につけること。(DP1)

⑵ 自立した発想のもとに情報学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力を有し、解決に向けた取り組みの内容と結果を口頭及び論文により表現できること。(DP2)

⑶ 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。(DP3)

⑷ 倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。(DP4)

⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。(DP5)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

理工学部の情報システムデザイン学系は、４つの専門コースを設け、情報科学、情報システム、知能情報、プログラミング、情報社会、情報メディアなどの専門知識と理工学の基礎を身につけることおよび人間性・社会性・国際性を育むことを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コースを情報システムデザイン

学系から１つ、副コースを情報システムデザイン学系または他学系から１つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

⑴（DP1 に対応）情報システムデザイン学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目（教職科目を含む）を配置します。

⑵（DP2 に対応）課題・問題解決能力の育成を目的とした演習、実験・実習科目を学年進行に従い体系的に配置し、卒業研究論文の執筆と口頭発表に至るまでの一貫した指導を行います。

⑶（DP3 に対応）理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に１年次に配置します。さらに、情報科学、情報工学、プログラミング、芸術などの実習科目等を１年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

⑷（DP4 に対応）科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

⑸（DP5 に対応）国際的なコミュニケーション力を身につけるために、必修の英語科目に加え、他言語科目や国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

＜コンピュータソフトウェアコース D1 ＞

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、コンピュータソフトウェアコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

①（DP1 に対応）ソフトウェアの理論的基礎となるコンピュータ科学の科目とともに、幅広い用途のソフトウェアの開発と利活用に必要な技術を修得するための科目を配置します。

②（DP2 に対応）ソフトウェアシステムの設計・構築に関する理論と応用を体系的かつ実践的に学べるよう、基礎、専門、応用に至る科目を段階的かつ体系的に配置します。

③（DP3 に対応）現代工学の基本であるハードウェアとソフトウェアを、横断的に学べる科目を配置します。

＜情報システムコース D2 ＞

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、情報システムコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

①（DP1 に対応）情報システムの構造と構成要素に関する技術を理解するための科目と、それらを組み合わせて設計・運用に活かす科目を、体系的に配置します。

②（DP2 に対応）ソフトウェア技術の枠を超えて、コンピュータ科学の理論と基礎から、様々な現象の情報化と活用技術まで学べるよう、基礎、専門、応用に至る科目を段階的かつ体系的に配置します。

③（DP3 に対応）現代工学の基本であるハードウェアとソフトウェアを、横断的に学べる科目を配置します。

＜知能情報デザインコース D3 ＞

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、知能情報デザインコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

① (DP1 に対応) 人間の脳と心に関する知識を理解するための科目と、それらを組み合わせて人間中心のシステム設計・運用に係わる科目を、体系的に配置します。

② (DP2 に対応) 統計学・データ分析に関する科目と、人工知能に関するコンピュータソフトウェアの設計・開発について総合的に学べる科目を、体系的に配置します。

③ (DP3 に対応) 倫理的側面から人工知能、ネットワークシステムと人間・社会の関連を横断的に理解できるよう、文科系・理科系の統合的なコミュニケーション能力を育成する科目を配置します。

＜アミューズメントデザインコース D4 ＞

情報システムデザイン学系における教育課程編成の方針を踏まえ、アミューズメントデザインコースは、以下に特に配慮して教育課程を編成し、実施します。

① (DP1 に対応) 技術・芸術・社会の相互性を意識化し、情報を編集・デザインし表現するための先端的技術と、国際化や IT に対応するコミュニケーション能力を身につけることを目標に、文理複合型のカリキュラム構成とします。

② (DP2 に対応) 実習を含むアート＆デザイン、情報社会、情報メディア科目を、1 年次から体系的に配置します。

③ (DP3 に対応) 理工学と芸術との関連を見出すための科目を 1 年次に配置し、段階的に新規分野への学習を深められるような指導を行います。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー・AP)

情報システムデザイン学系は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに従い、情報に関して統合的に研究する「情報学」の専門家を育成します。この理念に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

⑴ 求める学生像

◆コンピュータシステムと人間・社会の関連に強く興味を持ち、自分の考えを論理的に構築し、効果的に表現する能力を持った学生

◆実験・実習科目などの実践を通して、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、解決する意欲のある学生

◆情報技術と人間･社会･文化に関する幅広い知識の理解を通して、思考力･判断力･表現力･倫理観を修得し、情報学の専門家を目指す学生

⑵ 入学前に学習しておくことが望ましい内容

◆理工学部のアドミッションポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B を十分理解しておくこと。

加えて、理科・国語（物理・化学・現代文のいずれか 1 つ以上）についても十分な基礎学力を身に付けておくこと。また芸術、社会についても学習しておくことが望ましい。

理工学部 理工学科 情報システムデザイン学系（ D1 コンピュータソフトウェアコース ）
平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	プログラミング					オブジェクト指向プログラミング	2			ＣＧプログラミング	2						
						ゲームプログラミングⅠ	2	ゲームプログラミングⅡ	2	人工知能プログラミングⅡ	2						
								応用Javaプログラミング	2								
								人工知能プログラミングⅠ	2								
	情報システム									画像工学	2	ソフトウェア工学	2				
												空間情報処理	2				
	情報メディア					コンピュータグラフィックス	2			数理とデザイン	2						
	情報科学					統計学Ⅰ	2	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	2			数理最適化入門	2				
								統計学Ⅱ	2								
	情報システム	コンピュータ基礎Ⅰ	2	コンピュータ基礎Ⅱ	2					オペレーティングシステム	2	センサ工学	2				
										コンピュータ設計学	2						
	情報科学			基礎確率論	2	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2	情報・符号理論	2								
				情報数学Ⅰ	2	情報数学Ⅱ	2										
						数値解析学	2										
	教職課程	※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	総合情報											情報システムデザイン特別卒業研究	3	情報システムデザイン卒業研究Ⅰ	3	情報システムデザイン卒業研究Ⅱ	3
												情報学ゼミ	2				
DP3	専門基礎	※詳細は基礎教育センターのカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報システムデザイン概論	2														
	プログラミング	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	3	コンピュータプログラミングⅡ・同演習	3												
	情報システム					電気基礎	2	論理回路	2	データベース	2						
DP4	人間形成	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	総合情報			情報学基礎実習	2	情報システム演習Ⅰ	2	情報システム演習Ⅱ	2	情報システム総合演習	2						
	キャリアデザイン					キャリア開発論	1			情報産業論	2						
						基本情報処理技術	2			地域貢献論	2						
		情報と職業入門	1			情報システムデザインインターンシップＡ	2	情報システムデザインインターンシップＢ	2	情報システムデザインインターンシップＣ	2	情報システムデザインインターンシップＤ	2	情報システムデザインインターンシップＥ	2	情報システムデザインインターンシップＦ	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2												
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部 理工学科 情報システムデザイン学系（ D2 情報システムコース ）
平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	プログラミング							応用Javaプログラミング	2	UNIXプログラミング	2						
	情報システム	コンピュータ基礎Ⅰ	2	コンピュータ基礎Ⅱ	2			組み込みシステム	2	画像工学	2	センサ工学	2				
										オペレーティングシステム	2						
										コンピュータ設計学	2						
	情報科学			情報数学Ⅰ	2	動的システム	2	統計学Ⅱ	2	計算量と暗号	2						
				基礎確率論	2	統計学Ⅰ	2	情報・符号理論	2	多変量解析	2						
						数値解析学	2			情報セキュリティ概論	2						
						アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2										
						情報数学Ⅱ	2										
	教職課程	※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	総合情報											情報学ゼミ	2	情報システムデザイン卒業研究Ⅰ	3	情報システムデザイン卒業研究Ⅱ	3
												情報システムデザイン特別卒業研究	3				
DP3	専門基礎	※詳細は基礎教育センターのカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報システムデザイン概論	2														
	プログラミング	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	3	コンピュータプログラミングⅡ・同演習	3												
	情報システム					電気基礎	2	論理回路	2	データベース	2						
DP4	人間形成	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	総合情報			情報学基礎実習	2	情報システム演習Ⅰ	2	情報システム演習Ⅱ	2	情報システム総合演習	2						
	キャリアデザイン					キャリア開発論	1			情報産業論	2						
						基本情報処理技術	2			地域貢献論	2						
		情報と職業入門	1			情報システムデザインインターンシップA	2	情報システムデザインインターンシップB	2	情報システムデザインインターンシップC	2	情報システムデザインインターンシップD	2	情報システムデザインインターンシップE	2	情報システムデザインインターンシップF	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2												
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部 理工学科 情報システムデザイン学系（ D3 知能情報デザインコース ）
平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	アート&デザイン							五感とデザイン	2	インタラクティブデザイン論	2						
	コミュニケーション・心理					社会心理学	2			人間計測法	2	非言語コミュニケーション論	2				
										性格心理学	2						
	プログラミング					データ表現とプログラミング	2	人工知能プログラミングⅠ	2	人工知能プログラミングⅡ	2						
										ＣＧプログラミング	2						
	情報メディア					コンピュータグラフィックス	2										
	情報科学			情報数学Ⅰ	2	統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2	多変量解析	2						
				基礎確率論	2	数値解析学	2	情報・符号理論	2								
						アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2										
						情報数学Ⅱ	2										
	情報社会											社会調査論	2				
	教職課程	※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	総合情報											情報学ゼミ	2	情報システムデザイン卒業研究Ⅰ	3	情報システムデザイン卒業研究Ⅱ	3
												情報システムデザイン特別卒業研究	3				
DP3	専門基礎	※詳細は基礎教育センターのカリキュラムマップを参照															
	アート&デザイン	造形デザイン入門	2	デザイン学	2	音楽とデザイン	2	美術・芸術学	2			イメージ創造学	2				
						空間演出デザイン論	2	色彩論	2								
	キャリアデザイン	情報システムデザイン概論	2														
	コミュニケーション・心理					コミュニケーション科学	2			言語と表現	2						
	プログラミング	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	3	コンピュータプログラミングⅡ・同演習	3												
	情報メディア							情報ネットワーク概論	2								
	情報社会					現代マスコミ論	2			業務システム設計論	2						
DP4	人間形成	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	総合情報			情報学基礎実習	2	情報デザイン演習Ⅰ	2	情報デザイン演習Ⅱ	2	情報デザイン総合演習	2						
						知能情報デザイン概論	2										
	キャリアデザイン					キャリア開発論	1			情報産業論	2						
						基本情報処理技術	2			地域貢献論	2						
		情報と職業入門	1			情報システムデザインインターンシップＡ	2	情報システムデザインインターンシップＢ	2	情報システムデザインインターンシップＣ	2	情報システムデザインインターンシップＤ	2	情報システムデザインインターンシップＥ	2	情報システムデザインインターンシップＦ	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2												
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部 理工学科 情報システムデザイン学系（ D4 アミューズメントデザインコース ）
平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	アート&デザイン					五感とデザイン	2	音楽構造論	2	数理とデザイン	2						
								映像制作論	2								
	情報科学									多変量解析	2	感性工学	2				
	プログラミング					ゲームプログラミングⅠ	2	ゲームプログラミングⅡ	2	CGプログラミング	2						
	情報メディア					コンピュータグラフィックス	2	出版メディア論	2	インタラクティブデザイン論	2	教育システムデザイン論	2				
								メディア×カルチャー	2								
	情報社会									遊戯文化論	2	アミューズメント産業論	2				
	教職課程	※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	総合情報											情報学ゼミ	2	情報システムデザイン卒業研究Ⅰ	3	情報システムデザイン卒業研究Ⅱ	3
												情報システムデザイン特別卒業研究	3				
DP3	専門基礎	※詳細は基礎教育センターのカリキュラムマップを参照															
	アート&デザイン	造形デザイン入門	2	デザイン学	2	音楽とデザイン	2	美術・芸術学	2			イメージ創造学	2				
						空間演出デザイン論	2	色彩論	2								
	キャリアデザイン	情報システムデザイン概論	2														
	コミュニケーション・心理					コミュニケーション科学	2			言語と表現	2						
	プログラミング	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	3	コンピュータプログラミングⅡ・同演習	3												
DP4	人間形成	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン					キャリア開発論	1			情報産業論	2						
						基本情報処理技術	2			地域貢献論	2						
		情報と職業入門	1			情報システムデザインインターンシップA	2	情報システムデザインインターンシップB	2	情報システムデザインインターンシップC	2	情報システムデザインインターンシップD	2	情報システムデザインインターンシップE	2	情報システムデザインインターンシップF	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2												
	総合情報			情報学基礎実習	2	情報デザイン演習Ⅰ	2	情報デザイン演習Ⅱ	2	情報デザイン総合演習	2						
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

情報システムデザイン学系履修モデル

1. 学系の学習・教育目標

朝起きてから寝るまで、そして寝ている間さえ、私たちの暮らしを支える情報技術による社会環境は休むことなく動き続けています。しかし情報技術は便利で快適な生活を与えてくれる反面、新たな格差や社会問題、犯罪を引き起こす要因ともなってきました。科学技術だけでは解決できない複雑な問題を抱えた社会、それが私たちの暮らしている情報社会なのです。

そこで東京電機大学では創立 100 周年となる 2007 年に、情報科学科、情報システム工学科、電子情報工学科、情報社会学科の 4 学科から情報に関わる領域を選択・融合し、「情報学」を昨今の世情に合わせて多面的、総合的に学べる複合型教育組織として数度の改組を行い、現在では「コンピュータソフトウェアコース」「情報システムコース」「アミューズメントデザインコース」「知能情報デザインコース」の 4 つのコースから成る「情報システムデザイン学系」として教育に取り組んでいます。近年注目されている、IoT、人工知能、VR をはじめとする最先端の情報技術に対応した新しい 4 コース体制で教育・研究を行なっていきます。

「情報学」とは、情報に関する広範な研究領域を総合的に扱う学問です。情報学は対象とする領域が広く、情報、ネットワーク、コンピュータ、現代社会、表現創造などさまざまな異なった分野から構成されています。本学系では主･副コース選択制カリキュラムとマルチメディア教育環境を有効に活用し、学生達が本当に学びたいことを見つけ出し、それに必要な専門知識と実践力を身に付け情報学の専門家として活躍できるようになることを目標に、理学系、工学系、情報系、人文社会系、芸術系の専門家を擁するバラエティ豊かな教授陣が一致協力し教育を進めていきます。

2. 学系のカリキュラムの概要

本学系では、「情報科学」「情報システム」「情報メディア」「情報社会」「コミュニケーション・心理」「アート & デザイン」の各分野についてそれぞれの専門のコース科目として学んでいきます。これら専門科目の内容に加え、問題解決力、実践力を養う科目として、「プログラミング」と「総合情報」を設け、ゼミ、実習など、さまざまな授業形態で立体的、総合的に学んでいきます。

また社会で活躍する能力を養うため「キャリアデザイン」科目も配置されています。

3. 各コースの概要

●コンピュータソフトウェアコース（D 1）

数理、プログラミング、グラフィックス、人工知能の各分野から専門技術を修得し、コンピュータソフトウェアの設計・開発に関する総合的な実習を通じて、コンピュータソフトウェアの高度化・知能化に挑戦します。本コースでは、ビジネスからアミューズメント産業まで、あらゆる分野に現れるソフトウェアの開発に必要な技術を習得することができます。１年次から３年次までに、Ｃ言語やＪａｖａ、ゲームプログラミング、人工知能プログラミング、コンピュータグラフィックスなど、プログラミングに関する幅広い講義、

演習が用意されており、プログラミングの様々な技法を実践的に学ぶことができます。

●情報システムコース（D 2）

我々の身近な生活なども含め、あらゆる現象をコンピュータで扱い生活へ還元するためには、現象を情報化して適切な処理を施し、現象の操作を行う必要があります。昨今では、データ処理の最適化、機器の小型化、コンピュータネットワークなどの技術的な進歩が著しく、IoT などの用語にあるように、社会現象としての影響を無視できなくなってきています。

情報システムコースでは、情報化と現象の操作を中心とし、周辺領域の様々な分野について統合的に学習を行う科目が配置されています。情報の処理に必要な他コースと合わせて学習することにより、高い次元で学習内容を社会へ還元できる情報技術者・研究開発者の育成を目指します。

●知能情報デザインコース（D 3）

急速に進む情報技術や生命科学などの発展により 2045 年頃には人工知能が人間の能力を超越する技術的な特異点（シンギュラリティ）が生じ、社会システムに大変革が起こるとの予測も現実味を帯びてきました。高度な人工知能を実現するにはどうすればよいか、また高度な人工知能を社会の中でどのように活かしていけばよいのかを考えることは私たちにとって重要な課題となっていくでしょう。知能情報デザインコースでは、人間の脳と心の働きとその特性について理解し、統計学・データ分析に基づく問題発見・解決のための情報分析能力と、人間の知能を代替しうる能力を持ったシステムの設計、評価を行うための知識と能力を養うことを通じ、現在の社会でも、大変革が起こった後の社会でも活躍できる新世代の情報技術者・研究開発者の育成を目指します。

●アミューズメントデザインコース（D 4）

新しい情報社会の潮流のなかで、「遊び」や「人を楽しませること」に関わるテクノロジー、芸術、文化について学び、感動力・発想力をあわせ持つ表現創造型情報技術者の養成を目指します。現在から未来、さらにその先に向けた情報デザインには、「どうやって」作るのかという技術習得を超え「何を、何のために」作るのかという、作るモノの存在と、その価値観をも、ゼロから創り出す提案力が求められます。美術、映像、ＣＧ、電子出版、音楽制作等の分野を、それぞれ「技術」「文化」「表現」「コミュニケーション」等の視点から多角的に捉えることを重視、人間の感性と情報技術の高度なコミュニケーションメディアであるアミューズメントを総合的に科学することで、番組制作者やＣＧ・ウェブデザイナー、ゲームクリエイター等、コンテンツの中身そのものをトータルデザインし、社会に向けて情報発信することを目標とします。

4.　1年次の履修計画の立て方・学習の進め方

1 年生から 2 年生に進級するのに必要な単位数は 30 ですが卒業に必要な単位数は 124 となっていますので、最低でも 40 単位、できれば、45 単位を目標に履修してください。「情

報学」で取り扱う学問領域には、理学、工学はもちろん、人文科学や社会科学、芸術なども含まれます。従って学系の専門科目はもちろんですが、共通教育科目もできる限り履習する必要があります。英語や自然科学（数学、物理、化学）の基礎科目、人間形成科目についてはできるだけ１年次に履習するようにしましょう。１年終了時には、主コース、副コースの選択を行います。１年次に履習できる学系専門科目はまだ少ししかありませんが、自分が第一希望とするコースに関係する科目はもちろん、他コースに関連のある科目についても積極的に履習し、情報学の全体像を捉えるとともに、基礎学力を充実させることを目指してください。

5. 情報システムデザイン学系で学ぶカリキュラムの構成

情報システムデザイン学系では、情報学に関する広範な領域を体系的に学んでいけるように、各コースにつながる基礎的分野を、「システム系基礎科目」「デザイン系基礎科目」「情報系基礎科目」に分け学習していきます。さらに学年進行とともにコース共通専門科目、コース専門科目を学び、各自の専門性を高めていけるようなカリキュラム構成となっています。

6. 情報システムデザイン学系のカリキュラム構成概念図

系統別基礎科目

システム系基礎科目、デザイン系基礎科目、情報系基礎科目で構成されています。主として、１～２年次に配当される科目です。基礎科目の総合的な演習を行う科目が情報学基礎実習です。これらは希望するコースに関係なく全員が身につけなければならない基礎的な内容を含む科目となっており、コース選択に役立つ内容となっています。情報系基礎科目には、情報数学Ⅰ、コンピュータ基礎Ⅰ・Ⅱ、基礎確率論、コンピュータプログラミングⅠ・同演習などが含まれます。システム系基礎科目は、主としてコンピュータソフトウェアコース、情報システムコースの学生はすべて履修してもらい、アミューズメントデザインコース、知能情報デザインコースの学生は科目の一部を履修してもらいます。

システム系基礎科目には、電気基礎、論理回路、情報ネットワーク概論、アルゴリズムとデータ構造、情報符号理論、コンピュータプログラミングⅡ・同演習などが含まれます。システム系基礎科目の総合的な演習を行う科目が情報システム演習Ⅰ・Ⅱです。

デザイン系基礎科目は、主としてアミューズメントデザインコース、知能情報デザインコースの学生すべてに履修してもらい、コンピュータソフトウェアコース、情報システムコースの学生は科目の一部を履修してもらいます。デザイン系基礎科目には、造形デザイン入門、言語と表現、美術・芸術学、現代マスコミ論、色彩論、社会心理学などが含まれます。デザイン系基礎科目の総合的な演習を行う科目が情報社会学実習Ⅰ・Ⅱです。

2、3 年次からは、複数のコースが共同で設置している複合コース専門科目、各自が主コース、副コースとして選んだコースのコース専門科目を学びます。コース専門科目の総合的な演習を行う科目として各コースの名称がついた実習（または実験）科目があります。

キャリア科目

キャリア科目は、共通教育や専門分野とは別に将来社会人として活躍していくために必要

な知識や心構えを身につけることを目的とする科目です。進級条件としては、情報システムデザイン概論だけが指定されていますが、他のキャリア科目についてもできるだけ履修し、自分を高める努力を積み重ねてください。

7.（2～4年次生向け）主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

●コンピュータソフトウェアコース

本コースでは、以下の６つの分野に取り組みます。

【数理】グラフィックス処理、プログラミング、人工知能のための数理を学ぶ。

【プログラミング】Ｃ言語、Ｃ＋＋言語、Ｊａｖａ言語を習得し、オブジェクト指向プログラミングとゲームプログラミングに取り組む。

【マルチメディア】図形、グラフィックス、サウンドなどのコンピュータ処理技術を実践的に学ぶ。

【人工知能】人間と同じ感覚でつきあえるような究極のソフトウェアづくりを目指す。

【ソフトウェア開発】ソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク、情報と経営の各方面を幅広く学び、視野の広いＩＴエンジニアを目指す。

【総合】人工知能、ＣＧ、ゲーム、画像処理、図形処理を題材に、大規模なソフトウェアの開発を行う。

これらの分野を総合的に学習することにより、ソフトウェア開発者としての実践的な技術と幅広い教養を身に付けることができます。

●情報システムコース

情報システムコースでは、コンピュータと現実の現象とをつなぐ様々な技術について学習します。これらを学習するために、数学や物理学の深い知識を必要とするものも含まれていますので、１年次の基礎的な科目からしっかりと学習して積み上げを行なってください。根本的な原理原則を学ぶための「情報科学」と、情報を処理するための技術である「プログラミング」、これらを体系的に扱い、現実世界へと実装するための「情報システム」の分野を中心に据え、自分の将来設計に合わせて履修する科目を選択してください。

●アミューズメントデザインコース

私たちの生活を取り巻く多くの「モノ」は例外なく人によって「デザイン」されたものです。人の役に立ち、人を楽しませる「モノ」をデザインするということは、仕組みを支える技術と、その技術を形にするアート感覚とをバランス良く身に付けることで初めて可能となります。１年次から２年次にかけては学部共通科目と学系共通科目を学ぶことで、「モノ」の仕組みの基本的な知識と表現の技法を習得します。２年次以降、コース専門科目では「仕組み」に関する知識と技術に加え、様々な文化的な側面についても学びます。

本コースでは、感性工学、メディア学、芸術表現学、映像情報美学、現代音楽の専門家がそれぞれの専門分野の核となる科目を開講していますので、感性工学、出版メディア論、遊戯文化論、映像制作論、空間音響デザイン論の中から少なくとも２科目、可能であればすべての科目を履修することで幅広い視野を身に付けることが望まれます。また、工学

から表現学に至る幅広い分野に関する実習を通して多眼的、実践的な問題解決力を身に付けることを望みます。

●知能情報デザインコース

知能情報デザインコースでは、人間の脳と心の働きとその特性について理解し、統計学・データ分析に基づく問題発見・解決のための情報分析能力と、人間の知能を代替しうる能力を持ったシステムの設計、評価を行うための知識と能力を養います。人間の脳と心の働きとその特性を理解するには、「コミュニケーション・心理」分野の科目を学びます。統計学・データ分析に基づく問題発見・解決のための情報分析能力については「情報科学」分野の統計や多変量解析に関する科目を学びます。人工知能システムの設計、評価を行うためには、「情報システム」「情報メディア」分野のコンピュータシステムの原理とシステム構築に関する科目、人工知能プログラミングⅠ・Ⅱを中心とした「プログラミング」分野の科目を学んでいきます。

8. （2 ～ 4 年次生向け）副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

●コンピュータソフトウェアコース

本コースでは、数理、プログラミング、マルチメディア、人工知能、ソフトウェア開発、総合の６つの分野に分類して履修を推奨する科目を提示していますので、科目選択の際の目安としてください。本コースを副コースとして選択する場合、どの科目を履修しても進級条件を満たすことは可能です。

●情報システムコース

情報システムコースでは、コンピュータと現実の現象とをつなぐ様々な技術について学習します。これらを学習するために、数学や物理学の深い知識を必要とするものも含まれていますので、１年次の基礎的な科目からしっかりと学習して積み上げを行なってください。どの科目を履修しても進級条件を満たすことは可能ですが、主コースで選んだ分野と関連のある科目を履修した上で、知見を広げるために興味のある科目を選択してください。

●アミューズメントデザインコース

本コースでは、感性工学、メディア学、芸術表現学、映像情報美学、現代音楽の専門家がそれぞれの専門分野の核となる科目を開講しています。どの科目を履修しても進級条件を満たすことは可能ですが、出来るだけ感性工学、出版メディア論、遊戯文化論、映像制作論、空間音響デザイン論を含め、各自の主コースとの関連のある科目を中心に履修することを推奨します。

●知能情報デザインコース

知能情報デザインコースを副コースとする学生には、人間の脳と心の働きとその特性についてと、統計学・データ分析に基づく問題発見・解決のための情報分析能力、人工知能システムの概念を与える科目を学ぶことを推奨します。学系共通科目では、基礎的な数学（情報数学、確率）、統計学、多変量解析などについて学んでもらいます。コース専門科目としては、人工知能システム概念を与える科目として知能情報デザイン概論を学んだ上で、コミュニケーション、心理に関する科目を学んでください。

情報システムデザイン学系　進級条件表　RD
（2018年度カリキュラム）

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。

2年次→3年次

進級条件を設けない。

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

1．下記の単位を修得のこと。

区分			単位数	卒業要件
人間基礎力			1	2
人間形成			11	14
英語			6	8
理工学総論			2	2
実験・レポート			2	4
数学			4	6
物理学・化学・生物学・自然科学			4	7
情報			2	3
副コースが自学系の場合	学系共通科目	自学系	23	34
	コース専門科目	主コース	18	26
		副コース	5	8
副コースが他学系の場合	学系共通科目	自学系	19	28
	コース専門科目	主コース	18	26
	指定科目群	副コース	9	14

2．上記に加え、所属する主コースの下記科目を全て履修し、それらの単位を全て修得すること。
（※下記の記載のコース専門科目は、主コース科目として単位修得すること。）

コンピュータソフトウェアコース	情報システムコース	知能情報デザインコース	アミューズメントデザインコース
情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ概論	情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ概論	情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ概論	情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ概論
情報学基礎実習	情報学基礎実習	情報学基礎実習	情報学基礎実習
コンピュータプログラミングⅠ・同演習	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	コンピュータプログラミングⅠ・同演習
情報学ゼミ	情報学ゼミ	情報学ゼミ	情報学ゼミ
情報システム演習Ⅰ	情報システム演習Ⅰ	情報デザイン演習Ⅰ	情報デザイン演習Ⅰ
情報システム演習Ⅱ	情報システム演習Ⅱ	情報デザイン演習Ⅱ	情報デザイン演習Ⅱ
情報システム総合演習	情報システム総合演習	情報デザイン総合演習	情報デザイン総合演習

平成30(2018)年度カリキュラム 情報システムデザイン学系　授業科目配当表

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態			単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
						講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
専門教育科目	学系共通科目	アート＆デザイン	造形デザイン入門	選択			○		2	1	1	1				60500
			デザイン学	選択		○			2	1			1	1		
			音楽とデザイン	選択		○			2	2	1	1				
			美術・芸術学	選択		○			2	2			1	1		
			色彩論	選択		○			2	2			1	1		
			空間演出デザイン論	選択		○			2	2	1	1				
			イメージ創造学	選択		○			2	3			1	1		
		キャリアデザイン	情報システムデザイン概論	必修		○			②	1	1	1				60100
			情報産業論	選択		○			2	3	1	1				
			キャリア開発論	選択		○			1	2	1					
			基本情報処理技術	選択		○			2	2	1	1				60200
			地域貢献論	選択		○			2	3	1	1				
		コミュニケーション・心理	コミュニケーション科学	選択		○			2	2	1	1				
			言語と表現	選択		○			2	3	1	1				
		情報科学	情報数学Ⅰ	選択		○			2	1			1	1		20500
			基礎確率論	選択		○			2	1			1	1		20400
			数値解析学	選択		○			2	2	1	1				60200
			アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	選択		○			2	2	1	1				20500
			情報・符号理論	選択		○			2	2			1	1		20100
			情報数学Ⅱ	選択		○			2	2	1	1				
		情報システム	コンピュータ基礎Ⅰ	選択		○			2	1	1	1				20500
			コンピュータ基礎Ⅱ	選択		○			2	1				2		20500
			電気基礎	選択		○			2	2	1	1				
			論理回路	選択		○			2	2			1	1		
			オペレーティングシステム	選択		○			2	3	1	1				60300
			コンピュータ設計学	選択		○			2	3	1	1				60200
			データベース	選択		○			2	3	1	1				60300
			センサ工学	選択		○			2	3			1	1		
		情報社会	現代マスコミ論	選択		○			2	2	1	1				
			業務システム設計論	選択		○			2	3	1	1				
		情報メディア	情報ネットワーク概論	選択		○			2	2			1	1		60400
		総合情報	情報学基礎実習	必修				○	②	1			2	2		
		プログラミング	コンピュータプログラミングⅠ・同演習	必修		○	○		③	1	2	2				60200
			コンピュータプログラミングⅡ・同演習	選択		○	○		3	1			2	2		60300
	D1 コンピュータソフトウェアコース専門科目	情報科学	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	選択	D1/D2,D3		○		2	2			1	1		60300
			数理最適化入門	選択	D1/D2,D3	○			2	3			1	1		60300
			計算量と暗号	選択	D2,D1	○			2	3	1	1				
			統計学Ⅰ	選択	D1,D2,D3	○			2	2	1	1				20400
			統計学Ⅱ	選択	D1,D2,D3	○			2	2			1	1		20400
		情報システム	画像工学	選択	D1,D2	○			2	3	1	1				60500
			空間情報処理	選択	D1	○			2	3			1	1		
			ソフトウェア工学	選択	D1/D2,D3	○			2	3			1	1		
		情報メディア	コンピュータグラフィックス	選択	D1,D3,D4	○			2	2	1	1				20500
			数理とデザイン	選択	D1,D4/D3	○			2	3	1	1				20200
		総合情報	情報システム演習Ⅰ	選択	D1,D2		○		2	2	1	1				
			情報システム演習Ⅱ	選択	D1,D2		○		2	2			1	1		
			情報システム総合演習	選択	D1,D2		○		2	3	1	1				
		プログラミング	データ表現とプログラミング	選択	D3,D1	○			2	2	1	1				
			ゲームプログラミングⅠ	選択	D1,D4		○		2	2	1	1				
			ゲームプログラミングⅡ	選択	D1,D4		○		2	2			1	1		
			オブジェクト指向プログラミング	選択	D1,D2,D3		○		2	2	1	1				60300
			応用Javaプログラミング	選択	D1,D2,D3		○		2	2			1	1		60400
			人工知能プログラミングⅠ	選択	D1,D3/D2		○		2	2			1	1		
			CGプログラミング	選択	D1,D3,D4		○		2	3	1	1				60500
			人工知能プログラミングⅡ	選択	D1,D3/D2		○		2	3	1	1				

※ コースコードは、D1:コンピュータソフトウェアコース ・ D2:情報システムコース・D3:知能情報デザインコース・D4:アミューズメントデザインコース。
※ 教職コードは、「教職課程」参照。

平成30(2018)年度カリキュラム 情報システムデザイン学系 授業科目配当表

RD

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態			単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
						講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
専門教育科目	D2 情報システムコース専門科目	情報科学	動的システム	選択	D2	○			2	2	1	1				20300
			計算量と暗号	選択	D2,D1	○			2	3	1	1				
			多変量解析	選択	D2,D3,D4	○			2	3	1	1				20400
			情報セキュリティ概論	選択	D2/D1	○			2	3	1	1				
			統計学I	選択	D2,D1,D3	○			2	2	1	1				20400
			統計学II	選択	D2,D1,D3	○			2	2			1	1		20400
		情報システム	組み込みシステム	選択	D2	○			2	2			1	1		60500
			画像工学	選択	D2,D1	○			2	3	1	1				60500
			ソフトウェア工学	選択	D1/D2,D3	○			2	3			1	1		
		総合情報	情報システム演習I	選択	D2,D1		○		2	2	1	1				
			情報システム演習II	選択	D2,D1		○		2	2			1	1		
			情報システム総合演習	選択	D2,D1		○		2	3	1	1				
		プログラミング	オブジェクト指向プログラミング	選択	D1,D2,D3		○		2	2	1	1				60300
			応用Javaプログラミング	選択	D2,D1,D3		○		2	2			1	1		60400
			UNIXプログラミング	選択	D2		○		2	3	1	1				
	D3 知能情報デザインコース専門科目	アート＆デザイン	五感とデザイン	選択	D3,D4	○			2	2			1	1		
			インタラクティブデザイン論	選択	D3,D4	○			2	3	1	1				60500
		コミュニケーション・心理	社会心理学	選択	D3	○			2	2	1	1				
			非言語コミュニケーション論	選択	D3	○			2	3			1	1		
			人間計測法	選択	D3,D4	○			2	3	1	1				
			性格心理学	選択	D3	○			2	3	1	1				
		情報科学	統計学I	選択	D3,D1,D2	○			2	2	1	1				20400
			統計学II	選択	D3,D1,D2	○			2	2			1	1		20400
			多変量解析	選択	D3,D2,D4	○			2	3	1	1				20400
		情報社会	社会調査論	選択	D3	○			2	3			1	1		
		情報メディア	コンピュータグラフィックス	選択	D3,D1,D4	○			2	2	1	1				20500
		情報システム	ソフトウェア工学	選択	D1/D2,D3	○			2	3			1	1		
		総合情報	情報デザイン演習I	選択	D3,D4		○		2	2	1	1				
			情報デザイン演習II	選択	D3,D4		○		2	2			1	1		
			知能情報デザイン概論	選択	D3	○			2	2	1	1				
			情報デザイン総合演習	選択	D3,D4		○		2	3	1	1				
		プログラミング	データ表現とプログラミング	選択	D3,D1	○			2	2	1	1				
			オブジェクト指向プログラミング	選択	D1,D2,D3		○		2	2	1	1				60300
			応用Javaプログラミング	選択	D2,D1,D3		○		2	2			1	1		60400
			人工知能プログラミングI	選択	D3,D1/D2		○		2	2			1	1		
			人工知能プログラミングII	選択	D3,D1/D2		○		2	3	1	1				
			CGプログラミング	選択	D3,D1,D4		○		2	3	1	1				60500
	D4 アミューズメントデザインコース専門科目	アート＆デザイン	五感とデザイン	選択	D4,D3	○			2	2	1	1				
			音楽構造論	選択	D4	○			2	2			1	1		
			映像制作論	選択	D4	○			2	2			1	1		
			数理とデザイン	選択	D4,D1/D3	○			2	3	1	1				20200
		コミュニケーション・心理	人間計測法	選択	D3,D4	○			2	3	1	1				
		情報科学	多変量解析	選択	D3,D2,D4	○			2	3	1	1				20400
			感性工学	選択	D4	○			2	2			1	1		
		情報社会	アミューズメント産業論	選択	D4	○			2	3			1	1		
			遊戯文化論	選択	D4	○			2	3	1	1				
		情報メディア	コンピュータグラフィックス	選択	D4,D1,D3	○			2	2	1	1				20500
			出版メディア論	選択	D4	○			2	2			1	1		
			メディア×カルチャー	選択	D4	○			2	2			1	1		
			インタラクティブデザイン論	選択	D4,D3	○			2	3	1	1				60500
			教育システムデザイン論	選択	D4	○			2	3			1	1		
		総合情報	情報デザイン演習I	選択	D4,D3		○		2	2	1	1				
			情報デザイン演習II	選択	D4,D3		○		2	2			1	1		
			情報デザイン総合演習	選択	D4,D3		○		2	3	1	1				
		プログラミング	ゲームプログラミングI	選択	D4,D1		○		2	2	1	1				
			ゲームプログラミングII	選択	D4,D1		○		2	2			1	1		
			CGプログラミング	選択	D4,D1,D3		○		2	3	1	1				60500

※ コースコードは、D1:コンピュータソフトウェアコース ・ D2:情報システムコース・D3:知能情報デザインコース・D4:アミューズメントデザインコース。
※ 教職コードは、「教職課程」参照。

平成30(2018)年度カリキュラム 情報システムデザイン学系　授業科目配当表

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態			単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
						講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
専門教育科目	コース専門科目	卒研等	情報学ゼミ	必修			○		②	3			1	1		
			情報システムデザイン特別卒業研究	選択				○	3	3			3	3		
			情報システムデザイン卒業研究Ⅰ	必修				○	③	4	③	③				
			情報システムデザイン卒業研究Ⅱ	必修				○	③	4			③	③		
		キャリアデザイン	情報システムデザインインターンシップA	選択				○	2	2	2	2				
			情報システムデザインインターンシップB	選択				○	2	2			2	2		
			情報システムデザインインターンシップC	選択				○	2	3	2	2				
			情報システムデザインインターンシップD	選択				○	2	3			2	2		
			情報システムデザインインターンシップE	選択				○	2	4	2	2				
			情報システムデザインインターンシップF	選択				○	2	4			2	2		
			情報と職業入門	選択		○			1	全	1					
			情報と職業	選択		○			2	全			1	1		60600

※　単位数が○で囲まれている科目は必修科目。
※　コースコードが〝/〟で区切られている科目は、コースへの関連の強さ度合を表す。
　　例：D1,D4/D2 → D1とD4コースの方がD2コースに比べて関連が強い。

※ コースコードは、D1:コンピュータソフトウェアコース ・ D2:情報システムコース・D3:知能情報デザインコース・D4:アミューズメントデザインコース。
※ 教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

機械工学系

(Division of Mechanical Engineering)

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

教育目標

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

カリキュラムマップ

機械工学系履修モデル

授業科目配当表

【機械工学系】

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

(人材の養成に関する目的)

機械工学系では、機械工学の基礎となる四つの力学を身につけることに重点を置き、さらに、新しいものづくり技術に興味を抱き、環境にも配慮できる教養を備え、基幹産業を支える気概のある技術者の育成を目指します。

(教育研究上の目的)

我が国の産業の発展は、自動車、鉄道、航空機、造船など機械工学の発展とともにあったと言っても過言ではありません。産業分野の拡大と多様化に伴って、教育、研究分野も変化を遂げつつありますが、機械工学が直面する難題にも粘り強く取り組むことのできる技術者の育成を目指します。

教育目標

機械工学系では、二年次までは機械工学の基礎科目を徹底的に学び、機械工学分野の基礎を構成している各種力学の十分な定着を第１の目的とします。さらに、二つの専門コースを設け、機械工学を掘り下げると同時に、関連分野の基礎知識や技術の修得を目指します。

実学尊重の校是を具現化する、設計製図、実験実習では、定着させた知識を技術者（機械屋）として活用できるよう、個々あるいは少人数グループに個別の課題を与える教育を実践します。学士課程のまとめとなる卒業研究では、計画を立案すること、実行することにより問題解決能力を積極的に養います。

学位授与の方針（ディプロマポリシー・DP）

理工学部の機械工学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

※標準修業年限は ４年

⑴ 機械工学分野の技術者に必要とされる専門的な知識や技術を身につけること。(DP1)

⑵ 自立した発想のもとに機械工学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的な知識と技術を習得した上で、その課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。(DP2)

⑶ 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。(DP3)

⑷ 倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。(DP4)

⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。(DP5)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

理工学部の機械工学系は、理工学の基礎知識に加えて、２つの専門コースを設け、設計・解

析ならびに加工・制御の専門知識を身につけることを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。

教育課程の実施に際して、主コースを機械工学系から１つ、副コースを機械工学系または他学系から１つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

⑴（DP1 に対応）機械工学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目（教職科目を含む）を配置します。

⑵（DP2 に対応）課題発見能力を養うとともに、その課題を論理的に説明する力、解決する力を育成するために、実験、実習、演習、ゼミを体系的に配置します。

⑶（DP3 に対応）理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に１年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

⑷（DP4 に対応）科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

⑸（DP5 に対応）国際的なコミュニケーション力を身につけるために、必修の英語科目に加え、他言語科目や国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

＜設計・解析コース M1 ＞

（DP1 に対応）機械工学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、設計・解析コースでは、機械設計、機械の製作に必要となる（力学的な）解析などの機械工学分野で活躍できる技術者を育成するために、専門に特化した科目を配置し、実施します。

＜加工・制御コース M2 ＞

（DP1 に対応）機械工学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、加工・制御コースでは、機械加工、機械を精密に運動させるための制御などの機械工学分野で活躍できる技術者を育成するために、専門に特化した科目を配置し、実施します。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー・AP）

機械工学系は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに従い、基礎学力を身につけ、新しいものづくり技術に興味を抱き、粘り強く問題の解決に取り組むことのできる「機械工学のフロントランナー」を育成します。この理念に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

⑴ 求める学生像

◆機械工学分野に強く興味を持ち、機械工学系で修得した知識と技術を活かして社会の発展に貢献し、活躍することを望む学生

◆機械工学系における学びのハイライトとなる実験・実習、設計製図、卒業研究を通じて、多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見し、困難に直面しても粘り強く問題を解決

しようとする強い意欲を持つ学生

◆コース専門科目及び学部・学系共通科目を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、幅広い教養に基づいた深い洞察力と広い視野を備えた技術者を目指す学生

⑵ 入学前に学習しておくことが望ましい内容

◆理工学部のアドミッションポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを十分理解しており、さらに数学Ⅲの範囲も学習しておくこと。理科については、物理基礎および物理の範囲を学習しておくこと。

理工学部　理工学科　機械工学系（ M1 設計・解析コース ）
平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	基礎力学			工業力学Ⅰ・演習	3	工業力学Ⅱ・演習	3	機械力学Ⅰ・演習	3								
						材料力学Ⅰ・演習	3										
						流体力学Ⅰ・演習	3										
								伝熱工学・演習	3			機械基礎演習	2				
	設計・加工					機械要素Ⅰ・演習	3										
						機械加工学Ⅰ・演習	3										
	熱・流体							流体力学Ⅱ・演習	3	工業熱力学・演習	3	熱流体機械	2				
	要素・材料							機械要素Ⅱ	2			CAD/CAE	2				
						機械材料	2					塑性力学	2				
	電気・情報					数値解析A	2	数値解析B	2	基礎電気工学	2	基礎電子工学	2				
	教職課程	※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	実験・実習					機械設計製図Ⅰ	1	機械設計製図Ⅱ	1	機械設計製図Ⅲ	1	機械設計製図Ⅳ	1				
						機械工学実験・実習Ⅰ	1	機械工学実験・実習Ⅱ	1	機械工学実験・実習Ⅲ	1	機械工学実験・実習Ⅳ	1				
	ゼミ					機械総合演習Ⅰ	2	機械総合演習Ⅱ	2	機械総合演習Ⅲ	2	機械総合演習Ⅳ	2				
												機械システムゼミⅠ	2	機械システムゼミⅡ	2		
	卒研											機械工学特別卒業研究	3	機械工学卒業研究Ⅰ	3	機械工学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は基礎教育センターのカリキュラムマップを参照															
	導入・概論	機械工学入門	2	基礎製図	2												
		機械工学概論Ⅰ	2					機械工学概論Ⅱ	2			特別講義	2				
DP4	人間形成	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門	1			機械工学インターンシップA	2	機械工学インターンシップB	2	機械工学インターンシップC	2	機械工学インターンシップD	2	機械工学インターンシップE	2	機械工学インターンシップF	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2					職業指導(通年)			4				
												工業技術概論	2				
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　機械工学系（ M2 加工・制御コース ）
平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	基礎力学			工業力学Ⅰ・演習	3	工業力学Ⅱ・演習	3	機械力学Ⅰ・演習	3								
						材料力学Ⅰ・演習	3										
						流体力学Ⅰ・演習	3										
								伝熱工学・演習	3			機械基礎演習	2				
	設計・加工					機械要素Ⅰ・演習	3										
						機械加工学Ⅰ・演習	3										
	材力・機力							材料力学Ⅱ・演習	3	機械力学Ⅱ・演習	3	機械応用力学	2				
	加工・制御									機械加工学Ⅱ	2	ロボット工学	2				
								計測工学	2	制御工学	2						
	電気・情報					数値解析Ａ	2	数値解析Ｂ	2	基礎電気工学	2	基礎電子工学	2				
	教職課程	※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	実験・実習					機械設計製図Ⅰ	1	機械設計製図Ⅱ	1	機械設計製図Ⅲ	1	機械設計製図Ⅳ	1				
						機械工学実験・実習Ⅰ	1	機械工学実験・実習Ⅱ	1	機械工学実験・実習Ⅲ	1	機械工学実験・実習Ⅳ	1				
	ゼミ					機械総合演習Ⅰ	2	機械総合演習Ⅱ	2	機械総合演習Ⅲ	2	機械総合演習Ⅳ	2				
												機械システムゼミⅠ	2	機械システムゼミⅡ	2		
	卒研											機械工学特別卒業研究	3	機械工学卒業研究Ⅰ	3	機械工学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は基礎教育センターのカリキュラムマップを参照															
	導入・概論	機械工学入門	2	基礎製図	2												
		機械工学概論Ⅰ	2					機械工学概論Ⅱ	2			特別講義	2				
DP4	人間形成	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門	1			機械工学インターンシップA	2	機械工学インターンシップB	2	機械工学インターンシップC	2	機械工学インターンシップD	2	機械工学インターンシップE	2	機械工学インターンシップF	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2					職業指導(通年)			4				
												工業技術概論	2				
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

機械工学系履修モデル

1. 機械工学の必要性

目覚ましい工学技術の発展に伴い、産業分野は拡大し多岐にわたっていますが、依然として機械工学を基礎とした自動車、鉄道、航空機、船舶などの分野は我が国の産業の根幹をなしています。一方で、工学が利益や利便性だけを追求して使われ始めると、環境汚染をはじめとして自然や人間に有害となることは歴史の教えるところであります。従って、自然や社会、人間にとってやさしいものづくりには、技術の追求はもとより、自然や社会に与える影響を広く深く考えることが必要となります。昨今は個性の尊重が重視されていますが、複雑な機械は一人では製造できませんし運転することもできないのです。機械システムを構築する工学技術者には、手を動かし試行錯誤を繰り返した経験に加え、広く知識を習得し、関係する方々とコミュニケーションを取りながら問題を解決する能力が求められます。社会で活躍する技術者にとって求められる「必要な資質」とは何かということを常に思案しながら、学生生活を送ってください。

2. 学系の学習・教育目標

私たちの身の回りには多くの機械システムが溢れていますが、これらのひとつひとつは、要素部品から構成されています。機械設計技術者は、要素部品の性質を把握し、各部品を物理法則や経験則に基づいて構成することにより必要な機構や機能を作り上げてきました。しかしいま、機械設計は危機に瀕しています。小型化、高機能化を目指した結果、機械部品がユニット化され、ブラックボックスになってしまったのです。例えば自動車の変速は、以前はギヤで行っていましたが、現在はＣＶＴ（無段変速機）と呼ばれるボックスになってしまいました。かつての技術者は機構を理解しているからよいのです。しかしみなさんは知らないのです。そこで「機械工学系」では、まず機械工学の基礎となる四力（材料力学、熱力学、流体力学、機械力学）をしっかりと学ぶとともに、これらを機械システムへ応用（解析、改良）できるよう進めて行きます。一方で、技術の追求だけに偏ることのない豊かな人間性を有する技術者の育成も目標としています。新しい技術を理解することは厳しい道のりですが「ローマは一日にして成らず」ということを学習の糧としてください。

3. 学系カリキュラムの概要

本学系は、根幹となる機械工学の基礎専門科目に加えて、数値解析、制御工学、基礎電気工学、ロボット工学などの専門応用科目といった、ものづくりに直結した分野で構成されています。カリキュラムはコース毎に基礎分野の習得を行えるよう編成しており、さらに「技術者・研究者」に求められる応用力を養えるよう、大学院進学を視野に入れ、自動車産業をはじめとする機械産業全般について、幅広い分野の工学技術を学べるよう工夫しています。

授業科目は専門科目（専門基礎科目群、学系共通科目群、コース専門科目群）、人間基礎力科目群、人間形成科目群、英語科目群の４つに大別されます。学生は、１年次に配当されている機械工学概論、機械工学入門、基礎製図、工業力学Ⅰ・演習の専門科目を履修することに

より、コースを選択する前に各コースで学ぶ専門的な内容を把握することができます。進級・卒業条件は選択した主・副コースによって異なりますので、詳細は表を参照してください。

機械工学系では学生自らが履修計画を立て、予習・復習も含めて積極的に授業に参加し、卒業に向けしっかりと学習していく姿勢が求められます。講義で学んだ事を実験や演習を通じて確実に自分のものとするように努力するとともに、分からなかった部分をそのままにしないでオフィスアワーを活用して教員へ質問し、科目の教育補助を担当している大学院生への質問・相談、基礎学力への不安は学習サポートセンターを活用し勉学に励んでください。

なお、本学埼玉鳩山キャンパスには、大学院理工学研究科が設置されており、毎年多くの先輩が大学院に進学しています。大学院では、学部と異なり、社会で即戦力として活躍できる研究、開発、設計が行える総合的な能力のある高度技術者を育成しています。ぜひ大学院への進学も視野に入れて勉学に努めてください。

4. 各コースの概要

⑴ 設計・解析コース

設計・解析コースは、「機械設計、機械の製作に必要となる力学的な解析」を学ぶコースです。様々な力学的解析技術を用いて、機械を設計することができる力を養い、設計や解析のフロントランナーとして活躍できるよう、機械工学分野における想像力や応用力を身に付けます。

⑵ 加工・制御コース

加工・制御コースは、「機械加工、機械を精密に運動させるための制御」を学ぶコースです。最先端の加工技術や機械を精密に動かす制御技術によって、ものづくり現場に対応できるエキスパートとして活躍できるよう、機械工学分野における実践力や応用力を身に付けます。

5. 1年次の履修計画の立て方・学習の進め方

学習の進め方は高校時代と違い、まず、「将来は何になりたいのか」、「どのような技術の専門家になりたいのか」を考え、目標をもって大学生活を送ることが必要です。2年次へ進級するための最低条件は「1年次に配当されている科目から 30 単位以上取得すること」となっています。4年次で卒業研究に専念するには、3年次終了までに 120 単位以上の取得を目指すのが望ましく、各年次で年間 40 単位を目安として取得するよう努めてください。

1年次に配当されている「機械工学概論Ⅰ」は必ず1年次に履修するようにしてください。各コースがどのような特徴を持っているかを分かりやすく説明します。卒業後、どのような職につき、大学の講義が社会でどのように役立つかを知ることができ、今後、自ら学んでいく専門科目の位置づけや重要性を学ぶことができます。この科目は、主コース・副コースを選択する際に重要な科目になります。

「機械工学入門」、「基礎製図」、「工業力学Ⅰ・演習」は、いずれも各専門分野の基礎を扱う科目です。科目配置図やオンラインシラバスを良く見てしっかりと4年間の履修計画を立て、必要な科目は積極的に履修するようにしてください。

6. 主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

⑴ 学系共通科目の履修（２コース共通）

本学系の目標である「基礎となる力学を身に付け，新しいものづくりに興味を抱く」技術者の育成は２年次から本格的にスタートし、多くの専門科目が配当されています。学系内における各専門科目と２つのコースとの関連は、科目配置図を参照してください。専門科目の中で、どちらのコースの学生にとっても、機械工学を志すのに学ぶべき科目は学系共通科目として位置づけられています。コース専門科目とのつながりと進級・卒業に必要な単位数を良く考えて、履修科目を決めてください。

⑵ 設計・解析コースを主コースとした学生の履修計画

(a)2 ～ 3 年次

２年次になると、主コース・副コースを決定します。学系で開講される科目は全て、学系共通科目かコース専門科目に分類されています。授業科目配当表にある科目群の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれどこのコースに属する科目であるかを示すコースコードがふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画を立ててください。３年次から４年次への進級条件として、１年次から３年次に配当されている科目から最低 104 単位、４年次の就職、研究活動を十分に行うには 120 単位以上を取得していることが求められます。

また、最低条件である 104 単位の中には、少なくとも、人間基礎力科目（1 単位）、人間形成科目（11 単位）、英語科目（6 単位）、理工学総論（2 単位）、実験・レポート（2 単位）、数学（4 単位）、物理学・化学・生物学・自然科学（4 単位）、情報（2 単位）、学系共通科目（23 単位）、コース専門科目の中からコースコードＭ１（Ｍ１：設計・解析コース）のついた科目（18 単位）と副コース（自学系）として選んだコースコードをもつ科目（５単位）が含まれていなければ４年次への進級はできません。副コースを他学系から選ぶ場合は、進級条件が異なりますので、自学系の進級条件表をよく確認してください。

コース専門科目の中でも、「流体力学Ⅱ・演習」、「工業熱力学・演習」、「機械要素Ⅱ」は、これらの入門にあたる「流体力学Ⅰ・演習」、「伝熱工学・演習」、「機械要素Ⅰ」などを理解せずして単位取得はままならないため、履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、余裕のある計画を立てるようにしてください。これらの単位数は進級のための最低ラインであり、バランス良く科目を履修し、２年次終了時には 80 単位以上を取得するように心がけてください。

設計・解析コースでは、２年次で「機械工学実験・実習Ⅰ」「機械工学実験・実習Ⅱ」「機械設計製図Ⅰ」「機械設計製図Ⅱ」「機械総合演習Ⅰ」「機械総合演習Ⅱ」、３年次で「機械工学実験・実習Ⅲ」「機械工学実験・実習Ⅳ」「機械設計製図Ⅲ」「機械設計製図Ⅳ」「機械総合演習Ⅲ」「機械総合演習Ⅳ」「機械基礎演習」の単位は必ず取得してください。コース専門科目に関しては、授業科目配当表にある設計・解析コース専門科目を中心に履修することを薦めます。特に、２年次の「機械工学概論Ⅱ」、３年次の「特別講義」は、卒業研究、ならびに就職に関係した科目であるため履修することを強く薦めます。

(b)4 年次

4年次は、それまでに学んだ知識を活かし卒業研究に取り組みます。研究室に所属し、それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成させます。卒業研究では、学んだ知識を活かすだけではなく、未解決の問題への取り組み（調査や解決方法の考案）といった技術者としての姿勢・素養を身に付けます。また、進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、卒業に必要な単位を十二分に余裕を持って取得するようにしてください。4年次には「機械システムゼミⅡ」を履修しなければなりません。

⑶ 加工・制御コースを主コースとした学生の履修計画

(a)2 ～ 3 年次

2年次になると、主コース・副コースを決定します。学系で開講される科目は全て、学系共通科目かコース専門科目に分類されています。授業科目配当表にある科目群の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれどこのコースに属する科目であるかを示すコースコードがふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画を立ててください。3年次から4年次への進級条件として、1年次から3年次に配当されている科目から最低 104 単位、4年次の就職、研究活動を十分に行うには 120 単位以上を取得していることが求められます。

また、最低条件である 104 単位の中には、少なくとも、人間基礎力科目（1 単位）、人間形成科目（11 単位）、英語科目（6 単位）、理工学総論（2 単位）、実験･レポート（2 単位）、数学（4 単位）、物理学・化学・生物学・自然科学（4 単位）、情報（2 単位）、学系共通科目（23 単位）、コース専門科目の中からコースコード M2（M2：加工･制御コース）のついた科目（18 単位）と副コース（自学系）として選んだコースコードをもつ科目（5単位）が含まれていなければ4年次への進級はできません。副コースを他学系から選ぶ場合は、進級条件が異なりますので、自学系の進級条件表をよく確認してください。

コース専門科目の中でも、「材料力学Ⅱ･演習」、「機械力学Ⅱ･演習」、「機械加工学Ⅱ」は、これらの入門にあたる「材料力学Ⅰ・演習」、「機械力学・演習」、「機械加工学Ⅰ」などを理解せずして単位取得はままならないため、履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、余裕のある計画を立てるようにしてください。これらの単位数は進級のための最低ラインであり、バランス良く科目を履修し、2年次終了時には 80 単位以上を取得するように心がけてください。

加工・制御コースでは、2年次で「機械工学実験・実習Ⅰ」「機械工学実験・実習Ⅱ」「機械設計製図Ⅰ」「機械設計製図Ⅱ」「機械総合演習Ⅰ」「機械総合演習Ⅱ」、3年次で「機械工学実験・実習Ⅲ」「機械工学実験・実習Ⅳ」「機械設計製図Ⅲ」「機械設計製図Ⅳ」「機械総合演習Ⅲ」「機械総合演習Ⅳ」「機械基礎演習」の単位は必ず取得してください。コース専門科目に関しては、授業科目配当表にある加工・制御コース専門科目を中心に履修することを薦めます。特に、2年次の「機械工学概論Ⅱ」、3年次の「特別講義」は、卒業研究、ならびに就職に関係した科目であるため履修することを強く薦めます。

(b)4 年次

４年次は、それまでに学んだ知識を活かし卒業研究に取り組みます。研究室に所属し、それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成させます。卒業研究では、学んだ知識を活かすだけではなく、未解決の問題への取り組み（調査や解決方法の考案）といった技術者としての姿勢・素養を身に付けます。また、進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、卒業に必要な単位を十二分に余裕を持って取得するようにしてください。４年次には「機械システムゼミⅡ」を履修しなければなりません。

7. 副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方（2 コース共通）

進級条件は、主コースとした学系により異なります。主コースの学系の進級条件をよく確認して不足のないように余裕をもって単位を取得してください。

8. その他の注意事項

⑴ 大学院進学について

学部では学べなかったより専門性の高い知識や技術を修得するために毎年多くの学生が大学院に進学しています。大学院に進学するには、大学院入学試験を受けて合格することが必要ですが、成績の優秀な学生には、推薦入学の受験資格を認めています。進学希望する学生は、早い段階から、受講する科目に十分時間をかけて学ぶように心がけてください。なお大学院を修了して社会に出ると、企業から即戦力として活躍することが期待され、学部卒業者よりもより専門性の高い新技術の研究、開発に関する職種、部門に就職することができます。また、大学院在籍中に、海外の大学院へ留学し異文化を学び、その中で活躍する能力を身に付けることもできます。

機械工学分野の大学院は、開発を中心とした高級技術者や研究者、高等専門学校や大学等の教育に従事する教育研究者を目指す登竜門でもあります。大学院在籍中に奨学金を得て、海外の研究機関に留学し、研究と文化の違いを学ぶ大学院生もいます。

⑵ 就職について

これまで卒業した東京電機大学の先輩方の努力により、毎年多くの求人をいただいています。最近は自由応募で就職する学生も増えてきていますが、先輩のいる企業に学校推薦で就職することにより環境や仕事の情報など貴重なアドバイスを受けられるメリットがあります。いずれの場合も、大学名のみで採用に至ることはありません。近年の就職活動をみると、基礎学力はあって当たり前として、最も重視されることは、コミュニケーション能力や主体性、協調性です。これらは、実験や実習などのグループ学習での積極的な活動を通じて培われ、日常生活における習慣や取り組みによって蓄積されるものです。また、英語検定や各種資格を受験し、取得することも重要視されています。是非、高いモチベーションを持って学生生活を送ってください。

なお、技術開発に携わる職種の就職においては、本人の技術に対する取り組み方、卒業研究の進め方とその内容、大学での学業に対する取り組み方などの積極性、責任感、

論理性を重視する場合がありますので、将来何をやりたいか目標を持って広く、深く勉学に励んでください。

機械工学系　進級条件表
（2018年度カリキュラム）

RM

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。

2年次→3年次

進級条件を設けない。

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

1．下記の単位を修得のこと。

区分			単位数	（卒業条件）
人間基礎力			1	2
人間形成			11	14
英語			6	8
理工学総論			2	2
実験・レポート			2	4
数学			4	6
物理学・化学・生物学・自然科学			4	7
情報			2	3
副コースが自学系の場合	学系共通科目	自学系	23	34
	コース専門科目	主コース	18	26
		副コース	5	8
副コースが他学系の場合	学系共通科目	自学系	19	28
	コース専門科目	主コース	18	26
	指定科目群	副コース	9	14

2．次の13科目を全て修得のこと。

機械工学実験・実習Ⅰ
機械工学実験・実習Ⅱ
機械工学実験・実習Ⅲ
機械工学実験・実習Ⅳ
機械設計製図Ⅰ
機械設計製図Ⅱ
機械設計製図Ⅲ
機械設計製図Ⅳ
機械総合演習Ⅰ
機械総合演習Ⅱ
機械総合演習Ⅲ
機械総合演習Ⅳ
機械基礎演習

平成30(2018)年度カリキュラム 機械工学系 授業科目配当表

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態			単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
						講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
専門教育科目	学系共通科目	基礎力学	工業力学Ⅰ・演習	選択		○	○		3	1			1.5	1.5		70100
			工業力学Ⅱ・演習	選択		○	○		3	2	1.5	1.5				70100
			材料力学Ⅰ・演習	選択		○	○		3	2	1.5	1.5				70100
			流体力学Ⅰ・演習	選択		○	○		3	2	1.5	1.5				70100
			機械力学Ⅰ・演習	選択		○	○		3	2			1.5	1.5		
			伝熱工学・演習	選択		○	○		3	2			1.5	1.5		
			機械基礎演習	必修		○	○		②	3			2			
		設計・加工	機械要素Ⅰ・演習	選択		○	○		3	2	1.5	1.5				70100
			機械加工学Ⅰ・演習	選択		○	○		3	2	1.5	1.5				70100
		導入・概論	機械工学入門	選択		○			2	1		2				
			基礎製図	選択		○	○		4	1			2	2		70100
			機械工学概論Ⅰ	選択		○			2	1	2					70100
			機械工学概論Ⅱ	選択		○			2	2			1	1		70100
			特別講義	選択		○			2	3	1	1				
		電気・情報	数値解析A	選択		○			2	2	1	1				
			数値解析B	選択		○			2	2			1	1		
			基礎電気工学	選択		○			2	3	1	1				
			基礎電子工学	選択		○			2	3			1	1		
		ゼミ	機械総合演習Ⅰ	必修		○	○		②	2	1	1				
			機械総合演習Ⅱ	必修		○	○		②	2			1	1		
			機械総合演習Ⅲ	必修		○	○		②	3	1	1				
			機械総合演習Ⅳ	必修		○	○		②	3			1	1		
専門教育科目	M1 設計・解析コース専門科目	熱・流体	流体力学Ⅱ・演習	選択	M1・M2	○	○		3	2			1.5	1.5		70100
			工業熱力学・演習	選択	M1・M2	○	○		3	3	1.5	1.5				70100
			熱流体機械	選択	M1	○			2	3			1	1		
		要素・材料	機械材料	選択	M1	○			2	2	1	1				
			機械要素Ⅱ	選択	M1・M2	○			2	2			1	1		70100
			塑性力学	選択	M1	○			2	3			1	1		
			CAD/CAE	選択	M1	○			2	3			1	1		
専門教育科目	M2 加工・制御コース専門科目	材力・機力	材料力学Ⅱ・演習	選択	M1・M2	○	○		3	2			1.5	1.5		70100
			機械力学Ⅱ・演習	選択	M1・M2	○	○		3	3	1.5	1.5				
			機械応用力学	選択	M2	○			2	3			1	1		
		加工・制御	計測工学	選択	M2	○			2	2			1	1		70100
			機械加工学Ⅱ	選択	M1・M2	○			2	2			1	1		
			制御工学	選択	M2	○			2	3	1	1				
			ロボット工学	選択	M2	○			2	3			1	1		
専門教育科目	コース専門科目	実験・実習	機械工学実験・実習Ⅰ	必修	M1・M2			○	①	2	1	1				70100
			機械工学実験・実習Ⅱ	必修	M1・M2			○	①	2			1	1		70100
			機械工学実験・実習Ⅲ	必修	M1・M2			○	①	3	1	1				70100
			機械工学実験・実習Ⅳ	必修	M1・M2			○	①	3			1	1		70100
			機械設計製図Ⅰ	必修	M1・M2			○	①	2	1	1				70100
			機械設計製図Ⅱ	必修	M1・M2			○	①	2			1	1		70100
			機械設計製図Ⅲ	必修	M1・M2			○	①	3	1	1				70100
			機械設計製図Ⅳ	必修	M1・M2			○	①	3			1	1		70100
		ゼミ	機械システムゼミⅠ	選択	M1・M2	○			2	3				2		
			機械システムゼミⅡ	必修	M1・M2	○			②	4	1	1				
		卒研	機械工学特別卒業研究	選択				○	3	3			3	3	3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			機械工学卒業研究Ⅰ	必修				○	③	4	3	3				
			機械工学卒業研究Ⅱ	必修				○	③	4			3	3		
		キャリア	機械工学インターンシップA	選択				○	2	2	2	2			随時	
			機械工学インターンシップB	選択				○	2	2			2	2	随時	
			機械工学インターンシップC	選択				○	2	3	2	2			随時	
			機械工学インターンシップD	選択				○	2	3			2	2	随時	
			機械工学インターンシップE	選択				○	2	4	2	2			随時	
			機械工学インターンシップF	選択				○	2	4			2	2	随時	
			情報と職業入門	選択		○			1	全	1					
			情報と職業	選択		○			2	全			1	1		60600
			工業技術概論	自由		○			2	3			1	1		70100
			職業指導	自由		○			4	3	1	1	1	1		70200

※ 単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

コースコードは、M1:設計・解析コース、M2:加工・制御コース。
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

電子工学系

(Division of Electronic Engineering)

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

教育目標

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

カリキュラムマップ

電子工学系履修モデル

授業科目配当表

【電子工学系】

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

(人材養成に関する目的)

電子工学系では、技術者として豊かな人間性と電気電子工学の知識と技術を有し、電子機器、医療機器、福祉機器、材料・デバイスなどの電子システムのものづくりを通して、未来の人間社会に貢献できる技術者を養成します。

(教育研究上の目的)

電子工学系では、電気電子工学を基礎として、社会のニーズに応じた新しいものづくりや、起こりうる社会問題に対して、人間や環境に配慮した解決方法を見いだす能力を、教育研究を通じて養います。

教育目標

電子工学系では、電気電子工学を学ぶとともに、人間の特性についても学ばせます。人間の特性を理解し、人間と共存することのできる電気電子システムの研究、開発、設計を通して人間社会に貢献できる豊かな人間性と、電子回路、電子制御、電子情報通信、電子材料、電子デバイスなどの、電気電子工学分野の素養と知識と技術を有する技術者の育成を目的にしています。

学位授与の方針（ディプロマポリシー・DP）

理工学部の電子工学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※）、以下の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

※標準修業年限は 4年

⑴ 電気電子工学分野の技術者に必要とされる専門的な知識や技術を身につけること。(DP1)

⑵ 自立した発想のもとに電気電子工学分野の解くべき課題を見つけ出す能力をもつとともに、専門的知識と技術を活用してその課題を解決するための実践力、コミュニケーション能力をもつこと。課題解決の過程や結果を適切に表現する能力を身につけること。(DP2)

⑶ 科学技術社会の永続的発展に寄与することができる理工学の幅広い基礎知識をもつこと。(DP3)

⑷ 倫理観のある科学技術者および人間性豊かな社会人として必要な素養を身につけること。(DP4)

⑸ グローバルな環境でコミュニケーションをとることができる基本的な語学力と広い教養を身につけること。(DP5)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP）

理工学部の電子工学系は、２つの専門コースを設け、電気・電子工学、人間医工学などの専門知識や技術の基礎を身につけることを目的に、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コースを電子工学系から１つ、副コースを電子工学系または他学系から１つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

⑴ (DP1 に対応) 電子工学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目 (教職科目を含む) を配置します。
⑵ (DP2 に対応) 課題・問題解決能力の育成を目的とした実験科目およびゼミ科目を、学年進行に従い体系的に配置します。
⑶ (DP3 に対応) 理工系の基礎知識を涵養するために、数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に 1 年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。
⑷ (DP4 に対応) 科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。
⑸ (DP5 に対応) 国際的なコミュニケーション力を身につけるために、必修の英語科目に加え、他言語科目や国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

＜電子情報コース E1 ＞

電子工学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、電子情報コースは、ハードウェアとソフトウェアの両分野で活躍できる人材の育成に重点をおき、以下の特色ある教育課程を編成します。

①（DP1 に対応）電気電子工学分野におけるハードウェアとソフトウェアの技術を養うため、それらに関係する専門科目を体系的に配置します。
②（DP1 に対応）ハードウェアとソフトウェア技術のそれぞれの特性の理解に必要な知識や思考力を育むため、それらに関係する専門科目を体系的に配置します。
③（DP2 に対応）電子情報工学に関する諸問題の解決に向けての研究手法や考察力を養うため、小グループによる実験およびゼミ科目を進級条件科目として配置します。

＜電子システムコース E2 ＞

電子工学系における教育課程編成・実施の方針を踏まえ、電子システムコースは、電子工学分野、システム工学の両分野で活躍できる人材の育成に重点をおき、以下の特色ある教育課程を編成します。

①（DP1 に対応）電子システム工学分野における電子工学とシステム工学の技術を養うため、それらに関係する専門科目を体系的に配置します。
②（DP1 に対応）電子工学とシステム工学の理解に必要な知識や思考力を育むため、それらに関係する専門科目を体系的に配置します。
③（DP2 に対応）電子システム工学に関する諸問題の解決に向けての研究手法や考察力を養うため、小グループによる実験を進級条件科目として配置します。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー・AP）

電子工学系は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに従い、高度な専門性と豊かな人間性を兼ね備えた「電気電子工学分野、ならびに生体医工学分野の高度専門技術者」を養

成します。この理念に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

⑴ 求める学生像

◆電気電子工学分野、ならびに生体医工学分野に強く興味を持ち、数学、物理、英語に対して高い能力、関心をもった学生

◆ものづくりを学ぶことを通して主体性を持って多様な人々と協働し、自ら課題を発見、解決しようとする意欲のある学生

◆講義、演習、実験・実習、課題・問題解決型の各科目を通し、思考力・判断力・表現力・倫理観を修得し、通信・情報、エネルギー・制御、材料・エレクトロニクスなどの電気電子工学分野、ならびに医療機器、人工臓器、再生医療、福祉機器などの生体医工学分野のより高度な専門知識を身につけることを目指す学生

⑵ 入学前に学習しておくことが望ましい内容

◆理工学部のアドミッションポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを十分に理解しており、さらに数学Ⅲの範囲も学習しておくことが望ましい。
加えて、物理基礎、物理は十分な基礎学力を身につけておくこと。電気電子工学分野の専門科目を学ぶために必要となる情報の科目や工業科等における電気・電子分野の科目に関する知識を身につけておくこと。

理工学部　理工学科　電子工学系（ E1 電子情報コース ）
平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	電子情報・電子システム工学共通	電気回路Ⅰ・演習	3	電気回路Ⅱ・演習	3	電子情報回路Ⅰ・演習	3	電子情報回路Ⅱ・演習	3	制御工学Ⅰ・演習	3	制御工学Ⅱ・演習	3				
		電子工学概論	2	電磁気学Ⅰ・演習	3	電磁気学Ⅱ・演習	3	過渡現象	2	信号処理工学A	2	信号処理工学B	2				
								電気電子計測工学	2	電子デバイス工学	2	人工臓器学	2				
								電子物理学	2			メカトロニクス	2				
	電子情報									ディジタル回路	2	通信工学	2	生体情報工学	2		
										応用プログラミング	2	応用数値解析	2				
	電子システム・生体医工学									医用電子工学	2						
	教職課程	※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	ゼミ							電子工学ゼミ	2	電子情報ゼミⅠ	2	電子情報ゼミⅡ	2				
	実験					基礎電子情報工学実験Ⅰ	2	基礎電子情報工学実験Ⅱ	2	電子情報工学実験Ⅰ	2	電子情報工学実験Ⅱ	2				
	卒業研究											電子工学特別卒業研究	3	電子工学卒業研究Ⅰ	3	電子工学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は基礎教育センターのカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎			生理学	2	工業数学Ⅰ・演習	3	工業数学Ⅱ・演習	3								
						コンピュータ工学Ⅰ	2	コンピュータ工学Ⅱ	2								
DP4	人間形成	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門	1			電子工学インターンシップA	2	電子工学インターンシップB	2	電子工学インターンシップC	2	電子工学インターンシップD	2	電子工学インターンシップE	2	電子工学インターンシップF	2
												電子工学特別講義	2				
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2	職業指導(通年)			4				
												工業技術概論	2				
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　電子工学系（ E2 電子システムコース ）
平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	電子情報・電子システム工学共通	電気回路Ⅰ・演習	3	電気回路Ⅱ・演習	3	電子情報回路Ⅰ・演習	3	電子情報回路Ⅱ・演習	3	制御工学Ⅰ・演習	3	制御工学Ⅱ・演習	3				
		電子工学概論	2	電磁気学Ⅰ・演習	3	電磁気学Ⅱ・演習	3	過渡現象	2	信号処理工学A	2	信号処理工学B	2				
								電気電子計測工学	2	電子デバイス工学	2	人工臓器学	2				
								電子物理学	2			メカトロニクス	2				
	電子システム・生体医工学									パワーエレクトロニクス	2	エネルギー変換工学	2	人間工学	2		
										医用電子工学	2	先端エレクトロニクス概論	2				
												材料学	2				
	教職課程	※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	ゼミ							電子工学ゼミ	2	電子システムゼミⅠ	2	電子システムゼミⅡ	2				
	実験					基礎電子システム工学実験Ⅰ	2	基礎電子システム工学実験Ⅱ	2	電子システム工学実験Ⅰ	2	電子システム工学実験Ⅱ	2				
	卒業研究											電子工学特別卒業研究	3	電子工学卒業研究Ⅰ	3	電子工学卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は基礎教育センターのカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎			生理学	2	工業数学Ⅰ・演習	3	工業数学Ⅱ・演習	3								
						コンピュータ工学Ⅰ	2	コンピュータ工学Ⅱ	2								
DP4	人間形成	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門	1			電子工学インターンシップA	2	電子工学インターンシップB	2	電子工学インターンシップC	2	電子工学インターンシップD	2	電子工学インターンシップE	2	電子工学インターンシップF	2
												電子工学特別講義	2				
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2			情報倫理	2	職業指導(通年)			4				
												工業技術概論	2				
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

電子工学系履修モデル

1. 電子工学の必要性

これまでの目覚ましい工学技術の発展は人々の生活様式からコミュニケーション方法までを大きく変えてきました。反面、工学技術は使用環境や使う人間のことを忘れてつくられ使われると、環境汚染をはじめとする自然や人間に有害となることも分かってきました。このため、自然、社会、人間にとってやさしいものづくりには、技術の追求に加え、人間や自然現象をより広く深く知ってこそよりよく役に立つ技術ができると考えられます。そもそも専門家が使う電子機器システムでさえ、設計者の想う通りに動かすには多くの工夫が必要です。今は、多くの電子機器システムは家庭内で使われるようになり、社会からはより多くの場面で安定して活用でき、さらに使用者の意の通りに、賢くふるまうことを求められています。このような電子機器システムをつくれる工学技術者には、手を動かし試行錯誤を繰り返した経験に加え、広く知識を取得し、活用できる問題解決能力が求められます。自ら社会で活躍する工学技術者にとって求められる「必要な資質」とは何かということを常に念頭におきながら、学生生活を送ってください。

2. 学系の学習・教育目標

私たちの周りには多くの電子機器システムが溢れていますが、これらひとつひとつは、要素部品からできています。電子機器システムの技術者は、それぞれの要素部品と部品間の関係、各部品のふるまいを物理法則や情報に関する理論にもとづき扱えることで必要な機能を作り上げていきます。また、多くの電子機器システムは人間が扱うことから、生体としての人間、人間と機械の相互関係を理解したものづくりの能力が必要です。人間の特性を理解し、その特性に合わせた電子機器システムを構築することで、システムが人間の技能や習熟度に適応することが望まれます。このような、電子機器主導型のシステムから、人間主導型のシステムへの転換は、我々の社会生活の全てに関わる大きな技術革新として位置づけられるでしょう。そこで「電子工学系」では、電気電子工学の基礎をしっかりと学ぶとともに、人間の特性を理解するための学問についても学びます。人間の特性を理解し、人間とうまく共存することのできる、交通機械、産業機械、家庭用電子機器、医療機器、生活支援機器、先端材料などのものをつくり、動かす技術の研究、開発、設計を通して人間社会に貢献できる、豊かな人間性と電気電子工学の知識および技術を有する技術者の育成を目的としています。

3. 学系カリキュラムの概要

本学系は、根幹となる電気電子工学や数学情報技術の基礎専門科目、そして電子情報通信、電子システム、電子デバイス、生体医工学、電子制御、メカトロニクスなどの専門応用科目といった、ものづくりに直結した分野で構成されています。カリキュラムはコース毎にこれら基礎分野の習得を行えるよう編成しており、さらには「技術者」に求められる応用力を養えるよう、大学院進学を視野に入れ、医療機器産業をはじめとする産業応用全般において、電気電子系の業界の幅広い分野の工学技術を学べるよう工夫しています。

授業科目は専門科目、理工学総論、実験・レポート、数学、物理学・化学・生物学・自然科学、情報、人間基礎力、人間形成、英語に区別されます。学生は、１年次に配当されている電子工学概論、電気回路、電磁気学、生理学等の専門科目を履修することにより、コースを選択する前に各コースで学ぶ専門的な内容を把握することができます。進級・卒業条件は選択した主・副コースによって異なりますので、詳細は表を参照してください。

電子工学系では学生自らが履修計画を立て、予習・復習も含め積極的に授業に参加し、卒業に向けしっかりと学習していく姿勢が求められます。講義で学んだ事を実験や演習を通じて確実に自分のものとするように努力するとともに、分からなかった部分をそのままにしないでオフィスアワーを活用して教員へ質問し、科目の教育補助を担当している大学院生への質問・相談、基礎学力への不安は学習支援センターを活用し勉学に励んでください。

なお、本学埼玉鳩山キャンパスには、大学院理工学研究科が設置されており、毎年多くの先輩が大学院に進学しています。大学院では、学部と異なり、社会で即戦力として活躍できる研究、開発、設計が行える総合的な能力のある高度技術者を育成しています。ぜひ大学院への進学も視野に入れて勉学に努めてください。

4. 各コースの概要

⑴ 電子情報コース

電子情報コースでは、電気電子工学のハードウェアとソフトウェアの技術に関し特色ある電子工学と情報工学について、「信号処理工学」、「通信工学」、「ディジタル回路」、「応用プログラミング」などの専門科目を体系的に学ぶことで、ものづくりに応用展開できる技術を学びます。人間の生活を支える情報通信機器や福祉機器、生体の特性を理解するための生体信号計測や情報処理技術などは、電気電子工学や情報工学をベースとした様々な先端工学技術が集まったシステムです。本コースでは、ベースとなる電気電子工学とともに、対象となる人間の生理学、医学的知識について学ぶことで、人間の特性を理解し、それに適応した電子情報機器や、生活支援機器などのシステムを作り上げることのできる能力の獲得を目標としています。

⑵ 電子システムコース

電子システムコースでは、電気電子機器を総合的に動かす技術であるシステム工学と制御工学について、「電子デバイス工学」、「電子電気計測」、「パワーエレクトロニクス」、「材料学」、「エネルギー変換工学」などの専門科目を体系的に学ぶことで、ものづくりに応用展開できる技術を学びます。生体の機能を代替する人工臓器、生活を支援する福祉機器、手術ロボットをはじめとする様々な医療機器、再生医療を支える細胞工学や生体材料工学、生体理解のための生体信号計測や情報処理技術などは、電気電子工学をベースとした様々な先端工学技術が集まったシステムです。本コースでは、ベースとなる電気電子工学とともに、対象となる人間の生理学、医学的知識について学ぶことで、人間の特性を理解し、それに適応した医療福祉機器、診断支援機器などのシステムを作り上げることのできる能力の獲得を目標としています。

5.　1年次の履修計画の立て方・学習の進め方

学習の進め方は高校時代と違い、まず、「将来何になりたいのか」、「どのようなエンジニアになりたいか」、「何の技術の専門家になるのか」を考え目標をもつことが大学生活を有意義に送る上で必要です。なお、2 年次へ進級する上での最低条件は、「1 年次に配当されている科目から **30 単位以上**取得すること」です。4 年次では卒業研究に専念するためには、3 年次終了までに 120 単位以上の取得を目指すのが望ましく、各年次で年間 40 単位を目安として取得するよう努めてください。

1 年次に配当されている「電子工学概論」は必ず 1 年次に履修してください。各コースがどのような特徴を持っているかを分かりやすく説明します。卒業後、どのような職につき、大学の講義が社会でどのように役立つかを知ることができ、今後、自ら学んでいく専門科目の位置づけや重要性を学ぶことができます。この科目は、主コース・副コースを選択する際に重要な科目になります。

「電気回路Ⅰ・演習」、「電気回路Ⅱ・演習」、「電磁気学Ⅰ・演習」、「生理学」は、いずれも各専門分野の基礎を扱う科目です。科目配置図やオンラインシラバスを良く見てしっかりと 4 年間の履修計画を立て、必要な科目は積極的に履修するようにしてください。

6.　主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

⑴ 学系共通科目の履修（2 コース共通）

本学系の目標である「人間にやさしいものづくり」に携わる技術者育成は 2 年次から本格的に開始し、多くの専門科目が配当されています。学系内における各専門科目と 2 つのコースとの関連は、科目配置図を参照してください。専門科目の中で、どちらのコースの学生にとっても、電気電子工学を志すのに学ぶべき科目は学系共通科目として位置づけられています。コース専門科目とのつながりと進級・卒業に必要な単位数を良く考えて、履修科目を決めてください。

⑵ 電子情報コースを主コースとした学生の履修計画

(a)2 ～ 3 年

2 年次になると、主コース・副コースを決定します。学系で開講される科目は全て、**学系共通科目**か**コース専門科目**に分類されています。授業科目配当表にある科目群の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれどこのコースに属する科目であるかを示す**コースコード**がふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画を立ててください。3 年次前期終了時の単位数によって研究室の仮配属の可否を判断します。さらに 3 年次から 4 年次への進級条件として、1 年次から 3 年次に配当されている科目から最低 **104 単位**、4 年次の就職、研究活動を十分に行うには 120 単位以上を取得していることが求められます。

また、最低条件である 104 単位の中には、少なくとも、人間基礎力科目（1 単位）、人間形成科目（11 単位）、英語科目（6 単位）、理工学総論（2 単位）、実験･レポート（2 単位）、数学（4 単位）、物理学・化学・生物学・自然科学（4 単位）、情報（2 単位）、学系共通科目（**23 単位**）、コース専門科目の中からコースコード **E1**（E1：電子情報コース）

のついた科目（**18 単位**）と副コース（自学系）として選んだコースコード **E2** をもつ科目（**5 単位**）が含まれていなければ 、4 年次への進級はできません。副コースを他学系から選ぶ場合は、進級条件が異なりますので、自学系の進級条件表をよく確認してください。履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、1 科目でも多く学び、十分専門領域の知識をもった信頼できる工学技術者として活躍できるよう履修計画を立ててください。これらの単位数は進級のための最低ラインであり、バランス良く科目を履修し、2 年次終了時には 80 単位以上を取得するように心がけてください。

電子情報コースでは、2 年次で「**基礎電子情報実験Ⅰ**」「**基礎電子情報実験Ⅱ**」「**電子工学ゼミ**」、3 年次で「**電子情報工学実験Ⅰ**」「**電子情報工学実験Ⅱ**」、「**電子情報ゼミⅠ**」「**電子情報ゼミ Ⅱ**」の単位は必ず取得してください。コース専門科目に関しては、授業科目配当表にある電気電子工学の分野を中心に、数学情報技術、電子情報通信、電子システム、電子デバイス、生体医工学、電子制御などの分野の科目を履修することを薦めます。特に、**3 年次の「電子工学特別講義」**は、就職に関係した科目であるため履修することを強く薦めます。

(b)4 年次

4 年次生は、4 年次に開講されている応用科目の履修を行うとともに、それまでに学んだ知識を活かし卒業研究に取り組みます。研究室に配属し、それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成させます。卒業研究では、学んだ知識を活かすだけではなく、未解決の問題への取り組み（調査や解決方法の考案）といった技術者としての姿勢・素養を身につけます。また、進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、**卒業に必要な単位**を**十二分に余裕を持って**取得するようにしてください。

⑶ 電子システムコースを主コースとした学生の履修計画

(a)2 ～ 3 年次

2 年次になると、主コース・副コースを決定します。学系で開講される科目は全て、学系共通科目かコース専門科目に分類されています。授業科目配当表にある科目群の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれどこのコースに属する科目であるかを示すコースコードがふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画を立ててください。3 年次前期終了時の単位数によって研究室の仮配属の可否を判断します。さらに 3 年次から 4 年次への進級条件として、1 年次から 3 年次に配当されている科目から最低 104 単位、4 年次の就職、研究活動を十分に行うには 120 単位以上を取得していることが求められます。

また、最低条件である 104 単位の中には、少なくとも、人間基礎力科目（1 単位）、人間形成科目（11 単位）、英語科目（6 単位）、理工学総論（2 単位）、実験･レポート（2 単位）、数学（4 単位）、物理学・化学・生物学・自然科学（4 単位）、情報（2 単位）、学系共通科目（23 単位）、コース専門科目の中からコースコード E2（E2:電子システムコース）のついた科目（18 単位）と副コース（自学系）として選んだコースコード E1 をも

つ科目（5 単位）が含まれていなければ、4 年次への進級はできません。副コースを他学系から選ぶ場合は、進級条件が異なりますので、自学系の進級条件表をよく確認してください。履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、1 科目でも多く学び、十分専門領域の知識をもった信頼できる工学技術者として活躍できるよう履修計画を立ててください。これらの単位数は進級のための最低ラインであり、バランス良く科目を履修し、2 年次終了時には 80 単位以上を取得するように心がけてください。

電子システムコースでは、2 年次で「基礎電子システム工学実験Ⅰ」「基礎電子システム工学実験Ⅱ」「電子工学ゼミ」、3 年次で「電子システム工学実験Ⅰ」「電子システム工学実験Ⅱ」、「電子システムゼミⅠ」「電子システムゼミ Ⅱ」の単位は必ず取得してください。コース専門科目に関しては、授業科目配当表にある電気電子工学の分野を中心に、数学情報技術、電子情報通信、電子システム、電子デバイス、生体医工学、電子制御などの分野の科目を履修することを薦めます。特に、3 年次の「電子工学特別講義」は、就職に関係した科目であるため履修することを強く薦めます。

(b)4 年次

4 年次生は、4 年次に開講されている応用科目の履修を行うとともに、それまでに学んだ知識を活かし卒業研究に取り組みます。研究室に配属し、それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成させます。卒業研究では、学んだ知識を活かすだけではなく、未解決の問題への取り組み（調査や解決方法の考案）といった技術者としての姿勢・素養を身につけます。また、進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、**卒業に必要な単位を十二分に余裕を持って**取得するようにしてください。

7. 副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方（2 コース共通）

進級条件は、主コースとした学系により異なります。主コースの学系の進級条件をよく確認して不足のないように余裕をもって単位を取得してください。

8. その他の注意事項

⑴ 大学院進学について

学部では学べなかったより専門性の高い知識や技術を修得するために毎年多くの学生が大学院に進学しています。大学院に進学するには、大学院入学試験を受けて合格することが必要ですが、成績の優秀な学生には、推薦入学の受験資格を認めています。進学を希望する学生は、早い段階から、受講する科目に十分時間をかけて学ぶように心がけてください。なお大学院を修了して社会に出ると、企業から即戦力として活躍することが期待され、学部卒業者よりもより専門性の高い新技術の研究、開発に関する職種、部門に就職することができます。また、大学院在籍中に、海外の大学院へ留学し異文化を学び、その中で活躍する能力を身につけることもできます。

電気電子工学分野の大学院は、開発を中心とした高級技術者や研究者、専門的電気・電子・情報システム技術を教える高校教諭、高等専門学校や大学等の教育に従事する教

育研究者を目指す登竜門でもあります。大学院在籍中に奨学金を得て、フランスの精密機械大学院大学（ＥＮＳＭＭ）等の海外の研究機関に留学し、研究と文化の違いを学ぶ大学院生もいます。

⑵ 就職について

これまで卒業した東京電機大学の先輩の努力により、毎年多数の求人の案内が届きます。最近は自由応募で就職する学生もいますが、先輩のいる企業への学校推薦での就職も環境や仕事の情報などのアドバイスも受けられることからメリットがあります。いずれの場合も、大学名のみで採用に至ることはありません。近年の就職活動をみると、基礎学力はあって当たり前として、最も重視されていることは、コミュニケーション能力や主体性、協調性です。これらは、実験や実習の中で積極的な活動を通じて培われ、日常生活における習慣や取り組みによって蓄積されるものです。是非、高いモチベーションを持って学生生活を送ってください。

なお、電気・電子・情報システムなどの技術開発に携わる職種の就職においては、本人の技術に対する取り組み方、卒業研究の進め方とその内容、大学での学業に対する取り組み方などの積極性、責任感、論理性を重視する場合がありますので、将来何をやりたいか目標を持って広く、深く勉学に励んでください。

電子工学系の履修配置図

	【 電子情報コース 】	【 電子システムコース 】	
4年	[電子情報コース専門科目] 【前期】 生体情報工学 電子工学卒業研究Ⅰ 【後期】 電子工学卒業研究Ⅱ	[電子システムコース専門科目] 【前期】 人間工学 電子工学卒業研究Ⅰ 【後期】 電子工学卒業研究Ⅱ	共通教育科目 人間形成科目 英語科目 情報と職業入門 情報と職業
3年	[電子情報コース専門科目] 【前期】 信号処理A、電子デバイス工学、医用電子工学 応用数値解析、応用プログラミング ディジタル回路 電子情報工学実験Ⅰ 電子情報ゼミⅠ 【後期】 信号処理B、人工臓器学、メカトロニクス 通信工学 電子情報工学実験Ⅱ 電子情報ゼミⅡ	[電子システムコース専門科目] 【前期】 信号処理A、電子デバイス工学 医用電子工学、パワーエレクトロニクス 電子システム工学実験Ⅰ 電子システムゼミⅠ 【後期】 信号処理B、人工臓器学、メカトロニクス 先端エレクトロニクス概論、材料学 エネルギー変換工学 電子システム工学実験Ⅱ 電子システムゼミⅡ	
	[学系共通科目] 【前期】 制御工学Ⅰ・演習 【後期】 制御工学Ⅱ・演習、電子工学特別講義		
2年	[電子情報コース専門科目] 【前期】 電気電子計測工学 基礎電子情報工学実験Ⅰ 【後期】 電子物理学 基礎電子情報工学実験Ⅱ	[電子システムコース専門科目] 【前期】 電気電子計測工学 基礎電子システム工学実験Ⅰ 【後期】 電子物理学 基礎電子システム工学実験Ⅱ	
	[学系共通科目] 【前期】 工業数学Ⅰ・演習、コンピュータ工学Ⅰ、電磁気学Ⅱ・演習、電子情報回路Ⅰ・演習 【後期】 工業数学Ⅱ・演習、コンピュータ工学Ⅱ、電子情報回路Ⅱ・演習、過渡現象、電子工学ゼミ		
1年	[学系共通科目] 【前期】電子工学概論、電気回路Ⅰ・演習 【後期】電気回路Ⅱ・演習、電磁気学Ⅰ・演習、生理学		
	[学部共通科目] 人間基礎力、人間形成、英語、理工学総論、実験・レポート 数学、物理学・化学・生物学・自然科学、情報		

その他：電子・機械工学特別卒業研究（3年時）、電子・機械工学インターンシップA～F（2年～4年次）、職業指導（3年次）

電子工学系　進級条件表

RE

（2018年度カリキュラム）

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。

2年次→3年次

進級条件を設けない。

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし以下の各条件を満たすこと。

1．下記の単位を修得のこと。

区分			単位数	卒業要件
人間基礎力			1	2
人間形成			11	14
英語			6	8
理工学総論			2	2
実験・レポート			2	4
数学			4	6
物理学・化学・生物学・自然科学			4	7
情報			2	3
副コースが自学系の場合	学系共通科目	自学系	23	34
	コース専門科目	主コース	18	26
		副コース	5	8
副コースが他学系の場合	学系共通科目	自学系	19	28
	コース専門科目	主コース	18	26
	指定科目群	副コース	9	14

2．上記に加え、所属する主コースの実験科目およびゼミ科目を全て履修し、それらの単位を全て修得すること。

平成30(2018)年度カリキュラム 電子工学系 授業科目配当表

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態			単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
						講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
専門教育科目	学系共通科目	電気電子工学	電子工学概論	選択		○			2	1	1	1				70100
			電気回路Ⅰ・演習	選択		○	○		3	1	1.5	1.5				70100
			電気回路Ⅱ・演習	選択		○	○		3	1			1.5	1.5		70100
			電磁気学Ⅰ・演習	選択		○	○		3	1			1.5	1.5		70100
			電磁気学Ⅱ・演習	選択		○	○		3	2	1.5	1.5				70100
			電子情報回路Ⅰ・演習	選択		○	○		3	2	1.5	1.5				60300
			電子情報回路Ⅱ・演習	選択		○	○		3	2			1.5	1.5		60300
			過渡現象	選択		○			2	2			1	1		70100
			電子工学ゼミ	選択				○	2	2			2	2		
		数学情報技術	工業数学Ⅰ・演習	選択		○	○		3	2	1.5	1.5				70100
			工業数学Ⅱ・演習	選択		○	○		3	2			1.5	1.5		70100
			コンピュータ工学Ⅰ	選択		○	○		2	2	1	1				60200
			コンピュータ工学Ⅱ	選択		○	○		2	2			1	1		60500
		生体医工学	生理学	選択		○			2	1			1	1		
		電子制御	制御工学Ⅰ・演習	選択		○	○		3	3	1.5	1.5				70100
			制御工学Ⅱ・演習	選択		○	○		3	3			1.5	1.5		70100
		キャリア	電子工学特別講義	選択		○			2	3			1	1		
	E1 電子情報コース専門科目	電子情報通信	電気電子計測工学	選択	E1・E2	○			2	2	1	1				70100
			信号処理工学A	選択	E1・E2	○			2	3	1	1				60200
			信号処理工学B	選択	E1・E2	○			2	3			1	1		60200
			応用数値解析	選択	E1	○			2	3	1	1				60200
			応用プログラミング	選択	E1	○	○		2	3	1	1				70100
			通信工学	選択	E1	○			2	3			1	1		60400
		電子デバイス	電子物理学	選択	E1・E2	○			2	2			1	1		70100
			電子デバイス工学	選択	E1・E2	○			2	3	1	1				
			ディジタル回路	選択	E1	○			2	3	1	1				70100
		生体医工学	医用電子工学	選択	E1・E2	○			2	3	1	1				
			人工臓器学	選択	E1・E2	○			2	3			1	1		
			生体情報工学	選択	E1	○			2	4	1	1				
		電子制御	メカトロニクス	選択	E1・E2	○			2	3			1	1		70100
		実験	基礎電子情報工学実験Ⅰ	選択	E1			○	2	2	2	2				70100
			基礎電子情報工学実験Ⅱ	選択	E1			○	2	2			2	2		70100
			電子情報工学実験Ⅰ	選択	E1			○	2	3	2	2				60400
			電子情報工学実験Ⅱ	選択	E1			○	2	3			2	2		60500
		ゼミ	電子情報ゼミⅠ	選択	E1		○		2	3	1	1				
			電子情報ゼミⅡ	選択	E1		○		2	3			1	1		
	E2 電子システムコース専門科目	電子システム	電気電子計測工学	選択	E1・E2	○			2	2	1	1				70100
			信号処理工学A	選択	E1・E2	○			2	3	1	1				60200
			信号処理工学B	選択	E1・E2	○			2	3			1	1		60200
			先端エレクトロニクス概論	選択	E2	○			2	3			1	1		70100
			人間工学	選択	E2	○			2	4	1	1				70100
		電子デバイス	電子物理学	選択	E1・E2	○			2	2			1	1		70100
			電子デバイス工学	選択	E1・E2	○			2	3	1	1				
			材料学	選択	E2	○			2	3			1	1		
		生体医工学	医用電子工学	選択	E1・E2	○			2	3	1	1				
			人工臓器学	選択	E1・E2	○			2	3			1	1		
		電子制御	パワーエレクトロニクス	選択	E2	○			2	3	1	1				70100
			エネルギー変換工学	選択	E2	○			2	3			1	1		70100
			メカトロニクス	選択	E1・E2	○			2	3			1	1		70100
		実験	基礎電子システム工学実験Ⅰ	選択	E2			○	2	2	2	2				
			基礎電子システム工学実験Ⅱ	選択	E2			○	2	2			2	2		
			電子システム工学実験Ⅰ	選択	E2			○	2	3	2	2				70100
			電子システム工学実験Ⅱ	選択	E2			○	2	3			2	2		70100
		ゼミ	電子システムゼミⅠ	選択	E2		○		2	3	1	1				
			電子システムゼミⅡ	選択	E2		○		2	3			1	1		
	コース専門科目	卒研等	電子工学特別卒業研究	選択				○	3	3			3	3	3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			電子工学卒業研究Ⅰ	必修				○	③	4	3	3				
			電子工学卒業研究Ⅱ	必修				○	③	4			3	3		
		キャリアデザイン	電子工学インターンシップA	選択				○	2	2	2	2			随時	
			電子工学インターンシップB	選択				○	2	2			2	2	随時	
			電子工学インターンシップC	選択				○	2	3	2	2			随時	
			電子工学インターンシップD	選択				○	2	3			2	2	随時	
			電子工学インターンシップE	選択				○	2	4	2	2			随時	
			電子工学インターンシップF	選択				○	2	4			2	2	随時	
			情報と職業入門	選択		○			1	全	1					
			情報と職業	選択		○			2	全			1	1		60600
			情報倫理	自由		○			2	2			1	1		60100
			工業技術概論	自由		○			2	3			1	1		70100
			職業指導	自由		○			4	3	1	1	1	1		70200

※ 単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

コースコードは、E1:電子情報コース、E2:電子システムコース。
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

建築・都市環境学系

(Division of Architectural, Civil and Environmental Engineering)

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

教育目標

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

カリキュラムマップ

建築・都市環境学系履修モデル

授業科目配当表

【建築・都市環境学系】

人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

(人材の養成に関する目的)

建築・都市環境学系では、人間と自然が調和する環境を多角的に考察し、社会基盤の創造と保全に寄与でき、持続可能な社会の構築に貢献できる技術者の養成を目的とします。

(教育研究上の目的)

建築・都市環境学系では、教育研究を通じて社会が直面する諸問題を多面的に考察・評価し、解決方法を論理的に導きだす能力を培います。

教育目標

建築・都市環境学系の「人材養成に関する目的その他教育研究上の目的」に基づき、以下の教育目標を掲げます。

建築学、土木工学、都市工学、環境学などの専門知識や技術を教授すると共に、人間性・社会性・国際性を育み、社会が直面する諸問題を多面的・多角的に考察し、持続可能な社会の構築に貢献できる技術者の育成を目標とします。

学位授与の方針（ディプロマポリシー・DP)

建築・都市環境学系は、本学部の学位授与方針をもとに、本学系に所定の期間在学し（※)、以下の能力を身につけた者に対して、学士（工学）の学位を授与します。

※標準修業年限は 4年

⑴ 建築・都市環境学の分野において必要な専門的知識や技術、ならびに計画的に仕事を進め遂行することができる建設技術者としての能力を身につけること。(DP1)

⑵ 豊かな創造力や柔軟な思考力を有し、社会が直面している諸問題を認識して、その問題を解決することができる建設技術者としての実践力、コミュニケーション能力を身につけること。(DP2)

⑶ 人間と自然とが共生できる持続可能な社会の構築に寄与することができる理工学全般に共通する基礎知識や考え方を身につけること。(DP3)

⑷ 良識ある人間性、倫理性、福祉への眼差し等の資質・感性を有し、生涯に渡り研鑽を積むことのできる心身健全な建設技術者としての素養を身につけること。(DP4)

⑸ 異文化理解の資質・感性を有し、意見や情報を当事者間で適切に授受することができ、国際的に活躍できる建設技術者としての能力を身につけること。(DP5)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー・CP)

建築・都市環境学系は、２つの専門コースを設け、建築学、土木工学、都市工学、環境学などの専門知識や技術の基礎を身につけることを目的として、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施します。教育課程の実施に際して、主コースを建築・都市環境学系から１つ、副コースを建築・都市環境学系または他学系から１つ、それぞれ選択させて履修指導を行います。

⑴ (DP1 に対応) 建築・都市環境学系における広い範囲をカバーする専門科目とコース特有の

専門科目とを用意し、体系的に配置します。また、各種の資格取得を目指す学生には、資格関連科目 (教職科目を含む) を配置します。

⑵ (DP2 に対応) 実験、実習、デザイン演習、プロジェクト科目、卒業研究を、学年進行に従い体系的に配置します。

⑶ (DP3 に対応) 数学系科目、物理学や化学などの実験・実習を含む自然科学系科目、情報処理系科目等を主に 1 年次に配置します。基礎学力を固めるために、履修科目指導や習熟度別クラスを導入します。

⑷ (DP4 に対応) 科学技術者としての倫理性を養う科目を配置します。豊かな人間性や社会性を育むために人文系科目を配置します。キャリア意識を培うためにインターンシップを含む科目を配置します。

⑸ (DP5 に対応) 必修の英語科目に加え、他言語科目や国際社会について学ぶ人文系科目を配置します。

＜建築コース G1 ＞

① (DP1 に対応)「建築計画・意匠、建築法規、建築構造、建築環境・設備など」建築学を主コースとして、「都市計画、景観計画、防災工学、環境衛生工学、リモートセンシングなど」都市・環境学を副コースとして履修できるように配置します。

＜都市環境コース G2 ＞

① (DP1 に対応)「都市計画、景観計画、防災工学、環境衛生工学、リモートセンシングなど」都市・環境学を主コースとして、「建築計画・意匠、建築法規、建築構造、建築環境・設備など」建築学を副コースとして履修できるように配置します。

入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー・AP)

建築・都市環境学系は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに従い、高度な専門性と豊かな人間性を備えた「地球環境に優しい未来型の建築・都市環境の技術者・専門家」を育成します。この理念に共感し、次に掲げる知識・技術や能力、目的意識・意欲を持った学生を求めます。

⑴ 求める学生像

◆地球に優しく、人間と自然が調和した建築･都市環境を構築することに大いに興味を持ち、専門分野や一般分野を幅広く学習し、その実現のための知識を吸収する能力を持った学生

◆実験・実習科目、デザイン演習科目、卒業研究等において、主体性を持って多様な人々と協働して学び、自ら課題を発見・設定し、それらを解決しようと努める意欲のある学生

◆各種のプロジェクト科目や学部共通教育を通して、思考力・判断力・表現力・倫理観を習得し、建築・都市環境の技術者や専門家を目指す学生

⑵ 入学前に学習しておくことが望ましい内容

◆理工学部のアドミッションポリシーに加え、高等学校課程の数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを十分理解しており、さらに数学Ⅲの範囲を学習しておくことが望ましい。
また、高等学校課程の物理基礎及び物理の範囲を学習しておくことが望ましい。

理工学部　理工学科　建築・都市環境学系（ G1 建築コース ）
平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	数理・情報			基礎統計学	2	計画数理	2										
	構造			静力学	2	応用力学A・演習	3	応用力学B	2	鋼構造学	2						
										鉄筋コンクリート工学	2						
	地盤							地盤工学A・演習	3	地盤工学B	2						
	水理					水理学A・演習	3	水理学B	2	水文学	2						
	測量					測量学・演習	3										
	材料					建設材料学	2										
	施工											建設施工	2				
	建築コース専門							住居論	2	建築デザイン論	2	建築法規	1				
								建築計画学	2	建築環境工学	2	耐震設計法	2				
								建築史	2			建築構法	2				
												建築設備	2				
	教職課程	※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	デザイン			建築都市デザイン演習Ⅰ	3	建築都市デザイン演習ⅡA	2	建築都市デザイン演習ⅡB	2	建築都市デザイン演習ⅢA	2	建築都市デザイン演習ⅢB	2				
												RGプロジェクト科目	2				
	実験・実習					材料実験	1	土質実験	1	構造実験	1	水理実験	1				
						測量実習	2										
	卒業研究											建築・都市環境特別卒業研究	3	建築・都市環境卒業研究Ⅰ	3	建築・都市環境卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は基礎教育センターのカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎（導入）	建築・都市環境学へのアプローチ	1	建築・都市デザイン概論	2												
		立体図学	1														
DP4	人間形成	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門	1			建築・都市環境インターンシップA	2	建築・都市環境インターンシップB	2	建築・都市環境インターンシップC	2	建築・都市環境インターンシップD	2	建築・都市環境インターンシップE	2	建築・都市環境インターンシップF	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2					職業指導(通年)			4				
												工業技術概論	2				
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

理工学部　理工学科　建築・都市環境学系（ G2 都市環境コース ）
平成30(2018)年度 カリキュラムマップ

DPに基づく区分		1年				2年				3年				4年			
DP	分野区分	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
DP1	数理・情報			基礎統計学	2	計画数理	2										
	構造			静力学	2	応用力学Ａ・演習	3	応用力学Ｂ	2	鋼構造学	2						
										鉄筋コンクリート工学	2						
	地盤							地盤工学Ａ・演習	3	地盤工学Ｂ	2						
	水理					水理学Ａ・演習	3	水理学Ｂ	2	水文学	2						
	測量					測量学・演習	3										
	材料					建設材料学	2										
	施工											建設施工	2				
	都市・環境コース専門									景観デザイン	2	防災工学	2				
										都市計画	2	河川・海岸計画	2				
										交通計画	2	都市プロジェクトの評価	2				
												空間情報工学	2				
								水圏の環境	2	都市衛生工学	2	環境アセスメント	2				
								気圏・地圏の環境	2	リモートセンシング	2	地球観測	2				
	教職課程	※詳細は教職課程のカリキュラムマップを参照															
DP2	デザイン			建築都市デザイン演習Ⅰ	3	建築都市デザイン演習ⅡＡ	2	建築都市デザイン演習ⅡＢ	2	建築都市デザイン演習ⅢＡ	2	建築都市デザイン演習ⅢＢ	2				
												ＲＧプロジェクト科目	2				
	実験・実習					材料実験	1	土質実験	1	構造実験	1	水理実験	1				
						測量実習	2										
	卒業研究											建築・都市環境特別卒業研究	3	建築・都市環境卒業研究Ⅰ	3	建築・都市環境卒業研究Ⅱ	3
DP3	専門基礎	※詳細は基礎教育センターのカリキュラムマップを参照															
	学系専門基礎（導入）	建築・都市環境学へのアプローチ	1	建築・都市デザイン概論	2												
		立体図学	1														
DP4	人間形成	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															
	キャリアデザイン	情報と職業入門	1			建築・都市環境インターンシップＡ	2	建築・都市環境インターンシップＢ	2	建築・都市環境インターンシップＣ	2	建築・都市環境インターンシップＤ	2	建築・都市環境インターンシップＥ	2	建築・都市環境インターンシップＦ	2
	教職（教科に関する科目）			情報と職業	2					職業指導(通年)			4				
												工業技術概論	2				
DP5	国際化教育	※詳細は共通教育のカリキュラムマップを参照															

※副コースのカリキュラムおよび他コース専門科目については、該当するコースのカリキュラムマップを参照

建築・都市環境学系履修モデル

1. 建築・都市環境学系の学習・教育到達目標

建築・都市環境学系では、21 世紀の循環型社会の構築に向けて人間と自然が調和する環境を多角的に考察し、ゆとりと潤いある生活環境を目指して社会基盤の創造と保全に寄与できる建設技術者の育成を目的としています。この目的を達成するため、本学系では以下の（A）～（E）の学習・教育到達目標を掲げています。

（A）「技術は人なり」を目標とした人間形成の教育

良識ある人間性、倫理性、福祉への眼差し、異文化理解等の資質・感性を有し、生涯に渡り研鑽を積むことのできる心身健全な建設技術者としての素養を身につけます。具体的な内容を以下に示します。

1）持続可能な社会構築を担う人間形成
2）技術者の社会的な責任を理解する
3）異文化を理解する資質・感性を身につける
4）自主的に継続学習できる能力を身につける
5）自主的に生涯学習できる能力を身につける

（B）相互理解を深めるコミュニケーション能力の開発

意見や情報を当事者間で適切に授受することができ、国際的に活躍できる建設技術者としての能力を身につけます。具体的な内容を以下に示します。

1）論理的な口頭表現の能力を身につける
2）受け取った意見・情報を正確に理解する能力を身につける
3）論理的な記述表現の能力を身につける
4）英語を用いて意見や情報を授受するための能力を身につける

（C）基礎工学を重視した実学教育の徹底

人間と自然が共生できる持続可能な社会を構築するために必要な、工学基礎・情報技術・建設工学を応用する建設技術者としての能力を身につけます。具体的な内容を以下に示します。

1）数学・物理などの工学基礎の習得
2）建設工学の専門知識の習得
3）情報技術を利活用する能力を身につける

（D）創造力および問題発見・解決能力の開発

豊かな創造力や柔軟な思考力を有し、社会が直面している諸問題を認識して、その問題を解決する建設技術者としての能力を身につけます。具体的な内容を以下に示します。

1）現実社会の中で直面している諸問題を認識し、その問題解決について考える能力を身につける
2）情報を収集・評価・利用する能力を身につける
3）豊かな創造力や柔軟な思考力を身につける

4）高度な社会的要請に対応できる能力を身につける

（E）プロジェクト遂行能力の開発

与えられた制約のもとで目標を設定し、計画的に仕事を進め、遂行することができる建設技術者としての能力を身につけます。具体的な内容を以下に示します。

1）協働して行う作業のリーダー、あるいは一員として計画的に仕事を進めるマネジメント能力を身につける

2）プロジェクト遂行能力を身につける

2. 学系カリキュラムの概要

建築・都市環境学系のカリキュラムは、建築学、建設工学、土木工学、都市工学、環境学といった私たちの生活環境づくりに直結した学問分野で構成されています。そして、それぞれの分野に関して基礎から応用へと段階的に学習できるようにカリキュラムが編成されています。この段階的な学習を確実なものとするために、特に３年次から４年次への進級に際して、学系独自の進級条件を設定しています。この進級条件は所属する主コース・副コースの組み合わせによって異なるため、些細な勘違いなどで留年しないよう細心の注意を払って履修計画を立ててください。履修方法に関する疑問等は、学年担任をはじめとする学系教員に気軽に質問してください。

3. 各コースの概要

⑴ 建築コース

建築コースは建築の専門知識や技術を学び、デザインするための感性を磨くコースです。本コースの特徴は単体の建物だけでなく、都市・環境・景観に配慮した総合的な視野を備えた建築家や建設技術者を育成する点にあります。講義では建築のデザイン、歴史、計画、構造、構法、設備等の専門知識はもちろんのこと、都市環境コースとの連携により都市・環境・土木分野の知識について幅広く学ぶことができます。また、ＣＡＤの使い方、建築図面の描き方、建築設計の方法を学ぶ建築都市デザイン演習や、構造実験・材料実験といった実験科目を通して、実践的な技術力・判断力・プレゼンテーション能力を身につけることができます。

⑵ 都市環境コース

都市環境コースは、ひとにやさしく、安全で快適なまちづくりの方法を学ぶコースです。まちづくりの中心には市民がおり、市民が満足しなければまちづくりとは言えません。市民が満足するためには、機能性、経済性、意匠性を同時に兼ね備えていなければなりません。都市環境コースが対象とする施設は、われわれの日常生活を支える上で必要不可欠なものばかりです。たとえば、鉄道、駅、道路、空港などの交通施設、電気、水道などのライフライン施設、公園広場、ビオトープ、屋上緑化施設などの都市環境施設などがあります。

また本コースでは、社会基盤施設の計画から設計に至る能力を学習します。さらに地球環境問題が深刻さを増しつつある今日、建設に携わる技術者も環境を視野に入れて行

動することが求められています。したがって、建設と環境との関連性に関する知識を習得して、環境に配慮した都市や地域づくりを実践できる 21 世紀型グローバル・エンジニアや都市環境デザイナーを育成します。

4.　1年次の履修計画の立て方・学習の進め方

1 年次に配当されている科目の中から 30 単位以上修得することで、2 年次に進級することができます。学部共通科目群の必修科目以外にも「基礎物理学実験」「基礎化学実験」を履修することを推奨します。

つぎに専門科目としては、1 年前期に、導入科目である「建築･都市環境学へのアプローチ」が開講されます。この講義では、各コースがどのような特徴を持っているかを分かり易く説明し、卒業後、どのような職に就き、大学の講義が社会でどのように役立つかを知ることができます。卒業するための学系必修科目となっているので、1 年次に履修してください。

1 年後期では、まず「建築都市デザイン演習Ⅰ」の 1 科目 3 単位を必ず履修してください。つぎに「建築・都市デザイン概論」「基礎統計学」「静力学」の 3 科目 6 単位を履修してください。これらの講義では、建築や都市をデザインすることの面白さや大切さを学習し、あるいは 2 年次以降に学習する専門科目を理解するための基礎学力を培います。また、これらの 3 科目も卒業するための学系必修科目となっています。

5.　主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

2 年次と 3 年次の 2 年間で、「3 年次から 4 年次への進級条件」を満たすように計画的に単位履修を行ってください。「3 年次から 4 年次への進級条件」は選択した副コースによって異なるので注意してください。詳細は進級条件表を参照してください。

⑴ 「建築コース（主）＋都市環境コース（副）」もしくは「都市環境コース（主）＋建築コース（副）」とする学生の履修計画（主：主コース、副：副コースを示す。以下同じ。）

（学系共通科目の履修）

①学系共通の必修科目 14 単位以上を含む 23 単位以上を履修してください。

② 2 年次・3 年次の「材料実験」「土質実験」「構造実験」「水理実験」の 4 科目 4 単位の中から必ず 3 単位以上履修してください。ただし、「都市環境コース（主）＋建築コース（副）」の場合は、「水理実験」を履修してください。

以上で 3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。

（コース専門科目の履修）

①卒業研究を除くコース専門の必修科目をすべて履修してください。

②主コースから 18 単位以上、副コースから 5 単位以上を履修してください。

以上で 3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。

⑵ 「建築コース（主）＋他学系のコース（副）」もしくは「都市環境コース（主）＋他学系のコース（副）」とする学生の履修計画

（学系共通科目の履修）

①学系共通の必修科目 14 単位以上を含む 19 単位以上を履修してください。

以上で３年次から４年次への進級条件が満たされます。なお、技術者として必要である実践的な技術力・判断力・レポート作成能力・プレゼンテーション能力を身につけるために、「材料実験」「土質実験」「構造実験」「水理実験」といった実験科目も履修することを強く推奨します。

（コース専門科目の履修）

①卒業研究を除くコース専門の必修科目をすべて履修してください。

②主コースから 18 単位以上、副コースの指定科目群から９単位以上を履修してください。

以上で３年次から４年次への進級条件が満たされます。

6. 副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

２年次と３年次の２年間で、「3 年次から４年次への進級条件」を満たすように計画的に単位履修を行ってください。「3 年次から４年次への進級条件」は選択した主コースによって異なるので注意してください。詳細は進級条件表を参照してください。

7. その他の注意事項

⑴ 大学院進学について

専門性の高い知識や技術を修得するために毎年多くの学生が大学院に進学しています。大学院に進学するには、大学院入学試験を受けて合格することが必要ですが、成績の優秀な学生には、推薦入学を認めています。進学を希望する学生は、早い段階からよい成績を取るように心がけてください。なお大学院を修了して社会に出ると、企業から即戦力として活躍することが期待され、学部卒業生よりも専門性の高い職種、部門に就職することができます。大学院在籍中に、海外の大学院へ留学することもできます。近年は、建設系コンサルタント、設計コンサルタント、建築設計事務所やゼネコンの設計部などの専門性の高い職種の企業からは、大学院卒の学生に対する募集が多くなっています。

⑵ 就職について

これまで卒業した東京電機大学の先輩の努力により、毎年多数の求人の案内が届きます。最近では自由応募で就職する学生が多く見られますが、大学に寄せられた求人情報を是非活用してください。いずれの場合も、大学名のみで採用に至ることはありません。近年の就職活動をみると、最も重視されていることは、コミュニケーション能力や、教養の広さ・深さです。これらは、日常生活における習慣やちょっとした取り組みによって蓄積されるものです。また、これらの力を付けるために、１年次に「フレッシュマンゼミ」、２年次に「キャリアワークショップ」、３年次に「ＴＤＵプロジェクト科目」を配置しています。是非、高いモチベーションを持って学生生活を送ってください。

⑶ JABEE プログラムについて

本学系は JABEE（日本技術者教育認定機構）より、国際水準の技術者教育を行う教育組織としての認定を受けています。コース選択において、建築コースと都市環境コース

を主・副コース（主・副は任意）として選択した学生はこの JABEE プログラムの履修生となります。JABEE プログラムを修了し、本学を卒業すると登録により技術士補の資格を得ることができます（＊）。学系では、学習・教育到達目標の達成度の評価方法、達成度の自己点検方法について解説した「JABEE プログラム学習の手引き」を配布しています。

また、JABEE プログラム（建築コース＋都市環境コース）以外の学生が、本学の転学部、転学科、転学系、転コース制度を利用して新たに JABEE プログラム（建築コース＋都市環境コース）に移籍する場合は、当該学生の既取得科目と単位数を勘案し、本学系の学習・教育目標の達成可能性を検討の上、個別に JABEE プログラム受け入れの可否を決定します。詳細は、学系ホームページを参照してください。

（＊）JABEE プログラムは定期的な審査により認定されるものであり、本学系は学生教育にとって有意義であるとの判断から、継続的にその認定を受ける方針を定めています。しかしながら、予期せぬ事情によりこの認定を受けられない場合、技術士補の資格を得られなくなることもありますので、この点についてはあらかじめ了承ください。

⑷ 建築士プログラムについて

コースとは独立した教育課程として、建築士資格取得を目指した「建築士プログラム」が用意されています。この「建築士プログラム」を修了すると、大学卒業と同時に二級建築士と木造建築士資格の受験ができます。また、卒業後 2 年間の実務経験のあとに一級建築士資格の受験ができます。これらの受験資格が得られるのは「建築士プログラム」を修了した場合だけです。コースの進級条件等とは別の基準が設けられているので、注意して履修計画を立ててください。詳細は、「資格」に関するページを参照してください。

⑸ 建設系資格について

建築士プログラム同様、建設系の各種資格については、コースの進級条件とは別の基準が設けられているので、注意して履修計画を立ててください。詳細は、「資格」に関するページを参照してください。

建築・都市環境学系の履修モデル図

1年		2年	3年	4年
人間基礎力科目・人間形成科目・英語科目				
専門基礎科目	専門科目			
科学技術者の心得 数学基礎 基礎微積分学A 基礎微積分学B 基礎線形代数学A 基礎線形代数学B 物理学入門 物理学入門演習 物理学A 物理学B 基礎物理学実験 化学基礎 化学基礎演習 化学（原子と分子） 化学（物質の性質） 基礎化学実験 情報リテラシ 表計算 C言語プログラミング 実用プログラミング 生命科学 環境科学 基礎理工学実習 工学基礎 生物科学 環境科学	導入	建築・都市環境学へのアプローチ 立体図学 建築・都市デザイン概論		建築・都市環境卒業研究Ⅰ 建築・都市環境卒業研究Ⅱ
	数理・情報	基礎統計学	計画数理	
	構造	静力学	応用力学A・演習 応用力学B	鋼構造学　鉄筋コンクリート工学 構造実験
	地盤		地盤工学A・演習 土質実験	地盤工学B
	水理		水理学A・演習 水理学B	水文学 水理実験
	測量		測量学・演習 測量実習	リモートセンシング 空間情報工学　地球観測
	材料		建設材料学 材料実験	
	施工			建設施工
	デザイン	建築都市デザイン演習Ⅰ	建築都市デザイン演習ⅡA 建築都市デザイン演習ⅡB	建築都市デザイン演習ⅢA 建築都市デザイン演習ⅢB RGプロジェクト科目
	環境		水圏の環境 気圏・地圏の環境	都市衛生工学　環境アセスメント 生物圏の環境
	都市			景観デザイン 防災工学　河川・海岸計画 都市計画　交通計画 都市プロジェクトの評価
	建築		住居論　建築計画学 建築史	建築デザイン論　建築法規 建築環境工学　建築設備 建築構法　耐震設計法
	職業		建築・都市環境インターンシップA 建築・都市環境インターンシップB	建築・都市環境インターンシップC 建築・都市環境インターンシップD	建築・都市環境インターンシップE 建築・都市環境インターンシップF

建築・都市環境学系　進級条件表　RG
（2018年度カリキュラム）

＊進級条件の単位数には、自由科目の単位は含まれません。

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を修得のこと。

2年次→3年次

進級条件を設けない。

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上修得のこと。ただし、以下の各条件を満たすこと。

1．下記の単位を修得のこと。

区　分			単位数	卒業要件
人間基礎力			1	2
人間形成			11	14
英語			6	8
理工学総論			2	2
実験・レポート			2	4
数学			4	6
物理学・化学・生物・自然科学			4	7
情報			2	3
副コースが自学系の場合	学系共通科目	自学系	23	34
	コース専門科目	主コース	18	26
		副コース	5	8
副コースが他学系の場合	学系共通科目	自学系	19	28
	コース専門科目	主コース	18	26
	指定科目群	副コース	9	14

＊1　対象副コースが建築・都市環境学系

(1)学系共通の必修科目から14単位以上修得のこと。

(2)学系共通科目の「材料実験」、「土質実験」、「構造実験」、「水理実験」から3単位以上を修得し、主コースが都市環境コースの場合は、「水理実験」を修得のこと。

(3)コース専門の必修科目（卒研等を除く）はすべて修得のこと。

＊2　対象副コースが他学系

(1)主コース学系共通の必修科目から14単位以上修得すること。

(2)主コース専門の必修科目（卒研等を除く）はすべて修得のこと。

平成30(2018)年度カリキュラム 建築・都市環境学系 授業科目配当表

RG

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態			単位数	学年	前期		後期		建築士プログラム科目区分	備考	教職コード
						講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期			
専門教育科目	学系共通科目	導入	建築・都市環境学へのアプローチ	必修		○			①	1	1						70100
			立体図学	選択		○			1	1	1						70100
			建築・都市デザイン概論	必修		○			②	1			1	1	その他		70100
		数理・情報	基礎統計学	必修		○			②	1			1	1			70100
			計画数理	選択		○			2	2	1	1					70100
		構造	静力学	必修		○			②	1			1	1	構造力学		70100
			応用力学A・演習	必修		○	○		③	2	2	2			構造力学		70100
			応用力学B	選択		○			2	2			1	1	構造力学		70100
			鉄筋コンクリート工学	選択		○			2	3	1	1			建築一般構造		70100
			鋼構造学	選択		○			2	3	1	1			建築一般構造		70100
			構造実験	選択				○	1	3	1	1			構造力学		70100
		地盤	地盤工学A・演習	必修		○	○		③	2			2	2	構造力学		70100
			地盤工学B	選択		○			2	3	1	1			構造力学		70100
			土質実験	選択				○	1	2			1	1	構造力学		70100
		水理	水理学A・演習	必修		○	○		③	2	2	2					70100
			水理学B	選択		○			2	2			1	1			70100
			水文学	選択		○			2	3	1	1					70100
			水理実験	選択				○	1	3			1	1			70100
		測量	測量学・演習	必修		○	○		③	2	2	2			その他		70100
			測量実習	必修				○	②	2	2	2			その他		70100
		材料	建設材料学	選択		○			2	2	1	1			建築材料		70100
			材料実験	選択				○	1	2	1	1			建築材料		70100
		施工	建設施工	選択		○			2	3			1	1	建築生産		70100
	G1 建築コース専門科目	建築	建築法規	選択	G1	○			1	3			1		建築法規		70100
			住居論	選択	G1	○			2	2			1	1	建築計画		70100
			建築計画学	選択	G1	○			2	2			1	1	建築計画		70100
			建築史	選択	G1	○			2	2			1	1	建築計画		70100
			建築設備	選択	G1	○			2	3			1	1	建築設備		70100
			建築デザイン論	選択	G1	○			2	3	1	1			建築計画		70100
			建築環境工学	選択	G1	○			2	3	1	1			建築環境工学		70100
			耐震設計法	選択	G1	○			2	3			1	1	構造力学		70100
			建築構法	選択	G1	○			2	3			1	1	建築一般構造		70100
	G2 都市環境コース専門科目	都市	都市計画	選択	G2	○			2	3	1	1			その他		70100
			交通計画	選択	G2	○			2	3	1	1					70100
			景観デザイン	選択	G2	○			2	3	1	1			その他		70100
			河川・海岸計画	選択	G2	○			2	3			1	1			70100
			空間情報工学	選択	G2	○			2	3			1	1			70100
			防災工学	選択	G2	○			2	3			1	1	その他		70100
			都市プロジェクトの評価	選択	G2	○			2	3			1	1	その他		70100
		環境	水圏の環境	選択	G2	○			2	2			1	1			70100
			気圏・地圏の環境	選択	G2	○			2	2			1	1			70100
			リモートセンシング	選択	G2	○			2	3	1	1					70100
			都市衛生工学	選択	G2	○			2	3	1	1					70100
			環境アセスメント	選択	G2	○			2	3			1	1			70100
			地球観測	選択	G2	○			2	3			1	1			70100
	コース専門科目	デザイン	建築都市デザイン演習Ⅰ	必修	G1・G2		○		③	1			3	3	建築設計製図		70100
			建築都市デザイン演習ⅡA	必修	G1・G2		○		②	2	2	2			建築設計製図		70100
			建築都市デザイン演習ⅡB	必修	G1・G2		○		②	2			2	2	建築設計製図		70100
			建築都市デザイン演習ⅢA	選択	G1・G2		○		2	3	2	2			建築設計製図		70100
			建築都市デザイン演習ⅢB	選択	G1・G2		○		2	3			2	2	建築設計製図		70100
			RGプロジェクト科目	選択			○		2	3			1	1			70100
		卒研等	建築・都市環境特別卒業研究	選択				○	3	3			3	3			
			建築・都市環境卒業研究Ⅰ	必修				○	③	4	3	3					
			建築・都市環境卒業研究Ⅱ	必修				○	③	4			3	3			
		キャリアデザイン	建築・都市環境インターンシップA	選択				○	2	2	2	2			随時		
			建築・都市環境インターンシップB	選択				○	2	2			2	2	随時		
			建築・都市環境インターンシップC	選択				○	2	3	2	2			随時		
			建築・都市環境インターンシップD	選択				○	2	3			2	2	随時		
			建築・都市環境インターンシップE	選択				○	2	4	2	2			随時		
			建築・都市環境インターンシップF	選択				○	2	4			2	2	随時		
			情報と職業入門	選択		○			1	全	1						
			情報と職業	選択		○			2	全			1	1			60600
			工業技術概論	自由		○			2	3			1	1			70100
			職業指導	自由		○			4	3	1	1	1	1			70200

※ 単位数が○で囲まれている科目は必修科目。

コースコードは、G1:建築コース・G2:都市環境コース
教職コードは、「教職課程」参照。

建設系資格に関する科目・進級条件一覧表

区分	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年	建築士	測量士	建設系資格	ビオトープ管理士
学系共通科目	導入	建築・都市環境学へのアプローチ	必修		①	1				
		立体図学	選択		1	1				
		建築・都市デザイン概論	必修		②	1	その他			
	数理・情報	基礎統計学	必修		②	1		*		
		計画数理	選択		2	2		*		
	構造	静力学	必修		②	1	構造力学	*		
		応用力学Ａ・演習	必修		③	2	構造力学	*		
		応用力学Ｂ	選択		2	2	構造力学	*	*	
		鉄筋コンクリート工学	選択		2	3	建築一般構造		*	
		鋼構造学	選択		2	3	建築一般構造		*	
		構造実験	選択		1	3	構造力学		*	
	地盤	地盤工学Ａ・演習	必修		③	2	構造力学	*		
		地盤工学Ｂ	選択		2	3	構造力学	*		
		土質実験	選択		1	2	構造力学	*		
	水理	水理学Ａ・演習	必修		③	2		*		
		水理学Ｂ	選択		2	2		*	*	
		水文学	選択		2	3		*		
		水理実験	選択		1	3		*	*	
	測量	測量学・演習	必修		③	2	その他	*		
		測量実習	必修		②	2	その他	*		
	材料	建設材料学	選択		2	2	建築材料		*	
		材料実験	選択		1	2	建築材料		*	
	施工	建設施工	選択		2	3	建築生産			
コース専門科目	建築	建築法規	選択	G1	1	3	建築法規		*	
		住居論	選択	G1	2	2	建築計画		*	
		建築計画学	選択	G1	2	2	建築計画		*	
		建築史	選択	G1	2	2	建築計画		*	
		建築設備	選択	G1	2	3	建築設備			
		建築デザイン論	選択	G1	2	3	建築計画		*	
		建築環境工学	選択	G1	2	3	建築環境工学			
		耐震設計法	選択	G1	2	3	構造力学	*	*	
		建築構法	選択	G1	2	3	建築一般構造		*	
	都市	都市計画	選択	G2	2	3	その他	*		*
		交通計画	選択	G2	2	3		*		
		景観デザイン	選択	G2	2	3	その他			*
		河川・海岸計画	選択	G2	2	3		*		*
		空間情報工学	選択	G2	2	3		*		
		防災工学	選択	G2	2	3	その他	*		
		都市プロジェクトの評価	選択	G2	2	3	その他			
	環境	水圏の環境	選択	G2	2	2				*
		気圏・地圏の環境	選択	G2	2	2		*		
		リモートセンシング	選択	G2	2	3		*		
		都市衛生工学	選択	G2	2	3		*		
		環境アセスメント	選択	G2	2	3				*
		地球観測	選択	G2	2	3				
	デザイン	建築都市デザイン演習Ⅰ	必修	G1・G2	③	1	建築設計製図			
		建築都市デザイン演習ⅡＡ	必修	G1・G2	②	2	建築設計製図			
		建築都市デザイン演習ⅡＢ	必修	G1・G2	②	2	建築設計製図			
		建築都市デザイン演習ⅢＡ	選択	G1・G2	2	3	建築設計製図			
		建築都市デザイン演習ⅢＢ	選択	G1・G2	2	3	建築設計製図			
		RGプロジェクト科目	選択		2	3				

※ビオトープ管理士については、上記に加え、生命科学系の「環境生物学」を履修してください。

オナーズプログラム

(HONORS PROGRAM)

オナーズプログラム

東京電機大学理工学部オナーズプログラム（HONORS PROGRAM　以下 HP）は、大学院理工学研究科（修士課程）進学を前提とした、学部・大学院一体の「3 + 3」6 年一貫教育を指向した特別プログラムです。将来的に発展が予想される学際領域における授業を行うため、通常の主・副コース科目の他に、HP 独自の科目を設定します。HP の科目は、企業、研究機関、他大学と連携することで、学系間・産学官横断型の最先端の教育研究を行い、将来連携先の企業、研究機関にて活躍できるような研究者、技術者の養成を目指します。また、大学院科目の先取り履修を活用することで、一般的なカリキュラムよりもゆとりを持って研究･留学･インターンシップなど、様々な活動に取り組むことができます。以上の趣旨のもと、本 HP は以下のような履修要件をとっています。

1. 対象学生：HP に参加したい学生であれば、どの学系の学生でも参加できます。ただ、後述のように理工学研究科にて HP に関連した研究活動を行いますので、HP に関係する専攻研究室に配属される必要があります。詳しくは HP ガイダンスにて説明しますので、確認してください。

2. 募集時期：3 年次 4 月に募集します。3 年次の進級時に GPA が 2.8 以上あることを条件とします。

3. 募集人数：各 HP とも 20 名程度を想定しています。

4. HP 認定：各 HP が指定する授業を学部・大学院修士課程の間に 20 単位以上修得してください。また、修士課程にて各 HP に関連した修士論文の提出をもって HP の認定証が与えられます。

○宇宙工学オナーズプログラム

（コンセプト）宇宙工学分野で活躍する人材の育成

（内容）みなさん、宇宙工学といって何をイメージするでしょうか？ロケット、人工衛星、はやぶさのような小惑星探査機などなど・・・
東京電機大学理工学部では、宇宙産業で活躍する人材育成を目的として、宇宙工学オナーズプログラムを立ち上げました。
知っての通り、人工衛星は、気象衛星や GPS で広く利用されています。
また近年、人工衛星は環境分野、農業分野はたまた医療分野への応用・展開が期待されています。
本プログラムは、「宇宙情報」「宇宙システム」に重点をおき、衛星から送られてくる大量の情報の解析や、衛星との通信技術、小型衛星の設計開発に必要な基礎知識を身

につけるプログラムを用意しました。
本プログラムの修了生が、得られた知識や経験を通して、宇宙産業のみならず様々な分野での活躍する姿を楽しみにしています。
宇宙工学オナーズプログラムは、みなさんを乗せて将来（宇宙）に向かってリフトオフ！

○生体医工学オナーズプログラム

（コンセプト）人にやさしい生体医工学の追求

（内容）生体医工学オナーズプログラムでは、学部と修士課程を連結した“3 + 3 年教育”の6年一貫教育プログラムとして、「人間を対象とした工学に関する知識や技術」を体系的に学びます。工学的手法を用いて生体機能を理解し、生命に適合した工学技術を創成するための専門知識と技術を修得し、生体医工学分野で活躍できる基礎能力を身につけます。さらに、学内外での最新の医工学研究に接する機会を通じて、生体医工学分野における問題点を理解し、他者との協働により、実践的に問題解決に取り組むことができる基礎能力を身につけます。
現在の日本は世界に先駆けて超高齢化社会へと移行しつつあり、様々な問題に直面しています。これらに対し、生活を支援する福祉機器や、命を救うための医療機器や人工臓器、更には再生医療など、生体医工学は重要な役割を果たします。本プログラムでの学修や研究活動を通じて生体医工学オナーズプログラムでは、豊かな人間性と生体医工学の知識および技術を兼ね備えた科学者および技術者の育成に取り組みます。

○環境工学オナーズプログラム

（コンセプト）生存圏の環境問題や環境保全に関連する様々な課題への取り組み

（内容）昨今の異常気象（温暖化、砂漠化、集中豪雨など）は、近代社会において化石燃料をエネルギーとして利用した結果発生した地球温暖化ガスである二酸化炭素の大気中濃度の増加によることが原因の大きな一つです。また、生活の質の向上に伴い発生した様々な化学合成品、農薬類や廃棄物等が自然環境中に漏出し、それらが土壌・地下水・河川・海洋水を汚染し、環境問題を引き起こしています。更に、都市化・工業化・モータリゼーションの発達は、ヒートアイランド現象や大気汚染、公害問題などを引き起こしてきた。国内だけの問題ではなく、世界的にこれらの環境汚染に伴い、種の多様性、生態系多大な負荷をかけています。
環境工学オナーズプログラムでは、現状の環境汚染実態を把握し、その汚染と汚染拡大の機構を理論化して、現在および今後予想される課題を明確にすると同時にその解決技術を開発するための人材の育成を目的とします。また、モニタリング、センシング技術、環境保全のための技術や物理的・化学的・生物学的な環境修復するための理論と技術を習得します。

平成30(2018)年度カリキュラム オナーズプログラム 授業科目配当表

HP

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	授業形態			単位数	学年	前期		後期		備考	教職コード
						講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
専門教育科目	コース専門科目	オナーズプログラム	オナーズプログラムA	選択			○		2	3	1	1				
			オナーズプログラムB	選択			○		2	3			1	1		

※ 上記科目の他に学系に配置している科目があります。

第４章
履修案内

1　授業科目

1　教育課程

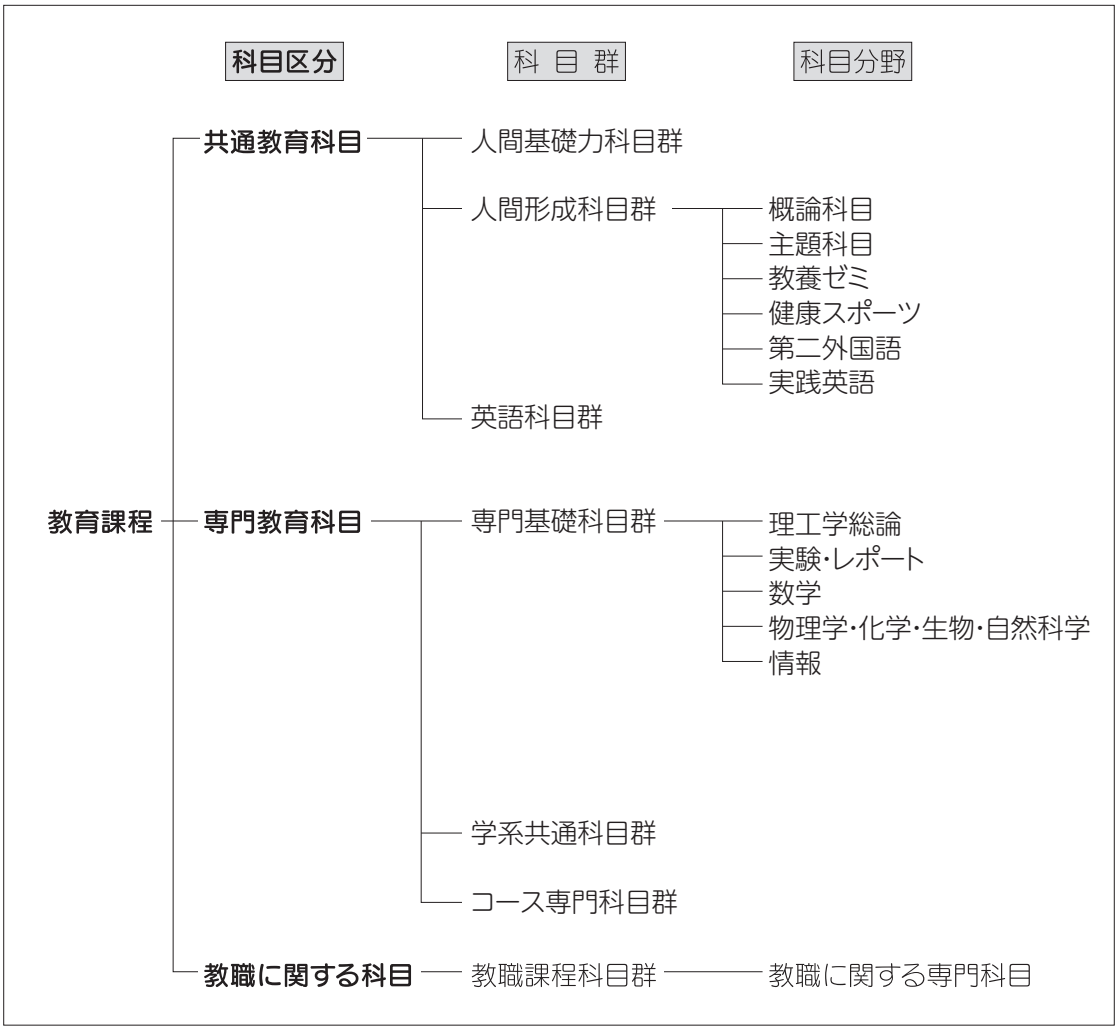
教育課程（以下、カリキュラム）とは、科目の配当や進級条件・卒業要件を定めたもので、万一留年しても卒業まで変更されることはありません。

2018 年度に入学した学生のカリキュラム　　：2018 年度カリキュラムを適用
2018 年度に 3 年次編入した学生のカリキュラム　：2016 年度カリキュラムを適用

同一学系・学年であっても、カリキュラム年度によっては、配当されている科目や単位数、必修・選択区分などが異なる場合があります。詳細は「授業科目配当表」に記載されています。

カリキュラム年度は UNIPA の【学籍照会】画面で確認できます。

本学部ではカリキュラムを次のように構成しています。



2　科目の区分（必修・選択・自由科目）

科目には次の区分があります。

区　分	内　　容
必修科目	単位修得が義務づけられている科目。卒業するためには必ず単位を修得しなければいけない。
選択科目	各人の意思により選択する科目。単位修得の義務はないが、卒業所要単位数に算入される科目。ただし、各学系の「進級条件」「卒業要件」「カリキュラムマップ」等に留意すること。
自由科目	単位は修得できるが、進級・卒業所要単位数には算入されない科目（主に教職の科目）。

3　配当学年

科目は、カリキュラム上体系的に関連づけられており、学修が効果的に行われるよう開講される学年が予め定められています。従って、自分の学年以下に配当された科目を履修することになります。上級学年に配当された科目は特別の場合を除いて履修できません。

4　配当期

科目の開講される期間（配当期）により、次のように区分されます。

通年科目	1 年間 28 週にわたって授業が行われる科目
前期科目	前期半年間 14 週にわたって授業が行われる科目
後期科目	後期半年間 14 週にわたって授業が行われる科目
四半期（前前期、前後期、後前期、後後期）科目	1/4 年間 7 週にわたって授業が行われる科目 学期の開始と終了日は主要行事予定で確認すること。
集中講義科目	開講曜日・時限が定期ではなく、特別な期間に集中して開講される科目。

5　単位数

大学では、各科目の授業形態に応じて単位数が定められています。単位とは科目の学修量を数値化したものです。授業科目の 1 単位は、45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

各科目の単位は、その授業方法・授業時間外に必要な学修を考慮し、次の基準により計算します。

科目種別	基　　準
講義及び演習	15 時間の授業をもって 1 単位
実験・実習・製図及び実技	30 時間の授業をもって 1 単位
卒業研究等	学修の成果を考慮して単位数を定めている

必要な学修時間の計算例

授業形態		科目の単位数	学修必要時間①	授業時間数②	授業時間外に必要な学修時間※
講義・演習	半期科目 15 時間で 1 単位	2 単位	45時間×2単位 ＝90時間	15時間×2単位 ＝30時間	①90時間－②30時間＝60時間
実験・実習等	半期科目 30 時間で 1 単位	2 単位	45時間×2単位 ＝90時間	30時間×2単位 ＝60時間	①90時間－②60時間＝30時間

※各科目における授業時間外に必要な学修時間についてはシラバスを参照のこと。

2 授 業

1 学年と学期

授業は一定の期間継続して行われます。期間には、「学年」と「学期」という概念があります。

学 年	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで
学 期	前学期（前期）：4 月 1 日から 9 月 14 日まで 後学期（後期）：9 月 15 日から 3 月 31 日まで

ただし、授業開始日と学期の開始日が異なる場合がありますので、その年の学事日程で確認してください。また、授業日程の年間スケジュールは、毎年掲示で確認してください。

2 授業時間

授業時間は、以下のように定められています。

	1 時限	休憩	2 時限	休憩	3 時限	休憩	4 時限	休憩	5 時限
時間	9：20 ～ 11：00	10 分	11：10 ～ 12：50	50 分	13：40 ～ 15：20	10 分	15：30 ～ 17：10	10 分	17：20 ～ 19：00

3 授業時間割

授業は、週単位で決められた**授業時間割**に従って行われます。

⑴ 種類

授業時間割表には「共通教育・教職科目時間割」「専門基礎科目時間割」「学系配当科目時間割」の 3 種類があり、冊子体（紙）、DENDAI － UNIPA、又は、ホームページにおいて見ることができます。

- **「共通教育・教職科目授業時間割表」**（全学系共通）
  人間基礎力科目群・人間形成科目群・英語科目群・教職課程科目群の科目が掲載されています。

・**「専門基礎科目授業時間割表」**（全学系共通）
専門基礎科目群の科目が記載されています。
・**「学系配当科目授業時間割表」**
学系共通科目群およびコース専門科目群の科目が記載されています。

⑵ 内容と注意

①３種類の授業時間割表をあわせて、その年度に履修できる全ての科目を網羅することになります。
②授業時間割表には、科目名・カリキュラム年度・担当教員名・教室番号が曜日・時限・配当期ごとに記載されています。
③科目名に学年・学系の記載がある科目については、その対象学生の履修が優先されますが、対象外の学生も人数に余裕がある場合は履修することができる場合があります。
④集中講義科目については授業時間割表の月～土曜日の次に記載してあります。
⑤カリキュラム年度は入学した年度です。授業時間割表では略して「'18」と記載し、該当する学生の履修可能である科目を「●」印で表しています。

4 休 講

以下の場合、休講となります。
⑴ 学校行事を行う場合。（主要行事予定表・DENDAI － UNIPA により連絡します）
⑵ 授業科目担当教員にやむを得ない理由が生じた場合。（DENDAI － UNIPA 等により連絡します）
⑶ 休講のお知らせがなく、授業開始時間から 30 分を経過しても授業科目担当教員がやむを得ない理由で講義を開始できない場合。（自然休講と呼びます）
ただし、特別な指示により、それ以上経過しても授業を行う場合があります。
⑷ 東武東上線が運休の場合。（P 12 参照）
⑸ 地震、台風、大雪などの自然災害により不測の事態が発生した場合。（P 12 参照）

5 補 講

休講等で授業回数が不足した場合は、補講を行います。補講の日程は授業科目担当教員によって指示されます。

月～金曜日の５時限、又は土曜日に、授業担当教員が通常授業および、大学・学部行事に支障がないと判断した日時に補講を実施します。日程は、授業中又は DENDAI － UNIPA によりお知らせします。

6 授業の出席確認

授業の出席確認は、授業教室においてタブレット端末に、学生証をタッチして行います。担当教員の出席確認の指示に従って行ってください。授業によっては、遅刻・早退等の確認をするため、複数回の出席を取る場合もあります。タブレット端末にて出席確認を行った場

合は、DENDAI − UNIPA で確認することができます。また、出席確認の方法は、授業によってはタブレット端末によらない場合もありますので、教員の指示に従ってください。学生証を忘れた場合は、授業時に担当教員に申し出てください。



学生証タッチイメージ

⑴ 学生証を正常に読み込めた場合の画面



画面中央に学籍番号が表示されていれば、正常に読み取りが完了です。次の人がタッチできます。

⑵ 学生証を正常に読めなかった場合の画面



画面中央に赤の枠でエラーメッセージが表示されます。もう一度、学生証をタッチしてください。

何回行っても学生証を読み込めない場合は、出席していることを担当教員に申し出るとともに、学生厚生担当で学生証の確認を受けてください。出席、遅刻、早退以外の画面が表示されている場合は、担当教員にお知らせください。

7　授業の欠席

病気・ケガ等のやむを得ない理由で授業を欠席する場合は、教務担当窓口で欠席届の用紙を受けとり、必要事項を記入の上、診断書等欠席を証明出来る物を添えて提出してください。ただし、公欠制度はありません。届出に対して大学（科目担当教員等）が判断を行います。

	欠席日数（連続した欠席日数）　※土日祝を含む	
	6 日以内	7 日以上
保証人記入欄の記入	不要	必要
提出先	各科目担当教員	教務担当窓口

8　提出物期限の厳守

履修登録・レポート・製図等の提出物には、必ず期限が定められています。期限を守らないと成績評価を受けられないことになりますので、期限・提出場所は厳守するように注意してください。

本館 1 階事務室内にある教務担当レポート BOX は、提出期限になったら撤去します。撤去後の扱いは行っていません。（事務室ではホチキス等の貸出しを行っていません）

提出先レポート BOX の入れ間違いについても、対応しません。

9　授業評価アンケートについて

目的：授業評価アンケートは、授業の充実度・専門性の向上など、より優れた授業の実現のために実施します。

種類：授業評価アンケートには大別すると 2 つの種類があります。一つは、理工学部の共通フォーマットにて行われるもの。また、もう一つは学系および共通教育群などの独自のフォーマットにて行われるもの。どちらの場合においても、科目担当教員の指示により行ってください。

注意：授業評価アンケートは授業内容の向上につながるため、率直な意見を記載してください。ただし、一時的な感情やいい加減な考えではなく、授業での様子をできるだけ正しく伝えるようにしてください。

集計結果の閲覧：授業評価アンケートの集計結果については、Web（キャンパス内のみ）、事務室窓口等で閲覧出来ます。

10　その他授業について

⑴ 授業等のガイダンス

授業科目のガイダンスは、初回の授業等に必要に応じて行われますので、必ず出席してください。特に、実験・演習・体育等については、グループ分け等の説明がある場合

が多いので、出席しないと履修に支障が出る場合があります。

⑵ **テストによるクラス分け**

「英語」「数学」「物理」「化学」の科目では、プレースメントテスト等によりクラス分けを行います。

⑶ **e-Campus 科目**

東京電機大学では、平成 18 年度より遠隔授業を行っています。遠隔授業で行う科目は別途 DENDAI − UNIPA で確認してください（開講しない場合もあります）。

＊ 1　他学部履修の扱いになる科目もあります。
＊ 2　授業時間は、別途 DENDAI − UNIPA で確認してください。なお、他キャンパスにて履修者がいない場合、授業時間等の変更がある場合もあります。
＊ 3　その他変更等のお知らせは DENDAI − UNIPA で行います。

11　学習サポートセンター（SSC）

みなさんが大学の授業を受ける上では、高校までに学んできた数学、物理学、化学、英語が基礎となり重要になってきます。

学習サポートセンター（SSC）では、上記科目の基礎の復習、見直し、勉強を進める上での相談など学習の支援を行っています。上級学年で学習する科目の理解力（応用力）を高めるとともに、高校時代に学習した内容の理解に不安がある場合にも対応します。

基礎科目をもう一度勉強し直したい。勉強方法などを相談したい。そう思った時は、親切丁寧に対応しますので、いつでも気軽に利用してください。

教員構成	非常勤教員・学習サポートセンター指導員・ティーチングアシスタント（TA）
対象科目	数学・物理学・化学・英語
実施形態	個別指導、グループ学習　　※希望によりどちらも対応
実施場所	学習サポートセンター　12 号館 1 階 126 室
（受付）	基礎教育センター・学習サポートセンター教員室　12 号館 1 階 127 室
開室時間	12:00 ～ 18:00（授業期間中）　　※予約も可能

科目により、開室曜日が異なります。本館 1 階にある学習サポートセンターの掲示板のポスターまたは DENDAI − UNIPA を参照してください。

3 履 修

進級や卒業には、後述するように一定の条件が定められていますので、4 年間の学修について、自己責任と自己管理が重要であることを自覚し、次の点を考慮して履修計画を立ててください。

1 履修計画注意点

① 各学系・共通教育群のページにある「履修モデル」を参考にして、履修科目の見通しを立ててください。
② 授業科目配当表と学期始めに配布する授業時間割表を参考にし、シラバスを読んで、授業科目の内容をつかむようにしてください。
③ **必修科目の履修登録**を忘れないようにしてください。
④ 各学系で定められている、**進級条件・卒業要件**をクリアできるように充分に考慮し、余裕をもって履修してください。
⑤ 履修上限単位数（48 単位／年）を超えないように注意してください。
⑥ 同時限に開講する科目を重複して履修することはできないので注意してください。
⑦ 履修できる科目は、各自のカリキュラム年度の科目のうち、所属する学年又は原則として下級年次に配当された授業科目のみとなります。
⑧ 理工学部以外（他学部、他大学、短期大学、大学以外の教育施設）の科目も一定の条件内で履修できます。

2 履修登録

⑴ 履修登録の意味

各自がどの授業に出席し、どの科目を修得しようとしているのかについて、大学へ届け出ることを履修登録といいます。（必修科目も履修登録する必要があります）

> 履修登録していない科目は、授業に出席することも、学期末試験を受験することもできません。

⑵ 履修登録の期間

履修登録は、定められた期間に学生自身が行います。

⑴ 履修登録期間（1 年間分の履修登録）・・・・4 月
⑵ 履修登録修正期間（1 年間分の履修登録）・・4 月
⑶ 履修登録修正期間（後期分の履修登録）・・・9 月

※詳細の日程等については、DENDAI － UNIPA によりお知らせします。

⑶ **履修登録の方法**

履修登録は、履修期間内に学生自身が DENDAI − UNIPA で入力します。(学内設置のパソコン、教務担当窓口に置いてあるパソコン、その他の場所でもインターネット接続可能なパソコンから行う事ができます。なお、一部 DENDAI − UNIPA 以外での申請科目もあります)

履修登録期間中であれば何回でも修正することができます（学内に設置してあるパソコンは使用できる時間が決まっています)。履修登録を行う際には、あらかじめ自分の履修したい科目を決定してからパソコンに向かい、すみやかに作業を終了するようにしてください。

また、**パソコンの操作ミスを含む入力ミスや、勘違い等による履修登録漏れがあった場合でも、履修登録期間及び履修登録修正期間以外では一切認められません**ので、履修登録の確認期間には各自で責任を持って確認してください。

なお、科目によっては**科目担当教員が履修制限する科目**があります。DENDAI − UNIPA や授業等で履修可能者やクラス分け結果をお知らせします。

履修登録結果は、後日、DENDAI − UNIPA で公開します。各自で必ず確認し、修正（追加及び取消等）の必要があるときは所定期間内に手続をしてください。

詳細は適宜 DENDAI − UNIPA で確認するようにしてください。

3　履修上限について

1 年間に履修することができる単位数（履修上限単位数）は **48 単位**と定められています。従って進級条件および卒業要件に注意しながら、しっかりと 4 年間の履修計画を立てることが必要となります。

なお、以下に該当する場合もしくは以下の科目については**履修上限 48 単位**の制限を受けません。

⑴ **履修上限の制限を受けない場合**

以下の基準に適用する成績優秀者に対して、学系の判断により認める。(1・4 年次生は除く)

※対象学生：全成績評価（自由科目および「R」評価は除く）の 85%以上が S 又は A 評価であり、かつＧＰＡが 3.4 以上の学生（1・4 年次生は除く)。

追加履修を認める単位数：教育的配慮の上、学系長の判断とする。

⑵ **履修上限の制限を受けない科目**

①自由科目
②海外英語研修・アウトドア実習
③「インターンシップ」「海外事情」

4　重複履修の禁止

⑴ **同一時限における重複履修の禁止**

原則として同一の配当期・曜日・時限の科目を重複して履修することはできません。

⑵ **同一科目の重複履修の禁止**

同一科目が複数開講されていても、一科目のみしか履修することはできません。
（担当教員や開講学系が異なっていても履修することはできません）

5　上級年次科目の履修について

上級年次に配当されている科目は履修できません。

但し、以下の基準に適用する成績優秀者に対して、学系及び学部長の判断により履修が可能となります。

適用学生：全成績評価（自由科目および「R」評価は除く）の 85%以上がS又はA評価であり、かつＧＰＡが 3.4 以上の学生（1 年次生は除く）。

※履修上限単位に含まれます。
※履修可能な科目については所属学系にお問い合わせください。
※上級年次科目の成績評価は、正規履修科目と同様に成績表に表記されます。

6　他学系・他コース科目の履修

下記の科目以外の専門教育科目は、「自主選択科目」となります。

・専門基礎科目
・選択した主コース・副コースの属する学系の学系共通科目
・主コース専門科目
・副コース専門科目

7　他学部科目の履修

未来科学部・工学部・工学部第二部・システムデザイン工学部・情報環境学部科目の履修を希望する学生は、本人の所属する学系長、又は専任教員の承認を得た上で、授業担当教員の承認を得れば履修することが出来ます。

8　他大学科目の履修

⑴ 東京理工系 4 大学による学術と教育の交流に関する協定に基づく単位互換について

東京電機大学・工学院大学・芝浦工業大学・東京都市大学の 4 大学間において、単位互換の協定を締結しています。これにより希望者は特別科目等履修生として、上記の本学を除く他の 3 大学の科目を履修することが出来ます。

⑵ 東洋大学との単位互換について

本学部は東洋大学と単位互換の協定を締結しています。これにより希望者は特別科目等履修生として、東洋大学の科目を履修することが出来ます。

⑶ 彩の国大学コンソーシアムについて（ホームページ：http://www.saicon.jp/）

本学部では、埼玉県に所在する 17 大学と「彩の国大学コンソーシアム」という協定を結んでおり、その中で以下の 9 大学と単位互換協定を行っています。

跡見学園女子大学、十文字学園女子大学、城西大学、尚美学園大学、駿河台大学、

西武文理大学、大東文化大学、東京家政大学、文京学院大学

⑷ 山村学園短期大学との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い

本学部では山村学園短期大学との間に単位互換協定を結んでいます。本協定により、希望者は特別科目等履修生として、山村学園短期大学の科目を履修することができます。

9　他学部・他大学科目の履修手続

他学部・他大学科目履修を希望する学生は、所属する学系長又は専任教員の承認を得た上で、授業担当教員の承認を得ることが必要です。

これらの履修を行う際に許可をもらう人及び履修費については、以下の表を確認してください。

	許可をもらう人	履　修　費
東京理工系４大学	所属する学系長	無　料
東洋大学	所属する学系長	無　料
彩の国大学コンソーシアム	所属する学系長	１大学 2,000 円
山村学園短期大学	所属する学系長	１単位 500 円
他学部科目	所属する学系長又は専任教員、科目担当教員	無　料

また、履修するにあたっては以下の点に注意してください。

① 理工学部配当表の科目と内容が重複する科目は認められません。(特に修得済みの科目や履修中の科目と内容の重複する科目は認められません)

② 自分の所属する学年又は原則として下級年次配当の科目でなければなりません。

③ 他の履修科目と時限が重複しないように気をつけてください。特に他大学、他学部の科目を履修する場合は、移動時間を含め、本学部の授業と重複しないように注意してください。(試験の日程が重なった場合も特に便宜はありません)

④ 履修上限単位数に含まれます。

⑤ 通学定期券の発行はできません。

他大学・他学部・他学系で修得した単位について

他大学・他学部・他学系等において修得した単位は、入学前の既修得単位等を合せて 60 単位を超えることは出来ない。

10　その他履修について

⑴ 履修人数の制限

履修登録は DENDAI － UNIPA 等で受け付けますが、科目によっては履修登録を受け付けた結果１つの時限に履修者が集中し、その履修人数が教室等の関係で一定人数を超

えた場合に限り、履修人数の制限をかける場合があります。

履修人数は抽選又は科目担当教員の判断により制限をかけ、それらの結果によっては、希望する科目を履修できない場合があります。

履修登録に関する詳細や履修登録期間・具体的な履修登録方法等は DENDAI － UNIPA によりお知らせします。

⑵ 科目名の最後についているⅠ・Ⅱ、A・Bについて

Ⅰ・Ⅱというのは、Ⅰを履修してからⅡを学ぶことを原則としている科目です。

A・Bというのは、Aを履修してからBを学ぶほうが望ましいという科目です。

いずれも半期制の科目ではありますが、通年科目のつもりで履修計画を立ててください。

⑶ 卒業研究の履修登録について

卒業研究は自分の所属する学系（主コース）で履修登録をしてください（必修科目です）。

⑷ スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ

この科目は、授業時間割表の表記と DENDAI － UNIPA の表記が異なっています。

授業時間割表の表記は「スポーツ実習（種目名）」として記載され、DENDAI － UNIPA の履修登録の表記は「スポーツ実習Ⅰ～Ⅵ」となっています。

履修登録の際には自分の履修したい教員名で選択し、スポーツ実習ⅠからⅥの順番になるように履修登録を行ってください。

⑸ 履修登録をしなくても良い科目

・海外英語研修
・アウトドア実習
・インターンシップ
・海外事情

これらの科目は、参加の申し込みを行った後、参加が許可されることにより履修登録した事になります。（参加が許可されない場合もあります）

なお、実施の時期により**年度内に成績（単位）がつかない**場合がありますので、年度末に実施される研修については必ず事前に確認してください。

⑹ インターンシップ科目

インターンシップは、履修及び履修登録の取り扱いが他の科目と以下の点において異なりますので注意してください。

ア　インターンシップについて

インターンシップとは、一般的には、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことであり、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」としてとらえられています。（労働報酬はありません）

本学部でのインターンシップに関する科目は、全学系に開講され、講義科目の「情

報と職業入門」及び実習科目の「インターンシップ」にて構成されています。

実習科目の「インターンシップ」を履修する学生は、その前提科目として「情報と職業入門」の単位を修得しなくてはなりません。

イ　履修の取り扱い

インターンシップは科目配当表に記載されている複数の「インターンシップ」のうち、在籍学年に配当されている科目のみが履修可能であり、下級年次科目としての履修や再履修はできませんので、授業科目配当表を確認の上注意してください。

ウ　インターンシップ科目の運用

インターンシップ科目の運用は以下のようになります。

・履修の希望を学系へ申し出て企業を決定します。
・１企業あたりの派遣学生数は企業毎に異なります。
・研修期間は合計２週間程度。
・研修形態は学系と打ち合せ、決定します。
・**履修登録の手続きは不要**です。
・履修上限単位数には含まれません。
・**研修前には必ず「情報と職業入門」の単位を修得**し、事前指導を受けてください。
・評価は学期末もしくは、翌年度となります。

エ　履修の形態

インターンシップは、全学系に配当されていますが、科目名は履修した時の在籍学年・配当期によって次の通りになります。（学系により科目名は異なります）

２年次前期：インターンシップA　　後期：インターンシップB
３年次前期：インターンシップC　　後期：インターンシップD
４年次前期：インターンシップE　　後期：インターンシップF

⑺ 海外研修における振替について

理工学部において各種海外研修に参加した学生は、以下のような科目に振替られます。海外研修の実施については掲示又は学生厚生担当に確認してください。（実施されない場合もあります）

ア　海外研修の研修校及び実施時期について

・フランス国立高等精密機械大学院大学（フランス）
　実施時期：２月～３月（２週間）
　最終実施年度：平成 14 年度
・上海交通大学（中国）・西安交通大学（中国）
　実施時期：８月～９月（２週間）
　最終実施年度：平成 10 年度

※実施時期についての詳細及び申込みについては、掲示又は学生厚生担当にお問合せください。

イ　振替科目について

人間形成科目群の「海外事情」に振替となります。
（在学期間中にこの振替えができるのは１回のみとなります）

ウ　履修について

海外研修の参加申込をすることにより履修となります。
また、この履修は履修上限には含まれません。

⑻ 重複履修特定科目について

特定科目とは、**再履修者**に対しその科目担当教員が、授業時間外に指導すること等を条件に、重複履修を許可する科目のことをいいます。該当科目がある場合は、DENDAI－UNIPA でお知らせします。

⑼ 単位修得している科目は再履修することはできません。

⑽ 同一の科目名の科目は、学部･学科･学系で配当の所属が異なっていても、1 科目のみしか、履修および単位修得することはできません。

11　再履修

履修した授業科目の単位が修得できなかったときに、再度その科目を履修からやり直すことを、**再履修**といいます。（単位修得済みの科目を再履修することはできません）

⑴ 再履修上の注意

①必修科目の単位を修得できなかったときは、必ず再履修しなければなりません。
②選択科目の単位を修得できなかったときに、再履修するかしないかは、各自の意思に任せられますが、その際、進級条件、卒業要件等に充分注意してください。
③再履修科目の担当教員が前年度と変更になった場合は、再履修年度の担当教員のもとで再履修しなければなりません。
④授業時間割は前年と同学期及び同曜日・同時限に配置されるとは限りません。
⑤再履修科目の履修登録・受講・試験等については、新規での履修の場合と同様です。

4　試　験

授業科目の単位認定の方法として、試験が行われます。試験には、学期末試験・中間試験・追試験等があります。いずれの試験も**受験する際には必ず学生証を携帯してください。**

なお、試験は筆記のほかに、レポート提出・口頭試問などの方法により行われることもあります。

1　学期末試験

学期末試験は、原則として授業時間中に行われ、一部の科目については学期末の学部が定める期間（特定日※）に行われます。（科目によっては、小テスト、レポートなどの内容により採点する為、行わない場合もあります。）

※不測の事態により試験日程が変更され、急きょ特定日に試験が実施されることがあります。

⑴ 学期末試験の受験資格

学期末試験受験のためには、以下の条件を備えていることが必要となります。

① 履修登録をした授業科目であること。
② その学期までの学費を納入していること。
③ 休学期間中ではないこと。

⑵ 学期末試験受験上の注意

学期末試験の受験に際しては、以下のような注意が必要です。授業中に実施する場合や学部の指定する期間に実施する場合にかかわらず熟読し、よく理解しておいてください。

ア　試験時間割等の確認

試験日・試験時間割・試験教室・座席表など試験に関する情報は、試験開始日のおおむね 1 週間前に DENDAI － UNIPA にて公開されます。試験教室が通常の授業の教室と変更となる場合等がありますので、よく確認してください。

イ　試験教室・座席の指定

試験教室・座席は、学籍番号により以下の 3 種類の指定があります。DENDAI － UNIPA で確認してください。

・授業着席（隣席との間を空けずに着席します）
・試験着席（原則として隣席との間を 1 席分空けて着席します。）
・教員にて指示（科目担当教員により事前に掲示等での指示、また当日口頭での指示等があります）

ウ　遅刻・退出について

遅刻－試験開始後 30 分を経過すると入室は認められません。
退出－試験開始後 40 分を経過しないと退出は許可されません。（ただし、終了 10 分前まで）

なお、事情により、上記に拠らない場合がありますので、試験監督者の指示に従ってください。

エ　学生証について

学生証は常に携帯し、試験（学期末試験・中間試験・追試験等）のときには常に机の上に出しておかなければなりません。また監督者からの要求があったときには、必ず提示しなければなりません。

学生証を持参していない学生は、いかなる理由があっても受験できません。

注）学生証を忘れた者は、証明書自動発行機で仮受験票を発行してください。ただし仮受験票発行には 1,000 円の手数料がかかります。当日 6 時限分の仮受験票が紙で出力されますので、該当の時限分を切り取って使用してください。なお、仮受験票は当日のみ有効ですので、受験しない時限分の仮受験票は各自で処分してください。

オ　試験場での心得

試験期間中は試験監督者が一切の権限を持ちます。試験監督者の指示に従わない者や、態度不良の者は退室を命ぜられることがあります。

また、携帯電話等の持ち込み（時計としての使用も不可）は禁止しています。

カ　棄権

試験を棄権する場合でも、答案用紙に必ず、学年・学系・学籍番号・氏名を記入し提出しなければなりません。

キ　不正行為

カンニングなど不正行為をした者は、退室を命じられたうえ、原則として**その学期末試験の全部の試験が無効**となります。

2　追試験

⑴ 追試験の受験資格

以下に示す真にやむを得ない理由により学期末試験を受験できなかった場合、追試験を受験することができます。

① 病気で受験できなかった場合
② 親族の死亡などで受験できなかった場合
③ 交通機関の運休・遅延などで受験できなかった場合
④ 火災・台風災害などに罹災した場合
⑤ 上記と同程度と認められる本人の責任でないやむを得ない理由がある場合

※追試験の実施方法は科目担当教員の判断によります。

⑵ 手続き

追試験を希望する学生は、追試験願に医師の診断書等の**欠席理由を証明する書面等**を添えて、欠席した試験の実施日から 3 日以内（休・祝日を除く）に、教務担当へ提出してください。追試験は、追試験願受付期限終了後の 2 日後から実施されます。

（追試験手数料は、1 科目につき 500 円です。）

3　中間試験等

学期末試験以外の通常の授業中に行う小テストや学期の途中で行われる中間試験は、授業科目担当教員が実施日・方法などを決定し、授業中又は DENDAI − UNIPA により伝達します。

5　成　績

授業担当教員が採点し、60 点以上の評点を得たとき合格となり、その授業科目について定められた単位数が与えられます。これを大学側から見て「単位認定」、学生側から見て「単位修得（取得）」といいます。

単位認定は、原則としてその授業科目の履修が終わる配当期の終了時点に行われます。一旦単位を修得（取得）した授業科目は、履修の終了が認定されたことになるので、再度の履修をすることはできません。

1　成績評価基準

評点に対し、**S・A・B・C・D・ー**の評価が与えられ、本人が確認する成績通知書にはこの評価と評点が記載されます。**なお成績証明書には、評価のみ記載となり、不合格（D・ー）の評価の科目は記載されません。**

成績（評点・評価）

評点と評価の関係は、次の通りです。

判定	成績評価		評点	成績評価基準
	成績通知書	成績証明書		
合格（単位修得）	S	S	90～100点	当該科目の到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を収めている。
	A	A	80～89点	当該科目の到達目標を十分に達成し、優秀な成績を収めている。
	B	B	70～79点	当該科目の到達目標を達成し、妥当と認められる成績を収めている。
	C	C	60～69点	当該科目の到達目標を最低限達成した成績を収めている。
	R	R	認定された科目	以下のうち、当該科目の到達目標を満たしていると認定されたもの。 ・単位互換等で他大学より修得した単位 ・編入学・再入学・転学部等において、入学前に修得した単位 ・本学部で指定する資格等の取得
不合格	D	記載されません	0～59点	当該科目の到達目標を達成していない。
	ー		放棄	試験を受験していない、もしくはレポートの不提出などで当該科目を放棄したとみなされるか、評価できない。

＊　履修中（履修した授業科目にまだ評点が入らないとき）

注 (1) 単位認定の時期は、その授業科目の履修が終わる配当期の終了時点（前期末・後期末）です。これは再履修の場合も同じで、これ以外の時期に単位認定が行なわれることはありません。

注 (2) 配当期が変更された科目を再履修した場合の単位の認定の時期は、原則として現に受講している科目の配当期末とします。

2　成績の通知

前期の成績通知は 9 月上旬に、後期の成績通知は 3 月上旬に DENDAI − UNIPA で発表します。

成績評価は授業担当教員が厳正に行いますが、シラバス記載の評価方法・自身の学習態度や提出物・試験結果等から考えて評価内容に明らかな誤りがある場合、所定の期間内（前期は９月上旬、後期は３月上旬を予定）に限り、教務担当窓口に申請をしてください。具体性を欠く内容や嘆願的な内容の申請は受け付けません。詳細は掲示でお知らせします。

成績の通知後、担当教員から採点の訂正がおこなわれた場合でも、原則としてその都度の訂正および発表は行われず、次学期の成績に反映されます。

3　成績順位

本学部では、成績の総合評価の指標として GPA（Grade Point Average）を採用しています。

GPA とは、科目を履修して最終的に与えられた S・A・B・C・D・ーの評価（Grade）に 4 ～ 0 のポイント（Point）を配当しそれに単位数を掛け、修得したポイントの合計と単位数をもとに算出する平均値（Average）です。

そのポイントと計算式は以下のようで、GPA の最高値は“4”となり、最高値に近いほど評価が高くなります。

【ポイント】

評　点 (100 点法)	成績評価	ＧＰ (グレードポイント)	合　否
90 ～ 100	S	4	合　格
80 ～ 89	A	3	
70 ～ 79	B	2	
60 ～ 69	C	1	
0 ～ 59	D	0	不合格
放　棄	ー	0	

【計算式】

$$GPA = \frac{(\text{各科目の単位数} \times \text{その科目で得たＧＰ（グレードポイント）})\text{の合計}}{\text{履修登録した科目の単位数の合計}}$$

※　GPA の値は、小数点第 4 位を四捨五入して、小数点第 3 位まで表示します。
※　分母の「履修登録した科目の単位数の合計」には、履修中の科目は含まれません。
※　卒業要件とならない科目（教職に関する科目・自由科目）は含まれません。
※　対象科目は履修し評価を受けた科目となるので、資格等で認定された単位**（R 評価）**は含まれません。

【用　途】

※　成績証明書等に記載します。

※　学部内における判定等（3 年次在学における卒業・履修上限を超えての履修・就学指導・その他）に使用します。

6　学生アドバイザーによる学修指導

1　面談指導

学力不振、学修意欲不振等の学生に対して、早期に適切な指導を行うことにより、学修活動の改善を支援することを目的として、面談指導を実施します。

（1）1 年次生対象（前期）

以下のいずれかの基準に該当する学生

・履修申告単位が 0 単位の者

・正当な理由がなく、無届で 1 ヶ月以上欠席した者

（2）成績不振者対象 (1 年次後期～ 3 年次)

以下のいずれかの基準に該当する学生

・前の学期の GPA が 1.1 未満の者

・正当な理由がなく、無届で 1 ヶ月以上欠席した者

（3）留年生対象

2　学修指導

学力不振の継続により進級・卒業が困難な状況にある学生に対して、早期指導を行うことにより、学生の学修意欲向上、学修活動の改善を支援することを目的として、面談指導を実施します。

2 学期連続（休学期間を除く）して、以下の両基準に該当し、面談の結果、学修意欲が欠如していると判断された場合は、学系長が、学修意欲喚起と学修活動の早期改善を促すことを主眼とした退学予備勧告も視野に入れた学修指導を行うことがあります。

なお、退学予備勧告は、保証人にも文書にて通知します。

以下の両基準に該当する学生

・2 学期連続（休学期間を除く）して、修得単位が 8 単位未満の者（履修上限の制限を受けない科目を除く）

・2 学期連続（休学期間を除く）して、GPA が 1.0 未満の者

3　特別学修指導

前の学期に学修指導を受けた学生が、さらに以下の両基準に該当し、面談の結果、学修意欲が認められないと判断された場合は、学修意欲喚起、学修活動の早期改善及び今後の自分自身の進路についても再考する機会を設けることを主眼とした退学勧告も視野に入れた特別学修指

導を保証人同席のもと、学部長が行うことがあります。

前の学期に学修指導を受けた者で、以下の両基準に該当する学生

・修得単位が 8 単位未満の者（履修上限の制限を受けない科目を除く）

・GPA が 1.0 未満の者

7　単位認定

1　入学前に修得した単位の認定

⑴ 編入学の場合

編入学前に、大学、短期大学、高等専門学校の専攻科で修得した成績のうち、教授会が教育上有益であると認めたものは、本学で修得したものとして単位認定することができます（高等専門学校での科目は、原則として 4・5 年次の科目に限ります）。

編入学の単位認定方法は**“科目対応認定”**で行います。修得している科目を本学部もしくは所属学系に対応する科目に振替える方法です。卒業要件、進級条件は正規入学の学生と同じになります。

2･3 年次への編入学の単位認定は必要に応じて**“包括単位認定”**を行うことがあります。認定単位数合計は原則として 2 年次編入学者に対しては 36 単位以上、3 年次編入学者に対しては 68 単位以上を目安としています。

詳しくは、教務担当窓口にて確認してください。

⑵ 申請方法

認定希望者は、教務担当窓口にある「単位認定申請書」に、入学前の最終成績証明書及び講義要目（シラバス）を添付して、**4 月上旬**に教務担当へ提出してください（詳細は教務担当窓口又は DENDAI − UNIPA で確認してください）。

申請を受けてから単位認定作業を行い（必要に応じて面談等を行う場合があります）、一ヶ月程で申請結果をお知らせします。

2　本学部の指定する資格による単位認定

次頁に記載されている資格を取得している学生は、申請により本学の科目として単位認定を受けることができます。資格による科目の単位認定を希望する者は、教務担当へ申し出てください。

なお、この単位認定の注意事項は以下のとおりです。

①資格による単位認定の際は該当科目を履修登録する必要はありません。

②該当科目を履修中の場合は履修登録を取り消します。

③既に単位修得済みの科目については単位認定することが出来ません。

④履修上限単位数には加算されません。

⑤該当科目が現学年より上級年次の配当であっても、成績表には表記され、進級条件・卒業要件にも加算することができます。

⑥同一の資格が共通教育と学系の双方にある場合は、希望によりどちらか一方を単位認定します。
⑦学系科目の対応については、所属学系の科目のみとし、他の学系の科目は単位認定しません。
⑧成績評価は「R」となり、ＧＰＡには反映されません。
⑨申請し認定された科目の成績評価「R」を取り消すことはできません。
⑩ＴＯＥＩＣのＩＰテストの取扱いについては、学内での実施に限り申請可能とします。
⑪申請してから成績表に表記されるまでの日程については下記を参考にしてください。

- **1月～ 6 月に申請**の場合は**前期**成績表に表記
- **7月～ 12 月に申請**の場合は**後期**成績表に表記

※資格による単位認定により所要単位数が充足され進級・卒業が可能となる場合もあるので、申請は余裕をもって行ってください。

資格と単位認定科目

	資格名称	科目名	学年	単位数
共通教育	実用英語技能検定（2級）または TOEIC510 点以上	英語Ⅰ A	1	1
		英語Ⅱ A	1	1
		英語Ⅰ B	1	1
		英語Ⅱ B	1	1
	実用英語技能検定（準1級）または TOEIC730 点以上	英語Ⅰ A	1	1
		英語Ⅱ A	1	1
		英語Ⅰ B	1	1
		英語Ⅱ B	1	1
		英語Ⅲ A	2	1
		英語Ⅳ A	2	1
		英語Ⅲ B	2	1
		英語Ⅳ B	2	1
	実用英語技能検定（1 級）または TOEIC850 点以上	英語Ⅰ A	1	1
		英語Ⅱ A	1	1
		英語Ⅰ B	1	1
		英語Ⅱ B	1	1
		英語Ⅲ A	2	1
		英語Ⅳ A	2	1
		英語Ⅲ B	2	1
		英語Ⅳ B	2	1
		英語Ⅴ A	2	1
		英語Ⅴ B	2	1
	ドイツ語技能検定（4級）	ドイツ語入門Ⅰ	全	1
		ドイツ語入門Ⅱ	全	1
	ドイツ語技能検定（3級）	ドイツ語入門Ⅰ	全	1
		ドイツ語入門Ⅱ	全	1
		基礎ドイツ語Ⅰ	全	1
		基礎ドイツ語Ⅱ	全	1
		初級ドイツ語Ⅰ	全	1
		初級ドイツ語Ⅱ	全	1
	実用フランス語技能検定（4級）	フランス語入門Ⅰ	全	1
		フランス語入門Ⅱ	全	1
	実用フランス語技能検定（3級）	フランス語入門Ⅰ	全	1
		フランス語入門Ⅱ	全	1
		基礎フランス語Ⅰ	全	1
		基礎フランス語Ⅱ	全	1
		初級フランス語Ⅰ	全	1
		初級フランス語Ⅱ	全	1
	IT パスポート（旧名：初級システムアドミニストレータ）	情報リテラシ	1	1
		表計算	1	1
	基本情報技術者（旧名：第2種情報処理技術者）	情報リテラシ	1	1
		表計算	1	1
		C 言語プログラミング	1	2
	応用情報技術者（旧名：ソフトウェア開発技術者）（旧名：第1種情報処理技術者）	情報リテラシ	1	1
		表計算	1	1
		C 言語プログラミング	1	2

	資格名称	科目名	学年	単位数
理学系	基本情報技術者 (旧名：第２種情報処理技術者)	数理プログラミングⅠ	1	2
	応用情報技術者 (旧名：ソフトウェア開発技術者) (旧名：第１種情報処理技術者)	数理プログラミングⅠ	1	2
		数理プログラミングⅡ	2	2
生命科学系	—	—	—	—
情報システムデザイン学系	応用情報技術者 (旧名：ソフトウェア開発技術者) (旧名：第１種情報処理技術者)	基本情報処理技術	2	2
	基本情報技術者 (旧名：第２種情報処理技術者)	基本情報処理技術	2	2
	ＣＧエンジニア検定　エキスパート (旧２級)	コンピュータグラフィックス	2	2
		ＣＧプログラミング	2	2
	ＣＧエンジニア検定　ベーシック (旧３級)	コンピュータグラフィックス	2	2
	カラーコーディネーター検定２級	色彩論	2	2
	色彩検定２級	色彩論	2	2
機械工学系	機械・プラント製図(機械製図手書き作業)３級	基礎製図	1	4
	機械・プラント製図(機械製図ＣＡＤ作業)３級	基礎製図	1	4
	機械設計技術者３級	機械基礎演習	3	2
電子工学系	電気主任技術者（第１・２・３種）	電気回路Ⅱ・演習	1	3
	基本情報技術者 (旧名：第２種情報処理技術者)	コンピュータ工学Ⅰ	2	2
	応用情報技術者 (旧名：ソフトウェア開発技術者) (旧名：第１種情報処理技術者)	コンピュータ工学Ⅰ	2	2
		コンピュータ工学Ⅱ	2	2
建築・都市環境学系	ＣＡＤ利用技術者試験１級	建築都市デザイン演習Ⅰ	1	3
	測量士	測量学・演習	2	3
		測量実習	2	2
	測量士補	測量実習	2	2

TOEIC の IP テストでは公開テストで発行される Official Score Certificate（公式認定証）は発行されず、スコアレポート・スコアシートでの結果報告となるため、IP テストは学内での実施に限り認定します。

8　進級と留年

理工系の大学では、学問の性質上、基礎から応用へと積み重ねて勉学していくことが不可欠です。

そこで、本学部では、学問の基礎から応用へと順序立てて学修できるように、それに適した授業科目を各学年に配当し、その学年ごとに履修を指定しています。

したがって、下級学年次に不合格科目が多い状態で上級学年次に進むと、基礎学力が不足しているにもかかわらず上級学年次配当の専門的授業科目を履修しなければならないことになり、教育的に好ましくない状況をもたらします。

このような事態を避けるため、本学部においては、低学年次配当授業科目の単位修得状況を考慮し、上級学年次へ**進級**するための条件を定め、この条件を充たさないときは、もとの学年次に**留年**するという**進級制度**をとっています。

原則として①～③の条件を全て満たした場合、上級年次へ進級することとなります。

①必要な学費及びその他の費用を納入していること。

②同一学年に合算して 12 ケ月以上在学すること。ただし､休学期間は在籍期間に含まない。

③上級年次に進級するための条件がある場合は、その条件を満たしていること。

1　1 年次から 2 年次への進級条件

1 年次終了時に 30 単位以上修得していること（自由科目は含まない）

2　2 年次から 3 年次への進級条件

2 年次から 3 年次への成績による進級条件はありません。（ただし、前記の学籍及び学費の条件を満たす必要があります。）

3　3 年次から 4 年次への進級条件

各学系の進級条件、下記の条件及び合計で、104 単位以上修得していること

※　進級条件の単位数には自由科目の単位は含まれません。

区　　分			単位数	卒業要件
人間基礎力			1	2
人間形成			11	14
英語			6	8
理工学総論			2	2
実験・レポート			2	4
数学			4	6
物理学・化学・生物学・自然科学			4	7
情報			2	3
副コースが自学系の場合	学系共通科目	自学系	23	34
	コース専門科目	主コース	18	26
		副コース	5	8
副コースが他学系の場合	学系共通科目	自学系	19	28
	コース専門科目	主コース	18	26
	指定科目群	副コース	9	14

進級条件は、学系、学年ごとに異なるので、各学系のページを熟読してください。

4　2・3年次への編入学者の進級条件

2・3年次への編入学者については入学時に修得している成績の単位認定をおこないますので、各学系に表示してある条件とは異なる場合があります。不明な点については教務担当窓口で確認してください。

5　留　年

進級判定の結果、留年となった場合、同一学年をやり直すことになります。

留年したときには、次のような点に注意してください。

① 留年した場合であっても、入学した年度のカリキュラムが適用されます。また、進級・卒業判定基準も、入学した年度の基準が適用されます。（留年による変更はありません）

② 学生要覧は現在使用しているものを卒業まで使用します。

③ 同一学年に通算して4年の在学をこえてなお進級・卒業できないときは、**除籍**となります。

④ 4年次生が卒業要件を充足することができずに留年した場合は、次年度の前期に卒業要件を充足することができれば前期末に卒業することができます。

前期末に卒業を希望する学生は、前期の成績が発表されたら、指定の期日までに学系長へ申し出てください。（事前に前期末での卒業の意志を学系長に伝えておくことが望ましい）申し出を受けて、卒業の手続きを行いますので、申し出がない場合は卒業要件を充足していても、学年末での卒業となります。（学年末でも卒業要件を充足する必要があります）

（注）留年（休学による留年も含む）した場合の学費は、当該学年の正規学年次生の学費を納めなければならないので注意すること。

9 卒 業

休学期間を除き 4 年次に合算して 12 か月以上在学している学生で、年度末判定時に休学していない 4 年次生を対象に卒業判定が行われます。卒業するためには、次のすべての要件を満たすことが必要です。

1 卒業要件

⑴ 卒業するために必要な単位数（卒業要件単位数）を修得していること。
⑵ 自己の所属する学系に配当されている必修科目の単位を全て修得していること。
⑶ 各学年次に 1 年、合計 4 年以上（8 年以内、但し休学時は異なる）在学していること。
⑷ 卒業までに必要な学費およびその他の費用の全額を納入していること。
⑸ 卒業判定時に休学していないこと。
※卒業所要単位数には自由科目の単位は含まれない。

●理工学部においては、次により 124 単位以上を履修し、修得しなければならない。

科目区分	科目群		単位数	備考
共通教育	人間基礎力		2	
	人間形成 概論科目 主題科目 教養ゼミ 健康スポーツ 第二外国語 実践英語		14	
	英語		8 ☆1	
専門教育	専門基礎	理工学総論	2	
		実験・レポート	4	
		数学	6	
		物理学・化学・生物・自然科学	7	・「物理学入門」「物理学入門演習」「物理学A」から 2 単位以上取得すること ・「化学A」「化学B」から 2 単位以上取得すること
		情報	3	
	学系共通科目		78 ☆2	
	コース専門科目			

☆1 1 年次及び 2 年次配当の英語科目は「必修科目」。

☆2 学系共通科目群及びコース専門科目群における「78 単位」の内訳は以下のとおり。

コース選択	コース	学系共通科目	コース専門科目	合計
副コースが自学系の場合	主コース	34 単位	26 単位	78 単位
	副コース		8 単位	
	自主選択科目	10 単位（※ 1）		
副コースが他学系の場合	主コース	28 単位	26 単位	78 単位
	副コース	指定科目群から 14 単位（※ 2）		
	自主選択科目	10 単位（※ 1）		

※1　自主選択科目

自主選択科目の単位を修得するには、特別な授業科目を履修するのではなく、全ての学系の学系共通科目もしくはコース専門科目の最低修得単位を超えた単位数が自動的にこの自主選択科目の単位数となり、卒業までに 10 単位以上修得しなければならない。

※2　指定科目群

所属する学系と異なった学系から副コースを選択する場合、該当の副コースの指定科目群に配置されている以下の学系共通およびコース専門科目の中から 14 単位以上取得のこと。

○理学系

◆数学コース

(学 系 共 通)数理のふしぎ②,線形代数学②,複素解析学②,幾何学I②,代数学I②,解析学I②

(コース専門)代数学Ⅱ②,幾何学Ⅱ②,解析学Ⅱ②,数学セミナーI②,数学セミナーⅡ②

◆物理学コース

(学 系 共 通)力学②,電磁気学I②,量子力学I②,量子力学Ⅱ②,統計力学I②,計測と分析②

(コース専門)振動と波動②,量子力学Ⅲ②,統計力学Ⅱ②,連続体の物理②,物性論②,
電磁気学Ⅱ②

◆化学コース

(学 系 共 通)基礎有機化学②,無機化学I②,化学熱力学I②,化学工学②,化学実験A②

(コース専門)計算化学②,界面化学②,有機・高分子化学②,化学反応速度論②

◆数理情報学コース

(学 系 共 通)離散数学②,情報論②,フーリエ解析入門②,画像処理②,数理プログラミングⅡ②

(コース専門)数理情報学基礎演習②,人工知能②,ロボット科学②,学習理論②,システム理論②

○生命科学系

◆分子生命科学コース

(学 系 共 通)生化学②,微生物学②,分子生物学②,生命物理化学②,生物統計学②,生物情報科学I②

(コース専門)免疫学②,生体組織学②,細胞生物学②,薬理学②

◆環境生命工学コース

(学 系 共 通)生化学②,微生物学②,分子生物学②,生命物理化学②,生物統計学②,生物情報科学I②

(コース専門)環境生物学②,食品製造学I②,食品化学②,生命環境工学②

○情報システムデザイン学系

◆コンピュータソフトウェアコース

(学 系 共 通)コンピュータ基礎I②,コンピュータ基礎Ⅱ②,情報数学I②,コンピュータプログラミングI・同演習③,アルゴリズムとデータ構造I②

(コース専門)アルゴリズムとデータ構造Ⅱ②,ゲームプログラミングI②,計算量と暗号②,数理とデザイン②

◆情報システムコース
(学 系 共 通)情報数学I②,情報・符号理論②,基礎確率論②
(コース専門)統計学I②,組み込みシステム②,動的システム②,情報セキュリティ概論②,計算量と暗号②, 応用Javaプログラミング②
◆知能情報デザインコース
(学 系 共 通)情報数学I②,基礎確率論②
(コース専門)統計学I②,統計学Ⅱ②,多変量解析②,知能情報デザイン概論②,社会心理学②,非言語コミュニケーション論②,人間計測法②
◆アミューズメントデザインコース
(学 系 共 通)デザイン学②,音楽とデザイン②,色彩論②,美術・芸術学②,言語と表現②
(コース専門)五感とデザイン②,メディア×カルチャー②,コンピュータグラフィックス②,数理とデザイン②

○機械工学系
◆設計・解析コース
(学 系 共 通)材料力学I・演習③,流体力学I・演習③,伝熱工学・演習③,機械要素I・演習③
(コース専門)流体力学Ⅱ・演習③,工業熱力学・演習③,機械材料②
◆加工・制御コース
(学 系 共 通)材料力学I・演習③,機械力学I・演習③,機械加工学I・演習③
(コース専門)材料力学Ⅱ・演習③,機械力学Ⅱ・演習③,制御工学②

○電子工学系
◆電子情報コース
(学 系 共 通)電子工学概論②,電気回路I・演習③,電磁気学I・演習③,電子情報回路I・演習③
(コース専門)信号処理工学A②, 信号処理工学B②,通信工学②
◆電子システムコース
(学 系 共 通)電子工学概論②,電気回路I・演習③,電磁気学I・演習③,電子情報回路I・演習③
(コース専門)電気電子計測工学②,電子物理学②,パワーエレクトロニクス②

○建築・都市環境学系
◆建築コース
(学 系 共 通)建築・都市環境学へのアプローチ②,静力学②,地盤工学A・演習③,建設材料学②,水理学A・演習③
(コース専門)建築史②,建築環境工学②,耐震設計法②, 住居論②

◆都市環境コース
(学 系 共 通)建築・都市環境学へのアプローチ②,静力学②,地盤工学A・演習③,建設材料学②,水理学A・演習③
(コース専門)防災工学②,リモートセンシング②, 都市衛生工学②,気圏・地圏の環境②,水圏の環境②

2　3年以上の在学での卒業について（3年卒業、3.5年卒業）

本学の学生として3年以上在学した者で、本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認められる場合は、以下の条件により4年間をかけなくても卒業することができます。

条件は以下のようになります。

⑴ 3年以上の在学での卒業における基準

① 所属学系の指導する早期卒業についての履修計画に従っていること。
② 在学期間が3年以上の学生であること。
③ 3年次以上までに卒業要件の全てを満たしていること（卒業研究は除く）。
④ 3年次から4年次への進級条件を充足していること。
⑤ 原則として全成績評価の85%以上（小数点第1位を切り捨て）がS又はA評価であり、（自由科目および「R」評価は除く）かつ、GPAが3.4以上であること。
⑥ 学系長および学部長の了解が得られていること。
⑦ 卒業時に大学院進学、公務員等の進路が確定していること。
⑧ 3年以上の在学での卒業までに必要な学費が全て納入されていること。
⑨ 早期卒業判定時に休学していないこと。

※3年次編入学者の早期卒業は認めない。

⑵ 3年以上の在学での卒業研究について

3年以上の在学での卒業を望む学生に対し、所属学系の判断により以下の①～④のうちいずれかを適用し実施する。

① 修業年限を3年とする。（卒業研究の履修はなし。）
② 修業年限を3年とする。（3年次後期に特別卒業研究を履修する。）
③ 修業年限を3.5年とする。4年次前期に卒業研究Ⅰを履修し、4年次前期を終えた時点で学期末卒業となる。
④ 修業年限を3.5年とする。3年次後期に特別卒業研究を、4年次前期に卒業研究Ⅰを履修し、4年次前期を終えた時点で学期末卒業となる。

※詳細については教務担当に確認してください。

⑶ 3年以上の在学での卒業申請方法

成績発表日に成績を確認し「3年以上の在学での卒業における基準」を充足した場合は、指定の期日までに学系長へ申し出てください。

3　卒業延期者の前期末での卒業申請について

4年次生が卒業要件を充足することができずに留年した場合は、次年度の前期に卒業要件を充足することができれば前期末に卒業することができます。

前期末に卒業を希望する学生は、前期の成績が発表されたら、指定の期日までに学系長へ申し出てください。（事前に前期末での卒業の意思を学系長に伝えておくことが望ましい）申し出を受けて、卒業の手続きを行いますので、申し出がない場合は卒業要件を充足していても、学年末での卒業となります。（学年末でも卒業要件を充足する必要があります）

4　卒業の時期

・卒業の時期は学年末で、卒業式は毎年 3 月の下旬に挙行されます。
・3.5 年での卒業の場合は 9 月 14 日付で卒業となり、卒業式については別途連絡いたします。
・卒業延期者の前期末での卒業の場合は 9 月 14 日付で卒業となり、卒業式については別途連絡いたします。

5　学位の授与

理工学部を卒業した者には、次の学位が授与されます。

理学系	学士（理学）……	Bachelor of Science
生命科学系	学士（工学）……	Bachelor of Engineering
情報システムデザイン学系	学士（情報学）…	Bachelor of Information
機械工学系	学士（工学）……	Bachelor of Engineering
電子工学系	学士（工学）……	Bachelor of Engineering
建築・都市環境学系	学士（工学）……	Bachelor of Engineering

学位は卒業式の時に授与される学位記により証明されます。

10　WebClass

TDU- ポートフォリオシステムには、電子ポートフォリオ本体と e-Learning システム WebClass があります。利用するには以下の URL にアクセスし、ログイン後に、「WebClass」を選択します。WebClass は、インターネット上で、授業資料の閲覧、問題演習、レポートの提出等が行えます。また、教員と学生間や学生同士でのコミュニケーションも行われます。授業での利用は、担当教員からの指示に従ってください。

https://els.sa.dendai.ac.jp　　＜ PC、タブレット、スマートフォンで利用可＞

主な機能

・資料の閲覧　　・掲示板
・レポート提出　　・チャット
・問題演習　　・アンケート



図 1　ログイン画面

ログイン画面にUserIDとパスワードを入力します。UserIDは学籍番号（英字部分は小文字）です。Passwordは、総合メディアセンター共通パスワードです。入力後に「LOGIN」ボタンをクリックします。パスワードが不明な場合は総合メディアセンターで確認してください。

トップページには、所属しているコース一覧と新着情報が表示されます。WebClass上でのコースとは、授業科目のことです。



図 2　コース一覧画面

画面左側に「機能メニュー」、画面右側に「コンテンツ一覧」が表示されます。履修登録してある科目がカレンダーの形式で表示されます。科目名をクリックすることで、コース内へ移動し、「コースメニュー画面」が表示されます。



図３　コースメニュー画面

コースメニュー画面から各機能が利用できます。

名　　称	機　　能	
新着お知らせ／メッセージ	履修者への連絡や個別の連絡などが表示されます。	
コンテンツ一覧	授業で使用する教材が表示されます。	
	会議室	質問や意見などが投稿できる掲示板やチャット機能があります。
	資　料	授業で使用する資料や参考資料などが閲覧でき、事前学習・事後学習に利用してください。
	テスト／アンケート	レポート提出、アンケート、問題演習ができ、小テスト、試験も実施されます。

東京電機大学　理工学部

学生ポータルサイト
「DENDAI － UNIPA」

操作マニュアル

（「シラバス閲覧」「履修登録」
「授業資料のダウンロード」「連絡先の変更」等）

2018年4月版

東京電機大学　理工学部事務部

学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」

目 次

■ 学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」
1. 学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」について …… 183
2. 「DENDAI − UNIPA」の動作環境について …… 184
■ 「DENDAI − UNIPA」へのアクセス・ログイン
1. 「DENDAI − UNIPA」へのアクセス・ログイン方法 …… 186
2. 「DENDAI − UNIPA」の画面構成 …… 188
3. 注意事項 …… 190
■ 掲示の確認方法
1. 掲示について …… 192
2. 掲示画面について …… 193
3. 掲示確認方法 …… 195
4. 掲示表示の切替について（全授業／履修中授業） …… 196
5. 申込について …… 197
6. 一部掲示のメール配信について …… 198
■ シラバスの閲覧
1. シラバスについて …… 199
2. シラバスの閲覧方法 …… 200
3. 他画面からのシラバス参照 …… 202
■ Ｗｅｂによる履修登録方法
0. 全体の流れ …… 203
1. 履修希望科目の選択 …… 204
2. エラーチェック …… 207
3. 履修登録の確定 …… 209
4. 履修登録科目の確認方法 …… 210
5. 進級・卒業見込判定 …… 211
6. 履修登録期間後の履修登録科目確認方法 …… 212
7. その他　注意事項 …… 213
8. 履修登録でよくある質問と回答 …… 215
■ 出席の確認方法
1. 出席情報の確認 …… 218
2. 出席情報に関するよくある質問と回答 …… 219
■ 成績の確認方法
1. 成績照会 …… 220
2. ＧＰＡ・順位の確認 …… 221
■ アンケート回答
1. アンケート回答 …… 222
■ 連絡先の変更
1. 連絡先の変更申請 …… 225
2. 申請の承認・否認 …… 227
3. 「DENDAI − UNIPA」への反映 …… 228
■ クラスプロファイル（授業資料・課題提出等）
1. クラスプロファイルについて …… 229
2. 授業資料のダウンロード方法 …… 231
3. 授業課題の提出方法 …… 232
4. シラバス参照 …… 234
5. WEB ノート …… 235

学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」

1. 学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」について

学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」とは、インターネット上で、履修登録・時間割確認・シラバス閲覧・掲示確認・スケジュール管理・成績照会・課題提出など、様々な機能を使用することができるシステムです。

学生生活を送る上で必ず使用することになります。「DENDAI − UNIPA」の機能を早めに理解し、是非活用してください。

また、大学から皆さんへの連絡や個別の呼び出しなども「DENDAI − UNIPA」上で行います。見落としのないように、**1 日に 1 回以上は確認**するようしてください。

学内ではこの学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」のことを、UNIPA（ユニパ）と呼ぶこともあります。

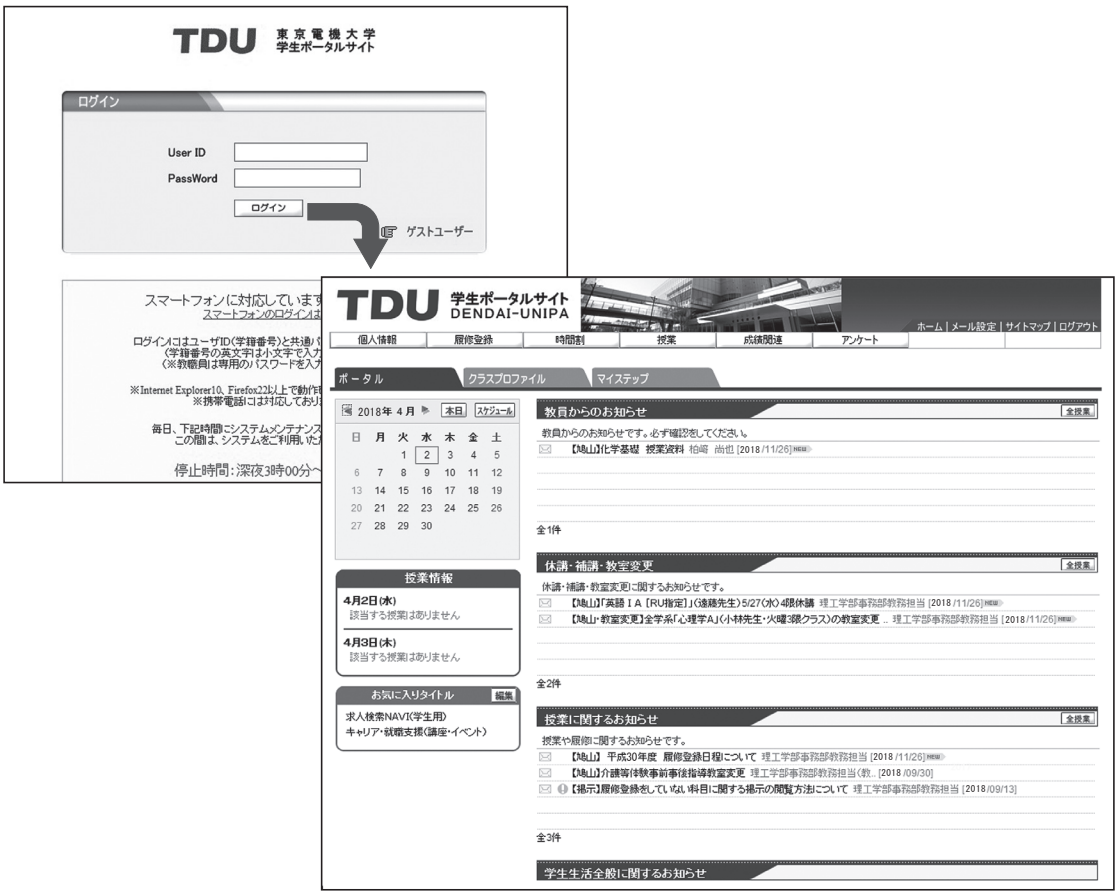


図 1　学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」

2.「DENDAI − UNIPA」の動作環境について

「DENDAI − UNIPA」は、インターネットに接続可能なパソコン・スマートフォンであれば、学内はもとより自宅などからも自由に閲覧することができます。

学内には、DENDAI − UNIPA 専用のパソコンを本館 1 階パソコン教室前に設置しています。このパソコンは、常時 DENDAI − UNIPA のログイン画面が表示されていますので、簡単に DENDAI − UNIPA を利用することができます。

また、学内の教育用パソコン（本館 1 階のパソコン教室、1 号館 1 階の第 3 実習室、2 号館 1 階メディアセンター内の第 2 実習室）でも利用することができます。

本操作マニュアルはパソコンの画面で説明しています。

⑴ 動作環境（2018 年 4 月現在）

以下の動作環境以外のものを使用し、DENDAI―UNIPA にログインできたとしても正常に動作しない場合があります。履修登録、課題提出等が行えていないなどの事態が発生する場合もありますので、動作環境以外のものは使用しないでください。

ア　パソコン

下記のとおり対応しています。

WWW ブラウザ	Internet Explorer6/7/8/9/10 Firefox 最新版 Safari 5.1 Google Chrome 最新版

上記以外は対応していません。対応ブラウザは、利用のパソコンの OS において動作保証されていることを前提としています。(Mac のプロセッサが PowerPC の場合、最新版がダウンロードできない可能性があります。その場合は Firefox3.6 をダウンロードしてください。)

イ　スマートフォン

以下の OS・バージョンに対応しています

OS(WWW ブラウザ)	OS のバージョン
Android (標準)	2.3 4.0 ／ 4.1 ／ 4.2 ／ 4.3
iOS (Safari)	5.0 ／ 5.1 6.0 ／ 6.1

履修登録等の重要な事項は、操作後に必ずパソコンからも確認してください。

⑵ ポップアップブロック

DENDAI − UNIPA では、ポップアップ画面として表示される画面がいくつかあります。

操作方法どおりに操作しても次の画面が表示されない場合、ブラウザのポップアップブロック機能が働いている可能性が考えられます。

そのような場合は、一度ログアウトして、ログイン画面に表示される**【ポップアップブロックについて】**の下にあるリンクのうち、お使いのブラウザにあった解除方法でポップアップブロックの解除を行ってください。

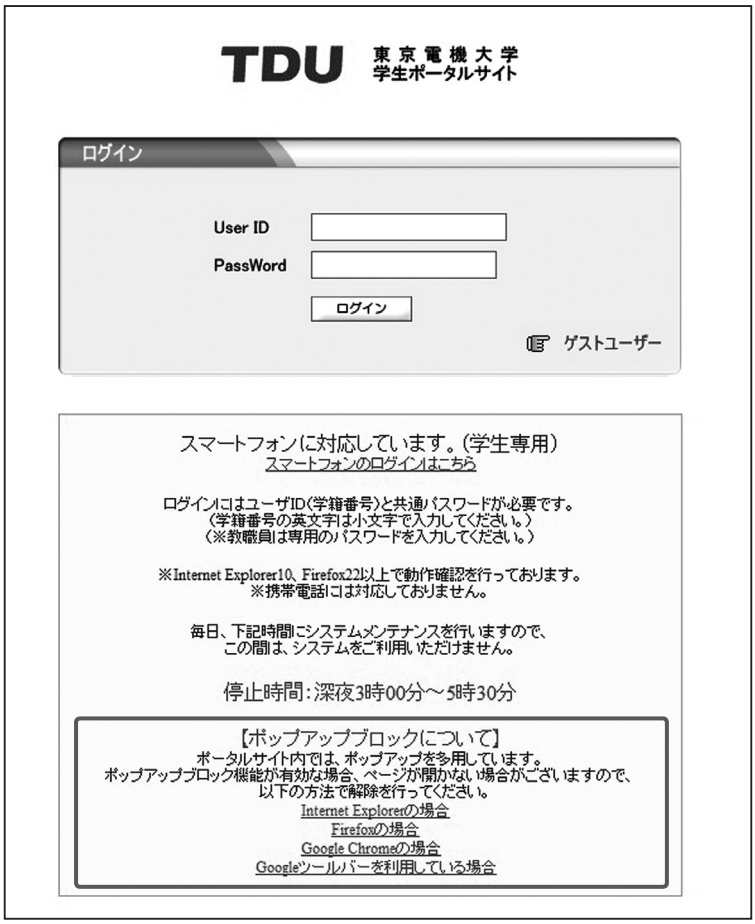


図２　ポップアップブロックについて

「DENDAI – UNIPA」へのアクセス・ログイン

1.「DENDAI – UNIPA」へのアクセス・ログイン方法

1 **学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」へアクセスします。**
https://portal.sa.dendai.ac.jp

2 **ログイン画面が開きます。**

3 **User ID に「学籍番号」を入力、PassWord に「パスワード」を入力し、** ログイン **をクリックします。(図 1)**

※　学籍番号は半角英数字（英字部分は小文字）で入力してください。(例　18ru999)
※　「パスワード」はパソコン実習室でログインする時と同一のものとなります。総合メディアセンターで管理していますので、「パスワード」について不明な点は総合メディアセンターで確認してください。
※　「パスワード」は定期的に変更が義務づけられています。変更しないままにしておくと履修登録などの重要な手続きが行えませんので十分に注意してください。

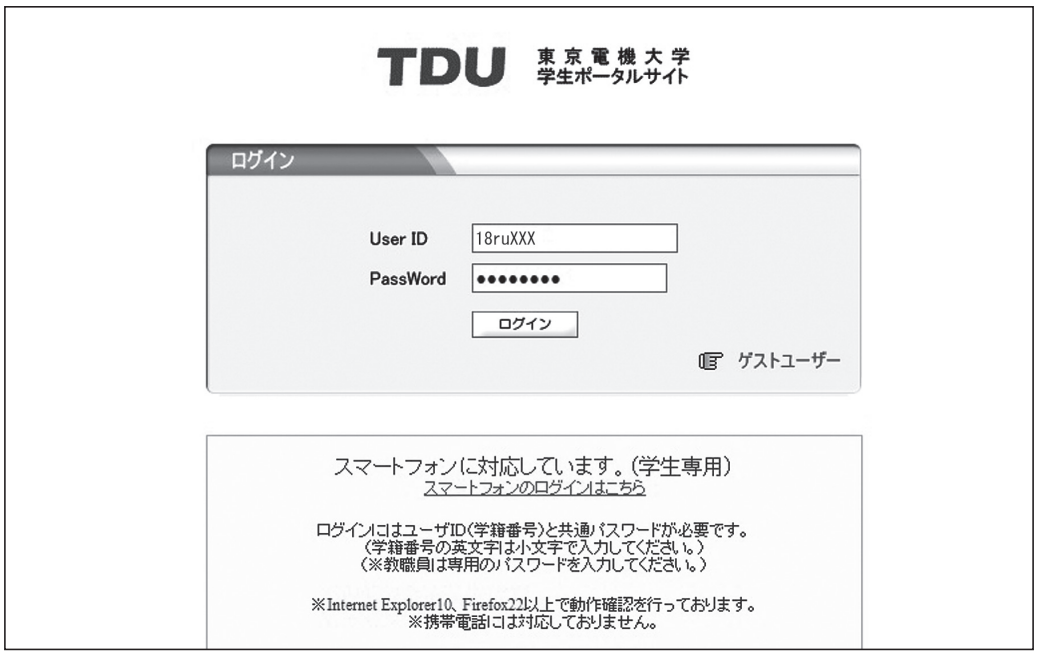


図 1　ログイン画面

4　入力した学籍番号やパスワードに誤りがある場合は、エラーメッセージが表示されます。(図 2)

正しく入力しているにもかかわらず、エラーメッセージが出る場合は教務担当に申し出てください。

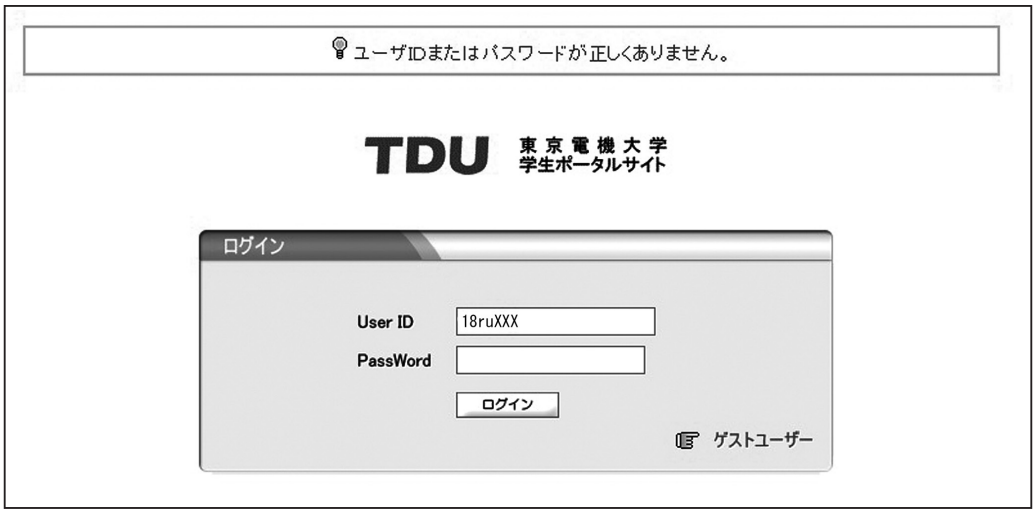


図 2　ログインエラー表示

2.「DENDAI − UNIPA」の画面構成

① **メニュー**
各種機能のメニューです。

② **トップページ切り替えタブ**
トップページの画面を切り替えることができます。

ポータル　お知らせ・スケジュール・授業情報などが表示される画面です。

クラスプロファイル　授業ごとに様々な機能を使用することができます。(P229 参照)

マイステップ　自分自身の学習記録を記録することができます。(教職カルテなど)

③ **お知らせ**
掲示情報やお知らせ、学生呼び出し等が表示されます。

④ **スケジュール・授業情報**
大学側があらかじめ登録した学内のイベント・授業情報等のスケジュールが確認できます。
また、 スケジュール ボタンから自分の予定を登録することもできます。

⑤ **お気に入り**
大学側があらかじめ設定したリンクのほか、 編集 ボタンから自分のお気に入りのWeb サイトの登録ができます。

⑥ **ホーム**
ログイン直後の画面に戻ることができます。

⑦ **メール設定**
DENDAI − UNIPA から配信する掲示の一部は、メールでも配信を行っています。(全ての掲示について配信しているわけではありません。)
配信先のメールアドレスを、学内メールに加え 1 件登録することができます。(P198 参照)



図３　トップページ（ポータル画面）

3. 注意事項

⑴ セッションタイムアウト

ログイン後、前の操作から **30 分間通信がない状態が続くと、セッションタイムアウトにより接続が切断**され、 再度ログインが必要になります。履修登録の際は特にご注意ください。



図 4　セッションタイムアウト

⑵ システムメンテナンスによる停止

毎日深夜 3:00 から 5:30 まで、システムメンテナンス（システム本体とのデータ同期等）を行います。

この時間帯は「DENDAI − UNIPA」を使用することはできません。

⑶ 前の画面に戻る

前の画面に戻る場合、必ず「DENDAI − UNIPA」の画面内の 戻る ボタンを使用してください。

画面内に 戻る ボタンがない場合は、画面上部の **ホーム** タブや、各種メニュータブから元の機能に遷移してください。

ブラウザの「戻る」機能では、ブラウザによっては「Web ページの有効期限が切れています」などが表示される場合があります。

⑷ その他

下記の利用方法は行わないでください。

・ブラウザ上で DENDAI − UNIPA を複数タブで表示すること

・複数のパソコン等を使って同時にログインすること

これらのことを行って履修登録や課題提出ができなかった等のトラブルが発生しても保障はいたしません。

⑸ DENDAI − UNIPA の利用資格

卒業等により本学学生の身分を失うと、DENDAI − UNIPA は利用（ログイン）できなくなります。また、転学系、転学部、大学院進学等で学籍番号が変更になる場合も同様に、以前の学籍番号では利用（ログイン）できなくなります。内容を残したい場合は、事前に各自で自身のパソコンに保存をするか印刷をして残してください。引き続き本学に在籍する場合も内容は引き継がれません。特に、クラスプロファイル、マイステップ（教職カルテ）等の引き続き使用する可能性があるものは注意してください。

卒業後に単位修得状況・成績を確認したい場合は、DENDAI − UNIPA の画面からは確認できなくなるため、成績証明書の発行（有料）が必要となります。単位修得状況・成績を自身の確認用に手元に残しておきたい場合は、卒業式の前日までに印刷等をして保管してください。**DENDAI − UNIPA は卒業式の前日まで利用可能**です。

掲示の確認方法

1. 掲示について

大学から皆さんへの連絡を行う「掲示」を DENDAI − UNIPA 上で行います。掲示には、個人宛のもの、特定の学年や所属宛のもの、特定の科目履修者へ限定したものなどの種類があります。自分に関係のある掲示が表示されますので、**表示されているもの全てを確認**するようにしてください。



※掲示は、掲示期限日時を迎えると表示されなくなります。

2. 掲示画面について

掲示は、DENDAI － UNIPA ログイン後のポータル画面で確認できます。



※見本のため、実際に現在表示されている内容と異なります。

① 表示グループ

掲示の種類によって、表示されるグループが異なります。
下記の 4 種類の表示グループがあります。

表示グループ名	表示内容
教員からのお知らせ	授業資料、課題レポート等の指示、学生アドバイザーからの連絡等
休講・補講・教室変更	授業の休講・補講、教室の変更等
授業に関するお知らせ	授業ガイダンス、履修登録、クラス分け、授業関連、個別の呼び出し（授業・履修関連）等
学生生活全般に関するお知らせ	各種ガイダンス、学生厚生関係、個別の呼び出し（学生生活関連）、奨学金、学籍異動（休学・退学・コース変更等）、スクールバス、健康・衛生、企業セミナー、キャリア支援・就職関連情報等

※表示グループは、今後変更になる場合があります。

② 件名

クリックすると、ポップアップ画面で掲示内容が表示されます。(P195 参照)

③ 切替ボタン

掲示の表示を 全授業 ／ 履修中授業 で切り替えます。(P196 参照)

④ 掲示件数

表示グループ内に掲示されている掲示の総数です。掲示は、初期状態では各表示グループにつき 5 件までしか表示されないため、掲示件数が 6 件以上の場合は**全て表示する**をクリックするとその表示カテゴリの掲示を全て表示することができます。

拡張表示後は、一覧表示 ボタンで元の表示に戻すことができます。



拡張表示後の画面
(右上の 一覧表示 ボタンで元の表示に戻ります)

各種マークについて

：その掲示が未読であることを表します。

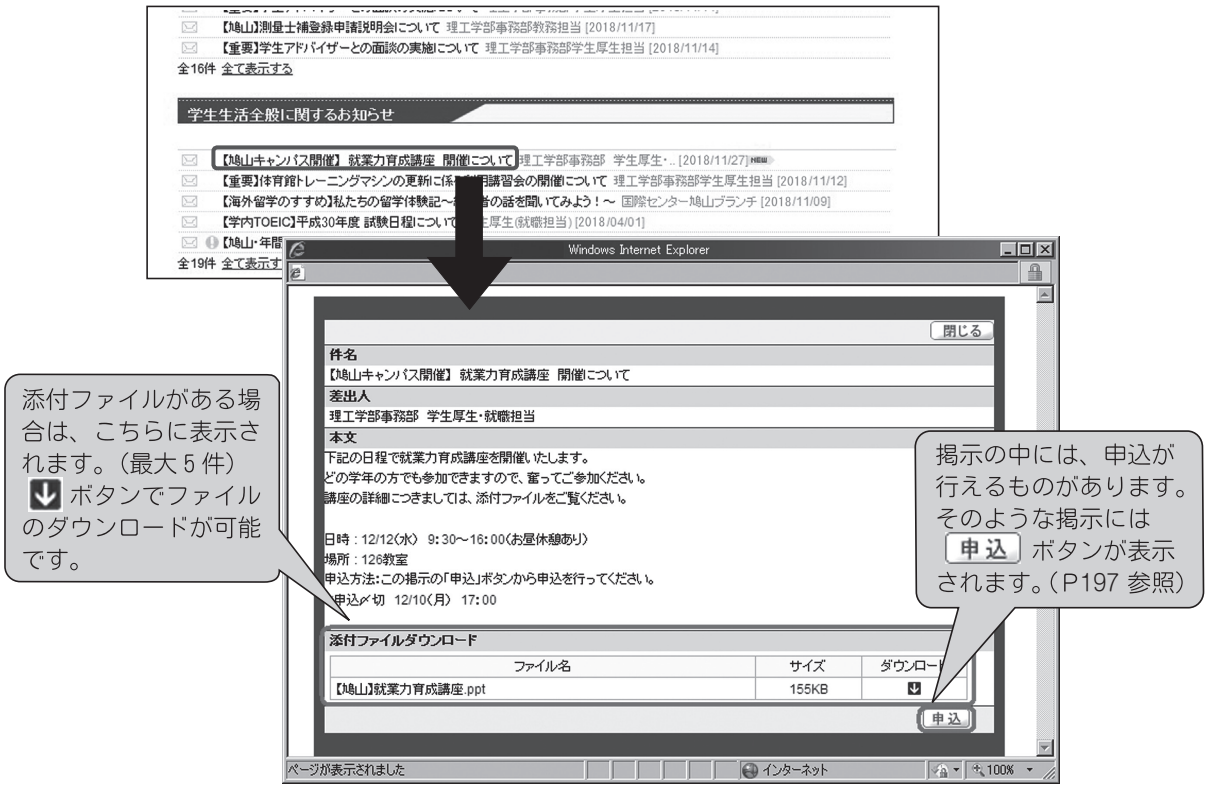
：重要度の高い掲示であることを表します。

NEW：新着の掲示であることを表します。

※新着の掲示は初期状態の 5 件に表示されているとは限りません。初期状態の 5 件に新着の掲示がない場合でも 5 件目以降に新着が表示されることもありますので、全て表示して確認してください。
※表示されている掲示は件名で必要の有無を判断せず、必ず本文を開いて内容を確認してください。

3. 掲示確認方法

掲示の件名をクリックすると、ポップアップ画面で掲示の内容が表示されます。



4. 掲示表示の切替について（全授業／履修中授業）

教職員が配信する掲示の中には、科目の履修者を対象に掲示を配信しているものがあります。履修者を対象に配信している掲示は、通常はその科目の履修者しか見ることができませんが、掲示表示の切替を行うことにより、履修者以外も閲覧することができるようになります。

ログイン後の画面に表示される掲示は、右側に 全授業 ボタンがついている掲示カテゴリに関しては、全授業 ／ 履修中授業 の表示の切替が可能です。

履修登録期間前に掲示を確認する場合、受講予定の科目に関する掲示が出ているかどうか、掲示の表示を切り替えて確認をしてください。

---

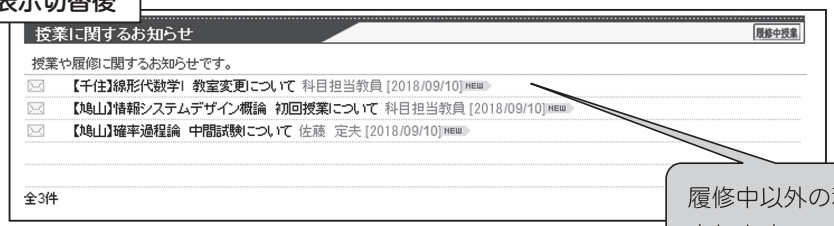
1 ログイン直後では、履修中の授業に関する掲示のみが表示されています。
履修中かどうかにかかわらず、全授業についての掲示を確認したい場合は 全授業 ボタンをクリックします。

ログイン直後



2 全授業 ボタンを押すと、ボタンを押した掲示カテゴリのみ、掲示の表示が切り替わります。
履修中を含む全科目の掲示を見ることができます。（他キャンパスの掲示も表示されます）
この中から、履修予定の科目に関する掲示を探してください。

表示切替後



5. 申込について

掲示の中には、申込が行えるものがあります。申込が可能な掲示は、ポータル画面で掲示タイトルをクリックすると「この掲示情報は申込を行うことができます。」のポップアップが表示され、また掲示画面の右下に 申込 ボタンが表示されます。

申込可能な掲示の中には、申込定員があるものもあります。その場合は先着順となりますので、早めに申し込むようにしてください。

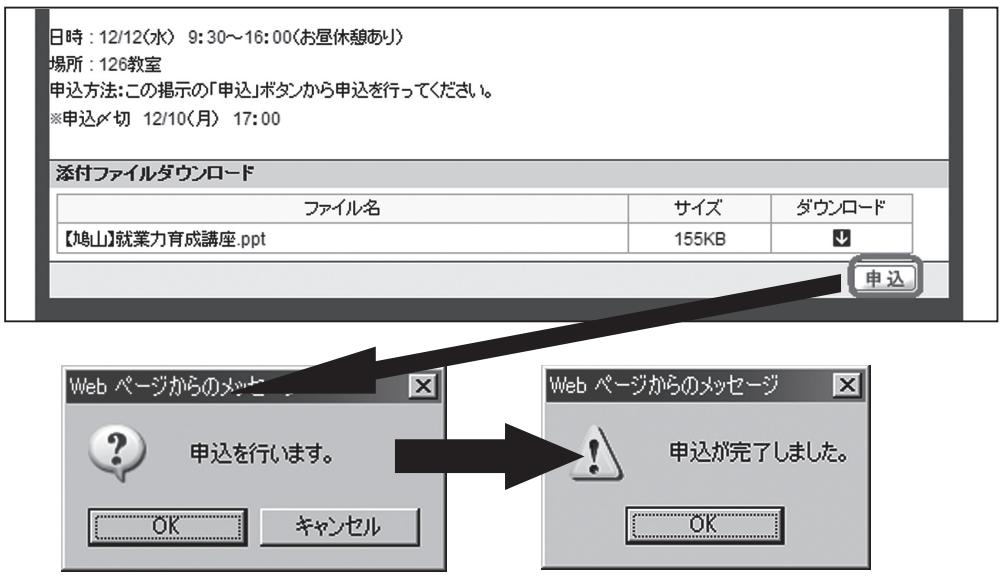


---

1 申込を行う場合は、掲示右下の 申込 ボタンを押します。

2 「申込を行います。」のポップアップが表示されますので、「OK」を選択します。

3 申込が正常に完了した場合、「申込が完了しました。」のメッセージが表示されます。



4 既に申込定員に達していた場合は、掲示上部に下記のエラーメッセージが表示され、申込は行われません。ただし、その後別の学生が申込の取消を行い、定員に空きができた場合は申込が可能になります。

申込制限により、申込は受け付けられませんでした。

5 申込後に申込を取り消す場合、申込 ボタンがあった場所に 申込取消 ボタンが表示されるようになりますので、そちらから申込の取消を行います。

6. 一部掲示のメール配信について

掲示は、内容により DENDAI − UNIPA での掲示とメール送信の両方で行っているものがあります。メール配信時間は原則として授業の行われていない 8：40 もしくは 19：40 ですが、緊急のものはそれ以外の時間に配信される場合もあります。

メールに表示される内容は、掲示タイトル・差出人・本文です。

初期状態では、DENDAI − UNIPA からのメールは総合メディアセンターのメールアドレスのみに送信されますが、メール設定画面の「受信メールアドレス（携帯)」欄にメールアドレスを追加することにより、総合メディアセンターのアドレスも含めた最大 2 件までメール受信先を設定することができます。



※ DENDAI − UNIPA の**掲示に添付ファイルがある場合でも、メールにはファイルが添付されません。**添付ファイルは、DENDAI − UNIPA で確認してください。
※メールには申込ボタンが表示されません。
申込を行う場合は、必ず DENDAI − UNIPA から申込を行ってください。
※ DENDAI − UNIPA からのメールは文字化けを起こして表示されることがあります。必ず DENDAI − UNIPA でも確認してください。
※掲示は、原則としてメールを送信しません。DENDAI − UNIPA を必ず毎日確認してください。メールが届いていなかったから、掲示を見落としたということは理由になりません。
※ DENDAI − UNIPA からのメールは送信専用アドレスから送信を行っているため、返信ができません。そのまま返信しても、差出人へは届きません。
※「受信メールアドレス（PC)」の変更・削除はできません。
※「受信メールアドレス（携帯)」という標記になってはいますが、ＰＣのメールアドレスを登録することも可能です。
※携帯電話でドメイン指定受信を設定されている場合は、「@jim.dendai.ac.jp」ドメインからのメールを受け取れるよう設定してください。

シラバスの閲覧

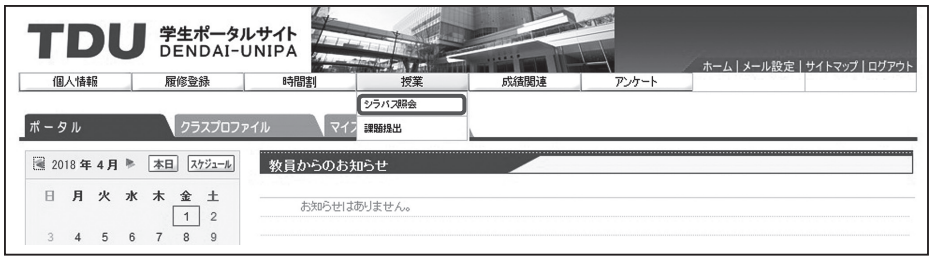
1．シラバスについて

1．シラバスについて

シラバスとは、各授業の担当教員が作成した授業計画のことです。この授業では何を学ぶのか、何を目的としているのかが分かるものです。シラバスには科目名、配当学年、単位数、目的概要、テーマ・内容、評価方法、教科書名、質問への対応（オフィスアワー）等が掲載されています。しっかりと授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成してください。授業の進度に応じて、更新する場合もありますので、常時確認することにより確実に情報を取得してください。

2. シラバスの閲覧方法

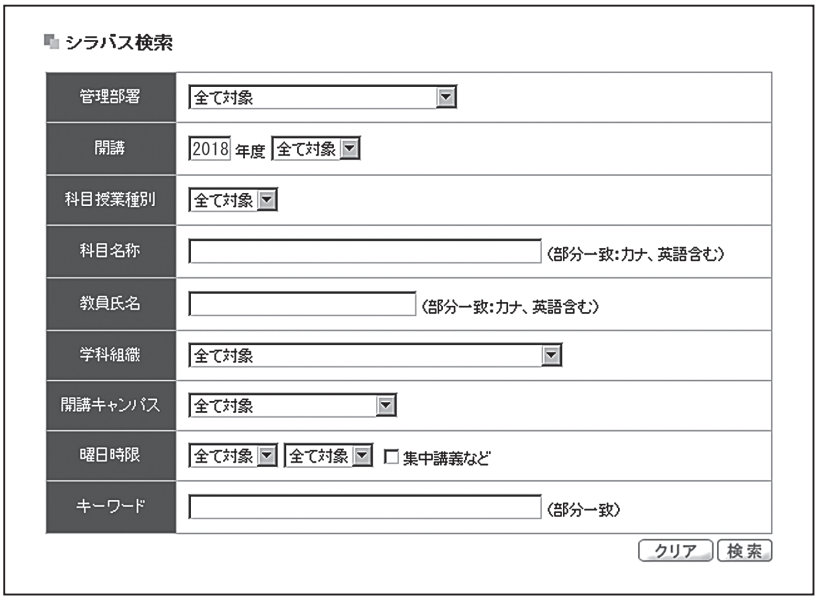
1 画面上部のメニューから 授業 ⇒ シラバス照会 をクリックしてください。



2 シラバス検索画面が開きます。

科目名称／教員氏名／曜日時限／キーワード（シラバスの全文検索ができます）の一部又は全部を入力し、検索 をクリックしてください。

※シラバス検索画面の【学科組織】欄にはログインしている学生の所属が自動的に選択されます。
他学部や大学院のシラバスを検索したい場合などは、【学科組織】欄を変更してから検索してください。



3 検索結果画面に科目が表示されます。目的の科目名をクリックしてください。


シラバス検索>検索結果

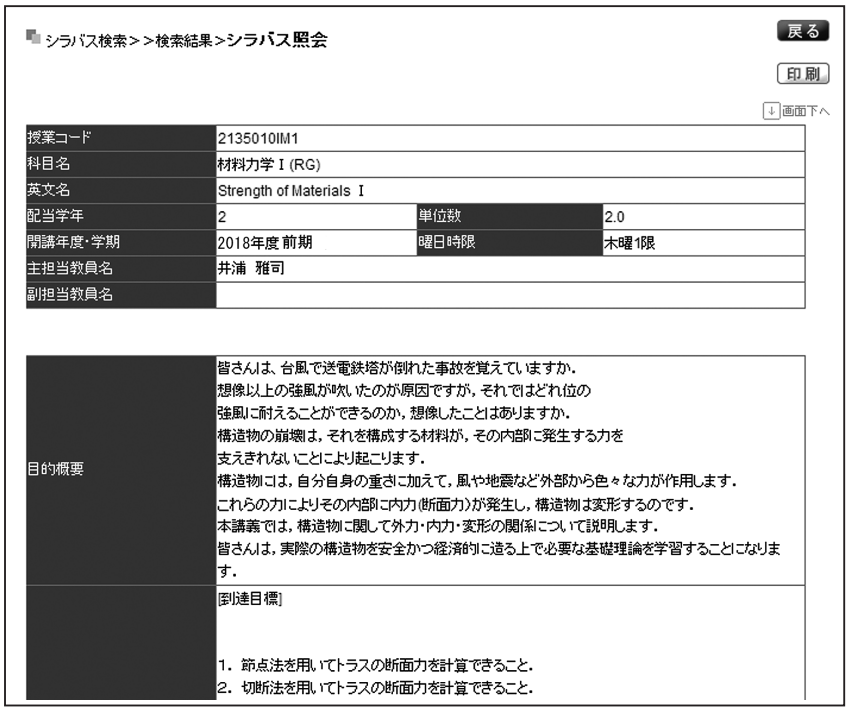
戻る

検索条件　教員氏名:井浦
学科組織: 理工学部 理工学科 RG 建築コース

開講曜日	科目名	教員氏名	開講区分	学年	開講学期	単位数
月5	2120021im1 工学基礎	井浦 雅司	週間授業	1年	2018前期	2.0単位
水2	2135005IM1 工業数学 I (RG)	井浦 雅司	週間授業	2年	2018前期	2.0単位
木1	2135010IM1 材料力学 I (RG)	井浦 雅司	週間授業	2年	2018前期	2.0単位
金2	2120006IM1 基礎微積分学A	井浦 雅司	週間授業	1年	2018前期	2.0単位

4件 1/1 ページ 1

4 選択した科目のシラバスが表示されます。


シラバス検索>>検索結果>シラバス照会

戻る

印刷

画面下へ

授業コード	2135010IM1		
科目名	材料力学 I (RG)		
英文名	Strength of Materials I		
配当学年	2	単位数	2.0
開講年度・学期	2018年度 前期	曜日時限	木曜1限
主担当教員名	井浦 雅司		
副担当教員名			

目的概要	皆さんは、台風で送電鉄塔が倒れた事故を覚えていますか. 想像以上の強風が吹いたのが原因ですが, それではどれ位の 強風に耐えることができるのか, 想像したことはありますか. 構造物の崩壊は, それを構成する材料が, その内部に発生する力を 支えきれないことにより起こります. 構造物には, 自分自身の重さに加えて, 風や地震など外部から色々な力が作用します. これらの力によりその内部に内力(断面力)が発生し, 構造物は変形するのです. 本講義では, 構造物に関して外力・内力・変形の関係について説明します. 皆さんは, 実際の構造物を安全かつ経済的に造る上で必要な基礎理論を学習することになります.
	[到達目標] 1. 節点法を用いてトラスの断面力を計算できること. 2. 切断法を用いてトラスの断面力を計算できること.

3. 他画面からのシラバス参照

シラバスは、「履修登録画面」「学生時間割画面」「クラスプロファイル」からも参照することができます。科目名をクリックすると、シラバス画面が開きます。

履修登録中／履修登録後に自分の履修予定／履修済の授業内容を確認したい場合は、上記画面から閲覧すると便利です。

Web による履修登録方法

0. 全体の流れ

履修登録は、原則として学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」上で行います。履修登録を行うときは、履修のページ（P 155 参照)、各種掲示・指示を確認して履修計画を立ててから行ってください。

履修登録の期間中に DENDAI − UNIPA で行うこと

1．履修登録科目の選択

1 履修希望科目の選択

↓

2 エラーチェック

↓

エラーを修正する（履修希望科目の選択に戻る）

↓

3 履修登録の確定

2．履修登録の操作を確認する

4 履修登録科目の確認方法

3．履修計画の不備を確認する

5 進級見込判定・卒業見込判定

6 履修登録期間後の履修登録科目確認方法

7 履修登録時の注意

8 履修登録でよくある質問と回答

1. 履修希望科目の選択

1 「履修登録」画面の選択

画面上部のメニューから **履修登録** をクリックします。(図 1)



図 1　メニュー

2 開講期および授業時限の選択

①開講期（前期・後期）を選択し、②編集したい授業時限のコマの中の選択ボタンをクリックします。(図 2)

※集中講義は画面左下の **集中講義** にある 選択 ボタンから履修できます。

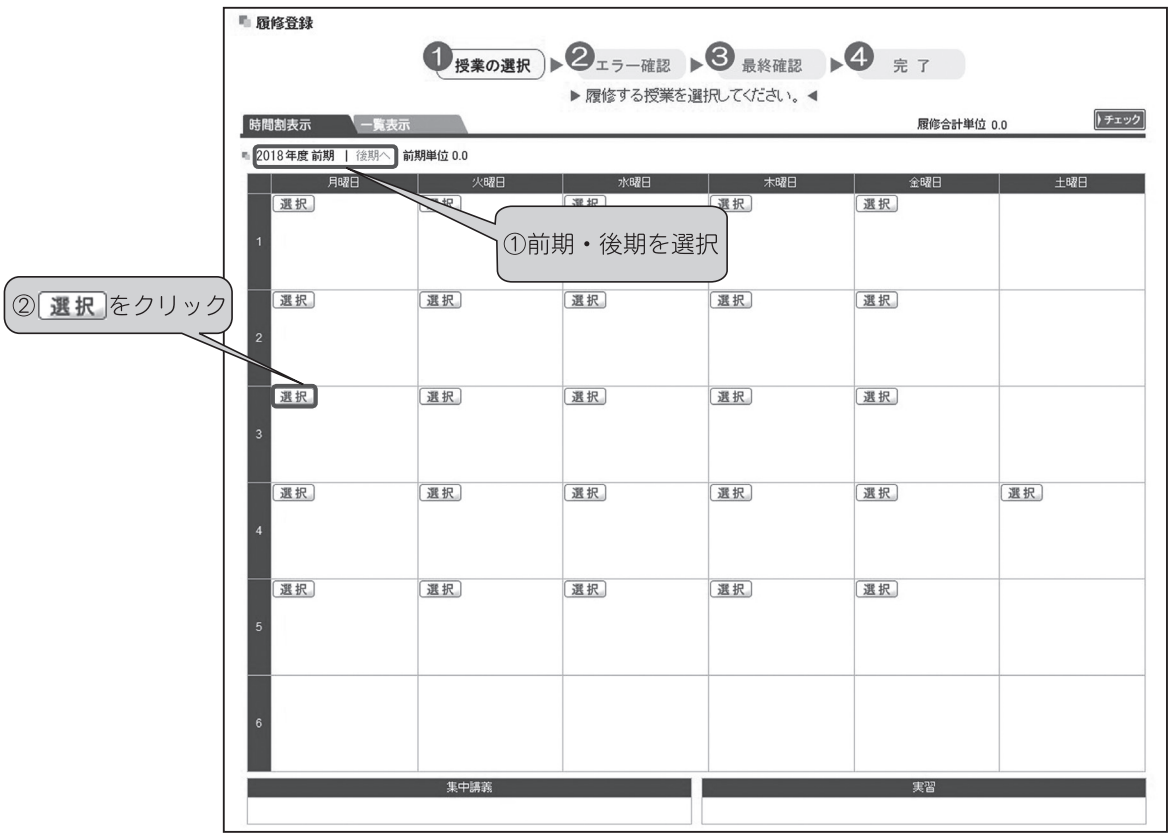


図 2　履修登録画面

3 履修可能科目から科目を選択

「授業の追加」画面に履修可能科目が表示されますので、履修したい科目にチェックを入れて 確定 をクリックします。(図 3)



図 3　授業の追加画面

※科目名のみを見て科目を選択すると、担当教員や開講学系・コースを間違える可能性があります。科目を選択する際は、**同一時限に他に同名科目がないか必ず確認**してください。

※同じ科目でも担当教員（クラス）別に履修登録を受け付けている場合があります（紙の授業時間割表でも分かれて記載）。**教員氏名**（クラス分け）をよく確認して選択してください。

※学系の専門教育科目を選択する際は、**科目名の後ろに記載されている記号**（(RU)、(b1)など）をよく確認してください。自分の学系・コースで開講している科目か特に注意してください。(P 213 参照)。



※同名科目が並んで表示されているとは限りません。画面上部と下部に離れて存在する場合があります。

※自分の学系・コース（主コース・副コース）の科目の他に、**他コース・他学系で開講している科目も表示**されています。

※科目名をクリックするとシラバスを参照できます。

※「授業の追加」画面が開かない場合、ブラウザのポップアップブロックを解除してください。(P 185 参照)

※ 複回 複数の時限（例：1・2 時限連続）に開講されている科目を表します。

※ 複期 通年科目を表します。

※前前期、前後期等の四半期で行う授業は、学期が重複しない組み合わせで一度に両方選択できます。



四半期で行う授業の追加画面

4　選択した科目の確認および取消方法

「授業の追加」画面で追加した科目が、履修登録画面に表示されているか確認します。(図 4) 科目を取り消す場合は 削除 をクリックします。



図 4　履修した科目の確認

2. エラーチェック

1 履修希望科目を全て選択したら、チェック ボタンをクリックします。

何らかの条件で履修することができない科目が選択された場合、履修時間割の曜日時限コマがピンク色に表示されます。(図 5)

2 エラーメッセージが出た場合は、画面上部の［登録内容にエラーがあります］のメッセージをクリックし、「エラー内容の確認」画面でエラー内容を確認の上、修正をしてください。(図 6)

3 エラーがなくなるまでチェックを繰り返します。

※エラー内容について不明な点がある場合は、教務担当に申し出てください。

4 エラーが全てなくなると最終確認に進みます。

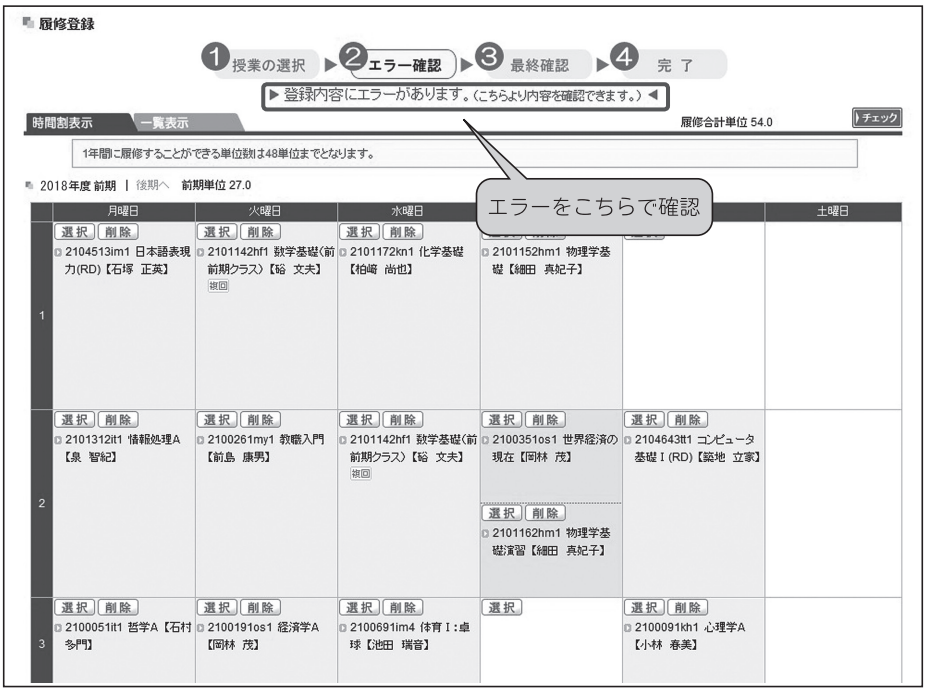


図 5　チェック後の画面（エラーあり）

※エラーがでている場合は、登録が未完了です。**必ずエラーは修正してください。**
※エラーの修正を試みてもエラーが消えない場合は、履修登録期間内に教務担当窓口まで申し出てください。

主なエラーメッセージ

【同名科目を複数履修している場合】

⇒「**既に履修中もしくは修得済みです。**」

⇒「**複数回修得不可の科目を複数回履修しています。**」

⇒「**科目重複。同じ科目がすでに登録されています。**」

対応　修得済の科目の履修登録は削除してください。同名科目を複数履修登録している場合は、受講する方を残して、残りを削除してください。

【同じ曜日時限に複数科目を選択している場合】

⇒「**時間割重複。**」

対応　受講する方を残して、重複する他科目を削除してください。

【履修上限単位数を超えて履修登録をした場合】

⇒「**1 年間に履修することができる単位数は 48 単位までとなります。**」

対応　履修計画を立て直し、1 年間の履修登録単位数が 48 単位以下になるように削除してください。


エラー内容の確認

閉じる

基本、条件エラー

授業コード	開講学期	開講曜日	科目名	単位	メッセージ
2100771ea2	2018年度 前期	水4	英語ＩA[RU指定]【遠藤　晶子】	1.0	科目重複。同じ科目がすでに登録されています。
2100771mk1	2018年度 前期	金3	英語ＩA[RD指定]【松平　圭一】	1.0	科目重複。同じ科目がすでに登録されています。
2104513im1	2018年度 前期	月1	日本語表現力(RD)【石塚　正英】	2.0	時間割重複。
2106603uy1	2018年度 前期	月1	電子・機械工学概論(RT)【内川　義則】	2.0	時間割重複。
2109312rm1	2018年度 前期	月3 月4	基礎化学実験	2.0	複数回修得不可の科目を複数回履修しています。
2109312yn2	2018年度 後期	月3 月4	基礎化学実験	2.0	複数回修得不可の科目を複数回履修しています。

制限エラー

メッセージ
1年間に履修することができる単位数は48単位までとなります。

図 6　「エラー内容の確認」画面

エラー内容について補足説明

①修得済の科目を再履修することや 2 回修得することはできません。担当教員が修得時と異なっていても同様です。

②同じ科目名の授業を同時に複数履修登録することはできません。開講学系、担当教員、開講学期が異なっていても同じ科目になります。

③窓口で手続きを要する履修は DENDAI − UNIPA では登録できません。指定された期間に各種手続きを行ってください。

④年間履修上限単位数超えのエラーは、履修単位数の合計から履修上限の制限を受けない科目（自由科目等）を除いた単位数が、上限単位数を超えた場合に表示されます。自由科目（主に教職科目等）を履修登録しているから上限エラーが表示されていても大丈夫ということはありません。

⑤履修上限の制限を受けない科目（自由科目等）は履修上限から除かれますが、そのコマに別の授業を履修登録する（時限を重複させる）ことはできません。

3. 履修登録の確定

エラーチェックの結果、エラーがなければ チェック ボタンが 確 定 ボタンに変わり、画面上部には［**エラーはありません。**］のメッセージが表示されます。(図 7)

履修登録画面に表示されている科目に間違いがないかどうか再度確認し、修正したい場合は 授業の選択へ戻る ボタンを、修正が必要ない場合は 確 定 ボタンをクリックします。

履修を一度確定した後も、履修登録期間内であれば履修内容の変更は可能です。



図 7　チェック後の画面（エラーなし）

※ 確 定 をクリックする前に、登録もれがないかを確認してください。
※履修登録期間内に 確 定 ボタンをクリックしてください。

4. 履修登録科目の確認方法

履修登録を確定すると、[**履修登録が完了しました。**] のメッセージと 時間割表の印刷 ボタンが出現します。(図 8)

履修内容の確認のために、必ず 時間割表の印刷 ボタンでプリントアウト（A 4）を行い、各自保管してください。

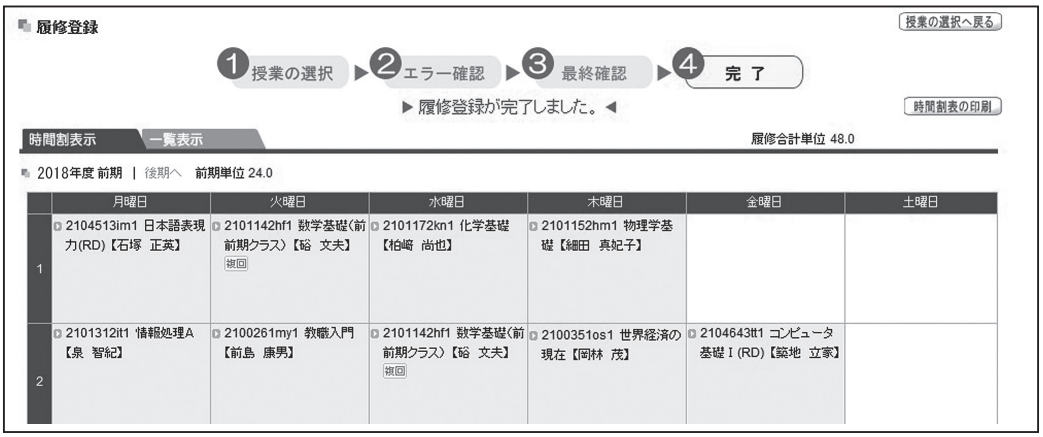


図 8　履修完了画面

※履修登録が確定したら時間割の印刷を行い、履修する科目全てについて、科目名・曜日時限・担当教員名・開講学系・コース等に誤りがないかを確認してください。
履修登録していない科目は、採点の対象とならないため単位を修得することはできません。

5. 進級見込判定・卒業見込判定

1 年～ 3 年次生は［進級見込判定］、3 年～ 4 年次生は［卒業見込判定］を行うことができます。

1 **画面上部のメニューから** 成績関連 → 進級見込判定 **又は** 卒業見込判定 **を選択してください。（図 9）**

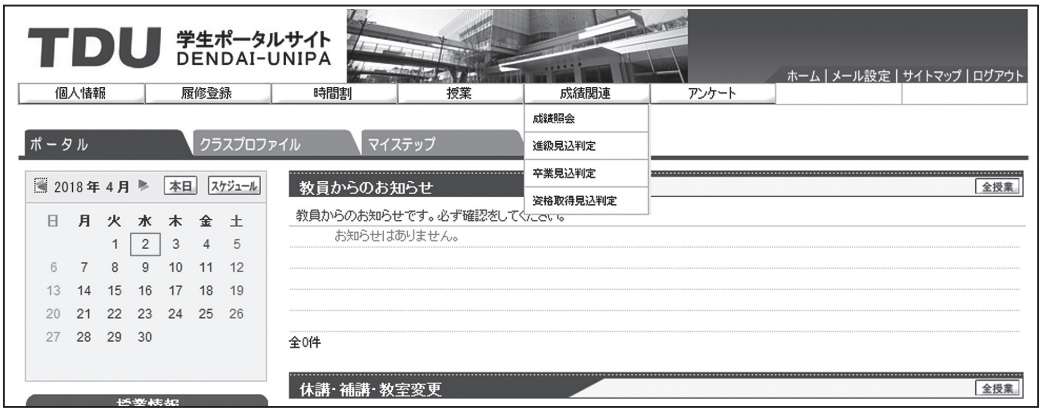


図 9　進級・卒業見込判定選択

2 **判定結果が表示されます。（図 10）**
単位数や科目数の不足が表示された場合は、不足を補うよう履修計画を立ててください。

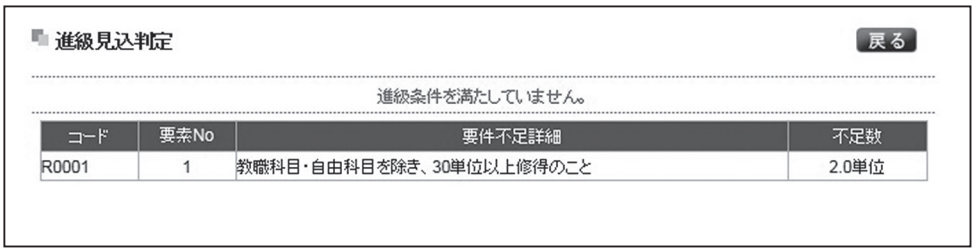


図 10　進級見込判定結果

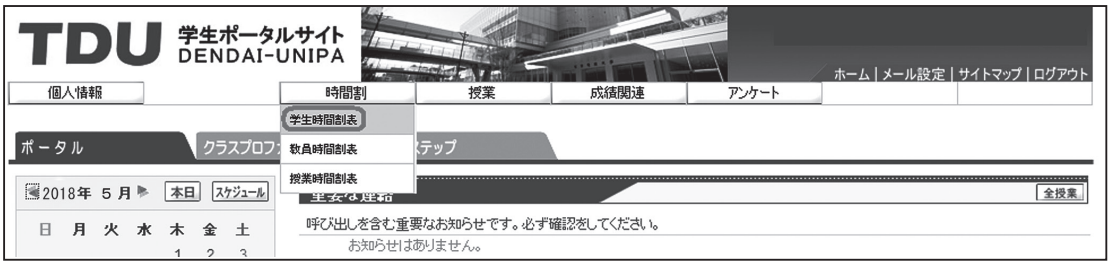
※進級・卒業見込判定は何度でも行うことができます。履修登録内容を変更するたびに進級・卒業見込判定画面を確認してください。
※ここでの進級・卒業見込判定は、**履修登録した科目の単位がすべて修得できたとみなした上で**、行われています。
※卒業要件、進級条件は選択した主コース・副コースの組み合わせにより異なります。進級条件についての詳細は所属する学系の進級条件表のページを、卒業要件については卒業についてのページをご覧ください。
※進級・卒業には、別途在学期間等を充たす必要があります。

6. 履修登録期間後の履修登録科目確認方法

履修登録期間後は、「履修登録」のメニューが表示されなくなります。

履修登録期間後に履修科目の確認を行う場合は、「学生時間割表」画面で確認をすることができます。

1 画面上部のメニューから 時間割 → 学生時間割表 を選択します。



2 「学生時間割表」画面が開きます。

科目名をクリックすると、その科目のシラバスを確認することができます。



	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	2109312rm1 基礎化学実験 【類家 正稔】2.0単位 複回	2101192ot1 基礎微積分学A 【小黒 隆】2.0単位	2101262MY5 化学A 【宮里 裕二】2.0単位	2101232im1 物理学A 【井上 真】2.0単位	2100911ys1 フレッシュマンゼミA 【山形 周二】1.0単位	
2	2109312rm1 基礎化学実験 【類家 正稔】 複回	2100261my1 教職入門 【前島 康男】2.0単位		2101435kj1 道徳教育論 【河野 次郎】2.0単位	2102163oy1 数学演習Ⅰ(RU) 【越智 禎宏】2.0単位	

7. その他　注意事項（同名科目に関する注意）

複数の学系やコースにまたがって開講されている科目は、同じ曜日時限のコマに同じ科目名が複数表示されます。科目名の後ろに（RU）（u1）などの記号がついていますので、自分の取りたい学系・コースの科目を選択してください。

学系共通科目はアルファベット大文字の学系記号（（RU）など）、コース専門科目は基本的にアルファベット小文字＋数字のコースコード（（u1）など）で表示されます。

コースコードと実際のコース名の対応につきましては、各学系の配当表のページをご覧ください。

（例 1）

生命理工学系（RB）の学生が「生物学」を生命理工学系共通科目として履修したい場合（図 11）「生物学（RB)」を選択してください。

同名科目の「生物学（RU)」を選択すると理学系（RU）共通科目扱いになります。

授業の追加　閉じる

2018年度 前期 月1

	授業コード	科目名	単位
☐	2101152ot1	物理学基礎【小田垣　孝】	1.0
☐	2101152sk1	物理学基礎【隅山　兼治】	1.0
☐	2101232im1	物理学A【井上　真】	2.0
☐	2101232nk1	物理学A【仲光　邦昭】	2.0
☐	2101312it3	情報処理A【泉　智紀】	2.0
☐	2102063ka1	生物学(RU)【栗山　昭】	2.0
☐	2102103kh1	数理情報学入門(RU)【狩野　弘之】	2.0
☐	2103223ka1	生物学(RB)【栗山　昭】	2.0
☐	2104033kh1	コミュニケーション科学(RD)【小林　春美】	2.0
☐	2106633tk1	電気回路Ⅰ・演習(RT)【田中　慶太】 複回	3.0
☐	2108573ch1	測量実習(RG)【近津　博文】 複回	2.0
☐	2109302hm1	基礎物理学実験【細田　真妃子】 複回	2.0
☐	2109312rm1	基礎化学実験【類家　正稔】 複回	2.0
☐	2109554ut1	機械工学実験・実習Ⅰ(t2)【内田　干城】 複回	1.0

確定

図 11　同名科目の例（生物学）

（例 2）

主コースが理学系化学コース（**U3**）・副コースが理学系物理学コース（**U2**）の学生が「統計力学Ⅱ」を副コースの物理学コース専門科目として履修したい場合（図 12）

「統計力学Ⅱ **(u2)**」を選択してください。

同名科目の「統計力学Ⅱ **(u3)**」を選択すると主コースの化学コース専門科目扱いになります。



図 12　同名科目の例（統計力学Ⅱ）

8. 履修登録でよくある質問と回答

Q **パスワードがわからない（忘れた）。**
A 総合メディアセンターにお問合せください。再発行となる場合もありますので、履修登録前にパスワードの確認を事前に行ってください。

Q **ログインできない。**
A 学籍番号を半角小文字で入力していない、もしくはパスワードが間違っている可能性があります。再度、入力してみてください。

Q **履修登録できない科目がある。**
A その科目は、すでに単位修得している、時間割上重複している、カリキュラム年度が異なる等、さまざまな理由が考えられます。教務窓口に申し出てください。

Q **何度修正してもエラーメッセージが消えない。**
A 履修登録期間内に、教務窓口に申し出てください。

Q **午前 3 時～午前 5 時 30 分の間は履修登録期間であっても履修登録ができないのですか？**
A システムメンテナンスを行っていますので、履修登録はできません。

Q **再履修はどのように履修登録するのか？**
A 新規履修と同様に履修登録を行ってください。

Q **履修登録したはずなのに、確認画面に載っていないのはなぜか？**
A 履修登録の「最終確認」で「確定」をクリックしていない可能性があります。「確定」をクリックし、正常終了しないと、選択内容はクリアされる場合があります。

Q **履修登録後に登録間違いに気がついた**
A 一度履修確定した後も、履修登録（履修登録修正）期間内であれば、履修内容の変更は可能です。期間終了後は変更が不可能となりますのでご注意ください。

Q **Ｗｅｂ履修登録中（ログイン中）に履修登録受付終了時間となったが、履修登録は可能なのか？**
A ログイン中であっても、履修登録受付終了時間を過ぎると、履修登録は不可能となります。時間の余裕をもって履修登録をしてください。

Q **担当教員が履修登録を許可しているのに、履修登録できない科目がある。**
A 教務窓口に申し出てください。

Q **前後期科目、隔週開講科目はどのように履修登録するのか？**
A 他の科目と同様に履修登録を行ってください。前前期と前後期のように学期が重複しなければ同時に履修登録できます。隔週開講科目も同時に履修登録できます。

履修登録用　下書き　前期

履修登録期間前に履修計画を立て、それから履修登録を行ってください。

※コースコード・単位数は授業科目配当表で確認すること。

時限・科目		月	火	水	木	金	土
1	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
2	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
3	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
4	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
5	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						

集中講義	科目名	コースコード	単位数	担当教員名

履修登録単位数	必修・選択（前期）	自由（前期）
	単位	単位

履修登録用　下書き　後期

履修登録期間前に履修計画を立て、それから履修登録を行ってください。

※コースコード・単位数は授業科目配当表で確認すること。

時限・科目		月	火	水	木	金	土
1	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
2	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
3	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
4	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						
5	科目名						
	コースコード						
	単位数						
	担当教員名						

集中講義	科目名	コースコード	単位数	担当教員名

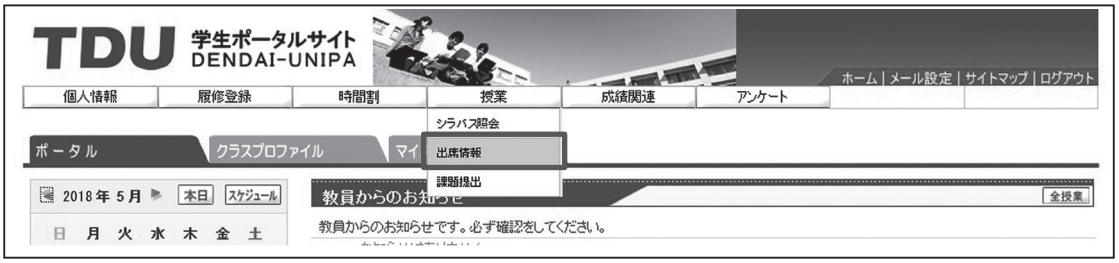
履修登録単位数	必修・選択（前期）	自由（前期）	必修・選択（後期）	自由（後期）	必修・選択（1 年間）	自由（1 年間）
	単位	単位	単位	単位	単位	単位

出席の確認方法

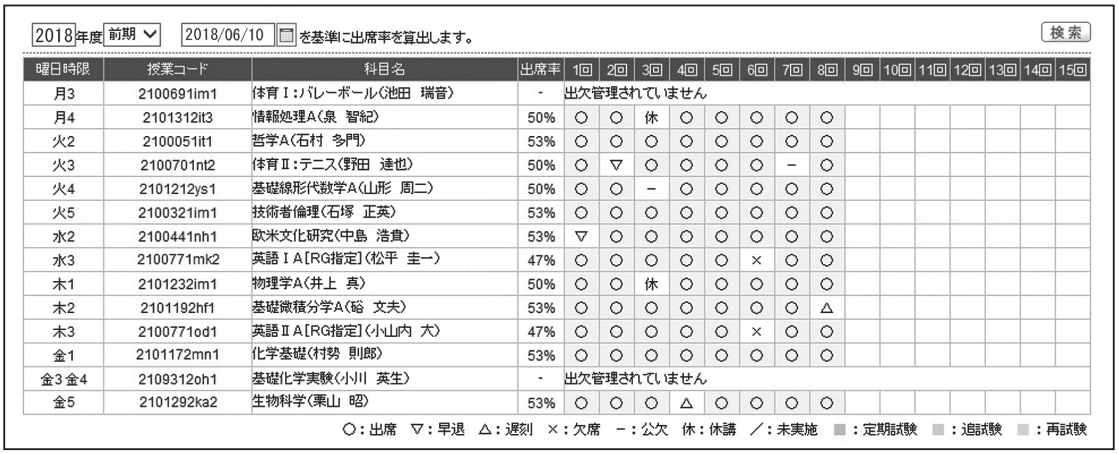
1. 出席情報の確認

学生証による出席管理を行っている授業の場合は、出席情報を DENDAI − UNIPA で確認することができます。

1 画面上部のメニューから **授業** → **出席情報** を選択します。



2 出席確認画面が表示されます。



2018年度 前期 2018/06/10 を基準に出席率を算出します。 検索

曜日時限	授業コード	科目名	出席率	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回
月3	2100691im1	体育Ⅰ:バレーボール〈池田 瑞音〉	-	出欠管理されていません														
月4	2101312it3	情報処理A〈泉 智紀〉	50%	○	○	休	○	○	○	○	○							
火2	2100051it1	哲学A〈石村 多門〉	53%	○	○	○	○	○	○	○	○							
火3	2100701nt2	体育Ⅱ:テニス〈野田 達也〉	50%	○	▽	○	○	○	○	−	○							
火4	2101212ys1	基礎線形代数学A〈山形 周二〉	50%	○	○	−	○	○	○	○	○							
火5	2100321im1	技術者倫理〈石塚 正英〉	53%	○	○	○	○	○	○	○	○							
水2	2100441nh1	欧米文化研究〈中島 浩貴〉	53%	▽	○	○	○	○	○	○	○							
水3	2100771mk2	英語ⅠA[RG指定]〈松平 圭一〉	47%	○	○	○	○	○	×	○	○							
木1	2101232im1	物理学A〈井上 真〉	50%	○	○	休	○	○	○	○	○							
木2	2101192hf1	基礎微積分学A〈裕 文夫〉	53%	○	○	○	○	○	○	○	△							
木3	2100771od1	英語ⅡA[RG指定]〈小山内 大〉	47%	○	○	○	○	○	×	○	○							
金1	2101172mn1	化学基礎〈村勢 則郎〉	53%	○	○	○	○	○	○	○	○							
金3 金4	2109312oh1	基礎化学実験〈小川 英生〉	-	出欠管理されていません														
金5	2101292ka2	生物科学〈栗山 昭〉	53%	○	○	○	△	○	○	○	○							

○：出席 ▽：早退 △：遅刻 ×：欠席 −：公欠 休：休講 ／：未実施 ■：定期試験 ■：追試験 ■：再試験

記号	状態	備考
○	出席	
△	遅刻	基準は科目担当教員により異なります。
▽	早退	
×	欠席	
—	公欠	
空欄		出席を取らなかった場合は空欄になります。

※定期試験・追試験・再試験の表示は使用していません。
※「出欠管理されていません」の表示は DENDAI―UNIPA での出欠管理をしていません（他の方法で出欠を管理しています）。
※表示されている出席率は、その授業の出席評価の基準で算出されているものではありません。遅刻等をどのように取り扱うかは授業・科目担当教員により異なります。

2. 出席情報に関するよくある質問と回答

Q **出席データはいつから表示されますか？**
A 履修登録が確定してからの表示となります。前期は 5 月中旬、後期は 10 月下旬から科目ごとに順次表示されます。

Q **出席を取っているが反映されていない。科目の出席データはどのタイミングで表示されますか？**
A 表示されるタイミングは、授業・科目担当教員により異なります。また、レポートや課題提出をもって出席としている等の学生証以外で出席を管理している授業の場合は、DENDAI―UNIPA には反映されないことがあります。

Q **出席率の最大値について**
A 2 コマ連続授業の場合は 2 コマそれぞれで出席を取った場合、出席率の最大は 100%、片方のみの場合は 50%となります。また、休講等により必ずしも 100%にはならない場合があります。

Q **遅刻、早退、欠席、公欠となっている日について、質問したい。**
A 各状態の判断は担当教員により異なります。詳しくは科目担当教員に相談してください。出席したが欠席となっている場合は、授業時のノート、配布資料等の出席していたことを示せるものを持って相談してください。教務担当窓口では、出席したことの証明はできません。

Q **欠席届を提出したが、公欠となっていない。**
A 公欠制度はありません。ただし、病気・ケガ等のやむを得ない理由で授業を欠席する場合は、教務担当窓口で欠席届の用紙を受け取り、必要事項記入の上、診断書等欠席を証明できる物を添えて提出してください。詳しくは科目担当教員に相談してください。

Q **学生証を忘れてしまった。**
A 授業時に科目担当教員に申し出てください。申し出があった場合でも、DENDAI―UNIPA に反映しない場合があります。教務担当窓口で、出席の手続きはできません。

成績の確認方法

1. 成績照会

「成績照会」画面では、成績評価を確認することができます。成績は、前期末（9 月中旬）と後期末（3 月上旬）に更新されます。

1 **画面上部のメニューから** 成績関連 → 成績照会 **を選択します。**



2 **「成績照会」画面が開きます。**

成績照会

表示パターン ◉ 通常 ○ 年度学期別

表示設定 ☑ 評価名称 ☑ 素点 ☑ 不合格科目 ☑ 履修中科目 ☑ GPA 表示

	科目名	単位	評価	素点	年度	学期	教員氏名
	共通教育科目						
	英語科目						
	英語必修						
	英語ＩＡ	1.0	S	93	2018	前期	松平 圭一
※	英語ＩＢ	1.0			2018	後期	松平 圭一
	英語ⅡＡ	1.0	A	86	2018	前期	小山内 大
※	英語ⅡＢ	1.0			2018	後期	小山内 大
	人間形成科目						
	フレッシュマンゼミA	1.0	B	74	2018	前期	大塚 尚久
	経済学A	2.0	C	65	2018	前期	岡林 茂
※	日本経済の現在	2.0			2018	後期	岡林 茂
※	社会の成り立ち	2.0			2018	後期	石村 多門
	体育Ｉ		D	57	2018	前期	池田 瑞音
	専門教育科目						
	学部共通科目						

※評価が放棄（−）の場合は、評点が 666 として、認定（R）の場合は評点が 210 と表示されます。

2. ＧＰＡ・順位の確認

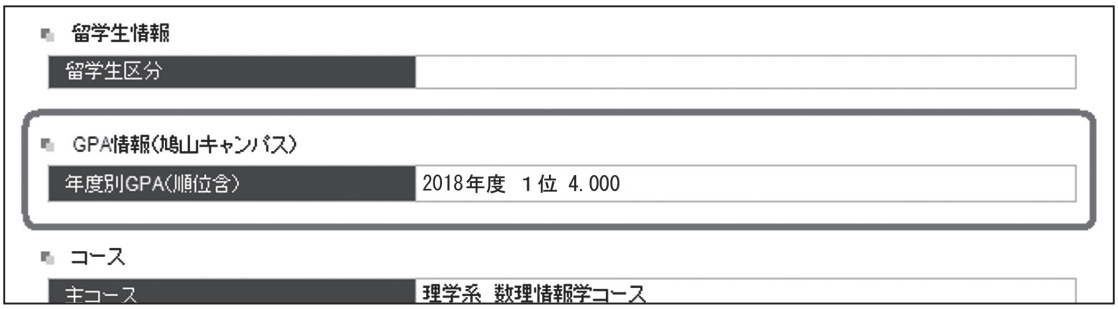
ＧＰＡ・学系内順位は、「成績照会」画面ではなく「学籍情報照会」画面で確認することができます。

ＧＰＡ・順位は、成績と同じタイミングで更新されます。

1 画面上部のメニューから **個人情報** → **学籍情報照会** を選択します。



2 学籍情報照会画面が表示されます。「ＧＰＡ情報（鳩山キャンパス）」の項目が表示されるまで下にスクロールします。



※前期は８月～９月の成績発表開始日時まで、後期は２月～３月の成績発表開始日時までの期間、成績処理のため成績照会画面、学籍情報照会画面の GPA・順位の公開を停止いたします。

※成績発表後に成績の訂正があった場合の成績・GPA・順位は、次の成績発表時に更新されます。

アンケート回答

1. アンケート回答

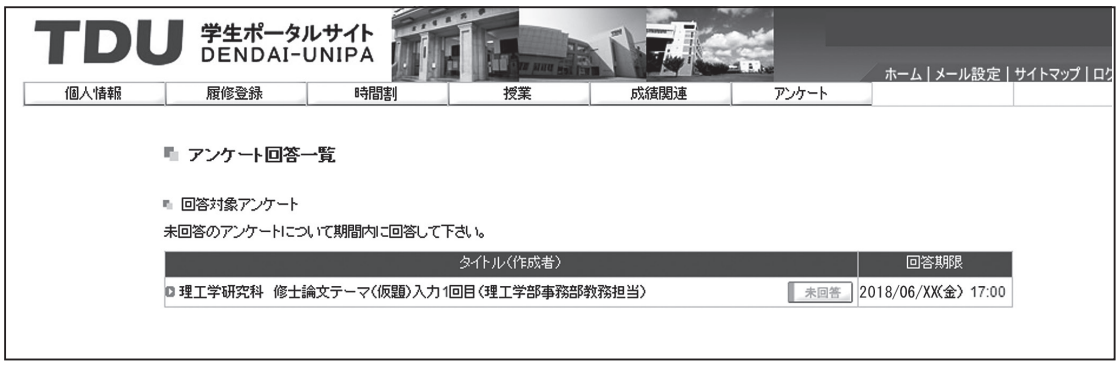
「アンケート回答」画面で、アンケートを行うことがあります。ここで行うアンケートは、意識調査からコース選択等の学生生活を送る上で必要な選択・回答までを行います。アンケートだからと言って、適当な気持ちで回答すると取り返しのつかないことになることもあります。

アンケートの実施がある場合は、掲示機能等でお知らせしますので、下記の手順で回答してください。

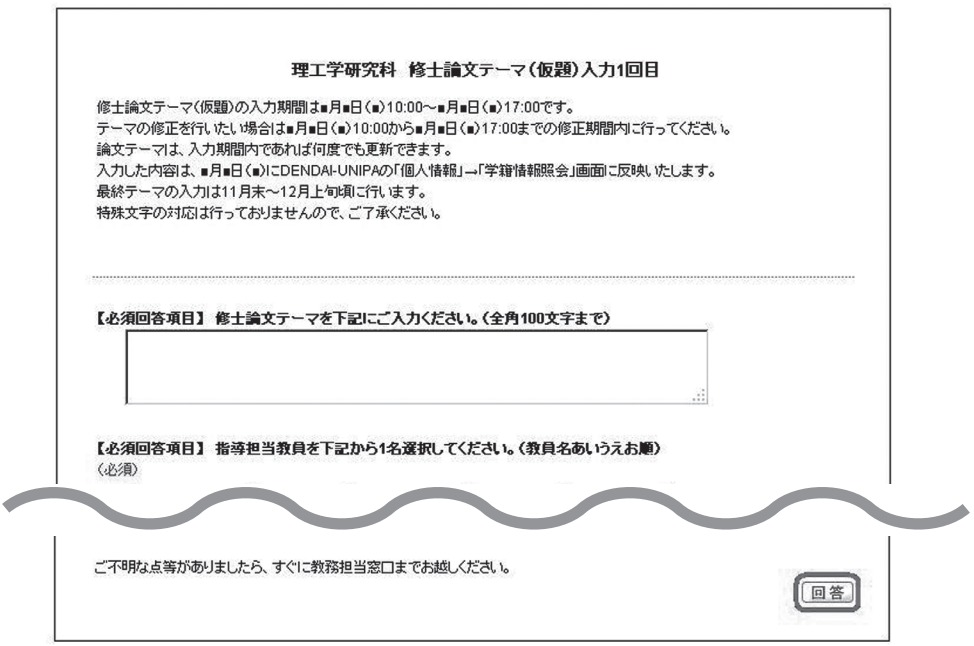
1 画面上部のメニューから [アンケート] → [アンケート回答] を選択します。



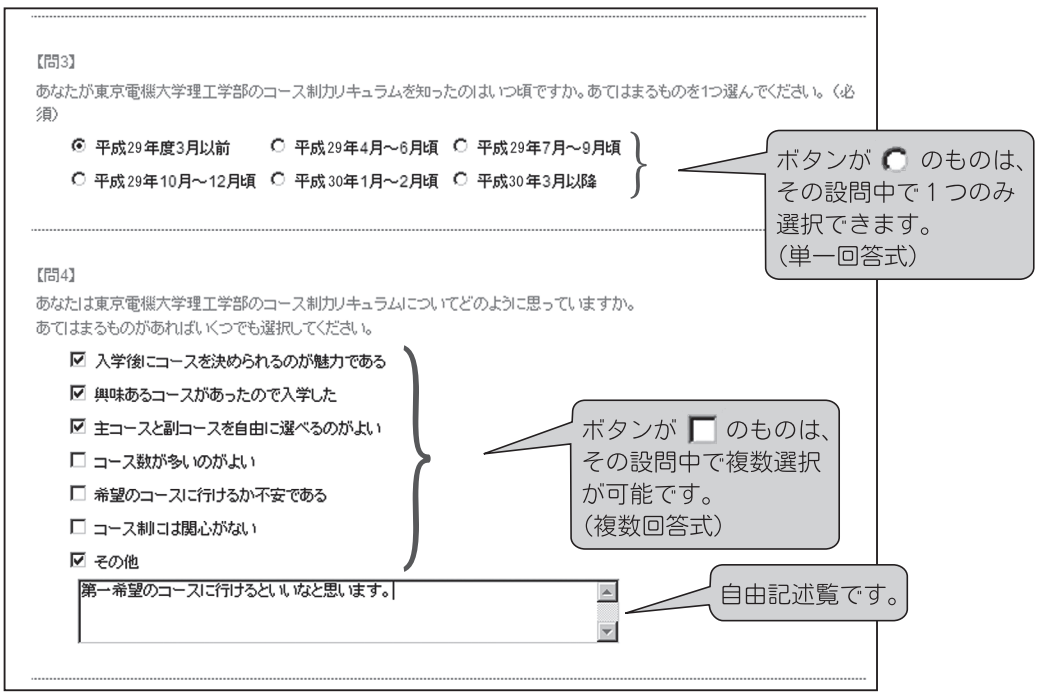
2 「アンケート回答一覧」画面が開きます。回答したいアンケートのタイトルをクリックします。



3 アンケート画面が開きます。回答が終わったら、右下の 回答 ボタンを押します。



＜参考＞回答の種類について



4　一度回答した後も、回答期限までは回答の修正が可能です。



※**（必須）**と記載されている項目は、必ず回答が必要になります。回答がないと、アンケートを終了できません。
※自由記述欄があるアンケートは回答に時間がかかるため、回答中にタイムアウトになることがあります。こまめに 回答 ボタンで保存することをお勧めします。

連絡先の変更

「DENDAI-UNIPA」上で連絡先の変更を申請することができます。携帯電話番号等の連絡先が変更になった場合は必ず申請をおこなってください。

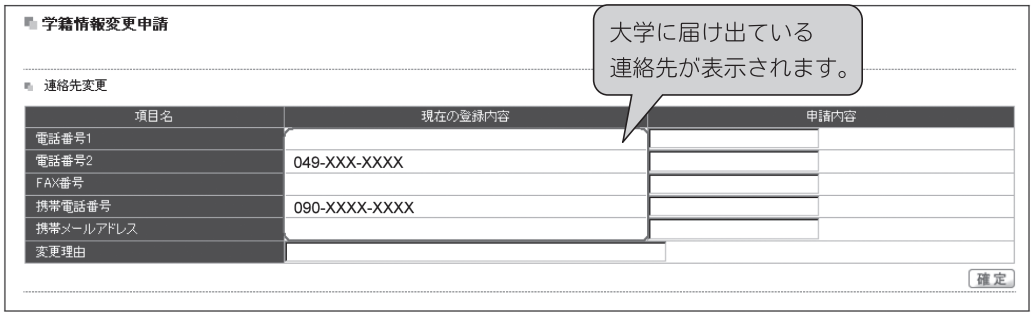
1．連絡先の変更申請

1 「学籍情報変更申請」画面の選択

画面上部のメニューから **個人情報** ⇒ **学籍情報変更申請** を選択してください。



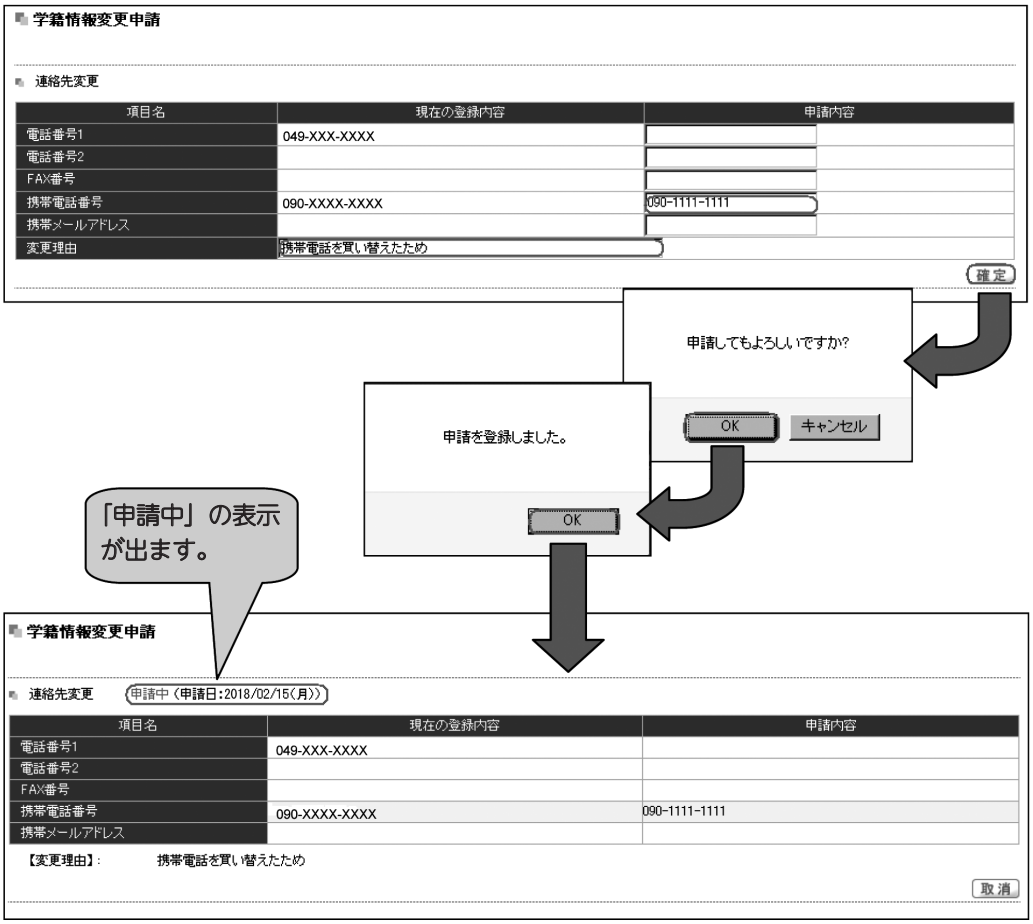
2 「学籍情報変更申請」画面が開きます。



※「DENDAI-UNIPA」上で変更できる学籍情報は「電話番号」「FAX番号」「携帯電話番号」「携帯メールアドレス」です。
※新入生連絡先届で届け出た学籍情報は 4 月下旬～ 5 月上旬頃に UNIPA に反映されます。

3 **変更内容と変更理由を入力し、確定 をクリックしてください。**

申請が完了すると「申請中」の表示が出ます。



以上で変更申請は完了です。

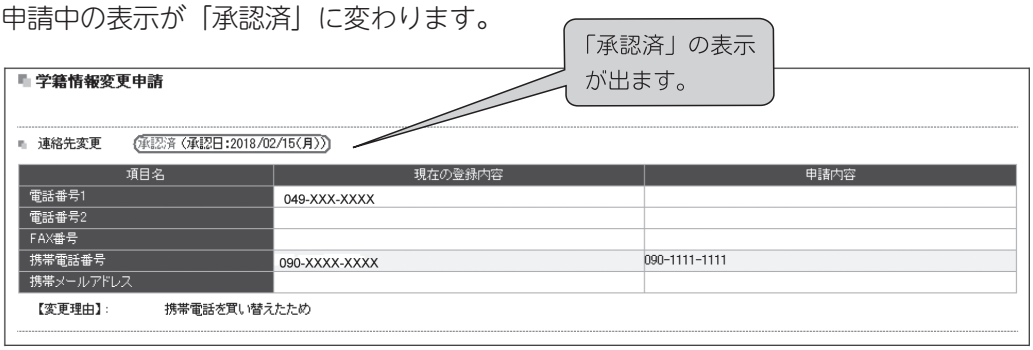
※ 確定 をクリックする前に、入力ミスがないかを確認してください。
※変更理由は簡潔に記入してください。申請内容や変更理由によっては申請を受け付けられない（否認する）場合もあります。
※入力内容を間違ったまま確定してしまった場合は、すぐに 取消 を押し、申請し直してください。

2. 申請の承認・否認

連絡先変更の申請に対し、大学から承認・否認がなされます。承認の場合は連絡先の変更が行われ、否認の場合は連絡先の変更は行われません。なお、申請の承認・否認については申請から 1 週間程度かかる場合があります。

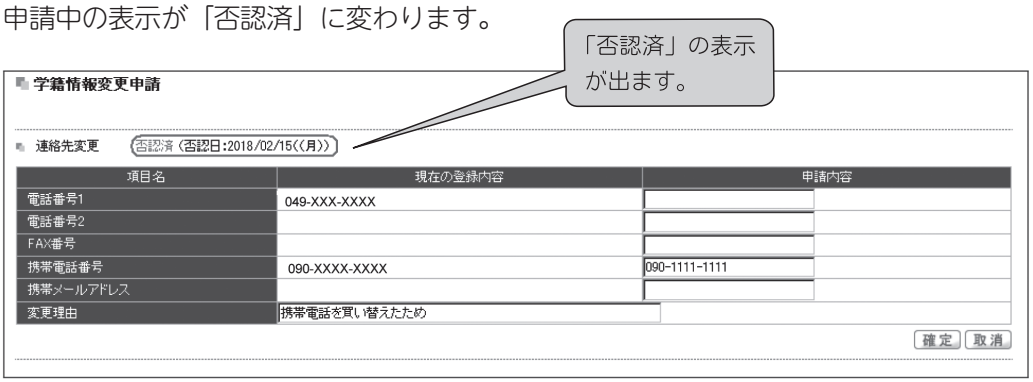
(1) 承認

申請中の表示が「承認済」に変わります。



(2) 否認

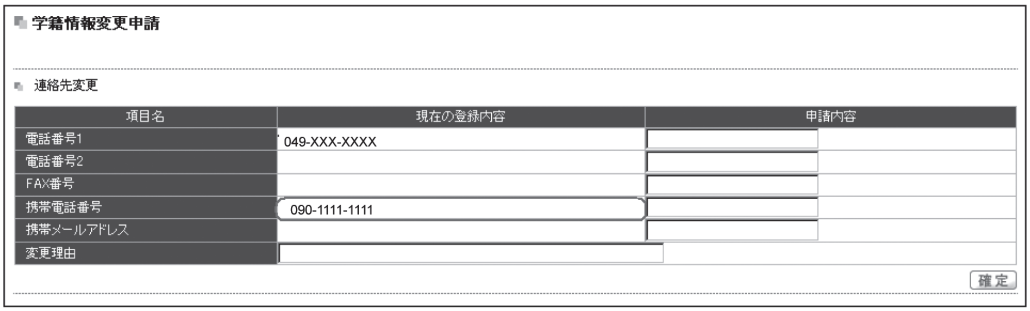
申請中の表示が「否認済」に変わります。



※承認後は申請の取消が出来なくなります。申請する際には入力ミスに気をつけてください。万が一、誤った内容で承認されてしまった場合は、申請内容が反映された時点で再度申請してください。
※否認の場合はすぐに申請し直すことが出来ます。不備の部分を訂正し、申請し直してください。

3.「DENDAI − UNIPA」への反映

承認が行われると「DENDAI-UNIPA」へ申請内容が反映されます。なお、反映には申請承認から 1 ～ 2 週間程度かかります。



※反映後は変更申請が可能となります。
※申請内容は「学籍情報照会」画面に反映されます。

クラスプロファイル（授業資料・課題提出等）

1. クラスプロファイルについて

クラスプロファイルでは、履修している授業について、授業資料のダウンロードや課題の提出などを「DENDAI － UNIPA」上で行うことができます。

教員からの指示等に応じて、クラスプロファイルの各機能を使用してください。



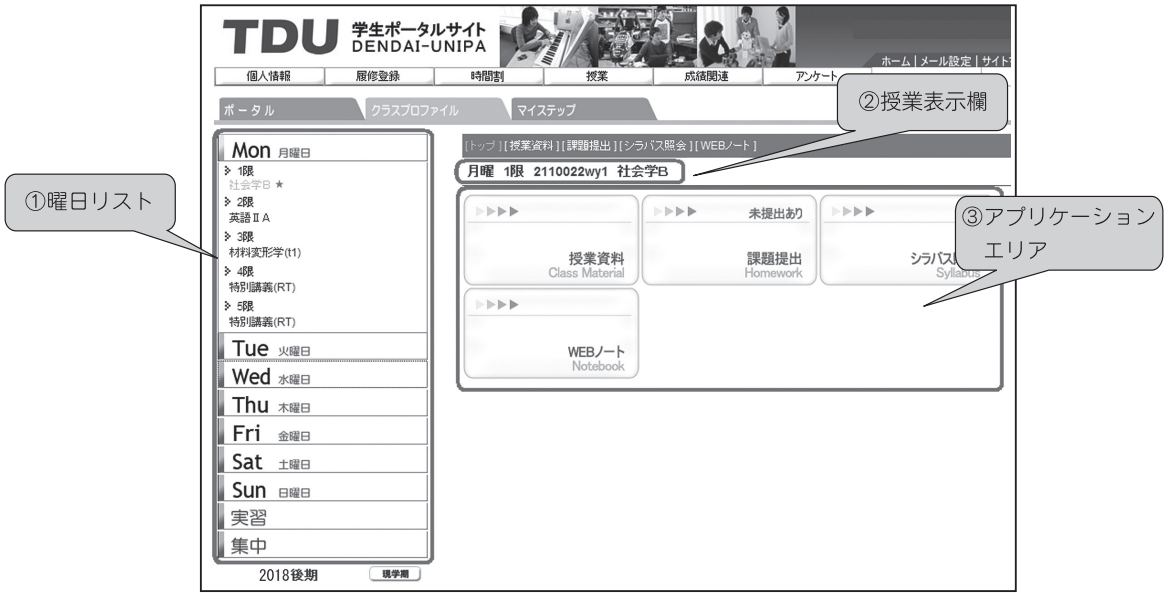
※履修登録を行っていない授業科目は、クラスプロファイル機能を使用することができませんのでご注意ください。
※クラスプロファイルの利用は、**履修登録年度の２月まで利用可能**です。
※必要な資料は、履修登録年度の２月までに各自で自身のパソコン等に保存してください。

⑴ 画面構成

① **曜日リスト**
曜日をクリックすると時限ごとに履修している授業名が表示されます。
［課題管理］に新着情報がある場合は授業名の右に ★ が表示されます。

② **授業表示欄**
曜日リストで選択した授業の情報が表示されます。

③ **アプリケーションエリア**
②の授業表示欄に表示されている授業に対し、使用可能な機能の一覧です。



⑵ クラスプロファイルの基本操作

1 「DENDAI − UNIPA」にログインし、トップページから クラスプロファイル をクリックします。

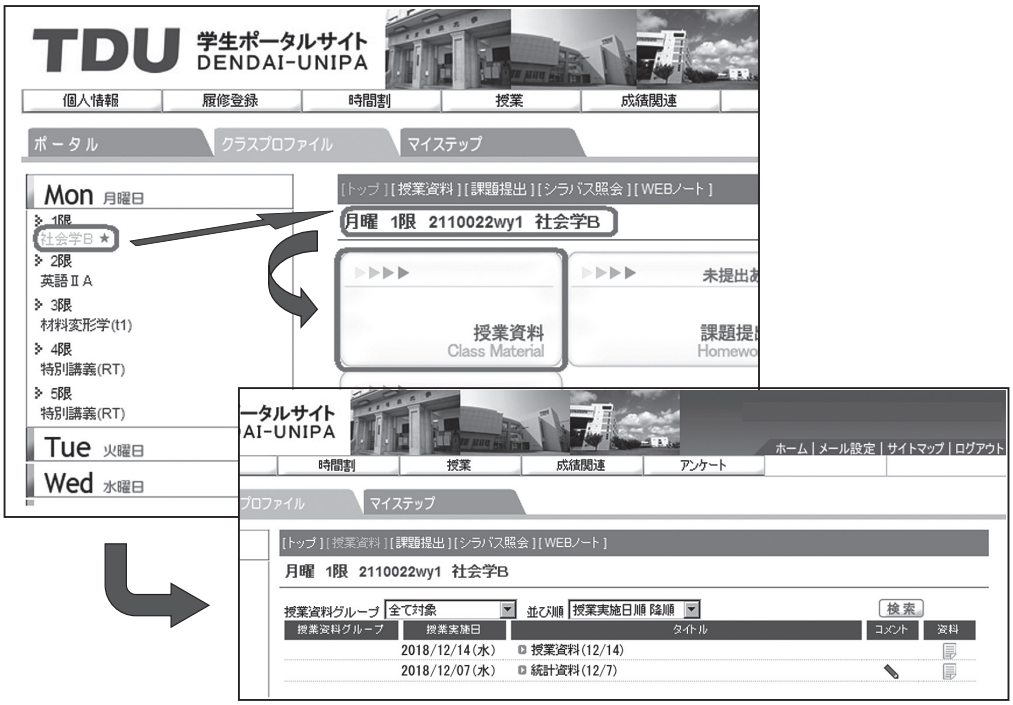
2 画面左の①曜日リストから曜日を選択すると、その曜日に履修している授業科目が表示されます。
科目名をクリックすると、②授業表示欄に表示されます。

3 画面中央の③アプリケーションエリアから、使用したい機能のボタンをクリックします。

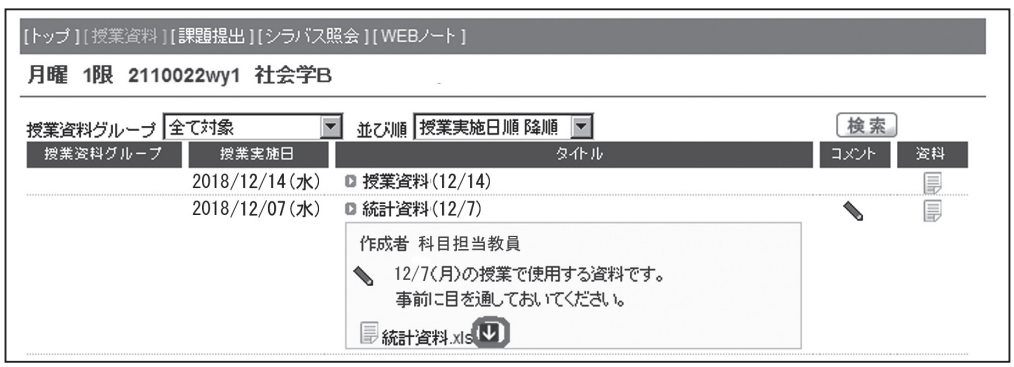
2. 授業資料のダウンロード方法

教員が「DENDAI － UNIPA」上にアップロードした授業資料をダウンロードすることができます。(履修登録した学生のみ)

1 **曜日リストから授業を選択し、アプリケーションエリアから** 授業資料 **をクリックすると、選択した授業の資料が一覧で表示されます。**



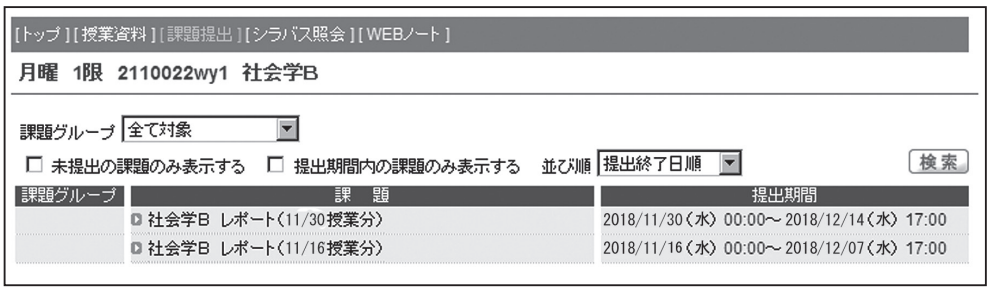
2 **授業資料一覧画面でタイトルをクリックすると、下に詳細情報が表示されます。ファイル名の右の** ↓ **をクリックすると資料をダウンロードできます。**



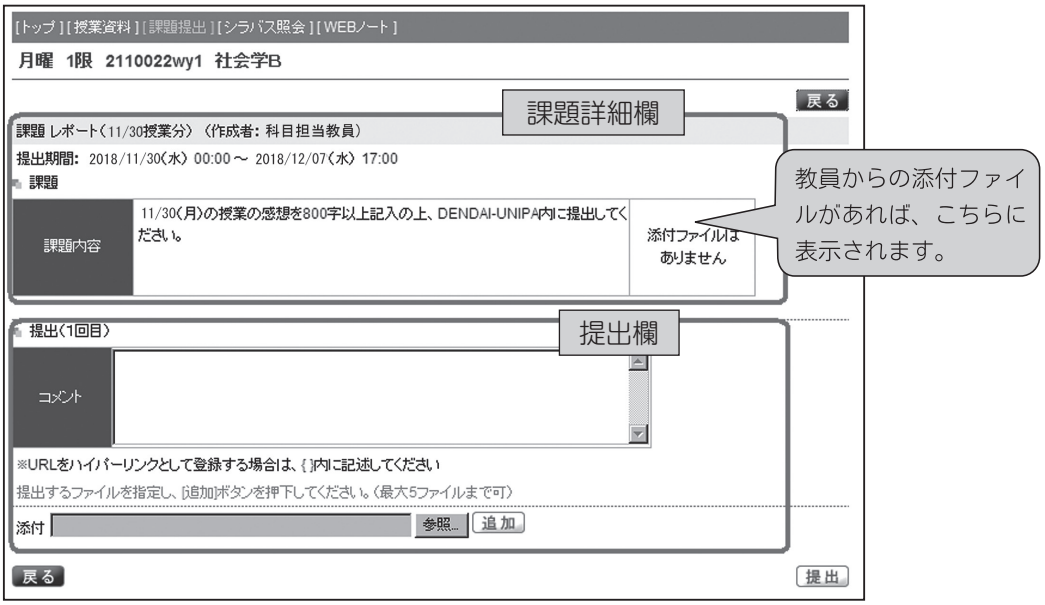
3. 授業課題の提出方法

教員から出された課題を「DENDAI − UNIPA」上で確認・提出することができます。

1 **アプリケーションエリアの 課題提出 をクリックすると、選択した授業に課題があれば、課題の一覧が表示されます。**



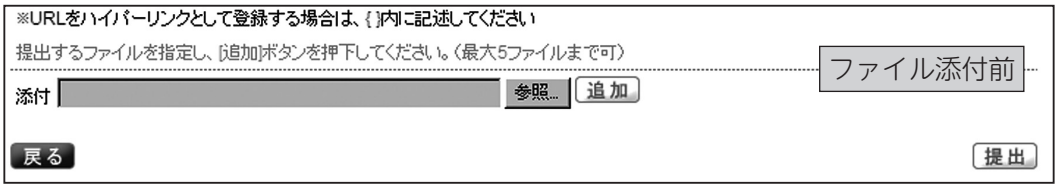
2 **課題一覧画面で課題名をクリックすると、次画面に教員の登録した課題の詳細内容が表示されます。教員が添付ファイルを登録した場合は、この画面に表示されます。**



3 **「提出」欄では「コメント」もしくは「添付ファイル」で課題の提出を行います。添付ファイルで提出する場合は、 参照... をクリックします。**

4 添付するファイルの選択をした後、必ず 追加 をクリックします。 追加 をクリックすると、下に添付したファイル名が表示されます。

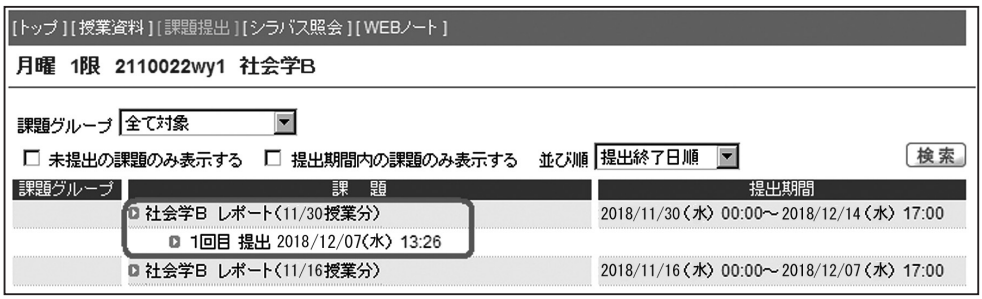
※教員が設定した提出可能ファイル数によっては、ファイルを複数添付することも可能です。(1 ファイルにつき約 10MB がアップロードできる上限です。)
なお、拡張子のないファイルや、exe 形式のファイルは添付できません。





5 最後に右下の 提出 をクリックします。

6 課題の提出後は、課題一覧画面に提出日時が表示されます。



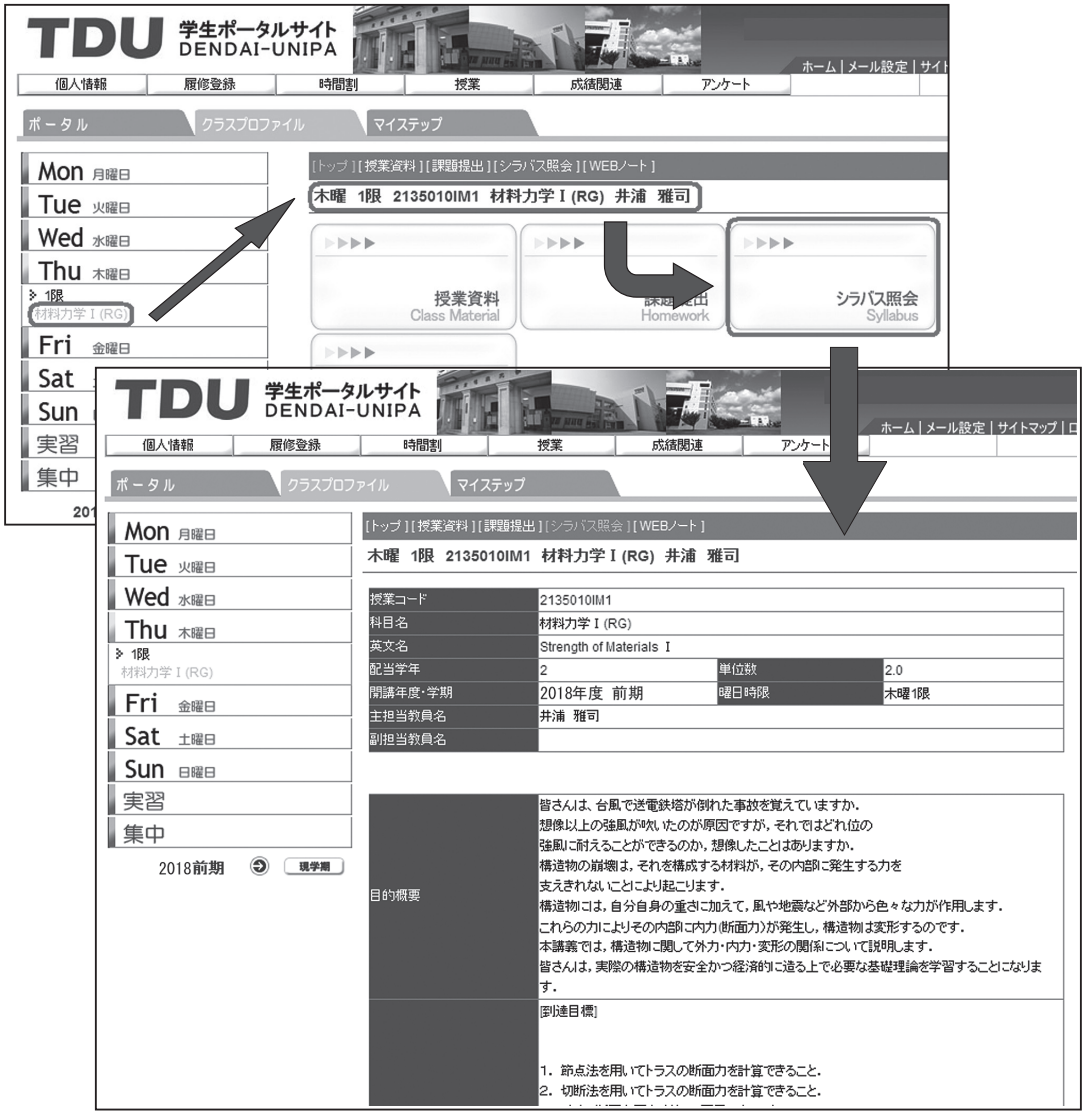
7 課題によっては、提出後、提出期限内であれば修正することができます。
その場合は、上記の提出日時をクリックし、課題の修正を行い、再度 提出 をクリックしてください。

※提出処理中に通信状態等により予期せぬトラブルが起こる可能性があります。提出期限に間に合わなかった場合も対応しませんので、時間に余裕をもって提出してください。

4. シラバス参照

履修登録している授業のシラバス内容を見ることができます。

アプリケーションエリアから **シラバス照会** を選択すると、履修登録している授業科目のシラバス内容を見ることができます。



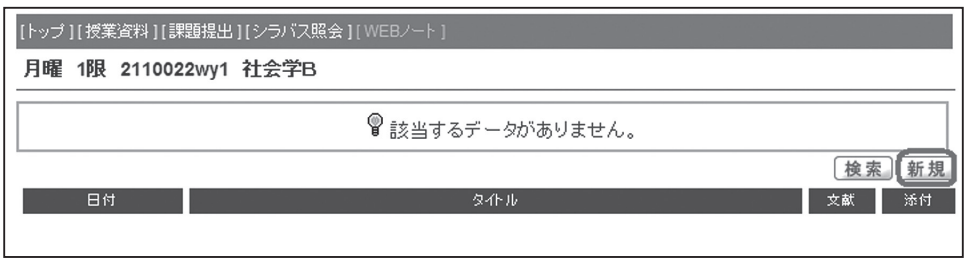
5. WEB ノート

履修している授業のノートを Web 上に記入・管理することができます。授業に関連するファイルの添付も可能です。授業内容の整理に役立てることができます。

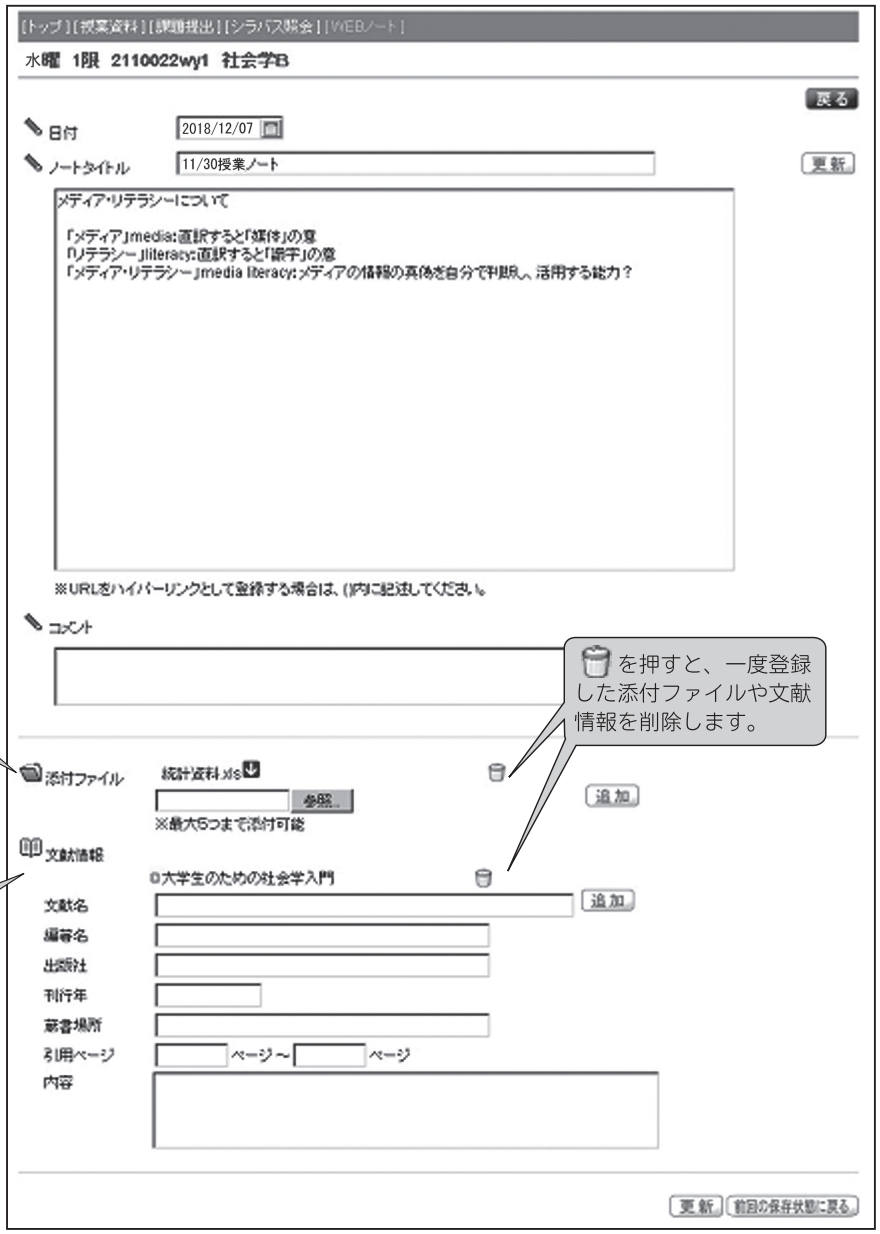
1 アプリケーションエリアから **WEB ノート** を選択しクリックします。



2 新規登録の場合は **新規** をクリックします。



3 WEB ノート編集画面が開きますので、必要に応じて内容を入力してください。
入力が終了したら、更新 をクリックします。
文章の記入のほか、ファイルの添付や文献情報の登録ができます。



【添付ファイル】欄
参照... でファイルを指定し、追加 を押すとファイル名が表示されます。

を押すと、一度登録した添付ファイルや文献情報を削除します。

【文献情報】欄
文献名などを入力し、追加 を押すと文献名が表示されます。

※ノートタイトル・本文・コメント欄には下記の文字は使用できません。
これらの文字を含む文章を記録したい場合は、別途 word やテキストファイルなどに入力・保存し、WEB ノートに添付することをお勧めします。

使用不可文字	＜（半角・より小さい）　＞（半角・より大きい） 〃（半角・二重引用符）　｜（半角・縦線）

※入力中にタイムアウトになると入力内容が消えてしまいます。更新 ボタンは何度でも押せますので、こまめに 更新 ボタンで保存を行ってください。

4　登録済の WEB ノートを確認・修正したい場合は、ノートのタイトルをクリックすると WEB ノート参照画面が開きます。

WEB ノート参照画面の 編集 をクリックすると、WEB ノート編集画面が開き、再度編集をすることができます。

削除 をクリックすることで、WEB ノートの削除を行うこともできます。

添付ファイル欄の ⬇ を押すと、添付したファイルのダウンロードができます。

文献名をクリックすると、登録した文献情報の参照ができます。



第５章
資格と免許

本学卒業後に取得できる資格・免許

卒業後資格が得られたり、試験免除等となったりする主な資格・免許を下記に記載します。

資格・免許	取得条件	取得しやすい学系	取り扱い機関
高等学校教諭１種免許状　数学	所定の単位を取得し申請した者は資格を得られる。詳しいことは学部編「教職課程」参照。	理学系 情報システムデザイン学系	各都道府県教育委員会
高等学校教諭１種免許状　工業		建築・都市環境学系 電子工学系 機械工学系	
高等学校教諭１種免許状　理科		理学系 生命科学系	
高等学校教諭１種免許状　情報		理学系 情報システムデザイン学系 電子工学系	
中学校教諭１種免許状　数学		理学系 情報システムデザイン学系	
中学校教諭１種免許状　理科		理学系 生命科学系	
測量士補	Ｐ 242 参照		国土交通省国土地理院
測量士			
一級建築士	次ページ参照	別記の「建築士プログラム」修了者	(財)建築技術教育普及センター
二級建築士			
木造建築士			
２級ビオトープ計画管理士・２級ビオトープ施工管理士	Ｐ 243 参照		(財)日本生態系協会
技術士補	受験資格については特に制限はない。４年制の理工系大学を卒業すれば、試験科目のうち共通科目が免除される。	全学系 ※建築・都市環境学系で JABEE プログラムを修了すると登録により技術士補の資格を得ることができる。詳細はＰ 136 参照	(社)日本技術士会
技術士	技術士補としての業務経験が４年以上の者、または技術士１次試験合格者で実務経験が７年を超える者は受験資格が得られる。	全学系	
ＥＩＴ（ＥＩ）	原則として４年生の工学系大学を卒業した者は、ＦＥ（Fundamentals of engineering）試験の受験資格が得られる。この試験に合格するとＥＩＴまたはＥＩの資格が取得できる。	電子工学系 機械工学系 生命科学系	日本ＰＥ・ＦＥ試験協議会
ＰＥ	ＰＥ（Professional Engineer） ＦＥ（Fundamentals of engineering）試験に合格し、実務経験（エンジニアリングに関連する技術業務 - 計画・研究・設計・分析・試験・評価又はこれらに関する指導）が４年以上ある者は受験の資格が得られる。		

※詳細は各取扱い機関に問合せすること。

※公務員試験についてはＰ 326 を参照すること。

建築士の受験資格について

一級建築士・二級建築士・木造建築士を受験するためには、一定の基準を満たして単位を修得して卒業した後、定められた年数以上の実務経験を経なければなりません。

◇一級建築士・二級建築士・木造建築士の受験資格について

一級建築士・二級建築士・木造建築士の受験資格を得るためには理工学部理工学科において「建築士プログラム」を修了する必要があります。「建築士プログラム」を修了した場合、定められた年数以上の実務経験の後に一級建築士・二級建築士・木造建築士試験の各受験資格が得られます。受験資格が得られるのは「建築士プログラム」を修了した場合だけです。また、資格によって必要な修得単位数と実務経験年数が異なります。注意して履修計画を立ててください。

◇建築士プログラム修了条件

下表に示す条件を満たして卒業した者は「建築士プログラム」を修了したものとして認定し、卒業証明書に明記します。

必修科目	一級建築士			二級・木造建築士		
建築設計製図	7 単位以上			5 単位以上		
建築計画	7 単位以上			7 単位以上		
建築環境工学	2 単位以上					
建築設備	2 単位以上					
構造力学	4 単位以上			6 単位以上		
建築一般構造	3 単位以上					
建築材料	2 単位以上					
建築生産	2 単位以上			1 単位以上		
建築法規	1 単位以上			1 単位以上		
必修科目の総単位数（a）	30 単位以上			20 単位以上		
必修科目以外の総単位数（b）	適宜			適宜		
（a）＋（b）	60 単位以上	50 単位以上	40 単位以上	40 単位以上	30 単位以上	20 単位以上
建築実務の経験	2 年	3 年	4 年	0 年	1 年	2 年

必修科目（括弧内の数字は単位数を示す）

建築設計製図：建築都市デザイン演習Ⅰ(3)、ⅡA(2)、ⅡB(2)、ⅢA(2)、ⅢB(2)
建築計画　　：建築計画学(2)、住居論(2)、建築デザイン論(2)、建築史(2)
建築環境工学：建築環境工学(2)
建築設備　　：建築設備(2)
構造力学　　：静力学(2)、応用力学A・演習(3)、応用力学B(2)、
構造実験(1)、耐震設計法(2)、地盤工学A・演習(3)、地盤工学B(2)、
土質実験(1)
建築一般構造：鉄筋コンクリート工学(2)、鋼構造学(2)、建築構法(2)

建築材料　：建設材料学(2)、材料実験(1)
建築生産　：建設施工(2)
建築法規　：建築法規(1)

必修科目以外　：建築・都市デザイン概論(2)、測量学・演習(3)、測量実習(2)、
防災工学(2)、都市プロジェクトの評価(2)、都市計画(2)
景観デザイン(2)

測量士補について

建築・都市環境学系の建築コース・都市環境コースを主コース・副コース（主・副は任意）として卒業し、かつ「測量学・演習」（3 単位）、「測量実習」（2 単位）の 5 単位を含む測量に関する科目 30 単位以上を修得した者は、申請により測量士補の資格が得られます。

測量士について

建築・都市環境学系の建築コース・都市環境コースを主コース・副コース（主・副は任意）として卒業し、かつ「測量学・演習」（3 単位）、「測量実習」（2 単位）の 5 単位を含む測量に関する科目 30 単位以上を修得した者は、測量士補の資格取得後、測量に関する 1 年以上の実務経験ののちに、申請により測量士の資格が得られます。

測量に関する科目（括弧内の数字は単位数を示す）

数学基礎(1)、物理学入門(1)、物理学入門演習(1)、基礎微積分学Ａ(2)、基礎微積分学Ｂ(2)、基礎線形代数学Ａ(2)、基礎線形代数学Ｂ(2)、物理学Ａ(2)、物理学Ｂ(2)、基礎物理学実験(2)、静力学(2)、基礎統計学(2)、耐震設計法(2)、地盤工学Ａ・演習(3)、水理学Ａ・演習(3)、応用力学Ａ･演習(3)、応用力学Ｂ(2)、測量学･演習(3)、測量実習(2)、土質実験（1)、水理実験（1)、計画数理(2)、水理学Ｂ(2)、都市衛生工学(2)、水文学(2)、地盤工学Ｂ(2)、防災工学(2)、都市計画(2)、リモートセンシング(2)、空間情報工学(2)、河川･海岸計画(2)、気圏･地圏の環境(2)、交通計画(2)

建設系資格の受験資格について

一定の基準を満たして卒業した者は、種目ごとに定められた実務経験の後に下記に示す建設系資格の「受験資格」が得られます。

●建設系資格

建設機械施工技士	（1 級・2 級）
土木施工管理技士	（1 級・2 級）
建築施工管理技士	（1 級・2 級）
電気工事施工管理技士	（1 級・2 級）
管工事施工管理技士	（1 級・2 級）
造園施工管理技士	（1 級・2 級）

●東京電機大学理工学部理工学科建築・都市環境学系（平成 30 年度以降に入学した者）
卒業者に 1 級技術検定の受検資格を認める件

東京電機大学理工学部理工学科建築・都市環境学系（平成 30 年度以降に入学した者）を卒業した後、受検しようとする種目に関し指導監督的実務経験 1 年以上を含む 3 年以上の実務経験を有する者

●東京電機大学理工学部理工学科建築・都市環境学系（平成 30 年度以降に入学した者）
卒業者に 2 級技術検定の受検資格を認める件

種目及び試験区分		受験資格を認める者
建設機械施工	実地試験	東京電機大学理工学部理工学科建築・都市環境学系 (平成 30 年度以降に入学した者) を卒業した後、建設機械施工に関し、受検しようとする種別に関する 6 月以上の実務経験を含む 1 年以上の実務経験を有する者
その他の種目		東京電機大学理工学部理工学科建築・都市環境学系 (平成 30 年度以降に入学した者) を卒業した後、受検しようとする種目 (土木施工管理又は建築施工管理にあっては、種別) に関し 1 年以上の実務経験を有する者

※上記の必要科目については、入学後に変更となることがあります。
UNIPA で通知しますので、必ず確認してください。

2 級ビオトープ計画管理士・2 級ビオトープ施工管理士について

下記の分野の指定科目全てを受験申込の時点で単位を修得済み、または受験年度内に単位修得の見込みがある場合は各試験科目について、択一問題の半分が免除されます。この制度は理工学科の学生に適用されます。卒業生には、卒業した日から受験申込日までの期間が 5 年未満の方まで適用されます。

なお、この制度を適用して試験に合格しても、指定科目の単位修得が済んでいない場合は、ビオトープ管理士として認証されませんので注意してください。

＜共通＞

分野	指定科目
生態学	水圏の環境
	環境生物学
ビオトープ論	水圏の環境
	環境生物学
環境関連法	河川・海岸計画
	環境アセスメント

＜専門＞

専門科目	指定科目
計画部門	都市計画
	景観デザイン
	環境生物学
施工部門	河川・海岸計画
	環境生物学

第 6 章
教職課程

教職課程とは

教職課程とは、「教育職員免許法」に基づいて中学校・高等学校の教員免許状を取得するために必要な授業科目を履修し、単位修得できるように設置された課程です。

中学校や高校の教員になるということは、社会で重要な役割を担うことになります。そのような教員を育てるということは、社会においても大事な責務である為、直接大学とは関係のない方々にもお世話になることになります。

教職課程の履修希望者は、教職関係科目を充分に理解できる能力（単位修得）は勿論のこと、教員としての適格性が必要であることはいうまでもありません。また、一般の学生以上に手続きや確認事項等で手間暇がかかります。それらが全て完了して初めて免許状を手にすることができるのです。

従って、当然のことながら、いい加減な気持ちで受けていると、学外者の方にご迷惑をお掛けしたり、後輩にも影響が出る場合もあります。自分の進路をよく考えながら、履修を進めていくようにしてください。

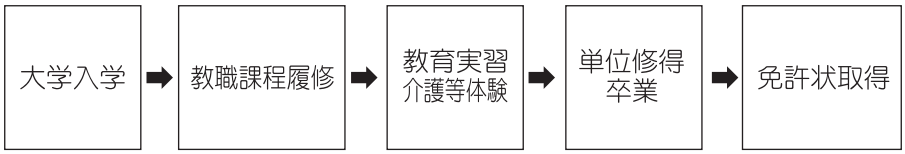
教職課程を修めようとする者は、本学部に設置された共通教育科目及び各学系で専門教育科目として定める単位の他に、必要な教職関係科目を履修し、単位を修得しなければなりません。講義概要はシラバスにおいて、把握してください。また、教育実習や介護等体験を伴う科目の履修や実習・体験等については、必要な時期に説明会や事前指導が行われますので、必ず出席するようにしてください。

なお、実習は学外で行うこととなっており、実習先が児童・生徒・高齢者といった抵抗力の弱い方々が対象となりますので、感染症に対する予防対策としてワクチン接種等が必須となります。掲示や窓口の指示に従ってください。

これらの連絡は DENDAI − UNIPA にて行われます。DENDAI − UNIPA の情報に注意し見落としがないようにしてください。

大学入学から免許状取得まで

大学入学から教員免許状取得までの手順は下図のとおりです。



月＼年次		1　年	2　年	3　　年	4　　年
4月	上旬	教職課程説明会			
	上旬	教　職　課　程　履　修　費　納　入			
	中旬	教　職　科　目　の　履　修　登　録			
	下旬				教育実習関係書類配布 教育実習事前オリエンテーション
5月					
6月					教育実習（実習校により実施期間は異なる）
9月	中旬	教　職　課　程　履　修　費　納　入			
10月	上旬				教員免許状一括申請に関する説明会
11月	上旬				一括申請書類提出
1月	下旬		教育実習オリエンテーション		
2月			教育実習校受入れ可否打診		
3月	上旬		教育実習申込書提出 教育実習許可判定発表 教育実習依頼に関する書類配布	進級発表 教育実習許可判定最終発表	卒業発表
	中旬				教員免許状交付 （卒業式当日）

※教職科目の履修登録は他の授業科目と同様に修正登録を行うことができます。
※各々の詳細については、その都度 DENDAI － UNIPA にてお知らせします。
※教職課程履修費については、DENDAI － UNIPA・説明会等でお知らせします。

取得できる免許状の種類・教科と取得しやすい学系

学部卒業に必要な単位の修得のほかに、教科及び教職に関する授業科目を修得することにより、次の教員免許状が授与されます。

なお、理工学部では、理工学科 1 学科の大学科制を導入し、6 学系・16 コースを設置しています。

自分が所属する学系から選択する「主コース」、自分が所属する学系または自分が所属する学系以外の学系から選択できる「副コース」の組み合わせにより、取得しやすい教員免許状の種類・教科が異なります。

それぞれの教員免許状の種類・教科が取得しやすい学系は、主に下表のとおりとなります。

基礎資格	免許状の種類	免許の教科	左記免許状が取得しやすい学系
学部卒業	中学校教諭一種免許状	数学	理学系、情報システムデザイン学系
		理科	理学系、生命科学系
	高等学校教諭一種免許状	数学	理学系、情報システムデザイン学系
		理科	理学系、生命科学系
		情報	理学系、情報システムデザイン学系 電子工学系
		工業	機械工学系、電子工学系、建築・都市環境学系

履　修　要　件

免許法に基づき本学部で免許状を取得するための最低単位数は、次のとおりです。

⑴ 本学部における最低修得単位数

免許の種類	基礎資格	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	合計
中学校教諭一種免許状	学士の学位	20	35	4	59
高等学校教諭一種免許状	学士の学位	20	27	12	59

注）基礎資格とは、学士の学位を有することであり、本学部を卒業することにより得られます。

⑵ 文部科学省が定める科目

教職に関する科目、教科に関する科目の他に、人間形成科目群・専門基礎科目群・英語科目群より**日本国憲法 2 単位、体育 2 単位、外国語コミュニケーション 2 単位、情報機器の操作 2 単位**の 8 単位を必ず修得しなければなりません（人間形成科目群、専門基礎科目群・英語科目群の科目配当表の教職コード欄参照)。

文部科学省が定める科目	必要単位	教職コード	本学での該当科目　　（　）内は、単位数
「日本国憲法」	2	00100	日本国憲法(2)
「体　　育」	2	00200	スポーツ実習Ⅰ(1)　スポーツ実習Ⅱ(1) スポーツ実習Ⅲ(1)　スポーツ実習Ⅳ(1) スポーツ実習Ⅴ(1)　スポーツ実習Ⅵ(1)
「外国語コミュニケーション」	2	00300	ドイツ語入門Ⅰ(1)　英語ⅠA(1) ドイツ語入門Ⅱ(1)　英語ⅠB(1) 基礎ドイツ語Ⅰ(1)　英語ⅡA(1) 基礎ドイツ語Ⅱ(1)　英語ⅡB(1) 初級ドイツ語Ⅰ(1)　英語ⅢA(1) 初級ドイツ語Ⅱ(1)　英語ⅢB(1) フランス語入門Ⅰ(1)　英語ⅣA(1) フランス語入門Ⅱ(1)　英語ⅣB(1) 基礎フランス語Ⅰ(1)　英語ⅤA(1) 基礎フランス語Ⅱ(1)　英語ⅤB(1) 初級フランス語Ⅰ(1) 初級フランス語Ⅱ(1) 中国語入門Ⅰ(1) 中国語入門Ⅱ(1) 基礎中国語Ⅰ(1) 基礎中国語Ⅱ(1) 初級中国語Ⅰ(1) 初級中国語Ⅱ(1)
「情報機器の操作」	2	00400	情報リテラシ(1)　表計算(1)

⑶ 教科に関する科目

教科に関する科目については、科目配当表の教職コード欄に免許法上の区分が記載されています。下記の表は区分ごとにまとめたものです。(2018 年 4 月 1 日現在)

数学 (中学校一種・高校一種)

下記の区分ごとにそれぞれ 1 単位以上、計 20 単位以上（教職に関する科目と合計して 59 単位以上）修得すること。

( ) 内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	情報システムデザイン学系配当科目
代数学	20100	○基礎線形代数学A(2)※ 基礎線形代数学B(2)※ 線形代数学(2) 代数学Ⅰ(2) 代数学Ⅱ(2) 代数学Ⅲ(2) 代数学Ⅳ(2)	○基礎線形代数学A(2)※ 基礎線形代数学B(2)※ 情報・符号理論(2)
幾何学	20200	○幾何学Ⅰ(2) 幾何学Ⅱ(2) 幾何学Ⅲ(2)	○数理とデザイン(2) 幾何学Ⅰ(2) 幾何学Ⅱ(2)
解析学	20300	○基礎微積分学A(2)※ 基礎微積分学B(2)※ 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅱ(2) 解析学Ⅲ(2) 解析学Ⅳ(2) 常微分方程式(2) 複素解析学(2) フーリエ解析入門(2)	○基礎微積分学A(2)※ 基礎微積分学B(2)※ 動的システム(2)
「確率論、統計学」	20400	○確率論(2) 統計学(2)	○基礎確率論(2) 多変量解析(2) 統計学Ⅰ(2) 統計学Ⅱ(2)
コンピュータ	20500	○数理プログラミングⅠ(2) 離散数学(2) 学習理論(2)	情報数学Ⅰ(2) コンピュータ基礎Ⅱ(2) アルゴリズムとデータ構造Ⅰ(2) コンピュータグラフィックス(2) ○コンピュータ基礎Ⅰ(2)

○　の科目は、必ず履修し修得すること。

※　の科目は、専門基礎科目から履修すること。

　　の科目は、理学系から履修すること。

理科 (中学校一種)

下記の区分ごとにそれぞれ 1 単位以上、計 20 単位以上（教職に関する科目と合計して 59 単位以上）修得すること。

（　）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	生命科学系配当科目
物理学	30100	○物理学Ａ(2)※ 物理学Ｂ(2)※ 計測と分析(2) 統計力学Ⅰ(2) 統計力学Ⅱ(2) 量子力学Ⅰ(2) 量子力学Ⅱ(2) 量子力学Ⅲ(2) 電磁気学Ⅰ(2) 電磁気学Ⅱ(2) 物理数学Ⅰ(2) 物理数学Ⅱ(2) 連続体の物理(2) 物性論(2) 振動と波動(2)	○物理学Ａ(2)※ 物理学Ｂ(2)※
物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	30200	○基礎物理学実験(2)※ 物理学実験(2) 物理学課題探究Ⅰ(2) 物理学課題探究Ⅱ(2)	○基礎物理学実験(2)※
化学	30300	○化学Ａ※ 化学Ｂ※ 化学熱力学Ⅰ(2) 化学熱力学Ⅱ(2) 基礎有機化学(2) 有機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅱ(2) 界面化学(2) 基礎高分子科学(2) 化学反応速度論(2) 有機・高分子化学(2) 量子化学(2)	○化学Ａ※ 化学Ｂ※ 基礎有機化学(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 生体高分子科学Ⅰ(2) 生命物理化学(2)
化学実験(コンピュータ活用を含む。)	30400	○基礎化学実験(2)※ 化学実験Ａ(2) 化学実験Ｂ(2) 化学実験Ｃ(2)	○基礎化学実験(2)※
生物学	30500	生命科学(2)※ ○生物学(2)	生命科学(2)※ ○生物学(2) 細胞の科学(2) 環境生物学(2) 分子生物学(2) 微生物学(2) 免疫学(2) 生体組織学(2) 植物生理学(2) 遺伝子工学(2) 薬理学(2) 生命環境工学(2) 生物プロセス工学(2) 生化学(2)
生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	30600	● 生命科学基礎実験Ⅰ(2) ● 生命科学基礎実験Ⅱ(2)	●生命科学基礎実験Ⅰ(2)　分子生命科学実験Ⅱ(2) ●生命科学基礎実験Ⅱ(2)　環境生命工学実験Ⅰ(2) 分子生命科学実験Ⅰ(2)　環境生命工学実験Ⅱ(2)
地学	30700	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)
地学実験(コンピュータ活用を含む。)	30800	○地学実験(2)	○地学実験(2)

○　の科目は、必ず履修し修得すること。

●　の科目は、どちらか 1 科目を必ず履修し修得すること。

※　の科目は、専門基礎科目から履修すること。

　　の科目は、生命科学系から履修すること。

理科 (高等学校一種)

下記の区分ごとにそれぞれ 1 単位以上、計 20 単位以上（教職に関する科目と合計して 59 単位以上）修得すること。

（ ）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	生命科学系配当科目
物理学	30100	○物理学Ａ(2)※ 物理学Ｂ(2)※ 計測と分析(2) 統計力学Ⅰ(2) 統計力学Ⅱ(2) 量子力学Ⅰ(2) 量子力学Ⅱ(2) 量子力学Ⅲ(2) 電磁気学Ⅰ(2) 電磁気学Ⅱ(2) 物理数学Ⅰ(2) 物理数学Ⅱ(2) 連続体の物理(2) 物性論(2) 振動と波動(2)	○物理学Ａ(2)※ 物理学Ｂ(2)※
化学	30300	○化学Ａ※ 化学Ｂ※ 化学熱力学Ⅰ(2) 化学熱力学Ⅱ(2) 基礎有機化学(2) 有機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅱ(2) 界面化学(2) 基礎高分子科学(2) 化学反応速度論(2) 有機・高分子化学(2) 量子化学(2)	○化学Ａ※ 化学Ｂ※ 基礎有機化学(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 生体高分子科学Ⅰ(2) 生命物理化学(2)
生物学	30500	生命科学(2)※ ○生物学(2)	生命科学(2)※ ○生物学(2) 細胞の科学(2) 環境生物学(2) 分子生物学(2) 微生物学(2) 免疫学(2) 生体組織学(2) 植物生理学(2) 遺伝子工学(2) 薬理学(2) 生命環境工学(2) 生物プロセス工学(2) 生化学(2)
地学	30700	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)
物理学実験（コンピュータ活用を含む。）	30200	○基礎物理学実験(2)※ 物理学実験(2) 物理学課題探求Ⅰ(2) 物理学課題探求Ⅱ(2)	○基礎物理学実験(2)※
化学実験（コンピュータ活用を含む。）	30400	○基礎化学実験(2)※ 化学実験Ａ(2) 化学実験Ｂ(2) 化学実験Ｃ(2)	○基礎化学実験(2)※
生物学実験（コンピュータ活用を含む。）	30600	● 生命科学基礎実験Ⅰ(2) ● 生命科学基礎実験Ⅱ(2)	●生命科学基礎実験Ⅰ(2)　分子生命科学実験Ⅱ(2) ●生命科学基礎実験Ⅱ(2)　環境生命工学実験Ⅰ(2) 分子生命科学実験Ⅰ(2)　環境生命工学実験Ⅱ(2)
地学実験（コンピュータ活用を含む。）	30800	○地学実験(2)	○地学実験(2)

○　の科目は、必ず履修し修得すること。

●　の科目は、どちらか 1 科目を必ず履修し修得すること。

※　の科目は、専門基礎科目から履修すること。

　　の科目は、生命科学系から履修すること。

情報 (高校一種)

下記の区分ごとにそれぞれ 1 単位以上、計 20 単位以上（教職に関する科目と合計して 59 単位以上）修得すること。

（　）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	情報システムデザイン学系配当科目
情報社会及び情報倫理	60100	数理情報学入門(1) ○情報倫理(2) 科学技術者の心得(2)※ ○情報システムデザイン概論(2)	○情報システムデザイン概論(2)　科学技術者の心得(2)※ ○情報倫理(2)
コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	60200	○数理プログラミングⅡ(2)	基本情報処理技術(2)　コンピュータ設計学(2) 数値解析学(2)　○コンピュータプログラミングⅠ・同演習(3)
情報システム (実習を含む。)	60300	データ科学(2) ○数理情報学基礎演習(2)	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ(2)　データベース(2) 数理最適化入門(2)　○コンピュータプログラミングⅡ・同演習(3) オペレーティングシステム(2)　オブジェクト指向プログラミング(2)
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	60400	○情報論(2)	○情報ネットワーク概論(2)　応用 Java プログラミング(2)
マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)	60500	○画像処理(2) 人工知能(2) 数理情報学応用演習(2)	○造形デザイン入門(2)　ＣＧプログラミング(2) 組み込みシステム(2)　インタラクティブデザイン論(2) 画像工学(2)
情報と職業	60600	○情報と職業(2)	○情報と職業(2)

免許法上の区分	教職コード	電子工学系配当科目
情報社会及び情報倫理	60100	○情報倫理(2)　科学技術者の心得(2)※ ○情報システムデザイン概論(2)
コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	60200	応用数値解析(2)　信号処理工学Ａ(2) ○コンピュータ工学Ⅰ(2)　信号処理工学Ｂ(2)
情報システム (実習を含む。)	60300	○電子情報回路Ⅰ・演習(3)　電子情報回路Ⅱ・演習(3)
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	60400	○情報論(2)　通信工学(2) 電子情報工学実験Ⅰ(2)
マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)	60500	○コンピュータ工学Ⅱ(2)　電子情報工学実験Ⅱ(2)
情報と職業	60600	○情報と職業(2)

○　の科目は、必ず履修し修得すること。

※　の科目は、専門基礎科目から履修すること。

情報論 は、理学系から履修すること。

情報システムデザイン概論 は、情報システムデザイン学系から履修すること。

工業 (高等学校一種)

下記の区分ごとにそれぞれ 1 単位以上、計 20 単位以上（教職に関する科目と合計して 59 単位以上）修得すること。

( ) 内は単位数

免許法上の区分	教職コード	機械工学系配当科目		
工業の関係科目	70100	○工業力学Ⅰ・演習(3) 工業力学Ⅱ・演習(3) ○材料力学Ⅰ・演習(3) 流体力学Ⅰ・演習(3) 機械要素Ⅰ・演習(3) 機械加工学Ⅰ・演習(3) 基礎製図(4) ○機械工学概論Ⅰ(2)	○機械工学概論Ⅱ(2) 流体力学Ⅱ・演習(3) 工業熱力学・演習(3) 機械要素Ⅱ(2) 材料力学Ⅱ・演習(3) 計測工学(2) 機械工学実験・実習Ⅰ(1) 機械工学実験・実習Ⅱ(1)	機械工学実験・実習Ⅲ(1) 機械工学実験・実習Ⅳ(1) 機械設計製図Ⅰ(1) 機械設計製図Ⅱ(1) 機械設計製図Ⅲ(1) 機械設計製図Ⅳ(1) ○工業技術概論(2) ○制御工学Ⅰ・演習(3)
職業指導	70200	○職業指導(4)		

免許法上の区分	教職コード	電子工学系配当科目		
工業の関係科目	70100	○電子工学概論(2) 電気回路Ⅰ・演習(3) 電気回路Ⅱ・演習(3) ○電磁気学Ⅰ・演習(3) 電磁気学Ⅱ・演習(3) 工業数学Ⅰ・演習(2) 工業数学Ⅱ・演習(2) 制御工学Ⅰ・演習(3) 制御工学Ⅱ・演習(3)	過渡現象(2) 電気電子計測工学(2) 応用プログラミング(2) 電子物理学(2) ディジタル回路(2) メカトロニクス(2) 人間工学(2) パワーエレクトロニクス(2) エネルギー変換工学(2)	先端エレクトロニクス概論(2) 基礎電子情報工学実験Ⅰ(2) 基礎電子情報工学実験Ⅱ(2) 電子システム工学実験Ⅰ(2) 電子システム工学実験Ⅱ(2) ○工業技術概論(2) C言語プログラミング(2)※ 実用プログラミング(1)※
職業指導	70200	○職業指導(4)		

免許法上の区分	教職コード	建築・都市環境学系配当科目		
工業の関係科目	70100	○建築・都市環境学へのアプローチ(1) ○建築・都市デザイン概論(2) 基礎統計学(2) 静力学(2) 計画数理(2) 応用力学A・演習(3) 応用力学B(2) 鉄筋コンクリート工学(2) 鋼構造学(2) 構造実験(1) 地盤工学A・演習(3) 地盤工学B(2) 土質実験(1) 水理学A・演習(3) 水理学B(2) 水文学(2) 水理実験(1) 建設材料学(2)	材料実験(1) 建設施工(2) 測量学・演習(3) 測量実習(2) リモートセンシング(2) 空間情報工学(2) 建築都市デザイン演習Ⅰ(3) 建築都市デザイン演習ⅡA(2) 建築都市デザイン演習ⅡB(2) 建築都市デザイン演習ⅢA(2) 建築都市デザイン演習ⅢB(2) 水圏の環境(2) 気圏・地圏の環境(2) 都市衛生工学(2) 環境アセスメント(2) 景観デザイン(2) 防災工学(2) 都市計画(2)	交通計画(2) 河川・海岸計画(2) 都市プロジェクトの評価(2) 建築法規(1) 住居論(2) 建築計画学(2) 建築史(2) 建築設備(2) 建築デザイン論(2) 建築環境工学(2) 耐震設計法(2) 建築構法(2) 立体図学(2) 地球観測(2) RG プロジェクト科目(2) ○工業技術概論(2) C言語プログラミング(2)※ 実用プログラミング(1)※
職業指導	70200	○職業指導(4)		

○　の科目は、必ず履修し修得すること。

※　の科目は、専門基礎科目から履修すること。

制御工学Ⅰ・演習 は、電子工学系から履修すること。

⑷ 教職に関する科目

教職に関する科目とは、教職課程を履修する学生のために特設した科目で、下記の科目が設置されています。中学校免許は下記の科目の中から、必修科目を含めて 35 単位、高校免許は最低 27 単位修得することになります。(教科教育法は、当該教科のみの修得)。

(　) 内は単位数

免許法上の区分			単位数	教職コード	授業科目名	備考
	科目	各科目に含める必要な事項				
第二欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容、進路選択に資する各種の機会の提供等	2	10100	教職入門(2)	中学・高校免許必修科目
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	10200	教育学概論(2)	中学・高校免許必修科目
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学(2)	中学・高校免許必修科目
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項			教育社会学(2)	中学・高校免許必修科目
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	中学校 15 高校 9	10300	教育課程論(2)	中学・高校免許必修科目
		特別活動の指導法			特別活動論(1)	中学・高校免許必修科目
		教育の方法及び技術			教育の方法と技術(2)	中学・高校免許必修科目
		各教科の指導法			数学科教育法(4) 数学科指導法(4) 理科教育法(4) 理科指導法(4) 工業科教育法(4) 情報科教育法(4)	中学校免許は当該教科の教育法、指導法必修、 高校免許は当該教科の教育法必修 (指導法はカウントされない)
		道徳の指導法			道徳教育論(2)	中学校必修・高校選択科目
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法	4	10400	生徒・進路指導論(2)	中学・高校免許必修科目
		教育相談の理論及び方法			教育相談(2)	中学・高校免許必修科目
第五欄	教育実習		中学校 6 高校 4	10500	教育実習セミナー(2) 教育実習Ⅰ(2) 教育実習Ⅱ(2)	中学・高校免許必修科目 中学・高校免許必修科目 中学校免許のみ必修
第六欄	教職実践演習		2	10600	教職実践演習(中・高)(2)	中学・高校免許必修科目

教科又は教職に関する科目

	総合演習		2	10700	介護福祉論(2)	中学校必修・高校選択科目

注) 中学校免許取得の場合は、120 時間以上（3 週間～ 4 週間)、高校免許取得の場合は、60 時間以上（2 週間）の教育実習を行なう必要があります。

注) 　　は、卒業単位に算入されます。したがって履修上限 48 単位に入ります。

注) 備考欄の必修は、取得しようとする免許状に対してであり、卒業するための必要要件ではありません。

注) 「道徳教育論」については高校免許のみの取得希望者が単位修得した場合は、「教科又は教職に関する科目」としてカウントされます。

⑸ 介護等の体験

中学校の教員免許状を取得する場合に必要となります。介護等の体験は、満 18 歳を過ぎてから免許取得までの時期に省令等で指定する施設等で 7 日間の介護等の体験を行い、その体験を施設等の長に証明していただくことにより、小・中学校教諭一種免許状授与の要件となります。

この法律は平成 10 年度入学生より適用されています。本学においては、この介護等の体験の為に「**介護福祉論**」という科目を開講しています（前・後期開講）。介護等の体験希望者は、**介護等体験を行う年度以前に必ずこの科目を履修し、単位を修得する必要があります。**

介護等の体験の実施は、本学では原則として特別支援学校 2 日間、社会福祉施設 5 日間の合計 7 日間としています。各々の学校・施設ごとに課せられた準備をして、事前指導（学内）を受けてから体験を実施します。体験終了後に体験を振り返る事後指導（学内）を受けて、介護等体験が完了します。

介護等の体験申し込みは、教務担当が、埼玉県教育委員会、埼玉県社会福祉協議会を通して特別支援学校、社会福祉施設へ行います。その際に、賠償責任保険への加入が必要となります。手続き方法等については、教職課程説明会（4 月上旬）、「**介護福祉論**」の授業中、介護等体験申込み説明会（12 月上旬）、DENDAI － UNIPA で行いますので、中学校の教員免許状の取得希望者は、必ず出席してください。

⑹ 高等学校一種「工業」の教科について

高等学校一種「工業」の教員免許を取得するためには、本来は、それぞれ教科に関する科目、教職に関する科目の中の、定められた科目･単位を修得しなければなりませんが、現在のところ、免許法上の附則事項により、「教職に関する科目」の単位については、教科に関する科目の同数の単位の修得をもってこれに替えることができます。従って、教職に関する科目の単位を全く修得しなくても、人間形成科目群・専門基礎科目群・英語科目群の中から文部科学省が定める科目（8 単位：P 249 参照）を修得し、かつ工業の教科に関する科目（「職業指導：4 単位」「工業技術概論：2 単位」を含む）を 59 単位以上修得することにより、工業の免許状が取得できます。（ただし、所属学系の工業の教科に関する科目が少ない場合は、前記の措置では 59 単位を充足しませんので、教職に関する科目あるいは他学系の工業の教科に関する科目を履修して単位を修得してください）

従ってこの措置で免許状の取得は可能ではありますが、教職に関する科目は教員となるための基本的な科目であり、修得しているといないとでは、教職に就いた場合は勿論のこと、将来社会に出てからの役立ち方にも大きな差異がでてくることがあります。こうした点からも、教員を志望する者は、この措置に頼ることなく、少なくとも教職入門、教育学概論、教育心理学、工業科教育法を修得しておくことを勧めます。

教職課程の履修手続

1. 履修登録

所定の時期に履修登録を行ってください。登録方法は、他の科目と同様です。

2. 教職課程履修費の納入

教職課程の授業科目を履修するためには、履修登録の前に**教職課程履修願**を提出し、所定の**履修費（10,000 円：平成 29 年度実績）**を納入することが必要です。履修費を納入しないと下記の教職科目を履修することが出来ません。

これらの手続は前期は 4 月上旬頃、後期は 9 月中旬頃行いますので、DENDAI － UNIPA で確認をしてください。

教育課程論
特別活動論
教育の方法と技術
数学科教育法
数学科指導法
理科教育法
理科指導法
工業科教育法
情報科教育法
道徳教育論
生徒・進路指導論
教育相談
教育実習セミナー
教育実習Ⅰ
教育実習Ⅱ
教職実践演習（中・高）
介護福祉論
情報倫理
工業技術概論
職業指導

◎在学中（学部・大学院）、1 回の納入とする。
◎いずれの場合においても、一度納入したら履修費は返金しない。

3. 教職課程履修券の交付

教職課程履修費を納入した者に、「教職課程履修券」を交付します。この履修券は卒業時に免許状を受領する際に必要となります。また、在学中有効ですが、再発行はしませんので、大切に保管してください。

4. 履修カルテについて

教職課程を履修する学生は履修履歴を把握するために履修カルテを作成することになっています。履修カルテを作成しないと教員免許は取得できませんので、必ず説明会等に出席をして、履修カルテを作成するようにしてください。

教育実習

教育実習は、4年次生になって、中学校は120時間以上（3週間～4週間）、高等学校は60時間以上（2週間）以上にわたり、教育活動（教科指導および生徒指導等）に参加することによって行われます。高校一種「工業」の免許状を取得する場合は、前記したように必ずしも行う必要はありません。尚、教育実習期間中の就職活動等での欠席は認められませんので注意してください。

1. 教育実習履修の条件

本学においては従来より、教育実習を行う場合、教育実習を大学として許可するかどうかの判定基準を設けています。判定基準に合格しないと教育実習が行えませんので注意してください。皆さんに適用される判定基準については、決まり次第 DENDAI － UNIPA でお知らせします。参考に昨年度の判定基準を掲載しておきます。

参考：平成29年度2年次生・3年次生教育実習許可判定基準について

＜2年次学年末許可判定基準＞

3年次に進級できる者であり、尚且つ2年次学年末の修得単位数（教職・自由科目除く）が正規進級者72単位以上、留年者80単位以上とする。

＜3年次学年末許可判定基準＞

以下の教職に関する科目において5科目以上が合格点に達していて、3年次後期配当科目「教育の方法と技術」の単位を修得し、かつ4年次へ進級した者（2年次学年末許可判定に合格しても、3年次学年末で不合格の場合は教育実習は行えません）。

科目名	配当学年	配当期
教職入門	全年次	前期
教育学概論	全年次	前期
教育心理学	2・3・4年次	前期
特別活動論	全年次	後期
教育課程論	全年次	前期
道徳教育論	全年次	前期
生徒・進路指導論	全年次	前期
教育社会学	全年次	後期
教科教育法 ※	2・3・4年次	通年
介護福祉論	全年次	前期・後期
教育相談	2・3・4年次	後期

※各教科教育法とは、数学科教育法、理科教育法、工業科教育法、情報科教育法。ただし、教科教育法は、複数教科の単位を修得しても１科目の合格扱いとなるので注意してください。

2. 教育実習校

実習希望者は、２年次の後期（１月頃）の教育実習オリエンテーションに出席し、教務担当に「教育実習申込書」を必ず提出してください（留年した場合は再度提出）。そして、２年次終了の春休みから自分の出身中学・高校、または縁故のある学校へ出向いて依頼をしてください。なお本学部では１．の教育実習許可判定基準により、実習校への正式な依頼を認めています。

依頼するにあたっては、本学で発行する「教育実習依頼状」等を実習校へ提出する必要がありますので、実習校から教育実習を許可された者は DENDAI － UNIPA でお知らせします。

3. 教育実習の手続き

① **「教育実習申込書」**（用紙は教務担当にあり）を、教務担当へ提出すること。

② 教育実習費・謝礼金が必要な場合は、大学ではなく各自の負担となりますので、直接実習校に納入すること。

③ 実習の際、次の必要書類を整えて、実習校へ携行すること。

イ）教育実習日誌（本学部所定のものを各自売店で購入すること）

ロ）出勤簿用紙（教務担当で用意する）

ハ）教育実習評価表用紙（教務担当で用意する）

ニ）教育実習終了証明書用紙（教務担当で用意する）

④ 実習終了後、ただちに イ）教育実習日誌を教育実習セミナーの担当教員へ提出すること。

※ みなさんは実習が終了しましたら、必ず実習校へお礼状を送るようにしてください。

免許状の申請・交付

教育職員免許状の授与権者は、その大学が所在する都道府県の教育委員会であり、本学部の場合は埼玉県の教育委員会となります。

申請方法には、大学が免許状の申請を一括して受付け、卒業式当日に免許状が交付される**一括申請**と、個人が直接教育委員会へ申請する**個人申請が**あります。

1. 一括申請

卒業式当日に免許状交付を希望する学生については、教務担当が事務を代行して、埼玉県教育委員会へ一括申請を行います。10 月上旬頃に一括申請説明会を行いますので、希望者は必ず出席し、申請手続きを行ってください。

審査合格者に対しては、卒業式当日に、**教職課程履修券**と引きかえに教員免許状を交付します。

2. 個人申請

卒業後、居住する都道府県の教育委員会へ、個人で申請して交付を受ける方法です。詳しい事は各教育委員会へ各自で問い合わせてください。在学中適用となっていた免許法が何らかの改正等で変わる事があります。その場合は取得しなくてはならない科目が増えたりすることもありますので注意してください。

○ **免許状取得見込証明書**

教員採用試験を受験する際に必要な「教育職員免許状取得見込証明書」は、現在履修中の授業科目を修得見込として扱い、教務担当で発行します。

○ **免許状取得証明書**

免許状を取得した後、「教育職員免許状取得証明書」が必要となった場合は、交付を受けた教育委員会へ請求してください。

科目群	分野	科目名	必選	授業形態			単位	学年	前期		後期		備考	教職コード
				講義	演習	実験・実習			前前期	前後期	後前期	後後期		
教職課程科目	教職に関する専門科目	教職入門	選択	○			2	全	1	1				10100
		教育学概論	選択	○			2	全	1	1				10200
		教育心理学	選択	○			2	2	1	1				10200
		特別活動論	自由		○		1	全			1/4期1コマ			10300
		教育課程論	自由	○			2	全	半期1コマ					10300
		教育の方法と技術	自由	○			2	3			1	1		10300
		教育実習セミナー	自由	○			2	4	1	1				10500
		教育実習Ⅰ	自由			○	2	4	1	1	1	1	※1 通年科目	10500
		教育実習Ⅱ	自由			○	2	4	1	1	1	1	※2 通年科目	10500
		道徳教育論	自由	○			2	全	1	1				10300
		生徒・進路指導論	自由	○			2	全	1	1				10400
		教育社会学	選択	○			2	全			1	1		10200
		数学科教育法	自由	○			4	2	1	1	1	1	※1 通年科目	10300
		数学科指導法	自由	○			4	3	1	1	1	1	※2 通年科目	10300
		情報科教育法	自由	○			4	2	1	1	1	1		10300
		工業科教育法	自由	○			4	2	1	1	1	1		10300
		理科教育法	自由	○			4	2	1	1	1	1	※1 通年科目	10300
		理科指導法	自由	○			4	3	1	1	1	1	※2 通年科目	10300
		教育相談	自由	○			2	2			1	1		10400
		教職実践演習(中・高)	自由		○		2	4			1	1		10600
教科又は教職に関する科目		介護福祉論	自由		○		2	全	半期1コマ (但し前・後期開講)					10700
教科に関する科目		情報と職業	選択	○			2	全			1	1		60600
		情報倫理	自由	○			2	2			1	1		60100
		工業技術概論	自由	○			2	3			1	1		70100
		職業指導	自由	○			4	3	1	1	1	1		70200

※1中学・高校免許用　※2 中学免許用

第７章
事務取扱い

1　事務取扱事項と取扱時間（埼玉鳩山キャンパス）

担当部署	主な事務取扱事項	場所，取扱時間
教務担当	• 授業，試験，成績に関すること • 履修登録に関すること • 単位認定（資格等）に関すること • 授業の欠席に関すること • 教職課程に関すること • 学習サポートセンターに関すること • 科目等履修生に関すること • 大学院に関すること • 成績，卒業証明書等の発行 • レポートボックスの管理	【本館１階事務室】 （月～土曜日） 9時10分～11時30分 12時30分～17時30分
学生厚生担当	• 休学，復学，退学等学籍に関すること • コース変更，転学系等に関すること • 学生相談に関すること • 学生証に関すること • 住所変更，保証人等の変更に関すること • 奨学金に関すること • 学費に関すること（学費延納を含む） • 課外活動に関すること • 施設利用に関すること • バス運行に関すること • 拾得物，遺失物の取扱い • 在学証明書，学割の発行 • 学生教育研究災害傷害保険の取扱い	
就職担当	• 就職，大学院進学等卒業後の進路相談 • 求人紹介，キャリア支援，就職活動支援 • インターンシップ，アルバイト紹介	
庶務担当	• スチューデントアシスタント（ＳＡ），副手（ＴＡ）制度に関すること • 研究生，研究員に関すること • 入学試験に関すること • 学生募集に関すること • 環境保全に関すること • 構内の清掃，衛生に関すること • 火災予防，災害防止及び警備に関すること • 施設設備管理・建物の保全・校地整備に関すること • 電気，電話，ガス，水道施設の管理に関すること • 地域連携に関すること • 産官学交流に関すること	
健康相談室	• 健康診断に関すること • 健康相談に関すること • 傷病応急処置 • 健康診断証明書発行	【本館１階】 （月～土曜日） 9時20分～11時30分 12時30分～16時20分 ※急患は随時
学生相談室	• 学業，心身の健康，対人関係等の個人相談	【本館１階】 学生相談室の入口の掲示板でお知らせします。
国際センター鳩山ブランチ	• 海外語学研修を含む外国留学に関すること • 外国人留学生の受入に関すること • 日本人学生と留学生の交流に関すること	【12号館１階128室】 （月～金曜日） 10時～17時

※日曜，祝日，夏季特別休暇，冬季特別休暇中等は窓口を取扱停止とします。

2　主な書類の提出先

1.　学籍異動に関する願

種　　別	取扱窓口	手続き・必要添付書類等
退学願	学生厚生担当	願い用紙、(診断書等)、学生証
休学願		願い用紙、(診断書等)、在籍料振込用紙（本人控のコピー）
復学願		願い用紙、(診断書等)
転学部願		願い用紙 転学部を希望する場合は、10 月中に学生厚生担当窓口へ申し出てください。
転学系願		願い用紙 コース選択とコース変更に伴なう転学系を認めています。「コース制とコースの選択」の頁を参照してください。

※「学籍について」の項も参照のこと

2.　身上の変更に関する届

以下の項目に変更が生じた場合は変更届を提出してください。

事　　項		取扱窓口	備　　考
変更届	改姓 (学生・保証人)	学生厚生担当	変更が分かる書類（戸籍抄本など)、学生証
	住所 (学生・保証人)		学生証
	連絡先 (学生・保証人)		
	保証人		学生証　※新・旧保証人の署名・捺印を要する。

※「電話番号（携帯電話番号含む)」の変更は DENDAI-UNIPA 上でも申請できます。

3. その他

種　別	取扱窓口	摘　要・備　考
欠席届	教務担当	傷病、その他のやむを得ない理由で授業を欠席した場合は、教務担当窓口にある欠席届に必要事項を記入の上、欠席を証明できる物（診断書等）を添えて提出してください。 なお、教務担当窓口で取り扱う欠席期間は連続して７日以上とします。 6 日以内の欠席は、直接授業科目担当教員に提出してください。
閉館時間中の正課授業実施願		卒業研究などで、21 時以降および休祭日に学内にいる場合には、必要事項を記入の上、指導教員・学系長の承認を受けて、実施当日の窓口取扱時間内に提出してください。**数日分をまとめての申請は受け付けません。**出席する学生名はその都度確認の上、記載するようにしてください。
学費延納願	学生厚生担当	詳細については「学費について」の項を参照
車両通学願		前期・後期に実施する「安全運転講習会」を受講し、指定期間内に車両通学願に必要書類を添えて提出してください。
学内集会願		課外活動で教室を使用する場合に提出してください。 ● 2 週間前を限度とし、3 日前まで（自治会公認団体、自治会未公認団体、個人） ●休日は貸し出ししません。
体育館・グランド使用願		課外活動で体育館またはグランドを使用する場合に提出してください。 ● 2 週間前を限度とする。（自治会公認団体） ● 1 週間前を限度とする。（自治会未公認団体、個人）
テニスコート使用願		課外活動でテニスコートを使用する場合に提出してください。 ●テニスコート 1・2・3（自治会公認団体） ●テニスコート西 1、西 2（自治会未公認団体、個人の使用は、1 日、1 面、3 時間まで）
学外活動願		学外で課外活動やボランティア活動等を行う場合に提出してください。
石段広場		要望書を 2 週間前までに学生厚生担当へ提出してください。
食堂		要望書を 2 週間前までに学生厚生担当へ「錦電サービス」の許可を得た上で提出してください。

3　証明書の交付

1.　証明書自動発行機から発行するもの

No.	証明書の種類	発　行 手数料	備　　考
1	在学証明書（和文）	200 円	
2	成績証明書	300 円	
3	卒業見込証明書	200 円	4 年次生のみ発行可能　※ 1
4	健康診断証明書（年度内に限る）	200 円	当該年度に学内定期健康診断を受診した学生のみ発行可能。
5	学割証（学生旅客運賃割引証）	無料	詳細については P 281 を参照
6	仮受験票	1,000 円	仮受験票については P 162 を参照

※ 1　3 年以上在学での卒業希望者に対しては、卒業を希望する学期の初めから発行します。

2.　窓口に申請し、発行するもの

No.	証明書の種類	申請窓口	発　行 手数料	発行までの 期間　※ 1	備　　考
1	学生証再発行	学生厚生担当	2,000 円	1 日	汚損、紛失の場合のみ発行可。 手続きには印鑑が必要となります。
2	在学証明書（英文）		700 円	3 日	
3	通学証明書		無料	即時	※ 2
4	成績証明書（英文）	教務担当	1,500 円	7 日	
5	卒業見込み証明書（英文）		1,200 円	7 日	
6	人物調査書		500 円	10 日	※ 3
7	教職免許状取得見込証明書		500 円	2 日	4 年次生の教職課程履修者のみ発行可。
8	大学院進学用調査書（他大学院宛）		500 円	10 日	本学の大学院へ進学する場合は必要ありません。※ 3
9	科目等履修生在籍証明書		200 円	2 日	
10	科目等履修生単位取得証明書		1,000 円	2 日	
11	JABEE 修了証明書		500 円	2 日	

※ 1　発行までの期間に事務の取り扱いがない日は含みません。

※ 2　通学定期券は、殆どの場合学生証の提示で購入出来ますが、バス・都電など、通学証明書を必要とする場合があります。
その場合には、通学証明書交付願に必要事項を記入し、申し込んでください。
通学区間は、学校最寄り駅と居住地最寄り駅との最短経路になります。

＊非正規生（研究員・研究生・科目等履修生など）は、通学定期券を購入することはできません。

※３　原則として、学生に身近な卒業研究指導教員又は、学生アドバイザーなどが記入します。申請が出てから教員へ作成依頼をしますので、余裕をもって申請してください。

※証明書自動発行機について

○証明書自動発行機の利用時間は９：00 ～ 21：00 です（月～土）。
○在学生は学生証が無いと利用出来ません。
○発行手数料の納入には、PASMO・Suica 等の交通系電子マネーが必要となります（現金での納入はできません）。

4　卒業後の証明書申請

卒業後に証明書が必要となることがよくあります。次の事項によく注意して申請をしてください。

1.　請求方法

最終の在籍キャンパスの教務担当窓口まで来校するか、または郵送によって申し込んでください。（電話での申し込みは受け付けいたしません。）

2.　請求に際しての必要事項（郵送の場合）

- 卒業年月
- 学系名・学籍番号
- 氏名・生年月日
- 証明書の種類と必要部数
- 交付手数料相当の現金または郵便局の小為替・返送用郵便料相当の現金または切手
- 返送先の郵便番号・住所・氏名・連絡先（電話番号）
- 返送を速達で希望する場合はその旨

※身分証明書のコピーを必ず添付してください。

3. 交付手数料

卒業証明書…… 500 円
成績証明書…… 500 円
JABEE 修了証明書（2007 年卒以降）…… 500 円
卒業証明書（建築士プログラム）…… 500 円
人物調査書…… 1,000 円
大学院進学用調査書…… 1,000 円
学力に関する証明書（教職関係）…… 1,000 円
英文卒業証明書…… 1,200 円
英文成績証明書…… 2,000 円
元在学成績証明書…… 1,000 円
元在学証明書…… 500 円
（学生厚生担当扱い）

4. 問い合わせ・請求先

〒 350 − 0394
埼玉県比企郡鳩山町石坂
東京電機大学理工学部事務部教務担当
ＴＥＬ 049（296）0430
（在学生の問い合わせは受付ません。）
本学のホームページに証明書申込み方法が記載してあります。
https://www.dendai.ac.jp/alumni/

第８章
学籍と学費

1 学籍

学生の皆さんは、入学により本学の学生としての身分を取得し、卒業により失いますが、退学または除籍により身分を失う場合もあります。入学後、諸般の事情により退学や休学の許可を得なければならない時には、理工学部事務部（学生厚生担当）で次の手続きをしてください（いずれも所定の願用紙を使用し、本人と保証人が連署・押印のうえ、手続きを行なってください）。

なお、**すべての手続きには期限があり、手続きを怠ると、除籍となる場合があります。**詳細は理工学部事務部（学生厚生担当）にお問い合わせください。

(1) 休学

傷病その他の理由で引き続き３ヶ月以上出席できないときは、休学願を提出し許可を得る必要があります。休学できる期間は半期ごと（６ヶ月）ですが、前期の申請時期のみ通年（前期と後期）での休学申請も可能です。休学期間は在学年数に算入されません。

【手続き方法】

①学生厚生担当窓口にて休学願を受け取り、必要事項を記入する（本人と保証人の連署・押印）。
②学生アドバイザー・学系長との面談を行い、休学の許可（休学願へ押印）を得る。
③在籍料（半期 60,000 円）を納入する。（学費の納入は必要ありません。）
④必要書類を学生厚生窓口に提出する。傷病による場合は、医師の診断書を添付すること。
⑤休学の決裁が下りた後、休学許可通知が郵送される。
⑥休学期限後の手続き方法については、休学期間満了の時期に本人宛に郵送で通知する。

【注意】

・休学中は科目の履修ができません。したがって、履修した科目は取消となります。
・特別な事情があると認められた場合は、願い出により再休学を許可する場合があります。
・休学が可能な期間は通算で３年までとなります。
・休学期限後は「復学・休学・退学」いずれかの手続きが必要です。
・引き続き休学する場合も再度手続きが必要です。
・手続きを怠ると、除籍となる場合があります。

(2) 復学

復学とは休学期間満了後に、在学状態に戻ることをいいます。

休学の理由が消滅したときには、復学願を提出し許可を得る必要があります。

【手続き方法】

①休学期間満了時に、学生厚生担当より手続き方法および復学願を本人宛に郵送する。
②復学願に必要事項を記入する（本人と保証人の連署・押印）。
③必要書類を学生厚生担当窓口に提出する。傷病により休学していた場合は、医師の診断書を添付すること。

【注意】
・復学の期日は、原則として学期の始めとなります。
・復学を希望する学期の学費納入期限までに、学費の納入が必要です。
・復学する学期の学費延納手続き（納入期限を延長する手続き）はできません。
・学費は、当該学年の正規進級学年次の学費が適用されます。
・手続きを怠ると、除籍となる場合があります。

⑶ 退学

傷病その他の理由により退学しようとするときは、退学願（学生証添付）を提出し、許可を得る必要があります。

【手続き方法】
①学生厚生担当窓口にて退学願を受け取り、必要事項を記入する（本人と保証人の連署・押印）。
②学生アドバイザー・学系長との面談を行い、退学の許可（退学願へ押印）を得る。
③必要書類を学生厚生担当窓口に提出する。傷病による退学の場合は、医師の診断書を添付すること。
④退学の決裁が下りた後、退学許可通知が郵送される。

【注意】
・退学の期日は原則として学期末となります。
・退学願を提出するためには、退学を希望する学期末までの学費を納入していることが必要です。
・退学を希望する学期末の手続き期限を経過した場合には、次の学期末での退学扱いとなります。
・手続きを怠ると、除籍となる場合があります。
・退学後は再入学が困難になります（再入学ができない場合もあります）ので、慎重に検討してください。

⑷ 除籍

次のいずれかに該当する者は除籍されます。
①最長在学年数（８年）を超えたもの（編入学・再入学の学生は別途の定めとなります）。
②休学による場合を除き、同一学年に通算して４年の在学を超えて、なお進級できない者。
③通算３年の休学期間を超えて、なお復学しない者。
④学業成績が特に不良で改善の見込みがない者。
⑤正当な理由がなく、無届で、引き続き３ヶ月以上欠席した者。
⑥前期分学費を７月末日までに、後期分学費を１月末日までに納入しない者。

※退学・除籍となった方については、一定の要件で再入学できる制度があります。

⑸ 転学部

転学部とは、理工学部から工学部・未来科学部・システムデザイン工学部、工学部第二部へ移ることをいいます。定員に余裕がある場合に限り、選考の上、許可することがあります。定員に余裕がある場合でも、人物・成績とも優秀な者で、なお且つやむを得ない理由があるなど、一定の条件を満たす必要があります。なお、工学部第二部への転学部は経済的な理由があることが前提条件となります。(成績不良等の場合は許可になりません)。次年度から転学部を希望する学生は、10 月中に、学生厚生担当窓口に申し出てください。

平成 30 年度の申請期間は、１１月１０日～１２月１５日とします。

なお、選考に当たり、審査料 5,000 円を別途徴収します。

【出願資格】

①第２年次編入

第１年次終了時に 36 単位以上取得見込みであること。

②第３年次編入

第２年次終了時に 60 単位以上取得見込みであること。

希望する学部（学科）において、単位取得済みの指定科目がある場合は、それを取得済みであること。

⑹ 転学系

転学系についての詳細は、次項「コース制とコースの選択」を参照してください。

２年次から学年が進行していく過程で真にやむを得ない理由で、理工学部の他の学系へ異動したい場合は、他の学系の定員に余裕がある場合に限り、選考の上、許可することがあります。

事前に学生厚生担当窓口にてご相談ください。

⑺ 再入学

再入学とは、本学を退学した者または除籍された者が再び本学に入学することをいいます。

ただし、懲戒による退学者は再入学が認められません。定員に余裕がある場合に限り、選考の上、許可することがあります。詳細は、学生厚生担当窓口にご相談ください。

2　コース制とコースの選択

1.　コース制とは

理工学部は「次世代モードの学び」として、自分に合った学びが自由に選択できるように 16 種類の教育コースを開設しています。

コースとは、体系化された学問の最小ユニットです。みなさんは 2 年次に進級する際、自分にあった主コース（メインとなる学習コース）と副コース（サブとなる学習コース）の 2 つのコースを選択します。主コースと近い分野の副コースを選択する場合は、専門性をより一

層高めることができ、主コースとは異なる分野から副コースを選択する場合は、１つの専門性にはとらわれずに将来に亘る広い視野と見識を養成することができます。

主コースは、自分が所属する学系のコースを必ず選択しなければなりません。副コースについては自分が所属する学系からも、自分が所属する学系以外の学系からも選択することが可能です。

各学系に開設されたコースは以下のとおりとなっています。

理学系	生命科学系	情報システムデザイン学系
数学コース	分子生命科学コース	コンピュータソフトウェアコース
物理学コース	環境生命工学コース	情報システムコース
化学コース		知能情報デザインコース
数理情報学コース		アミューズメントデザインコース

機械工学系	電子工学系	建築・都市環境学系
設計・解析コース	電子情報コース	建築コース
加工・制御コース	電子システムコース	都市環境コース

2.　コース選択の時期と方法

２年次から主コースと副コースを選択します。コース説明などを１年次に行います。希望コース申告は１年次終了前の１月に行います。主コースについては希望先を申告し、原則的に第１希望が優先されます。主コースの人数に大きな偏りが生じた場合には、１年次の GPA に基づき選考されます。なお GPA と面接結果を基に選考するコースもあります。副コースについては本人の希望が優先されます。

3.　コース変更について

主コースの変更は２年前期の申請期間に申告でき、受入コースの承諾を前提に認められます。

副コースの変更は上記同時期と２年後期の申請期間に申告でき、本人の希望が優先されます。

コース変更を行うと履修中の科目および既修得科目は、コース変更後の主コース・副コースに従います。また、進級条件も変更後のコースの条件に変わりますのでコース変更は十分に考えた上で申告してください。

くわしい日程は、DENDAI − UNIPA にて告知をしますので、必ず確認してください。

コース変更の時期

	２年次前期終了時	２年次後期終了時	３年次以降
主コース変更	○	×	×
副コース変更	○	○	×

3　学費について

1.　納入期限（平成 30 年度）及び学費振込用紙の発送時期

学部・年次		納入期限		学費振込用紙の発送
		前学期	後学期	
理工学部	新入生	（入学手続時に前学期分学費は納入済）	10 月末日	後学期分の振込用紙を 7 月下旬に発送。
	新入生以外	4 月末日	10 月末日	4 月上旬に 1 年分（前・後学期の 2 枚）を発送。

※納入期限が金融機関の休日にあたる場合は翌営業日

2.　納入方法

本学所定の学費振込用紙を用いて銀行から振り込んでください。前期と後期の年 2 回払いです。事情により ATM やネットバンキングを使用する場合は、学籍番号・学生カナ氏名・金額を正確に入力して振り込んでください。

3.　学費振込用紙について

① 経理部（会計担当）から保証人宛に郵送します。
② 保証人住所及び氏名は、理工学部事務部（学生厚生担当）に登録されている内容を記載しています。変更がある場合は理工学部事務部（学生厚生担当）にて手続きしてください。
③ 保証人以外の宛先を希望する場合は、経理部（会計担当）にて手続きしてください。
④ 紛失した場合は、経理部（会計担当）にて再発行の手続きをしてください。

※上記④は、電子メールでの手続きも可能です。
⇒ 経理部（会計担当）メールアドレス：gakuhi@jim.dendai.ac.jp

4.　学費延納

① 経済的理由等により学費を納入期限内に納入できず延納を希望する場合は、納入期限までに本学所定の「学費延納願」を提出してください。
② 「学費延納願」は、学生本人及び保証人の署名捺印の他、延納理由のご記入が必要です。納入期限日までに提出できるよう準備してください。用紙は学生厚生担当にて配付します。
③ 延納が許可される期間は、前期は 6 月末日、後期は 12 月末日迄です。

5.　その他

① 学費が所定の期日を過ぎて未納の場合は、学則により除籍となります。
② 留年者の学費は、当該学年の正規学年次と同額となります。
③ 休学の場合は、半期 6 万円の休学時在籍料がかかります（休学時在籍料の振込用紙は、学生厚生担当で受け取ってください）。

※学費に関する情報はホームページにて確認できます。
https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/expenses

第９章
生活案内

1　学生生活への助言・相談

学生生活の中で、教員と接して個人的に指導・助言を受けることは非常に大切なことです。本学では学生と教員の交流には特に留意して、**「学生アドバイザー及び学生相談室」**の二つの指導・助言制度を設けています。

⑴ 学生アドバイザー制度とオフィスアワー

「学生アドバイザー制度」は、皆さんが有意義で充実した学生生活を送るために、学生アドバイザーである本学の専任教員に抱えている悩みを相談できる制度です。

学生アドバイザーを担当する本学の先生は、毎週「オフィスアワー」を設けて、皆さんが自由に相談（例えば、学生生活、学業、就職・大学院進学、奨学金等）に来ることができるように教員室等で待機しています。

オフィスアワーは、全ての学生に開かれており個人だけのものではありません。より多くの学生が利用できるように事前に相談したいことをまとめておくようにしましょう。

皆さんの学生アドバイザーを担当する先生は、DENDAI-UNIPA の個人情報照会画面「学生基本情報（学生アドバイザー）」に掲載されています。オフィスアワーの時間・相談場所については、学生アドバイザーの「教員時間割」の画面において確認してください。

⑵ 学生相談室

学生相談室は、学生の様々な悩みごとについての相談に応じ、問題の解決に協力し適切な指針を与えることを目的としています。相談には専門家があたり、相談の内容については**個人の秘密が厳守**されています。

たとえば

・学校が面白くない。
・もっと充実した学生生活を送りたい。
・今と違った生き方があるのではないかと迷っている。
・誰とも自由につきあえるようになりたい。
・自分の性格について知りたい。
・進路についてなんとなく不安がある。
・人間関係がうまくいかない。
・人とうまく話ができない。

など、どのような相談でもかまいません。

⑶ こころとからだのサポート 24

※理工学部事務部（学生厚生担当）窓口等に設置のパンフレット参照

電話（フリーダイヤル）により、24 時間年中無休で、外部委託の専門機関が心身の相談を受付けています。

2　留学・海外語学研修

本学では、学生諸君が海外の協定校等での語学研修や留学プログラムに参加することを、推奨しています。3 週間程度の語学研修から 1 年未満の留学までさまざまな形態があるので、事前の準備等、よく検討の上、計画を立ててください。

⑴ 留学・海外語学研修の種類

①英語短期研修

海外協定校等にて実施されている英語短期研修プログラムは以下のとおりです。各大学の語学教師による少人数教育であり、所定の成績を修めれば、「海外英語研修」の単位として認定されます。

1）コロラド大学ボールダー校（米国）　：8 月に実施（約 3 週間）、募集は 5 月頃
2）ケンブリッジ大学ホマートン校（英国）：8 月に実施（約 3 週間）、募集は 5 月頃
3）シドニー大学（オーストラリア）　：3 月に実施（約 3 週間）、募集は 11 月頃

②その他の海外研修

単位の認定はありませんが、上記に加えて以下の語学研修等を実施しています。

1）韓国語研修：韓国の協定校等にて、8 月に実施（約 3 週間）、募集は 5 月頃
2）中国語研修：中原大学（台湾）にて、3 月に実施（約 3 週間）、募集は 11 月頃
3）英語研修：ブリティッシュカウンシル認定校（英国）にて、2 月下旬に実施（約 3 週間）、募集は 11 月頃

③協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって留学する制度です。協定校への留学に関する要望については個別に対応していますので、国際センターに問い合わせをしてください。

④認定校留学

留学希望者本人が外国の大学等から留学または受入れ許可を取り、本学がこれを許可し、留学する制度です。

＊本学では学生諸君が在学中に海外の大学に留学することを制度として認めています。留学とは外国の大学またはこれに相当する高等教育機関に一定期間在学して教育を受けることを言います。事前に所定の申請手続きを行い留学と認められる必要があり、事前の許可を受けずに渡航したり、相手先大学の正規教育課程以外のコースで学んだりしても、本学からの留学とは認められないのでご注意ください。

⑵ 留学・海外語学研修への参加にあたり

留学や海外語学研修に関する相談については、国際センターで随時対応しています。

①海外語学短期研修

これまでに実施した語学研修の募集要項や参加した学生の報告を国際センターで閲覧できるので、準備にあたってはこれらを参考にしてください。

②留学

長期の留学を希望する場合には、語学力の向上を含めた準備が重要ですので十分に留意してください。特に英語圏に留学する場合は、IELTS（International English Language Testing System）などの受験とそのスコアが必要です。留学先により英語要件があり、それを満たすためには通常 1 年以上の準備期間が必要です。

また留学予定先大学等において履修を希望する授業科目や本学の履修などについて、留学前に学系および理工学部事務部（教務担当）の履修指導を受けてください。

⑶ 国際センターについて

国際センター（東京千住キャンパス 1 号館 4 階　9 時～ 17 時）

「国際センター」では TDU の特色を生かした国際交流の実践に向けて、学生や教職員の人的な交流を進めるために、留学生の日常的な相談相手や、日本人学生の海外留学等、さまざまな支援を行っています。

国際センター鳩山ブランチ（場所：12 号館 1 階 12128 号室　10 時～ 17 時／月～金）

「国際センター鳩山ブランチ」では、常駐するスタッフに留学や大学生活についての相談ができます。また、留学生と日本人学生が交流できるスペースを設けています。

3　学割証（学生旅客運賃割引証）

1.　学割証の使用用途（発行条件）

帰省・正課教育・課外活動・就職活動・修学見学等で、遠距離を JR 各社列車で移動する場合で、乗車区間が片道 100㎞以上ある場合に学割証が利用できます。

2.　学割証の申込方法

証明書発行機にて取得してください。（無料）

3.　団体旅行

学生団体運賃割引制度は、学生と引率教職員同行で利用できます（人数の条件・割引率は、鉄道会社によって異なります）。利用の際は、「学外活動願」とともに「団体旅行申込書」（駅・旅行会社にあり）に必要事項を記入し、理工学部事務部（学生厚生担当）へ提示してください。

4.　学割証利用上の注意

⑴ 学割証は、記名人以外は使用できません。（不正使用をすると追徴金が科せられ、以後、発行停止になります。）

⑵ 必ず学生証を携帯してください。

⑶ 学割証の有効期限は発効日から 3 ケ月間です。

4 健 康 管 理

衣・食・住は私達が生活する上において欠くことのできないものです。これと同様に大切なのは健康であるということです。健康であるということは学生生活を送るうえでもとても大切なことです。本学でもみなさんの健康管理について十分配慮していますが、まずはみなさん自身が日頃から健康の保持に努めることが大切です。

更に、色々な感染症（インフルエンザ、麻疹、結核など）は本人だけの影響にとどまらず、周囲に及ぼす影響も大きく、大学閉鎖に繋がることもあります。ぜひご自身の母子手帳を確認し、事前に抗体価などを調べ必要時は早めにワクチン接種しておくことをお勧めいたします。

1. 健康相談室

授業中・課外活動中等に学内で急に気分が悪くなったり、思わぬケガをしたときは、すぐに健康相談室に来室してください。健康相談室では、校医の指導のもと看護師がそれぞれの応急処置にあたっています。

健康相談室では身長や体重、血圧や体脂肪率を自動的に測定する健康管理システムを設置しています。学生の皆さんがこのシステムを定期的に利用することにより健康状態のバロメーターにすることができます。

そのほか、ここでは平常の健康相談にも応じていますので、何となく身体に異常を感じるといった症状のときなども、遠慮なく来室してください。

2. 相談室の場所・開室時間

本館１階にあります。

開室時間は

月曜～土曜　9：20 ～ 16：20

（ただし、11：30 ～ 12：30 は休憩時間ですが、急患は随時受付けます。）

健康保険証について

急病等で医療機関を受診する際は必ず必要となります。個人管理で携帯するか手元に保管しておいてください。なお自宅外通学となる方は遠隔地被保険者証の交付を受けることをお勧めしております。保護者の加入している健康保険組合等に申請してください。

3. 定期健康診断

毎年、学校保健安全法及び感染症法に基づき、全学生を対象に定期健康診断を実施しております。奨学金申請やクラブ活動、就職活動などで健康診断証明書が必要な場合は、受診記録に

基づき作成しております。特にクラブ関係の団体活動を行う予定の学生はその団体全員の受診が必要となります。忘れずに毎年受診してください。

定期健康診断の実施項目は次のとおりです。

1. 胸部レントゲン撮影
2. 身体計測
   （身長、体重、日常視力）
3. 内科診察（検尿、血圧測定）

定期健康診断の日程は、事前に DENDAI-UNIPA にて詳細をお知らせします。再検査（精密検査）の詳細も同様に DENDAI-UNIPA にて連絡致します。

学内の定期健康診断を受診せず、学外で健康診断を受診した場合は、その証明書を健康相談室窓口に提出してください。その場合本学より健康診断証明書の交付はできません。

4. その他の健康診断について

クラブ活動（強化合宿・公式試合等参加）のために健康診断を受けたい場合は所定の健康診断受診申込書に記入の上、2 週間前に健康相談室に申し込んでください。

ただし、この健康診断では、レントゲン撮影などができないので、定期健康診断を受けなかった学生に対しては、診断による活動許可ができない場合があります。

5. 健康診断証明書

証明書自動発行機で交付します。指定用紙での発行を希望する場合は 2 週間前までに健康相談室へご相談ください。

5 保 険 制 度

⑴ 学生教育研究災害傷害保険（学研災）＋通学中等傷害危険担保特約（通学特約）

正課及び課外活動中または通学途中などに発生した傷害事故を補償する保険です。

入学手続時に修業年限分の保険料を納入し、全員が加入者です。この保険の窓口は理工学部事務部（学生厚生担当）です。国内外を問わず、事故にあった時は必ず連絡してください。

なお、留年等により正規の修業年限を超えた場合は、再加入の手続きが必要となります。保険料・保険期間を確認の上、必ず理工学部事務部（学生厚生担当）にて手続きを行ってください（＊入学時配布「学生教育研究災害傷害保険のしおり」参照）。

●保険金の種類・金額

担保範囲＼保険金額		死亡	後遺障害	医療	入院（日額）
学研災2,000万円コース	正課中 学校行事中	2,000 万円	120 万円～ 3,000 万円	0.3 万～ 30 万円	4,000 円
	上記以外で学校施設内にいる時	1,000 万円	60 万円～ 1,500 万円	3 万円～ 30 万円	
	学校施設外での課外活動中	1,000 万円	60 万円～ 1,500 万円	3 万円～ 30 万円	
通学特約	「通学中」 「学校施設等と相互間の移動中」	1,000 万円	60 万円～ 1,500 万円	0.6 万～ 30 万円	

注１）医療保険金は、平常の生活ができるようになるまでの治療日数に応じて異なります。
２）正課・学校行事中の事故は実治療日数（実際に入院または通院した日数）が、１日目から支払われます。また、上記以外の学校施設内にいる間の事故、課外活動中の事故は、実治療日数が 14 日以上、移動中の事故は、実治療日数が４日以上の場合に支払われます。

●保険料・保険期間（学生教育研究災害傷害保険＋通学中等傷害危険担保特約）

保険期間	保険料適用区分
	理工学部
１年間	1,000 円
２年間	1,750 円
３年間	2,600 円
４年間	3,300 円

注１）保険期間は所定の修業年限です。
２）保険期間の切れた者（留年・休学者）は、証明書自動発行機より１年間分の保険料を納入し再加入してください。
３）詳細は、「学生教育研究災害傷害保険のしおり」（入学時に配布）参照。

⑵ 学研災付帯賠償責任保険（学研賠）

国内外での研究期間中、正課授業中、学校行事中、就業体験（インターンシップ）中、およびその往復で、他人にケガをさせたり他人の財物を損壊したりしたことによって法律上の賠償責任を負担することになった際に生じる損害を補償します。

この保険の補償内容は「（３）インターンシップ･教職資格活動等賠償責任保険（インターン賠）」の補償内容を含みますので、先に学研賠に加入した場合は、インターン賠に加入する必要はありません。

この保険は任意加入制です。学外の研究機関や企業へ実習に行く際に受入れ先から加入するよう依頼があった場合は、理工学部事務部（学生厚生担当）で加入申請の手続きを行ってください。なお、申し込みにあたっては、「⑴ 学生教育研究災害傷害保険（学研災）」への加入が義務付けられています。

●保険金の種類・金額

賠償責任保険概要	活動内容	
	正課、学校行事、課外活動、インターンシップ、ボランティア活動およびその往復	
補償内容	対人賠償	1 事故 1 億円限度
	対物補償	

注 1）学外での実習先決定後、理工学部事務部（学生厚生担当）で加入の手続きを行ってください。
2）詳細は、「学研災付帯賠償責任保険のしおり」（加入時に配布）参照のこと。

●保険料・保険期間

保険料（1 年間）	340 円

注 1）保険期間は加入日の翌日～年度末。
2）理工学部事務部（学生厚生担当）窓口にて保険料を納入してください。

⑶ インターンシップ・教育資格活動等賠償責任保険（インターン賠）

自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業等における就業体験（インターンシップ）中や、教育実習中、ボランティア活動中、およびその往復で、他人にケガをさせたり他人の財物を損壊したりしたことによって法律上の賠償責任を負担することになった際に生じる損害を補償します。

この保険は任意加入制です。インターンシップ及び教育実習の場合は理工学部事務部（学生厚生担当）で加入申請の手続きを行ってください。なお、申し込みにあたっては、「(1) 学生教育研究災害傷害保険（学研災)」への加入が義務付けられています。

●保険金の種類・金額

賠償責任保険の概要	活動内容	
	インターンシップ、教育実習、ボランティア活動およびその往復	
補償内容	対人賠償	1 事故 1 億円限度
	対物補償	

注 1）インターンシップ受入企業決定後、理工学部事務部（学生厚生担当）で加入の手続きを行ってください。
2）詳細は、「学研災付帯賠償責任保険のしおり」（加入時に配布）参照のこと。

●保険料・保険期間

保険料（1 年間）	210 円

注 1）保険期間は加入日の翌日～年度末。
2）理工学部事務部（学生厚生担当）窓口にて保険料を納入してください。

⑷ 加入証明書について

⑴～⑶のいずれの保険についても、加入証明書を発行することができます。研究機関やインターンシップ先から加入証明書の発行依頼があった場合は、理工学部事務部（学生厚生担当）窓口にて申し出てください。証明書の発行は申込み日から原則２日後（ただし土･日･祝日は除く）となります。

6　奨学金制度

奨学金制度は教育の機会均等の精神に基づき、日本学生支援機構をはじめ各種の団体により設けられており、学業成績・人物ともに優秀であって経済的に困窮している学生に対して奨学金を貸与または給付するものです。

奨学金関係の事務は**理工学部事務部（学生厚生担当）**で扱っています。募集をはじめ奨学金関係の**連絡はすべて DENDAI − UNIPA で行いますので、見落とすことのないよう十分注意してください。**なお、家庭の経済事情の急変などのため奨学金を希望する者は、随時、相談してください。

主な奨学金制度には次のものがあります。

⑴ 特別奨学金（本学独自）

故桜井虎三郎氏の遺志により、桜井家からの寄付金及び学校法人東京電機大学からの積立金を基金として設立された奨学金です。学業成績・人物ともに優秀な本学学生で、経済的理由により修学困難な者に対して給付されます。

資　　格	本学部の２～４年に在学し、人物優秀で学業成績優秀、かつ学費支弁が困難な者。私立大学等経常費補助金の補助適用とした家計基準があります。
給 付 額	学費の一部または全額（平成 29 年度：28 万円）
給付期間	１年
募集時期	５～６月
採用者数	理工学部８名（平成 29 年度）

⑵ 大学院進学特別奨学金（本学独自）

本学学部成績優秀者の本学大学院修士課程への進学促進のための経済的支援策（経済的に修学困難な学生への支援策）として、学内推薦入試の合格者を対象に奨学金の給付を行う奨学金制度です。

資　　格	学内推薦入試で合格した学部生のうち、成績ならびに人物が優秀な者。 本学学部生で本学大学院修士課程の９月入学者及び入学後に休学、留年をしたことがある学生は対象外です。 また、大学院修士課程入学初年度において、学内外に関わらず他の給付奨学金と本奨学金を併用することはできません。
給 付 額	年間授業料相当額（大学院初年度のみ）
給付期間	１年間
募集時期	９～10 月
採用者数	各学系１名（ただし、入学定員が 160 名以上の学系は１名追加する。）

⑶ 東京電機大学学生救済奨学金（本学独自）

保証人（家計支持者）の経済的な理由で学費の支払いが困難となり、学業半ばにして学業継続を断念せざるを得ない学生に対して奨学金を貸与し、学業継続の機会を与えるものです。在籍期間中１回に限り貸与されます。

資　　格	大学院・学部に在籍する学生
貸 与 額	学費の 1/2 相当額
募集時期	４月と９月の年２回
採用者数	４名（平成 29 年度）
返　　還	無利子・卒業後５年間

⑷ 東京電機大学学生支援奨学金（本学独自）

本学主催の海外英語短期研修への参加及び高額な教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生に対して、支援奨学金を貸与することにより、学生の学業・学生生活を支援するものです。在学期間中１回に限り貸与されます。

資　　格	大学院・学部に在学する学生
貸 与 額	30 万円以内にて査定
募集時期	主として４月と９月の年２回
採用者数	０名（平成 29 年度）
返　　還	無利子・最長卒業後５年間

⑸ 東京電機大学学生応急奨学金（本学独自）

本学への特定の寄付金をもって設置された奨学金です。本学の学生で人物優秀にして学業成績良好であり、かつ家計の急変により学費の支弁が困難な者に対して給付されます。

資　　格	学部に在学し、人物優秀で学業成績優秀、かつ学費支弁が困難な者。
給 付 額	50 万円の範囲内で決定
募集時期	定期的な募集は行っていません。1 年以内に家計急変があり学費支弁が困難な者で、他奨学金の貸与状況・家計急変状況・学費延納状況等から総合的に判断し、応急奨学金の趣旨に相応しい人物を採用します。
採用者数	0 名（平成 29 年度）

⑹ 東京電機大学校友会奨学金（本学独自）

東京電機大学校友会が昭和 59 年度より設立した奨学金で、家庭の経済的事情の急変により学業継続が困難な学生に対して在籍期間中 1 回に限り奨学金が貸与されます。

資　　格	本学学生
貸 与 額	1 回に納入する学費等の相当額。卒業後 5 年間で返還（無利子）
募集時期	随時。但し、学費に充当するため、学費納入期限以前に応募することが望ましい。
採用者数	1 名（平成 29 年度）

⑺ 東京電機大学学生サポート給付奨学金（本学独自）

学校法人東京電機大学サポート募金への寄付金をもって設置された奨学金です。本学学部に在学し、過去 1 年以内に家計急変があり、修学意欲がありながら学費支出が困難な学生に対して給付されます。奨学生に採用された学生は、大学が主催する学生行事において、他の学生生活を支援する学生ボランティアスタッフとして協力をしていただきます。

資　　格	学部に在学し、家計急変により学費支出が困難な者で、学生ボランティアスタッフとして協力ができる者
給 付 額	25 万円
募集時期	5 月と 9 月の年 2 回
採用者数	5 名（平成 29 年度）

⑻ 日本学生支援機構による奨学金

優秀な学生で経済的理由のため修学困難な者に対して貸与される奨学金で、「第一種奨学金（無利子）」と「第二種奨学金（有利子）」とがあります。

【第一種奨学金（無利子)】（平成 29 年度）

成績基準	1 年次生については、高等学校での評定平均値が 3.5 以上であること。 2 年次生以上については、クラスの上位 1 ／ 3 以内の成績であること。
貸 与 額	自宅　：　2 万円・3 万円・4 万円・5.4 万円の中から選択 自宅外：　2 万円・3 万円・4 万円・5 万円・6.4 万円の中から選択
貸与期間	最短修業年限（4 年）の終期まで。 ※奨学生として適格性を失ったときは、奨学金貸与が停止または取消される場合があります。
募集時期	原則として 4 月上旬

【第二種奨学金（有利子)】（平成 29 年度）

成績基準	・成績が平均水準以上であると認められる人 ・学修に意欲があり学業を確実に修了できる見込があると認められる人
貸 与 額	2 万円・3 万円・4 万円・5 万円・6 万円・7 万円・8 万円・9 万円・ 10 万円・11 万円・12 万円の中から選択
貸与期間	最短修業年限（4 年）の終期まで。 ※奨学生として適格性を失ったときは、奨学金貸与が停止または取消される場合があります。
募集時期	原則として 4 月上旬

＊併用貸与……第一種奨学金の貸与のみでは学業継続が困難な者に対しては、第二種奨学金の貸与もあわせて認められる場合があります。

平成 29 年度日本学生支援機構奨学生数　（延人数）

種類／学部	第一種奨学金	第二種奨学金	合計
工　学　部	332	706	1,038
未来科学部	181	369	550
工学部第二部	126	164	290
理 工 学 部	325	669	994
情報環境学部	136	295	431
合　　計	1,100	2,203	3,303

⑼ 各種団体による奨学金

地方公共団体、その他民間育英団体の奨学金が各種あります。詳しい内容は、募集の依頼があり次第掲示でお知らせします。ほとんどの奨学金が 4 月～ 5 月に募集を行いますので、掲示を見逃さないように注意してください。このほかに大学を通さないで募集される場合もありますので、直接地方公共団体等に問い合わせることも必要です。

大学に前年度募集依頼のあった地方公共団体・民間育英団体（抜粋）　　平成 29 年度

（単位：円）

名　称	貸給	月　額	出願資格
福島県	貸与	40,000	県内に居住する者の子女
茨城県	貸与	自宅外 40,000 自　宅 36,000	県内に居住する者の子女
石川県	貸与	44,000	県内に居住する者の子女
新潟県	貸与	51,000	県内に居住する子弟
山口県	貸与	52,000	県内に居住する者の子女
宮崎県	貸与	自宅外 63,000	県内に居住する者の子女
足立区	貸与	45,000	足立区内に 6 ヶ月以上居住している者
前澤育英財団	給付	35.000	新 1 年次生で東京都民の子女または東京都に居住している者
池田育英会トラスト	給付	17,000	愛媛県内の高校を卒業している 2 年生以上の者
交通遺児育英会	貸与	40,000 ～ 60,000	交通遺児、保護者に重度の後遺障害がある者
あしなが育英会	貸与	40,000	保護者が病気または災害により死亡したり、重度の後遺障害がある者
中村積善会	給付	30,000	他の奨学金を受けていない者
日揮・実吉奨学会	給付	300,000（年額）	人物・学力ともに優秀な者
関育英奨学会	貸与	30,000	2 年次生で学業・人物ともに優秀な者
守谷育英会	給付	100,000	学力優秀・心身ともに健全な者
中部奨学会	貸与	35,000	人物・学業ともに優秀な者
オーディオテクニカ奨学会	給付	20,000	東京都内に在住し、2 年次以上で年に 1 回奨学生の集いに出席できる者
フジシールパッケージング教育振興財団	給付	50,000	応用化学・機械工学・電気電子工学を学ぶ者。パッケージに興味のある者
信濃育英会	給付	個人 100,000（年額） 団体 300,000 ～（年額）	ボランティア等あらゆる分野の活動を通じて明るい社会を築くために貢献している者
川本・森奨学財団	給付	25,000	学業優秀・品行方正な者
種とまと財団	給付	50,000	理工系大学の 3 年生、学業優秀・健康・品行方正な者

7　短期貸付金制度

短期貸付金制度は、皆さんが緊急に金銭を必要とする場合に貸付をする制度で、**理工学部事務部（学生厚生担当）**で取り扱っています。

この貸付制度は､同窓会の先輩の皆さんが設けた「東京電機大学同窓会助け合い基金」をもって運用されています。

【短期貸付金の取扱い】

取扱時間	月曜日～土曜日　9：10 ～ 17：30 （休憩時間）11：30 ～ 12：30
貸付金額	10,000 円（上限）
貸付期間	1 ヶ月以内（返済期日厳守）

授業期間外の取扱時間は、窓口時間に合わせて短縮または変更する場合があります。

一日に貸付できる人数には限りがあります。また、返済期限を過ぎた場合は、今後の貸付が禁止となり、遅延手数料が発生します。金銭の借用については返済の見通しを立ててから行動し、助け合い基金の趣旨に反した安易な借用は認めませんので注意してください。
(遅延手数料として 1 ヶ月毎に貸付額の 1%を徴収します)

8　賃貸アパートの紹介

本学では直接斡旋はしていませんが、錦電サービス㈱にアパートの斡旋を委嘱しています。

錦電サービス㈱　〒 350-0394　埼玉県比企郡鳩山町石坂
東京電機大学　理工学部内
TEL　049 － 296 － 2962 ㈹
http://www.kinden-service.co.jp

9　課外活動

大学の課外活動の目的は、団体の活動に参加することによって、自主性を養い、協調精神を身につけ秩序を知り、自己の人間形成に役立てることにあります。しかし、課外活動に必要以上のエネルギーを費やし学生の本分である勉学がおろそかになるようであってはなりません。皆さんは、課外活動のこの趣旨目的を十分に把握した上で各自の個性に合った団体を選び意義ある学生生活を過してください。

10　アルバイト

本学ではアルバイトを希望する学生にその紹介を行っています。しかし学生の本分である学業が疎かになってはなりません。教育的配慮と事故防止の観点から時期と職種を制限しています。

⑴ 大学宛求人票公開

本館１階エントランスホール掲示板（取扱窓口：学生厚生・就職担当）

⑵ 時期の制限

通常授業が行われている期間は紹介しません（家庭教師・塾講師のみ随時紹介）。長期休業中（夏季・冬季・春季）のみ紹介となります。

⑶ 職種の制限

制限職種一覧表を参照してください。

⑷ 申込方法

公開されている求人票に連絡先が記載されているので、直接求人先に応募してください。

⑸ 勤務上の注意

① 労働内容、条件などが求人票に記載されている内容と著しく異なる場合には、理工学部事務部（学生厚生・就職担当）まで申し出てください。

② 病気、急用、その他突発的な理由で遅刻・欠勤などする場合には、必ず勤務先へ連絡してください。安易な行動は勤務先へ多大な迷惑をかけるばかりでなく、自分の信用を落とすことになりますので特に注意してください。

制　限　職　種　一　覧　表

	具体例	理　由　及　び　参　考　事　項
危険を伴うもの	●プレス、ボール盤、旋盤、裁断機など自動機械の操作	危険事故が伴う。 （例外…理工系でその専攻に役立つもの）
	●高電圧、高圧ガス等危険物の取扱い（助手も含む）	免許を必要とし、高度の危険度がある。
	●自動車、単車の運転、自転車による重量物（30kg以上）の配達	最近の厳しい交通状況から危険度も高く、また事故を起こした場合の経済的・精神的負担が重すぎ、刑事責任まで負うことになる。
	●線路内や交通頻繁な路上での作業（測量、白線引き、交通整理）	
	●土木・水道工事現場作業	
	●建築中の現場作業、建物倒壊、残材片付作業	落下物・転落等の危険度が大きい（内装工事は除く）。
	●２階以上の高所での屋外作業（ガラス拭き、器具取りつけ等）	
	●ヘルメット着用が必要とされる作業	
	●警備員	会場整備、誘導、受付は除く。
人体になもの有害	●農薬、劇薬など有害な薬物の扱い（メッキ作業、白蟻駆除等）	健康上、人体に有害と考えられる。
	●特に高温度・低温度の作業	
	●塵埃、粉末、有害ガス、騒音等の著しい中での作業	
法令に違反するもの	●労働争議に介入するおそれのあるもの	職業安定法 20 条参照
	●営利職業斡旋業者への仲介斡旋	職業安定法の趣旨（雇用関係の成立の斡旋）に反する。
	●マルチ・ネズミ講商法に関するもの	無限連鎖講の防止に関する法律参照
	●出来高払（一定額の賃金の保証のないもの）	労働基準法 27 条参照
	●募集・採用の対象を男性のみ又は女性のみとするもの	男女雇用機会均等法参照
	●募集・採用の人数を男女別に設定するもの	
	●募集・採用に当たり、性別により異なる条件を付すもの	
教育的に好ましくないもの	●街頭でのチラシ配り、ポスター張り	内容的に問題があったり、無許可の場合が多い。
	●不特定多数を対象とした街頭や訪問による調査	相手側の了解が得られない場合が多く、トラブルの原因となることが多い。
	●訪問販売、勧誘、専門におこなう集金	
	●競馬、競輪場等、ギャンブル場内の現場作業	
	●バー、クラブ、マージャン、パチンコなど風俗営業の現場作業、長期継続の深夜作業	
	●深夜作業	
	●選挙の応援に関連する一切の業務	大学としては特定の政党や候補者を応援することは望ましくない。
	●スパイ行為、興信所業務に類する調査	
望ましくない求人	●人命にかかわることが予想される業務	水泳指導員、監視員、ベビーシッター等
	●労働条件が不明確なもの	賃金、時間、場所、労働内容、支払方法等に関することが明示されていないもの。登録制によるもの。
	●人員の限定を条件とするもの	例えば 10 人中１人でもかけると他の９人を不採用とするようなもの。
	●学生を紹介しても採否の連絡が無かったり、正当な理由なく採用されないことがしばしばくり返されるもの	
	●大学の判断により好ましくないもの	

11 後援会

1. 後援会について

後援会は学生の父母（または、保証人）と教職員が会員となり、会員の中から選出された役員により、学生が充実した楽しいキャンパスライフを過ごせるように様々な事業をおこなっています。

また、後援会の事業は会員の皆様からの会費によって運営されています。

2. 後援会の事業

・父母懇談会の開催

各キャンパス及び全国各地（10 会場・H 29 年度実施）で開催をしています。父母懇談会では、会員へ大学の現況報告をお知らせし、教職員と面談する機会を設けています。父母懇談会は父母同士の意見交換や懇親の場でもあります。

・『父母のための東京電機大学ガイド』の発行

・会誌『学苑』の発行

年に 3 回、会員へ郵送しています。学苑には、学生生活の報告、教育・事業の報告、大学行事の報告等が掲載されています。

・メールマガジン配信

『学苑』でお伝えしきれない内容や緊急連絡等をメールマガジン登録会員（父母）へ配信しています。

・クラブ活動への補助

委員会・クラブ・同好会の課外活動に対し、補助金による支援を行っています。

・学園祭・体育祭への補助

旭祭（東京千住キャンパス）、鳩山祭（埼玉鳩山キャンパス）、秋葉祭（千葉ニュータウンキャンパス）及び全キャンパスが一同に集う合同体育祭に補助金による支援を行っています。

・キャリア・就職支援

学生と本学卒業生が懇談し、卒業生の活動状況と将来計画の相談等を行う『仕事研究セミナー』の開催に対して補助金による支援を行っています。

・国際交流への補助

学生と留学生との交流をはかるため、特に国際センターＨＰの留学促進ページの更新など、学生へ海外留学の魅力を広報することに対して補助金による支援を行っています。

後援会のホームページ

http://www.soe.dendai.ac.jp/gakusei/G_supporter_association/supporter_association.html

12 校 友 会

みなさんが学生生活を送る中で、校友会・同窓会という言葉を耳にする機会が多々あると思います。ここではその校友会・同窓会活動について紹介します。

1. 校友会と在学生とのかかわり

校友会を卒業生の親睦団体と考えている方も多いと思いますが、本学園と連携し、在学生のみなさんへの支援も行っています。学園祭等の全体行事援助、奨学金貸与、クラブ活動への補助など、積極的な支援活動を展開しています。

2. 校友会組織と活動

現在、校友会には各校（大学、中学校・高等学校、電機学校）の同窓会、各県支部（みなさんの出身地にもあります）や公認団体として職域電機会（同じ職種や企業内同窓会）があります。将来、これらの組織が就職活動等でみなさんの力になることと思います。

また、卒業生情報の管理や会誌「工学情報」の編集・発行や「メールマガジン」の配信など、在学生や卒業生のための活動を積極的に展開しています。

3. 東京電機大学校友会奨学金

この奨学金制度は、各学期の学費納入期限までに募集しています。学生本人または保証人の事情により学費等校納金の支払いに困難な状態が生じた場合に、書類審査及び面接により校友会が貸与するものです。

貸与を希望する方は下記の要件を確認した上で、学生アドバイザーあるいは事務部（学生厚生担当）に相談してください。

貸与額：学費（授業料及びこれと同時に納付する金員を含む）の１／２相当額

返　還：卒業後半年据え置いた後、５年間で年賦・半年賦・月賦による元本均等返済
（一括返済可・無利息）

4. 大学同窓会の活動

学園の諸活動と密接な関係のある大学同窓会は、卒業後の OB ／ OG 会やクラス会の開催の援助はもとより、在学生のクラブ活動や諸行事にも校友会と一体となって活動しています。これらの活動を支えている卒業生は大学院・大学・短大で約 11 万名に達しています。

また、在学生の就職進路におけるキャリア支援事業に対しても支援をしています。大学同窓会では学園と協力して“仕事研究セミナー”の開催及び、産業界で活躍している先輩方による就職進路相談などの行事に対しても協力しています。社会の第一線で活躍する卒業生による「仕事」に対してのアドバイスは、就職活動中の学生には好評を得ています。

さらに、各キャンパスにおいて学園祭に合わせて、「OB 交歓会」を開催しています。開催日同日には、優秀な学生団体に対して丹羽賞及び、同窓会奨励賞の授与式を実施するなど、卒業生と在学生との交流を図る行事を開催しています。

①丹羽賞

初代学長の丹羽保次郎先生が、生前に大学同窓会に対して寄付をしていただいた基金を基にして創設されたものです。在学会員（在学生）のクラブ活動の育成援助を目的とし、過去 1 年間に優秀な課外活動成果をあげた学生団体を表彰します。

②同窓会奨励賞

昭和 60 年度より設けられた賞で、丹羽賞の対象にはならないが、地道に着実な活動を続けている団体を表彰します。

5. 校友会を訪ねてください

校友会の事務室は、東京千住キャンパス 1 号館 2 階にあります。在学中に先輩のこと、出身地の校友会支部のこと等、知りたいことがありましたら気軽に相談してください。

一般社団法人　東京電機大学校友会
〒 120-8551　東京都足立区千住旭町 5 番
東京電機大学東京千住キャンパス 1 号館 2 階 1203 室
TEL：03-5284-5140　E-mail：kouyukai@jim.dendai.ac.jp
FAX：03-5284-5187　URL：http://www.tduaa.or.jp/
業務時間 9：00 ～ 17：00

13　東京電機大学シーサート（TDU-CSIRT）

CSIRT（Computer Security Incident Response Team：シーサート）とは、コンピュータセキュリティにかかるインシデントに対処するための組織の総称で、本学には東京電機大学シーサート（TDU-CSIRT）が設置されています。

TDU-CSIRT は、本学と本学のブランド価値を守るため、情報セキュリティに関する対応・対策窓口を提供すると共に、インシデント対応および発生の予防を支援することにより、学内外のセキュリティ向上に貢献することを目的として活動しています。

⑴ インシデントの通報案内

近年は、本学に向けた各種サイバー攻撃も非常に高度化・多様化しており、日常的に学内のコンピュータを狙った攻撃に晒されています。本学に関する情報漏洩、標的型攻撃、Web サイトの改ざんなどのインシデントを発見された場合は、E-mail にて TDU-CSIRT へ通報をお願いいたします。

【　情報セキュリティインシデント発見時の通報連絡先　】
tdu-csirt@csirt.dendai.ac.jp

■ 取り扱うインシデント対象範囲

TDU-CSIRT では、次のような情報セキュリティインシデントを取り扱い、インシデント対応を行います。

1．情報漏洩
　本学が管理する重要な情報（例えば個人情報等）について、情報漏洩、盗難および紛失、またはこれらの可能性が疑われる事案が発生した場合
2．標的型攻撃
　標的型攻撃の発生または発生が疑われる事案が起きた場合
3．Web サイトの改ざん
　本学が管理する Web サイトの改ざんが発生した場合
4．DoS（Denial of Service）攻撃
　本学に対して DoS 攻撃が発生した場合、外部に対して本学が管理するサーバ等が DoS 攻撃の攻撃元となる事案が発生した場合
5．不正侵入
　本学が管理するサーバ等へ不正侵入し、踏み台として、さらに組織の内部に侵入しようとしたり、外部の他組織を攻撃したりする事象が発生した場合
6．不審なシステムダウン
　本学が管理するサーバ等への不正侵入等による不審なシステムダウンが発生した場合

7．その他

その他、本学の情報セキュリティを脅かす事象が発生した場合

⑵ Web サイトによる各種情報提供

TDU-CSIRT では Web サイトで次のような情報を発信・提供しています。
定期的に確認し、セキュリティ向上に活用してください。

・学内外に向けたセキュリティに関する注意喚起情報
・コンピュータやソフトウェアに関する脆弱性（ぜいじゃくせい）情報
・セキュリティ向上を目的とした啓発情報

■ TDU-CSIRT Web サイト

https://www.csirt.dendai.ac.jp/



ハラスメント防止宣言

STOP! HARASSMENT

ハラスメント防止宣言

東京電機大学は、個人の人格と人権が尊重され、それぞれの能力が最大限に発揮されるような、自由な学問と教育の場であることをめざしています。そのためには、すべての学生・教職員が教育・研究などの諸活動を進められるよう、安全で快適な環境を整えていくことが重要であると考えています。

人間関係において、相手を差別したり、性的な対象として心理的・身体的に傷つけたりすることは絶対にあってはならないことです。

埼玉鳩山キャンパスでは、ハラスメント相談受付窓口を設け、相談内容に応じて適切なハラスメント相談員を紹介します。キャンパス対策委員長は、必要に応じて、キャンパス調査委員会を設置して事実関係を調査し、ハラスメントの防止および問題解決に取組むことを宣言します。



TDU 東京電機大学
TOKYO DENKI UNIVERSITY

ハラスメント防止
鳩山キャンパス対策委員会

ハラスメント相談受付窓口は、
・学生相談室　・健康相談室
・学生厚生担当　・教務担当
です。

What's HARASSMENT?

「ハラスメント」とは、相手に不快感や脅威を感じさせる不適切な言動のことを意味します。
教職員と学生、サークルやゼミの先輩と後輩など立場を利用したものだけでなく、同級生同士でも相手が不快に感じる言動は「ハラスメント」になります。



セクシュアル・ハラスメントとは

相手の意に反して行われる性的な内容の発言や行動を意味します。

- 性的な関係・交際・行為を強要する
- 身体に触れる
- 身体的特徴について話題にしたり、視線を浴びせたりする
- 性的な話題を聞かせたり、あるいは聞き出そうとする

基本的には「対価型」と「環境型」の２つに分けられます。

対価型

対価型とは、強い立場を利用して相手の処遇に便宜を図る対価として性的要求をしたり、弱い立場の人がそれを拒否した場合、その人を不利な状態に陥らせたりするものを言います。

- 成績評価や指導面、処遇面などの条件に性的関係を迫る。
- 酒席や交際を断られたこと等を理由に成績評価や指導面、処遇面などについて不当な扱いをする。

環境型

環境型とは、周囲の人が不快になるような性に関する文書・写真を掲示したり、言葉や行為などによって環境を悪化させることを言います。

- 卑わいな冗談を言ったり、異性の差別的発言をする。性的な噂を流したり、個人的な性的体験談を話したり、聞いたりする。
- ヌードポスターやわいせつ図画等を掲示、配布したり、パソコン等に卑わいな画像を表示する。

これは、セクハラ!

- 相手の身体を上から下までジロジロ見つめる。
- 相手の髪・肩・背中・腰など身体を不必要に触る。
- 相手のスリーサイズを聞く、身体的特徴を話題にする。
- 異性との仲を噂する。
- 講義中に教員が卑わいな発言や、差別的な発言をする。
- コンパの席で男性教員（先輩）の横に女子学生を必ず座らせ、お酌をさせる。
- 食事やデートにしつこく誘う。性的な内容の電話をかけたり、手紙やメールを送る。

これもセクハラかも・・・

- 挨拶代わりに毎日、肩をたたく。
- 「男のくせに根性がない」、「お茶を入れるのは女の仕事」、成人に対して「男の子・女の子」、「おじさん・おばさん」など人格を認めないような呼び方をする。
- 「いいプロポーションだね」、「ミニスカートが魅力的だね」と言う。
- 「何で結婚しないの？」、「子供はまだなの？」と聞く。



アカデミック・ハラスメントとは

教育・研究の場における権力を利用した嫌がらせ、差別、人格を傷つける発言などを指します。

これはアカハラ！

- 卑わいな発言に抗議したら、「冗談の通じないやつには単位をやらない」と言われた。
- 「お前はやっぱりダメだ」と言って指導を放棄された。
- 「大学をやめろ」とか「卒業させない」と必要以上に何度も言われた。
- 同じ研究チームなのに、理由もなくはずされたり、理由もなく論文著者名の変更などされた。

大切なのは相手の判断

あくまでも相手の受け止め方によるものであり、言動を受けた者が不快に思うかどうかによって判断されます。
拒否または、服従したかどうかは問題になりません。

もし、あなた自身がハラスメントを受けていると感じたら

- 勇気をもって、「ＮＯ」の意思表示をしましょう。相手に言葉ではっきり伝えることが大切です。
- 誰から、いつ、どのような被害を受けたかなど、できるだけ詳しく記録しておきましょう。
- 信頼できる周囲の人に相談しましょう。

ハラスメントの現場に居合わせたなら

周りの人にもできることがあります

- 自分の周囲で被害にあっている人がいたら、毅然として「いけない」とはっきり言いましょう。
- 被害にあっている人の相談にのりましょう。必要な場合は証人になることもできます。
- 解決が難しいと感じた場合は、ハラスメント相談受付窓口に行くように勧めたり、必要に応じて同行しましょう。

加害者にならないために



私たちは、誰でもハラスメントの被害者になる可能性があると同時に、加害者になる可能性もあります。自分でも気がつかないうちに相手に不快な思いをさせたり、相手の心をひどく傷つけているケースも多々あります。その場合、必ずしも相手が不快の念を表明するとは限りません。対等でない立場にいる場合、相手に遠慮して話せない心理状態に追い込まれていることも考えられます。

ハラスメントを起こさないために、日頃から相手の気持ちを気遣うように心がけ、日々の自らの言動をチェックし、お互いを尊重し、認め合う関係を築くよう心がけることが大切です。

第 10 章
各種施設

1　スポーツ施設

各種スポーツ施設は、理工学部の学生や教職員の健康や体力増進のために、体育館やグラウンドをはじめ多くの方の好みに合ったスポーツが実施できるようにつくられた施設です。効率よく、気持ちよく利用するために以下の利用方法に従ってください。

1.　利用方法

体育の授業以外の時間帯に使用できます。利用可能な施設と時間帯を確認して利用計画を立て、学生厚生担当において所定の手続きをし、スポーツ施設の利用許可を受けてください。ただし、授業や学内行事が優先となります。

利用申込みは、**公認学生団体は使用日の 14 日前**、**一般学生は 7 日前**から可能です。**テニスコートの一般学生の利用は 1 人 1 回 3 時間まで**です。長期休業の際の申込みについては、別途 DENDAI − UNIPA でお知らせします。

テニスコート、多目的コートは許可を得た使用願を理工学部受付に提示し、鍵を借りて利用してください。

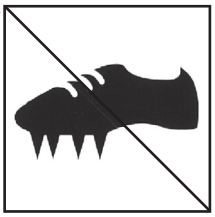
2.　施設利用の心得

・体育館　　土足は禁止します。下足箱に靴をおき、館内は館内用シューズを履いてください。スリッパでの運動は禁止します。
・テニスコート　テニスシューズかそれに類する物を履いてください。使用後はネットをゆるめてください。
・グラウンド　雨天時や雨天後などグラウンド状態不良の場合は、原則、使用を禁止します。
・更衣室　　自由に使用できますが、ロッカーを私物化しないようにしてください。またロッカーには、**貴重品や高価な物は絶対に置かず各自で貴重品ロッカーを利用する**か携帯してください。ロッカーを含め体育館内に放置された私物は定期的に撤去します。
・ごみは必ず持ち帰るかごみ箱に入れてください。
・施設使用後は、モップがけ、トンボ、コートブラシなどで必ず整備を行ってください。
・盗難防止のため、貴重品等の管理には各自で十分に注意してください。

埼玉鳩山キャンパス総合グラウンド
人工芝 使用上の注意

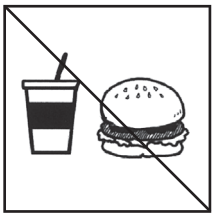
総合グラウンドは、平成29年度「理工学部開設40周年記念事業」として、新しく、全天候対応のグラウンドに生まれ変わりました。
総合グラウンドをいつも快適なコンディションで使用できるよう、大切に使用してください。

使用可能なシューズ



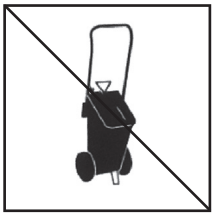
金属製スパイク・ハイヒールでの入場は禁止します。
ただし、100mレーンは、陸上競技用金属スパイクの使用が可能です。

飲食の禁止



グラウンド内では、水分補給以外の飲食は禁止します
(水以外のスポーツドリンク・ガム・飴も含みます)。

ライン引き



専用パウダー以外のライン引きは禁止します。
(石灰は使用厳禁)
ラインを引く際は、事前に学生厚生担当へ相談してください。

靴底の泥・ゴミ



靴底に付着した泥・ゴミをきれいに落としてから入場してください。
また、退場の際は、チップを払い落としてください。

火気の使用禁止



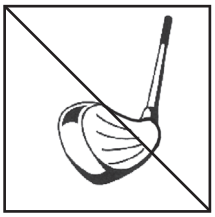
火気の使用は禁止します。
また、喫煙および高温になる器具等の持ち込みも禁止します。

車両の進入禁止



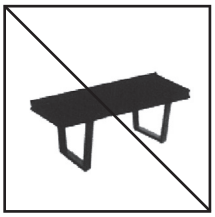
自転車・バイクも含め、車両の進入を禁止します。ただし、救急車・整備車両等は除きます。

ゴルフ等の禁止



ゴルフ等の人工芝を傷める行為は禁止します。

重量物の設置



ベンチ・サッカーゴール等の重量物を長期間設置することは、人工芝が損傷しますので禁止します。やむを得ない場合は、ゴムマット等を敷いて養生の上、使用してください。

東京電機大学　理工学部事務部

2　総合メディアセンター

総合メディアセンターでは、学生と教職員の教育・研究活動のために、各学系の教育課程および研究計画に沿った設備・機器、情報資源、ネットワークを整備し、各種情報メディアを有効に活用できるように様々なサービスを提供しています。

総合メディアセンターの計算機サービスと図書サービスは、埼玉鳩山キャンパス（理工学部）はもとより東京千住キャンパス（工学部、未来科学部、システムデザイン工学部）と千葉ニュータウンキャンパス（情報環境学部）でも、1 つの利用者 ID（学籍番号）とパスワードにより利用することができます。利用者情報を一元管理することにより、総合メディアセンターの各システムは、認証の共通化を実現しています。

パスワードについて

パスワードは、利用者ＩＤが他人に利用されることを防ぐ役目をする鍵です。個人データとシステムを守るために、パスワードを時々変更するようにしてください。

- 初期パスワードは必ず変更してください。
- 他人に推測されやすいパスワードに変更しないでください。
- 6 ～ 8 文字の英数字を混在させたパスワードにしてください。

< 利用上の注意事項 >

- 総合メディアセンター施設内での飲食や喫煙は厳禁です。清潔で静粛な環境を保つよう心掛けてください。※ただし、一部の施設内では、フタのできる密閉容器に入った飲み物に限り、持ち込みを認めています。
- 大きな声での話し合いは周りの迷惑になるため厳禁です。守れない場合は、総合メディアセンター施設から退出してもらいます。
- 携帯電話での通話は周りの迷惑となるため禁止します。どうしても使用する時は総合メディアセンター施設から退出して使用してください。
- 機器類や図書資料は共有財産です。らくがきや破損等をしないよう、大切に使用してください。
- ユーザ端末、図書検索端末、プリンタ等の機器類に異常が発生した場合や、不測の事態が起きた場合は、直ちに総合メディアセンター員か係員に連絡してください。
- 利用者 ID の貸借や他人の利用者 ID を使った利用は絶対に行わないでください。第三者にパスワードが知られることがあり、不正利用に流用されたり、法令に触れる事件に巻き込まれる危険性があります。
- 印刷を実行するときは無駄のないように十分に検討を行った上で出力してください。また、学修に無関係な出力は厳禁です。
- 自分の出力したものは必ず持ち帰ってください。特に個人情報が載った出力結果等の取扱い

には十分注意してください。
・ユーザ端末やサーバ等のシステム運用および利用上の変更については、総合メディアセンター内の掲示板とホームページでお知らせします。常に確認するようにしてください。
・総合メディアセンター施設内では、スタッフの指示に従って利用してください。

< 総合メディアセンターからのお知らせ >

ホームページまたは総合メディアセンターの掲示板にて、お知らせします。
総合メディアセンター（埼玉鳩山キャンパス）のホームページ
URL･･･http://www.ccs.dendai.ac.jp/mrcl/

< 図書サービス >

⑴ 図書資料の貸出

借用したい図書資料に学生証を添えて、カウンターへ提出してください。自動貸出機を利用して貸出手続きをすることもできます。また、他キャンパス所蔵の図書資料も、取り寄せて利用することができます。

■貸出冊数と貸出期間

対象	貸出冊数	貸出期間
学部 1 ～ 3 年生	5 冊	2 週間
卒業年次生（学部 4 年生）	10 冊	1 ヶ月
大学院生	10 冊	1 ヶ月

※予約者がいなければ、貸出期間の更新ができます。返却期限日までに手続きをしてください。更新は、自動貸出機を利用するか、または図書 Web ページから ID とパスワードを入力するだけで簡単に手続きすることができます。

注意！

図書資料を延滞した場合、遅れた日数分貸出停止となりますので注意してください。
なお、借用中の図書資料を紛失したり汚損したりした場合には、弁償していただきます。

■館内利用の資料

1	禁帯出の赤ラベルが貼ってある図書資料
2	雑誌
3	修士論文及び博士論文（一部複写不可のものも有り）
4	視聴覚資料（DVD など）
5	貴重書

※上記 1、3、4 の他キャンパス資料は取り寄せが可能です。
カウンターで手続きをしてください。

■コピーについて

図書資料の複写は閲覧室内の複合機を利用してください。

著作権に関しては、利用者が全責任を負うものとします。

※著作権に関する注意（著作権法第 31 条より抜粋）

図書館においては、次に掲げる場合には、図書資料を複製することができる。

図書館等の利用者の求めに応じ、調査研究のために公表された著作物の一部分の複製物を一人につき一部提供する場合。

⑵ 図書資料の返却

借用図書は、定められた期日までに返却してください。返却はどのキャンパスでも可能です。返却期限日は、図書 Web ページから簡単に確認することができます。卒業・退学・除籍・転学・休学などの場合は、貸出残余期間にかかわらず即時返却してください。

休館日、開館時間外の返却は、ブックポストを利用してください。ブックポストは、各キャンパスの総合メディアセンター正面出入口に設置されています。

⑶ 図書資料の購入

購入希望の図書資料は、図書 Web ページから依頼することができます。購入不可の場合と、購入後貸出可能となったときに、メールで連絡します。

⑷ 図書資料の予約

図書資料は、図書 Web ページから予約することができます。図書資料が到着したらメールでお知らせします。貸出可能日以降にカウンターへ取りに来てください。

	所属キャンパスの資料	他キャンパスの資料
予約できる資料	貸出中のもの	貸出中のものも含めて全て
貸出可能日	総合メディアセンターからのメールの発信日	
取り置き期間	7 日間	

※資料が各キャンパスに届くまでの日数

東京千住　⇔　埼玉鳩山　　1 ～ 2 日

※状況によって日数が変更になる場合があります。

⑸ 各種サービス

レファレンスサービス	図書資料および利用方法に関する質問、学内（外）の情報検索等 についてカウンターのスタッフが相談に応じます。
相互利用サービス	必要な資料が本学にない場合は、学外諸機関、他大学図書館等を調査して文献の複写・図書資料の貸借依頼や利用案内、紹介をします。
検索サービス	本学で所蔵している図書資料は、OPAC で検索ができます。閲覧室内の館内 OPAC 端末および総合メディアセンターの図書 Web ページからご利用ください。
当日貸出サービス	グループスタディの利用や、プロジェクター・ノートＰＣなどの各種機器、USB 扇風機などの貸出を行っています。

Web によるお知らせとサービス（http://lib.mrcl.dendai.ac.jp/）

図書 Web ページで以下の情報を公開、サービスを提供しています。

・資料検索
・図書資料予約
・返却期限の確認（自分が借用している図書資料の返却期限の確認）
・借用図書の貸出期間の更新
・文献複写・図書資料貸借依頼（他機関へ依頼の場合は有料）
・図書購入依頼（購入希望図書の申込）
・新着図書情報
・ベストリーダ情報（よく利用される図書資料）
・オンラインジャーナル（IELOnline、ACMPortal、他多数）
・各種データベース
・電子図書館

メールによるお知らせ

図書サービスに関する連絡は主にメールで行っています。メールはすべて学籍番号宛になります。学生の場合は、学籍番号 @ms.dendai.ac.jp です。

以下のような連絡をメールで行いますので、常に確認してください。

・予約図書資料到着のお知らせ
・貸出・更新・返却履歴（前日分）のご案内
・返却期限日のお知らせ（返却期限日の 1 日前に連絡）
・延滞のお知らせ（返却期限日以降に連絡）
・文献複写・図書資料貸借到着のお知らせ
・購入希望図書到着・却下のお知らせ

図書サービスに関するお問い合わせは下記まで

1 号館 3 階のカウンター
メール：h-library@mrcl.dendai.ac.jp



グループスタディ



3 階閲覧室



エントランスホール



ブラウジングコーナー

< 計算機サービス >

ここに掲載されていない具体的な設定値や詳しい利用方法については、Web ページや掲示等で案内しています。

総合メディアセンター（埼玉鳩山キャンパス） http://www.ccs.dendai.ac.jp/mrcl/

○ 利用時間

		月～金	土	長期休業期間
パソコン教室	本館 1 階	9：15 ～ 19：20	閉室	
第 3 実習室	1 号館 1 階			
第 1・2 実習室	2 号館 1 階	9：15 ～ 20：00	9：15 ～ 16：50	
プリントルーム	2 号館 1 階			

- ●休館日は、日曜・祝日・創立記念日（9 月 11 日）、夏季・冬季および春季の休業中の一定期間、その他に本学法人または総合メディアセンターが特に必要と定めた日。
- ●休日開館をすることもあります。また、システム作業等により変更になる場合もあります。Web ページで最新の予定表を確認してください。

◇ 基本サービス

総合メディアセンターの各システムと学内情報システムの多くは、利用者情報を一元管理することにより、認証の共通化を実現しています。これらのサービスを利用するためには「総合メディアセンター基本サービス」に登録されている必要があります。

- ●本学の学生は入学時に基本サービスに登録され、ＩＤとパスワードが与えられます。
- ●ＩＤは学籍番号（学系等の英字は小文字）です。
- ●パスワードは自分で変更できます。定期的に、他人から容易に推測できないものに変更し、自分の責任で厳重に管理してください。最低限、毎年定める変更期間中に変更しなければなりません。

◇ ユーザ端末

○ ユーザ端末

- ●「ユーザ端末」は本学の教育研究のためのパソコンです。本学の学生は誰でも利用できます。
- ●主にコンピュータを利用した授業での利用を目的としていますが、授業以外の時間には自学自習のために利用することができます。各種ソフトウェアの利用のほか、総合メディアセンターのサービスと学内の様々なシステムへの入口としても機能します。
- ●埼玉鳩山キャンパスには、各実習室とパソコン教室に約 300 台設置されています。他キャンパスのユーザ端末も同様に利用できます。
- ●プリントシステムを利用してカラー印刷、大判印刷、スキャン等が行えます。
- ●ユーザ端末は、ＤＶＤやＳＤカードのような外部媒体は利用できません（ＵＳＢメモリを除く）。これらを読み書きする必要がある時は、「メディア利用端末」を利用

してください。

○　メディア利用端末

●メディア利用端末は、外部媒体を読み書きするための端末です。ＣＤ／ＤＶＤドライブの他、マルチカードリーダー／ライターを設置していますので、ＳＤカード等も読み書きできます。

○　リモートサービス

リモートサービスとは、学内 LAN に接続されているパソコン（情報コンセントや無線 LAN 等）およびインターネットに接続されているパソコン（自宅等の学外）から、パソコン教室、実習室に設置してあるユーザ端末と同様のパソコン環境を 24 時間いつでも利用できるサービスです。

本学の学生は誰でも利用できます。利用申請等は特に必要ありません。

利用方法等については、以下の Web ページを参照してください。

http://sunixsvr01.term.usmc.dendai.ac.jp/info1/RemoteService/RemoteService.html

◇ **プリントシステム**

パソコン教室、各実習室設置のユーザ端末をはじめ、学内 LAN に接続されているパソコン（情報コンセントや無線 LAN 等）から、利用できるオンデマンド方式の印刷環境で、カラー複合機、カラー大判プリンタ、モノクロ大判プリンタが利用できます。

本学の学生は誰でも利用できます。利用申請等は特に必要ありません。

利用方法等については、以下の Web ページを参照してください。

http://sunixsvr01.term.usmc.dendai.ac.jp/info1/Printsystem_manual_top.html

プリントシステムでは以下の機能が利用できます。

①パソコンからの印刷機能（学内 LAN に接続されたパソコンで Windows（32bit/64bit）、Mac、PC-UNIX）

②ＵＳＢメモリからの直接印刷機能（対応ファイル：PDF、JPEG、TIFF、XPS、DocuWorks）

③コピー機能

④スキャナ機能

⑤大判印刷機能（A1 サイズ～ B0 サイズまで）

○ポイント制

●本システムはプリントポイントによる印刷管理を行っています。
プリントポイントは、全員に毎年度（年度初め）、初期ポイント（1,000 ポイント）を付与し、利用の度に利用種別に応じたポイントが消費されます。
プリントポイントがなくなると次年度まで利用ができなくなります。

●プリントポイントがなくなってしまった場合は、自己負担（有料）となりますがポイントを追加することができます。

●本システムは教育・研究を目的とするものです。学修に直接関係しない利用はできません。自己負担分であっても同様です。

●ポイント制は、利用者が印刷した枚数を認識し、資源の節約を意識してもらうことを目的としています。
必要のないポイント利用は控えて大切に利用してください。
環境や資源を守るためにも、なるべく規定の 1,000 ポイントの範囲内で利用してください。

利用種別	消費ポイント
複合機：モノクロ印刷	2 ポイント／用紙 1 面
複合機：カラー印刷	10 ポイント／用紙 1 面
複合機：スキャナ	消費しません
複合機：モノクロコピー	2 ポイント／用紙 1 面
複合機：カラーコピー	10 ポイント／用紙 1 面
モノクロ大判プリンタ	10 ポイント／ 1 印刷
カラー大判プリンタ	20 ポイント／ 1 印刷

※カラー印刷である必要のないものはモノクロで印刷することや、N アップ機能（用紙 1 面に複数ページを印刷する機能）を利用すれば消費ポイントを節約できます。

○現金利用
図書館設置の複合機については、利用毎に料金を支払う現金利用専用（ポイント利用は不可）になります。
利用料金は以下となります。

利用種別	消費ポイント
複合機：モノクロ印刷	10 円／用紙 1 面
複合機：カラー印刷	50 円／用紙 1 面
複合機：モノクロコピー	10 円／用紙 1 面
複合機：カラーコピー	50 円／用紙 1 面

※図書館設置の複合機では、スキャナ機能は利用できません。

◇ メールシステム

●本学の学生は、" 学籍番号 @ms.dendai.ac.jp" のメールアドレスが付与されます。
● Web ブラウザを利用してメールの送受信ができる「Web メールシステム」が利用できます（https://webmail.dendai.ac.jp/）。

◇ ファイルサービス

総合メディアセンターでは、ファイルサービスとして、授業の教材配布や課題の提出等に利用する「授業用ワークスペース」と各自の電子データを保存しておくための「ユーザ個人領域（1GB ／ 1 人）」を提供しています。

パソコン教室、各実習室設置のユーザ端末をはじめ、学内 LAN に接続されているパソコン（情報コンセントや無線 LAN 等）から利用できます。

◇ ソフトウェアライセンスサービス

総合メディアセンターで契約しているソフトウェアの一部は、総合メディアセンターが直接管理しているハードウェアのみならず、学生所有のパソコンにおいても、これらソフトウェアをインストールして利用できる様にソフトウェアライセンスサービスを提供しています。

利用できるソフトウェアや利用方法については、以下の Web ページを参照してください。
http://www.mrcl.dendai.ac.jp/top/mm1/soft_index.html

◇ ネットワークサービス

●ＬＡＮポートと電源を備えた「情報コンセント」を学内各所に設置しています。

	設置場所
2 号館	1 階　第 2 実習室前
10 号館（本館）	1 階　情報端末コーナー 2 階　第 1・2 メディア教室、情報端末コーナー
12 号館	1 階　アトリウム情報端末コーナー、124 教室 2 階　221 教室 3 階　321 教室
3 号館	1 階　ＬＬ教室

●学内の各教室及び以下の場所で無線 LAN が利用できます。

	設置場所
1 号館	2・3 階　総合メディアセンター図書閲覧室
4 号館	1 階　喫茶コーナー 2 階　学生食堂
9 号館	2 階　学生ラウンジ　4 階　談話室
10 号館（本館）	1 階　エントランスホール、中庭 2 階　プレゼンテーションホール
12 号館	1 階　アトリウム
5 号館	トレーニングルーム、ホール、剣道場、卓球場

●利用に際してはユーザ認証を求められます。基本サービスのＩＤとパスワードで認証されます。

◇ プログラム相談

プログラム相談とは、機器の操作方法、課題の処理方法やプログラム技法、さらにはプログラム実行時のエラー等の問題について相談員の意見や解決方法のアドバイスを求めるために設けられています。プログラム相談は、大学院生のプログラム相談員が、第 3 実習室プログラム相談窓口で授業期間中に下記のように行っています。

期間	場所	時間
授業期間中	第 3 実習室	月～金　9：30～18：20

●上記の時間帯で相談を行いますが、相談員がいない時間もあります。予めプログラム相談予定表（Web、掲示）を確認のうえご利用ください。

◇ 諸注意

総合メディアセンターの設備は、皆が利用する共有設備です。利用マナー守って、皆が快適に利用できる環境を常に心がけてください。

○ ネットワークの利用について

インターネットを経由して学外のコンピュータへ接続することは、学外の他機関の資源を利用することでもあります。必要のない接続やデータ転送は行わないでください。

総合メディアセンターでは快適な利用ができるように、接続状況をモニタリングすることがあります。

○ インターネットの利用について

著作権の侵害や不法なダウンロードは、社会人としての情報倫理に反するものであり、東京電機大学の構成員として許されるものではありません。法令またはネットワーク利用細則をはじめとする学内規程等に違反する行為は厳禁とします。

○ 実習室の利用について

- ●各実習室・パソコン教室等の設備や各種サービスは、教育研究のために提供されています。サークル活動や個人の趣味など、学修に直接関係のない目的では利用できません。
- ●各実習室・パソコン教室・プリントルームは、図書閲覧室と同じように静かに利用してください。
- ●濡れた傘は室内に持ち込まず、傘立てを使用してください。
- ●各実習室・パソコン教室・プリントルームでの飲食は禁止します。飲食物は鞄にしまってください。
- ●端末にログインしたまま、または荷物を置いたまま席を離れないでください。他の利用者が使えなくなったり、荷物を紛失する恐れもあります。
- ●忘れ物に注意してください。特にＵＳＢメモリの忘れ物が絶えません。退出の際は、今一度、忘れ物のチェックをしましょう。

◇ 問い合わせ

○ 総合メディアセンター（埼玉鳩山キャンパス）窓口（本館 1 階事務室）

Ｗｅｂ：http://www.ccs.dendai.ac.jp/mrcl/

メール：h-computer@mrcl.dendai.ac.jp

◇ 実習室設備一覧

○ パソコン教室（本館 1 階）

名称	設置機器	台数
パソコン教室	ユーザ端末（パソコン）	182 台（うち教員用 1 台）
	メディア利用端末（パソコン）	2 台
	カラー複合機（プリンタ）	4 台
	授業支援機器（マイク・教材提示装置）	1 式

○　第 3 実習室（1 号館 1 階）

※自学自習のための実習室です。授業は実施しません。

名称	設置機器	台数
第 3 実習室	ユーザ端末（パソコン）	74 台
	メディア利用端末（パソコン）	2 台
	カラー複合機（プリンタ）	4 台

○　第 1・2 実習室（2 号館）

※各室間はパーティションにより分割・合同が可能です（最大 88 席）。

名称		設置機器	台数
第 1 実習室		ユーザ端末（パソコン）	23 台（うち教員用 1 台）
		メディア利用端末（パソコン）	1 台
		カラー複合機（プリンタ）	1 台
		授業支援機器（マイク・教材提示装置）	1 式
第 2 実習室	第 2 実習室 A	ユーザ端末（パソコン）	23 台（うち教員用 1 台）
		メディア利用端末（パソコン）	1 台
		カラー複合機（プリンタ）	1 台
		授業支援機器（マイク・教材提示装置）	1 式
	第 2 実習室 B	ユーザ端末（パソコン）	23 台（うち教員用 1 台）
		メディア利用端末（パソコン）	1 台
		カラー複合機（プリンタ）	1 台
		授業支援機器（マイク・教材提示装置）	1 式
	第 2 実習室 C	ユーザ端末（パソコン）	23 台（うち教員用 1 台）
		メディア利用端末（パソコン）	1 台
		カラー複合機（プリンタ）	1 台
		授業支援機器（マイク・教材提示装置）	1 式

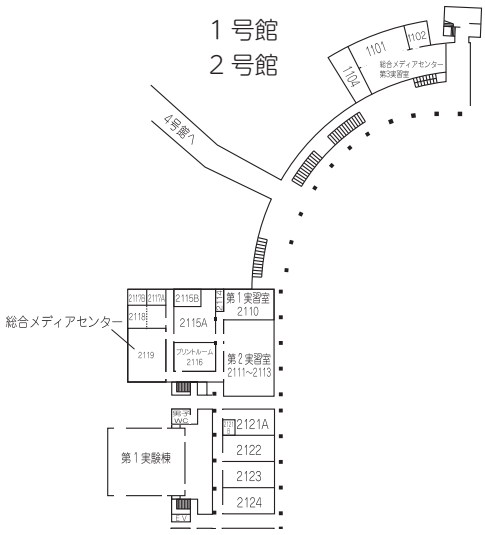
○　プリントルーム（2 号館）

※印刷のための部屋で、授業は実施しません。ここの端末は印刷指示専用です。

名称	設置機器	台数
プリントルーム	ユーザ端末（パソコン）	8 台
	カラー複合機（プリンタ）	1 台
	モノクロ大判プリンタ	1 台
	カラー大判プリンタ	2 台

全体図







第3実習室



第1・2実習室



パソコン教室



プリントルーム

10号館（本館）



東京電機大学学生向けセキュリティガイドライン

（位置付け）

本ガイドラインは、学校法人東京電機大学情報戦略ポリシーに基づき、東京電機大学の学生が、コンピュータ、携帯情報端末やネットワークを利用するに当たって遵守すべき事項をまとめたものである。

（一般利用）

1．ネットワークの利用において、やりとりする情報の内容については、本学は基本的に関知せず、利用者が良識を持って判断しなければならない。
2．利用者ＩＤを他人に譲渡または貸与してはならない。また、他の利用者ＩＤを用い、なりすましを行ってはならない。
3．掲示板・ＳＮＳ・Ｗｅｂページなどネットワーク上で学内から意見を表明するときは、関与者の人権やプライバシーを尊重すると共に、知的所有権（著作権、商標権、特許権など）に配慮しなければならない。
4．大学設置の情報資産を本来の目的以外に使ってはならず、特に商業目的に使ってはならない。
5．卒業等により利用資格を失った場合、それまで使用していた利用者ＩＤを使用してはならない。

（電子メールの利用）

1．第三者のプライバシーや知的所有権は十分尊重しなければならない。
2．ネズミ講やマルチ商法・チェーンメールなどに加担してはならない。
3．送信先や転送先のメールアドレスは十分に確認しなければならない。
4．サイズの巨大（一般的に３ＭＢ以上）な添付ファイル付きメールを送信しないこと。大人数に対して大きいサイズの添付ファイル付きメールではなく、別の手段（Ｘｙｔｈｏｓ等）を用いること。
5．添付ファイルにマルウェアが内在する可能性を考慮しなければならない。
6．安全を確保するためには暗号メールを必要に応じ使用することが望ましい。
7．メール中のＵＲＬを不用意にクリックしてはならない。
8．送信元が不確かなメールは送信者へ確認するか無視しなければならない。

（Ｗｅｂサイトへのアクセス）

1．不適切なサイトへのアクセスは行ってはならない。
信頼できないサイトへのアクセスは、取引時のトラブルなどに十分注意しなければならない。
2．信頼できないサイトへ個人情報等の入力は行ってはならない。

3．ＷｅｂブラウザやＯＳのアップデートを常に行い、最新の状態に保たなければならない。
4．サイトで禁止されている行為をしてはならない。
　例えば、電子ジャーナル等のサイトでは機械的なダウンロードは禁止されていることがある。

（ソーシャルメディアの利用・情報の公開）

1．第三者のプライバシーや知的所有権を十分尊重しなければならない。
2．公序良俗に反する情報を発信してはならない。
3．研究内容等を含む発信を行う際は十分注意し、機密が漏洩しないようにしなければならない。
4．公開した情報は多くの人に閲覧されることを想定しなければならない。
5．公開範囲を常に意識しなければならない。
6．完全な匿名性は存在しないことを認識しなければならない。
7．一度公開した内容を完全に削除できないことを認識しなければならない。
8．情報は正確に記述するよう努め、誤解を招かないよう注意しなければならない。
9．サービス登録・利用時には利用規程を確認しなければならない。

（ファイルの扱い）

1．知的所有権（著作権、商標権、特許権など）を犯すなど違法なファイルを取り扱ってはならない。
2．法令により単純所持が禁止されているファイルを自己の意志に基づいて所持してはならない。
3．出所が不明なファイルや内容に確証が持てないファイルをダウンロードしてはならない。
4．大きなサイズのファイルをネットワークでやりとりするときは、他の利用者への影響を考慮しなければならない。

（パソコン、情報機器での注意）

1．ソフトウェアには常にセキュリティパッチを適用し最新の状態を保たなければならない。
2．送信元が不確かなメールに含まれるＷｅｂサイトへのリンクや添付ファイルは開いてはならない。
3．マルウェア対策ソフトウェア（アンチウイルスソフト等）を適時使用しなければならない。対策ソフトウェアは常に最新の状態に保たなければならない。
4．外部から取得した（ダウンロードやメールの添付・メディアでのコピー）ファイルは、マルウェア対策ソフトウェアなどでスキャンしてから使用しなければならない。
5．マルウェアの稼働を確認した場合は速やかに無効化し、無効化出来ない場合コンピュータをネットワークへ接続してはならない。
6．データの改ざんや破損に備え、重要な情報は常にバックアップを行わなければならない。
7．他人の利用者ＩＤを用いてネットワークへ接続してはならない。

(罰則)

このガイドラインに違反する場合、総合メディアセンターの管理するコンピュータやネットワーク利用を停止する場合がある。さらに悪質な場合には学則にのっとり処罰する場合がある。

(注意)

本ガイドラインは時代の変化と共に変更する場合があるので総合メディアセンターからの通達によく注意しておくこと。

[本ガイドラインの発信者：情報統括責任者、総合メディアセンター]

第 11 章
就職・進学

1　キャリア支援・就職

はじめに

経済や技術進歩の動きは日本の中だけで解決できる問題ではなく、世界を相手にする時代になっています。実感がないかもしれませんが、今は社会に出てグローバルに活躍する時です。大学生活の中で何を学び、何を経験していくかは、皆さんの将来にとって非常に大切な事です。

理工学部事務部（学生厚生・就職担当）は、入学から卒業まで全面的に支援していきますので、皆さんには充実した学生生活を送っていただきたいと思います。

大学の環境・施設をフルに活用し、疑問・質問が生じた場合は遠慮なく、先生方や理工学部事務部（学生厚生・就職担当）に相談してください。

目標のある生活

大学生活を始めるにあたって、大学に進学した理由や学部、学系を選択したきっかけをもう一度自分なりに振り返ってみましょう。大学入学という目標を達成し気が抜けてしまった人もいるかもしれませんが、ここで次の目標をたててみましょう。目標にチャレンジする・何か趣味に熱中する・友人と沢山遊ぶ…　今しかできないことを楽しんで経験することは、「人生」という大きな流れにおいて非常に大切な事です。

キャリアを考える

キャリア career とは「経歴」「職業」の意で「人生」をもさす言葉です。キャリアは社会へ出たあと、会社で異動があるとき、新しい道へ進むときなどに深く考える事になります。

将来の自分は「どんな人になっていたいか」を思い描き、それに近づくための方法を考えてみましょう。目標に向けて今をどう過ごし、何をしておくべきかをしっかりと考えることが大切です。皆さんの今後のステップとして、まず１・２年のうちから今後の「人生」を考え、３・４年で専門性を身につけていくことが挙げられます。

また、キャリアアドバイザー、ジョブサポーターからのアドバイスを適宜受けることができます（予約優先）。

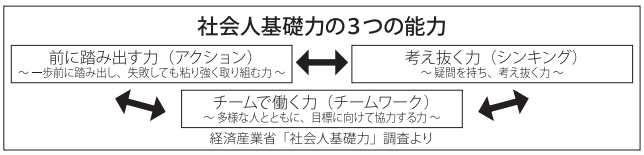
大学生活のヒント

ここで少し就職について考えてみましょう。企業は「採用したい人物像」として以下の内容を挙げています。これらは大学でやっておくべきことのヒントとなります。

採用したい人物像　キーワード

・コミュニケーション能力があり、自分の考えを主張できる人（対人能力、思考力）
・学生時代に目的を持って行動し、成果を出した人（積極性）
・基礎学力をしっかりと身に付けている人（基礎学力、専門知識）
・ストレスに強く、環境変化に柔軟に対応できる人（適応力）

社会人基礎力の３つの能力



経済産業省「社会人基礎力」調査より

身につけよう！

今後の人生で直面する問題には**「一つの決まった答え」**というものはありません。

社会では、**「自分で考え、行動を起こす能力」**が求められています。

この限られた４年間を通して、卒業後の進路やその後の長い人生のために「大切なもの」を探し、身につけて行きましょう。

セルフチェックシート

それぞれの年次の目標とガイドを掲げます。
できた項目の□にチェックを入れよう。

Freshman 1年目

自己発見

充実した学生生活を送る

□入学後の目標を立てる
□将来の目標も考える
□将来に向けて学生生活を設計する
□キャリア支援関連の科目を履修する
□キャリア・ヒューマン教育を受ける
□読書・文章を書く習慣を身につける
□クラブ、課外活動に参加する
□新しい仲間を作る

充実した学生生活をおくるためにフレッシュマンゼミに参加しよう
大学生としてのスキル獲得に向けてキャリア・ヒューマン教育を受けよう

Sophomore 2年目

自分磨き

社会と自分の関係を考える

□興味を掘り下げ得意科目をつくる
□研究したいことを見つける
□将来就きたい職業を考える
□キャリア・ヒューマン教育を受け、問題解決能力を伸ばす
□英語力をつける
□幅広い教養を身につける
□アルバイトで社会経験を積む
□社会奉仕活動（ボランティア）に参加する

思考力強化のためにキャリア・ヒューマン教育に参加しよう

キャリア科目

専門知識や技術の修得だけではなく、社会環境の変化に対応できる強い人材（インテリジェントな技術者）を育成するため、右の3科目を新設しました。積極的に履修しましょう。

●フレッシュマンゼミ
「フレッシュマンゼミA」 少人数グループの授業で、学系の先生方と身近に接することができます。大学の生活や学問の方法・勉強の仕方など、新入生同士の活発な議論を通じて学んでいくことができます（前前期7回）。
「フレッシュマンゼミB」 高校までと違い、大学の講義ではレポートやディスカッションが大事になります。そのコツを伝授する講義の他、やがて来る就職活動や卒業後の職業意識を高めるためのレッスンもあります（前後期7回）。

●キャリアワークショップ
複数の学系の学生からなるグループで問題解決型の演習を行うことで、異なる専門分野のメンバーが協力し合って問題が解決できることを知り、社会で協働する能力を育成します。

取っておくと役立つ資格、目標としたい検定試験例

電気・通信

電気工事士／電気主任技術者／電気通信主任技術者／電気工事施工管理技士／工事担当者／家電製品エンジニア／無線従事者（陸上特殊無線技士・海上特殊無線技士など）／ラジオ・音響技能検定

情　報

パーソナルコンピュータ利用技術認定／ITパスポート／ITストラテジスト／基本情報技術者／応用情報技術者／データベーススペシャリスト／システム監査技術者／ITサービスマネージャ／情報セキュリティスペシャリスト／プロジェクトマネージャー／システムアーキテクト／ネットワークスペシャリスト／エンベデッドシステムスペシャリスト／ORACLE MASTER ／ MCP／ MOT ／ CCNA ／ Java 認定資格／CompTIA ／CIW

4年間の設計図を描いていこう！

大学院進学
より高度な研究者をめざして

Junior 3年目

社会への跳躍
コミュニケーション能力をつける

□就職支援行事に積極的に参加する
□キャリア・ヒューマン教育を受け、コミュニケーション能力や論理思考力、プレゼンテーション能力を磨く
□インターンシップに参加する
□卒業研究について考える
□将来の目標となる社会人像を定める
□特技や得意分野をさらに広める
□主体的に計画や実験に関わり成果を出す
□新聞を読む習慣をつける
□文章による表現能力を磨く

就職活動が本格化。3年の前期からキャリア・就職ガイダンスに参加しよう。社会で役立つ力を身に付ける講座に参加しよう。

●TDUプロジェクト科目
原則として、産学連携でプロジェクトを立ち上げ、そのプロジェクト遂行を通して問題解決能力の向上および任務遂行の責任感を養成します。

Senior 4年目

夢の実現へ
4年間の集大成

□武器となる工学の専門知識を持つ
□キャリア・ヒューマン教育で中心となり、グループワークを進める
□具体的なキャリアプランを立てる
□誰にも負けないスキルを持つ
□次世代技術についての知識を深める
□プレゼンテーションスキルを向上させる
□研究で成果をあげる（積極的に学会等での発表をしよう）
□社会人としての知識やマナーを身につける

進路が決まった。
さぁ、卒業まで最後の追い込みだ！

進路決定！ビジネスマナーやスキルを身につけ社会に出るための準備をしよう

機械・デザイン
自動車整備士／航空整備士／機械設計技術者／ガス溶接作業主任者／画像処理エンジニア検定／消防整備士／冷凍空調技士／ CAD 利用技術者／CAD トレース技能審査／ DTP エキスパート／マルチメディア検定／ CG エンジニア検定

建築・土木
建築士／土木施工管理技術士／管工事施工管理技術士／測量士（補）／設備士／インテリアコーディネーター／インテリアプランナー／福祉住環境コーディネーター検定／宅地建物取引主任者／土地家屋調査士

その他
技術士（補）／ FE ／ EIT ／ PE ／危険物取扱者／ボイラー技士／公害防止管理者／エックス線作業主任者／エネルギー管理士／ TOEIC ／ TOEFL ／工業英語検定

キャリア支援のおもなスケジュール

種類		行事名称	開催時期	対象学年			
				1年	2年	3年	4年
就職支援行事	キャリア・就職ガイダンス	準備ガイダンス（就職手帳を配布）	5月			●	
		実践ガイダンス	10月・12月			●	
	業種・職種研究	業種職種研究セミナー	10月～12月	●	●	●	
		卒業生による仕事研究セミナー	2月	○	○	●	○
		学内企業説明会（合同・個別）	3月～			●	
	各種講習会及び模試	自己分析	6月・10～12月	●	●	●	
		履歴書・エントリーシート対策	10月・11月・1月			●	
		面接試験対策	12月～2月			●	
		筆記試験対策	6月・7月・12月・1月			●	
	就職希望調査	就職登録	12月・1月			●	
各種プログラム	全学年対象	キャリア・ヒューマン教育	通年	●	●	●	●
	女子学生対象	女子学生セミナー	秋	○	○	●	
	Uターン希望者対象	Uターンガイダンス	7月・12月	○	○	●	
	外国人留学生対象	就活対策ガイダンス	7月・12月	○	○	●	○
	公務員希望者対象	公務員ガイダンス	数回	●	●	●	●
	資格支援	2級建築士講座	半期			●	●
	基礎力アップ	学内TOEIC試験	年4回	●	●	●	●
	社会参加	インターンシップ	不定期	●	●	●	●

注　◆支援行事には有料のものや事前申込が必要なものもあります。詳しい開催案内は掲示やホームページで確認してください。
◆支援行事は追加や変更となる場合があります。又、開催時期は目安としてください。
◆○印は主たる対象学年ではありませんが、希望者は参加できます。

【公務員】

公務員は、国または地方公共団体で公務を扱う国家公務員と地方公務員の大きく二つに分けられます。その中でも行政職、技術職など幅広い職務内容があり、公務員として採用されるには、公務員試験に合格しなければなりません。原則として、一次試験では「筆記試験」、二次試験では「人物試験」が行われます。

試験内容は「教養試験」と「専門試験」があり、「教養試験」では知能分野（数的処理、文章理解）と知識分野（自然科学、社会科学、人文科学）から出題されます。「専門試験」の【技術職】では、必修科目（数学・物理）と希望の分野により「選択解答制」（電気・電子・情報、機械、土木、建築、化学）となり、【行政職】では法律系、経済系、事情系から出題されます。どちらの試験も出題範囲や出題数が多く、早いうちから対策が必要です。試験日程や内容については人事院や各自治体ホームページで公開されていますので、公務員志望者は早めに情報を確認するようにしてください。

本学では公務員志望者を対象とする公務員試験対策講座等を実施しています。各自が十分な学習や対策を講じるとともに、これらの講座に積極的に参加して実力を養うことを心がけてください。

【学校教員】

公立学校の教員採用試験は、教職教養・一般教養・専門科目・面接、模擬授業、場面指導、集団討論等で構成されています。そのため、単に教科の専門的学力があるだけでは、不十分であり、広い教養や見識、誠実な人間性さらに周囲と協働して課題に取り組む実践力や主体性を持つ人物が求められます。

一方、私立学校の教員採用試験は学校により異なりますが、書類、筆記、論文、面接、模擬授業等、やはり多面的な評価の試験を経て採用となります。

平成 24 年 8 月に出された中央教育審議会の答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」に「これからの教員に求められる資質能力」が示されています。

①教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力

②専門職としての高度な知識・技能

③総合的な人間力

教職につこうとする人は早い段階から問題意識をもって様々な課題に主体的に取り組み、単に知識を詰め込むだけでなく、教師としての真の情熱と実力をも併せ持つ人材たるべく、日々研鑽を積んでください。

【理工系なのに英語って必要？】

TOEIC スコアを社員採用時に参考にしている企業は 7 割以上、技術系の社員に期待するスコアは平均で 500 ～ 700 点という調査があります。企業では理工系の大学出身にも『英語力』を期待していますので、在学中にできるだけ身につけておくことが大切です。そのためには定期的なレベルチェックが欠かせません。学内の TOEIC 試験は公開テストの半額以下で受験が可能です。定期的に試験を受けて、卒業までに 550 点を目標に学習計画を立てて取り組む必要があります。

埼玉鳩山キャンパス就職資料室

埼玉鳩山キャンパス就職資料室は本館 1 階事務室内にあり、求人票、会社資料等がファイルされています。個々の会社案内等の資料は、本学に求人の依頼があった企業のものが主体ですが、参考資料その他も取り揃えてあります。

開室時間　月～土　9：10 ～ 17：30
（休憩時間 11：30 ～ 12：30）

東京千住キャンパス就職資料室

東京電機大学東京千住キャンパスにある就職担当部署の学生支援センターを利用することも可能です。埼玉鳩山キャンパスと同じ就職関連資料の閲覧や就職について相談することが出来ます。就職活動で都内に行った際は、学生支援センターに立ち寄ってみましょう。

開室時間　月～金　8：50 ～ 20：00
土　8：50 ～ 17：00

2　大学院への進学

近年、高度な専門知識や自発的に課題を探求・設定し、検証・解決する能力に長けた大学院生の社会的需要が高まってきています。国際社会において能力を発揮できる人材を育成するため、海外の研究者と交流し、世界の最新動向を肌で感じてもらえるよう、海外の学会や国際会議にも積極的に大学院生を派遣しています。本学大学院は次代の科学技術をリードできる高度の専門技術者・研究者の養成を目指します。

なお、大学院理工学研究科には、下表に示す修士課程 5 専攻を設置しています。修士課程修了後は、先端科学技術研究科博士課程（後期）への選択肢も用意しています。

研究科名	専攻名	部門名
理工学研究科	理学専攻	数理科学部門
		物質科学部門
	生命理工学専攻	生命科学部門
		生物環境部門
	情報学専攻	情報システム部門
		情報デザイン部門
	電子・機械工学専攻	応用電子工学部門
		機械システム部門
	建築・都市環境工学専攻	建築・都市環境学部門

修士課程の入学試験は、学内推薦入試（5 月頃・9 月頃）・一般入試（6 月頃・2 月頃）3 年次以上の在学での卒業生に対する入試（9 月頃・3 月頃）等が行われます。

また、奨学金制度などによって、経済的な側面からも研究活動を支援しています。

大学院での研究などの詳細については、各学系や理工学部事務部（教務担当）が主催するガイダンスにて案内します。ガイダンス詳細は、掲示にて周知しますので確認の上参加してください。

3　科目等履修生

卒業してから、特定分野につきさらに勉強したい、教育職員免許状を取得したい、あるいは職務上の理由から単位が必要なときなどは、本学部の科目等履修生として履修することができます。

詳細は別掲の「科目等履修生規程」を参照してください。

第 12 章
学則及び諸規程

1　東京電機大学学則

第1章　総　　則

第1条（目的・使命）本大学は、学校教育法による最高の教育機関として、民主的社会人としての教養を涵養するとともに、深く専門の学芸を教授・研究し、その知的道徳的能力を展開させ、もって優秀な人材を養成することを目的とする。

2　本大学は、第3条第1項に定める学部及び学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各学部の学部規則に定める。

第2条（自己評価等）本大学においては、教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2　前項の点検及び評価は、その趣旨に則して適切な項目を設定し、かつ適切な体制のもとに行う。

3　本大学は、第1項の点検及び評価の結果について、学外者による検証を行うよう努めるものとする。

4　本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第2章　組　　織

第3条（学部・学科の組織）本大学に、次の学部及び学科を置く。

工学部
- 電気電子工学科
- 電子システム工学科
- 応用化学科
- 機械工学科
- 先端機械工学科
- 情報通信工学科

工学部第二部
- 電気電子工学科
- 機械工学科
- 情報通信工学科

理工学部
- 理工学科

未来科学部
- 建築学科
- 情報メディア学科

ロボット・メカトロニクス学科
システムデザイン工学部
情報システム工学科
デザイン工学科

2　前項の各学科の入学定員および収容定員は、別表第１とする。
3　第１項に定める各学部に学部規則を定める。
4　前項の学部規則に、次の事項を定める。
（1）学部・学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
（2）学年・学期に関する事項
（3）教育課程及び単位に関する事項
（4）成績及び卒業に関する事項
（5）その他、大学則施行上の必要事項

第４条（大学院）本大学に、大学院を置く。大学院に関する規則は別に定める。

第５条（総合メディアセンター・研究推進社会連携センター等）本大学に、総合メディアセンターを置く。
2　本大学に、研究推進社会連携センターを置く。
（1）研究推進社会連携センターに総合研究所を置く。
3　本大学に、国際センターを置く。
4　前３項のほか、実習工場、その他教育・研究に必要な施設を置く。

第３章　運営の機関及び教職員

第６条（学長・副学長・学部長等）本大学に、学長を置く。学長は、校務をつかさどり、大学を代表する。学長の選出に関する規則は、別に定める。
2　本大学に、副学長を置くことができる。副学長は学長を助け、学長の命を受けて校務をつかさどる。
3　副学長に関する規則は、別に定める。
4　各学部に、学部長を置く。学部長は当該学部に関する校務をつかさどる。
5　前４項のほか、教育・研究の運営上必要な職を置く。

第７条（職員）教育職員として、教授、准教授、講師、助教及び助手を置く。
2　事務職員、技術職員及び必要な職員を置く。

第８条（大学評議会）大学に、大学評議会（以下、「評議会」という。）を置く。
2　評議会は、学長、理事若干名、副学長、学部長、研究科委員長、その他学長が必要と認めた者をもって組織する。
3　評議会は、学長が招集する。
4　評議会の運営その他は別に定める。

第９条（学部教授会）各学部に、教授会を置く。
2　教授会は、その学部の教授をもって組織する。ただし、必要があるときは、その学部の准

教授及び専任の講師を、教授会構成員とすることができる。

3　教授会は、学部長が招集する。

第 10 条（連合・合同教授会）工学部及び工学部第二部については、その連合教授会を開くことができる。

2　学長は、全学部の合同教授会を招集することができる。

3　教授会は、学長に全学部の合同教授会の開催を要請することができる。

第 11 条（教授会の役割、審議事項）教授会は、次の事項のうち、その学部に関する事項について審議し、学長が決定するに当たり意見を述べるものとする。

（1）学生の入学・卒業に関する事項

（2）学位授与に関する事項

（3）前２号の他、大学に関する重要事項で、その学部の教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

2　前項第３号の学長が教授会に意見を聴くと定める事項は、別に定める。

3　教授会は、第１項の他、学長及び学部長がつかさどる大学等に関する次の事項のうち、その学部に関する事項について審議し、意見を述べることができる。

（1）学生の進級・休学・退学等に関する事項

（2）教育課程及び授業に関する事項

（3）履修・試験・成績等に関する事項

（4）学生の厚生補導及び賞罰に関する事項

（5）学部規則の改正に関する事項

（6）学部長候補者の推挙に関する事項

（7）学科長等及び系列主任等の選定に関する事項

（8）人事のうち教員の教育研究等の業績審査に関する事項

（9）その他大学に関する事項

4　教授会は、大学校務全般にわたる若しくは各学部に共通する次の事項について審議し、意見を述べることができる。ただし、必要があるときは、全学部の合同教授会においてこれを行う。

（1）大学則の改正に関する事項

（2）学長室長、学長補佐、教育改善推進室長、入試センター長、学生支援センター長、国際センター長、研究推進社会連携センター長及び総合メディアセンター長の選定に関する事項

（3）その他の重要な事項

5　教授会は、前４項の他、学長及び学部長が諮問した事項を審議する。

6　学長は、別に定める事項で通常の教育研究に関する教授会における審議結果を追認することにより、決定することができる。

第４章　修学期間及び授業

第 12 条（修業年限）修業年限は、４年とする。

第 13 条（最長在学年限）最長在学年限は、８年とする。ただし、編入学、転入学及び再入学した者の最長在学年限は、その者の在学すべき年数の２倍に相当する年数とする。

第 14 条（学年・学期・授業期間）学年は、４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終る。

２　学年を前学期及び後学期に分け、その期間については各学部において定める。

３　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

４　各授業科目の授業は、15 週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

第 15 条（休業日）休業日は、次の通りとする。

日 曜 日
国民の祝日に関する法律に規定する休日
創立記念日　９月 11 日
夏季休業
冬季休業
春季休業

２　夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間については、各学部においてその都度定める。

３　必要があるときは、休業日を変更し、または臨時に休業日を定めることができる。

４　休業中でも、特別の必要があるときは、授業を行うことがある。

第 16 条（授業の時）工学部、理工学部、未来科学部及びシステムデザイン工学部は昼間に、工学部第二部は夜間に、授業を行う。

第５章　教育課程及び単位

第 17 条（教育課程の編成方針）本大学においては、学部及び学科または課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

２　教育課程の編成に当たっては、当該学部及び学科に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮する。

３　本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

４　本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに１年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

第 18 条（授業科目）授業科目については、各学部規則において定める。

２　各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、各年次に配当して編成する。ただし、自由科目の単位数は、卒業に必要な単位数に算入しない。

３　共通教育科目として、特定の主題について２以上の科学の分野にわたる内容を総合した科

目を設けることができる。

第 19 条（履修の要件）履修の要件については、各学部規則において定める。

2　学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、1年間または1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、各学部において定めるものとする。

3　所定の単位を優れた成績をもって修得した学生について、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認定することについては、各学部において定めるものとする。

第 20 条（他学部等の科目履修）本大学の学生が所属する学部の他学科または他学部の学科において履修し、修得した授業科目の単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、当該学生が所属する学科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項により修得したものとみなすことのできる科目及び単位数等は、各学部において定めるものとする。

第 21 条（教員の免許状授与の所要の資格の取得）教育職員の免許状を取得しようとする者は、教職に関する科目及び必要な授業科目を修得しなければならない。

2　本大学において取得できる免許状の種類は別表第2とし、教職課程に関する科目及び必要な授業科目は各学部規則において定める。

第 22 条（単位の算定基準）各授業科目の単位数は、各学部教授会において定めるものとする。

2　授業科目の単位数の算定に当たっては、1単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、原則として、授業の方法に応じ、次のとおり単位数を計算するものとする。

（1）講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

（2）実験、実習、製図及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

3　前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位数を定めることができる。

第6章　試験、成績、進級、卒業及び学位授与

第 23 条（履修届）学生は、履修する授業科目につき、指定の期限までに、履修届を提出しなければならない。

第 24 条（試験）授業科目の履修終了の認定のため、試験を行う。ただし、授業科目によっては、平常の成績をもって試験に代えることができる。

第 25 条（試験の方法・時期）試験は、筆記、口述、または論文審査等の方法により行う。

2　試験の時期は、学期末とする。ただし、必要があるときは、その他の時期においても行うことができる。

第 26 条（受験資格）学生は、本学則及びこれに基づいて定められた規則に従って履修した授業科目についてのみ、試験を受けることができる。

第 27 条（成績評価・単位認定）授業科目の成績評価は、S、A、B、C及びDとし、S、A、

Ｂ及びＣを合格とし、Ｄを不合格とする。

2　試験に合格した授業科目については、その授業科目について定められた単位を与える。

3　本学は、第１項に係る成績評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するととともに、当該基準に従って適切に行なうものとする。

第 28 条（他の大学等における授業科目の履修等）本大学の学生が本大学に入学した後に他の大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、60 単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項の規定は、本大学の学生が、外国の大学または短期大学に留学する場合及び外国の大学または短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

第 29 条（大学以外の教育施設等における学修）本大学の学生が行う短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2　前項により与えることができる単位数は、前条第１項及び第２項により本大学において修得したものとしてみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第 30 条（入学前の既修得単位等の認定）本大学の学生が本大学に入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生によって修得した単位を含む。）のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　本大学の学生が本大学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における履修とみなし、単位を与えることができる。

3　前２項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合をのぞき、本大学において修得した単位以外のものについては、前々条第１項及び第２項並びに前条第１項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第 31 条（進級）本大学においては、学生の単位修得の状況を考慮し、上級学年次に進みその学年次に配当された授業科目を履修するための条件を定めることができる。

2　前項の条件をみたさない者は、原学年次に留年する。

第 32 条（卒業）本大学は、４年以上在学し、学生が所属する学部における履修要件を満たした者を卒業と認定する。

2　本大学が文部科学大臣の定めるところにより、本大学の学生として３年以上在学した者（これに準ずるものとして文部科学大臣が定めるものを含む。）で、卒業の要件として本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合の卒業の取扱いは、前項の規定にかかわらず、別に定める。

第 33 条（学位の授与）本大学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

2　前項の学士の学位に付記する名称は、次のとおりとする。

工学部	電気電子工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	電子システム工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	応用化学科	学士（工学）（東京電機大学）
	機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	先端機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報通信工学科	学士（工学）（東京電機大学）
工学部第二部	電気電子工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報通信工学科	学士（工学）（東京電機大学）
理工学部	理工学科	学士（理学）（東京電機大学）
		学士（工学）（東京電機大学）
		学士（情報学）（東京電機大学）
未来科学部	建築学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報メディア学科	学士（工学）（東京電機大学）
	ロボット・メカトロニクス学科	学士（工学）（東京電機大学）
システムデザイン工学部		
	情報システム工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	デザイン工学科	学士（工学）（東京電機大学）

第７章　入学、学籍の異動及び賞罰

第 34 条（入学の時期）入学の時期は、学年もしくは学期の始めとする。

第 35 条（入学資格）本大学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

（1）高等学校を卒業した者もしくは通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者

（2）外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者

（3）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

（4）専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

（5）文部科学大臣の指定した者

（6）高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

（7）本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳に達した者

（8）その他、学校教育法及び同施行規則の規定により入学資格を有する者

第 36 条（入学志願手続）入学志願者は、指定の期間内に、入学志願手続をとらなければな

らない。

第 37 条（入学者の選考）本大学に入学するには、入学者の選考に合格しなければならない。

2　入学者の選考は、学力検査、調査書の審査、面接、健康診断等の方法により行う。

第 38 条（入学手続）入学者の選考に合格した者は、指定の期日までに、保証人連署の誓約書その他必要な書類に、別表第３に定める学費を添えて、入学の手続をしなければならない。

2　学長は、前項の入学手続を完了した者に、入学を許可する。

第 39 条（保証人）学生は、在学中、保証人がなければならない。

2　保証人は、父、母、またはその他の成年者で、独立の生計を営む者でなければならない。

3　保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

第 40 条（変更の届）学生は、氏名、本籍、住所及び保証人もしくはその住所に変更があったときは、すみやかに届出なければならない。

第 41 条（編入学・転入学）次の各号のいずれかに該当する者が、所定の手続を経て、編入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

（1）大学を卒業した者

（2）短期大学を卒業した者

（3）高等専門学校を卒業した者

（4）他の大学で１年以上を修了した者

（5）その他、学校教育法及び同施行規則の規定により編入学資格を有する者

2　他の大学の学生が、所定の手続を経て、転入学を願い出たときは、定員に余裕のある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

3　前２項により編入学または転入学した者の在学年数には、本条による入学以前の学校在学年数の全部または一部を算入する。

4　本大学の学生が他の大学に転入学を志望するときは、事情により許可することがある。

第 42 条（転学部・転学科）本大学の学生が転学部または転学科を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

2　転学部または転学科した者の在学年数には、前に在籍した学部または学科の在学年数の全部または一部を算入する。

第 43 条（休学）傷病またはやむを得ない理由により、ひき続き３ヶ月以上出席することができない者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、休学を願い出て、学部長の許可を受けて休学することができる。

第 44 条（休学期間）休学期間は、休学の許可を受けた年度かぎりとする。ただし、特別の事情があると認めたときは、願い出により、休学期間の延長を許可することがある。

2　休学期間は、通算して３年をこえることができない。

3　休学期間は在学年数に算入しない。

4　工学部、理工学部、未来科学部及びシステムデザイン工学部においては、休学者は学期ごとに 60,000 円の在籍料を納入する。工学部第二部においては、休学者は学期ごとに 30,000 円の在籍料を納入する。

第 45 条（復学）　休学した者は、休学の理由が消滅したときは、保証人と連署のうえ、復学を願い出て、学部長の許可を受けて、復学することができる。

2　復学の時期は、原則として、学期の始めとする。

第 46 条（退学）傷病その他の理由により退学をしようとする者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、願い出て許可を受けなければならない。

第 47 条（除籍）次の各号のいずれかに該当する者は除籍する。

（1）最長在学年数をこえた者

（2）工学部、工学部第二部、未来科学部及びシステムデザイン工学部においては、同一学年に通算して４年の在学をこえてなお進級できない者。また、理工学部においては、同一学年に通算して４年の在学をこえてなお進級・卒業できない者

（3）学業成績が特に不良で、改善の見込みがない者

（4）第 44 条第２項に定める通算休学期間をこえてなお復学しない者

（5）正当な理由がなく、無届で、ひき続き３ヶ月以上欠席した者

（6）工学部、理工学部、工学部第二部、未来科学部及びシステムデザイン工学部において、前期分学費を７月末日までに、後期分学費を１月末日までに納入しない者

第 48 条（再入学）本大学を退学した者または除籍された者が、再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。ただし、懲戒による退学者の再入学は、許可しない。

第 49 条（留学）本大学の学生が、外国の大学等の授業科目を履修するため、当該大学等への留学を希望し、かつ本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することができる。

2　留学期間は１年を原則とする。ただし、本学が認めた大学等への短期留学については、１年未満であっても特別に留学を認めることができる。

3　前項により認められた留学期間については、１年を限度として第 12 条に定める修業年数に算入することができる。

4　留学期間中における学費は、事情により減額もしくは免除することができる。

第 50 条（表彰）学生として表彰に価する行為があった者は、学長が表彰することができる。

第 51 条（懲戒）本大学の規則・規程に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2　懲戒の種類は、その情状により、退学、停学及び訓告とする。

3　前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行なう。

（1）性行不良で改善の見込みがない者

（2）本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分にいちじるしく反した者

第８章　学費及びその他の費用

第 52 条（学費及びその他の費用）入学検定料、学費及び科目等履修費は、別表第３とする。

2　学費とは、入学金、授業料、実験実習料、教育充実費をいう。

3　学費及びその他の費用は、所定の期日までに納入しなければならない。

4　すでに納入した学費及びその他の費用は返還しない。ただし、入学手続きのために納入した学費その他の費用については、学費取扱規程の定めによる。

5　入学金を除く学費は分納することができる。

第９章　研究生、研究員、科目等履修生及び外国人留学生

第 53 条（研究生・研究員）本大学において特定の教員の指導のもとに研究することを志願する者は、選考のうえ、研究生として受入れることができる。

2　本大学において特定の専門事項について特定の教員と協力して研究を行うことを志望する者は、選考のうえ、研究員として受入れることができる。

第 54 条（科目等履修生）本大学の学生以外の者で、本大学で開設している１または複数の授業科目の履修を希望する者は、本大学の教育研究に支障のない範囲内で、選考のうえ、科目等履修生として科目等の履修を許可することができる。

2　科目等履修生については、別に定める。

第 55 条（外国人留学生）外国人で第 35 条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、外国人特別学生として入学を許可することができる。

2　外国人で本学における特定の授業科目を聴講することを志願する者は、選考のうえ、外国人特別聴講生として入学を許可することができる。

3　外国人で本学における特定の教員について研修を志願する者は、選考のうえ、外国人特別研究生として受入れを許可することができる。

第 56 条（社会人特別学生）社会人で第 35 条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、社会人特別学生として入学を許可することができる。

2　社会人特別学生は、企業依託学生及び工学部第二部社会人課程学生とする。

3　社会人特別学生についての事項は、別に定める。

第 57 条（準用）前３条の規定に抵触しないかぎり、本学則の他の規定は、科目等履修生、外国人留学生及び社会人特別学生に準用する。

第 10 章　改正及び雑則

第 58 条（改正）本学則の改正は、第 11 条第４項に定める教授会の意見を聴取し、評議会の議を経なければならない。

第 59 条（施行細則その他）本学則施行についての細則その他必要な事項は別に定める。

付　　則（省略）

別表第１～３（省略）

2　東京電機大学理工学部規則

第1章　総　　則

第1条（趣旨）この規則は、東京電機大学学則（以下「大学則」という。）第3条第3項に基づき、理工学部（以下「本学部」という。）の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学年及び学期、教育課程及び単位、成績及び卒業その他大学則施行上必要な事項を定める。

第2条（人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的）本学部における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は次のとおりとする。

（1）人材の養成に関する目的

高度に発展を続ける将来の科学技術分野では、科学技術者自身が社会的ニーズを的確に捉え自立した発想のもとに企画・開発していくことが望まれる。そのような科学技術者を「未来型科学技術者」として、その養成を目的とする。また、未来型科学技術者は同時に社会に立脚し、リーダーとしての魅力が望まれる。人間性および教養の豊かな研究者・技術者および学校教員の育成をも目的とする。

（2）教育研究上の目的

基礎分野としての理学と応用分野としての工学・情報学を基盤として学系およびコースを構成し、それらよりなる複合分野の教育研究を推進することを目的とする。

2　本学部の理工学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、前項と同様とし、理工学科の各学系においては、次のとおりとする。

（1）理学系

①　人材の養成に関する目的

理学系では、数理学及び自然科学における基本理論及び基本法則を身につけた、問題を本質的に捉えて解決できる応用力の高い理学分野の専門家を養成します。また、理学分野としての学校教員の育成をも目的とする。

②　教育研究上の目的

理学系では、数学及び自然科学を共通の基礎とし、演習や実験を行いながら理学の専門分野として、数学、物理学、化学及び数理情報学の四つの専門分野の教育を行います。また、自然の仕組みを解析し、理論的モデルを用いて表現、体系化することによって発展してきた近代の自然科学の諸分野を研究する。

（2）生命科学系

①　人材の養成に関する目的

生命科学系では、生物が持つ高度な機能の本質を解明し理解すると同時に、それら機能の制御や活用を目指した教育と研究を通して、生命科学に関連する様々な課題に取り組む能力を備えた人材を養成する。

②　教育研究上の目的

生命科学系では、専門知識や技術を体系的に習得するとともに、学際領域を視野に入れた応用力や正しい倫理観を養うことにより、今後直面する生命科学分野の諸問題の解決に貢献できる人材の育成を目的とした教育研究を行う。

（3）情報システムデザイン学系

① 人材の養成に関する目的

情報システムデザイン学系では、複雑化・高度化する社会環境において、高度な情報システム技術を駆使できると同時に、幅広い視野から自律的に分析・判断・企画・行動できる実践力とコミュニケーション能力を備えた次世代型スペシャリストを養成する。

② 教育研究上の目的

情報システムデザイン学系では、情報、ネットワーク、コンピュータに関わる知識・技術を基盤として人間、社会システムから、文化、芸術、アミューズメントにいたるまで文理複合的視点から幅広い分野の教育研究を行う。

（4）機械工学系

① 人材の養成に関する目的

機械工学系では、機械工学の基礎となる（四つの）力学を身につけることに重点を置き、さらに、新しいものづくり技術に興味を抱き、環境にも配慮できる教養を備え、基幹産業を支える気概のある技術者の育成を目指す。

② 教育研究上の目的

我が国の産業の発展は、自動車、鉄道、航空機、造船など機械工学の発展とともにあったと言っても過言ではありません。産業分野の拡大と多様化に伴って、教育、研究分野も変化を遂げつつありますが、機械工学が直面する難題に粘り強く取り組むことのできる技術者の育成を目指す。

（5）電子工学系

① 人材の養成に関する目的

電子工学系では、技術者として豊かな人間性と電気電子工学の知識と技術を有し、電子機器、医療機器、福祉機器、材料・デバイスなどの電子システムものづくりを通して、未来の人間社会に貢献できる技術者を養成する。

② 教育研究上の目的

電子工学系では、電気電子工学を基礎として、社会のニーズに応じた新しいものづくりや、起こりうる社会問題に対して、人間や環境に配慮した解決方法を見いだす能力を、教育研究を通じて養う。

（6）建築・都市環境学系

① 人材の養成に関する目的

建築・都市環境学系では、人間と自然が調和する環境を多角的に考察し、社会基盤の創造と保全に寄与でき、持続可能な社会の構築に貢献できる技術者の養成を目的とする。

② 教育研究上の目的

建築・都市環境学系では、育研究を通じて社会が直面する諸問題を多面的に考察・評価し、解決方法を論理的に導きだす能力を培う。

第２章　学年及び学期

第３条（学年・学期）学年は、４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終る。

２　学年を次の２つの学期に分ける。

前学期　４月１日から９月 14 日まで

後学期　９月 15 日から翌年３月 31 日まで

第３章　教育課程及び単位

第４条（授業科目）授業科目の区分は、共通教育科目、専門教育科目及び教職課程に関する科目とし、別表第１のとおり開講する。

第５条（履修の要件）本学部における履修の要件については、別表第２のとおりとする。

第６条 (履修単位の制限) 本学部では、１年間に履修できる単位数を 48 単位までとする。ただし、自由科目及び学部で指定した科目は、履修できる単位数の上限に含まない。

２　所定の単位を優れた成績をもって修得した者については、前項に定める上限を超えて、科目を履修することができる。履修方法は別に定める。

第７条（教員の免許状授与の所要の資格の取得）本学部において取得できる免許状の種類は大学則別表第２とし、教職課程に関する科目及び必要な授業科目は別表第３とする。

第４章　成績及び卒業

第８条（成績評価・単位認定）本学部は大学則第 27 条に基づき、科目の成績評価を行う。

２　本学部における、成績評価及び GPA（Grade Point Average）ポイントは、次の評点区分に基づき行う。

評点	成績評価	GPA ポイント
90 ～ 100	S	4
80 ～ 89	A	3
70 ～ 79	B	2
60 ～ 69	C	1
0 ～ 59	D	0
放棄	−	0

第９条（卒業）本学部は、４年以上在学し、第５条別表第２に規定する履修の要件に従い、合計 124 単位以上を修得した者を卒業と認定する。

２　本学部は、大学則第 32 条第２項に定める卒業の基準を別に定める。

第 10 条（退学勧告等）学系長は、本学部が定める基準を満たさない者で、学修意欲が継続して欠如していると判断した場合、口頭にて教育的指導を行うとともに、退学予備勧告を行

うことができる。
2　学部長は、退学予備勧告を受けた者が、本学部が定める基準をさらに満たさず、学修意欲が認められないと判断した場合、教授会の議を経て、退学を勧告することができる。
3　前各項の基準は、別に定める。

第5章　改正

第 11 条（改正） この規則の改正は、本学部教授会の議を経なければならない。

付　　則（省略）
別表第 1 ～ 3（省略）

3　東京電機大学学位規程

第1章　総　　則

第1条（目的）本学学位規程は、本学において授与する学位の種類、論文審査及び試験の方法その他学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条（学位の種類等）　本学において授与する学位は、博士、修士及び学士であり、それに付記する専攻分野は次のとおりとする。

博士（工学）	博士（理学）
博士（情報学）	
修士（工学）	修士（理学）
修士（情報環境学）	修士（情報学）
学士（工学）	学士（理学）
学士（情報環境学）	学士（情報学）

第3条（学位の授与の要件）博士の学位は本学大学院学則の定めるところにより、博士課程（後期）を修了した者に授与する。

2　前項に規定する者のほか、本学大学院学則第23条第2項により博士の学位は、本学に学位論文を提出してその審査及び学力の確認に合格し、かつ、人物学力とも本学大学院の博士課程（後期）に所定期間在学し所定の専攻科目について所定単位以上を修得した者と同等以上と認められた者に授与することができる。

3　修士の学位は本学大学院学則の定めるところにより、修士課程を修了した者に授与する。

4　学士の学位は本学大学学則の定めるところにより、本大学を卒業した者に授与する。

第2章　学位の授与

第4条（学位の授与）前条における大学院の修士課程及び博士後期課程の修了者については、本学大学院学則第23条第1項の定めるところにより、また本大学の卒業者については、本学大学学則第32条第1項の定めるところにより、それぞれ学位を授与する。

第5条（論文提出による学位の授与）第3条第2項により、博士の学位論文を提出した者については本学博士課程（後期）によらない学位請求の審査規程の定めるところにより審査の上、学位を授与することができる。

第6条（課程の修了及び論文の審査の議決）研究科委員会は、第3条第1項及び第3項による者については本学大学院学則の定めるところにより、それぞれ課程の修了の可否を議決する。

2　前項の研究科委員会は、会員総数（長期海外出張者及び休職者を除く）の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

3　第1項の議決は出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

4　第3条第2項によるものについては本学博士課程（後期）によらない学位請求の審査規

程の定めるところに従って決する。

第７条（学長への報告）研究科委員会が前条の議決をしたときは、当該研究科委員会の委員長は、すみやかに文書により、学長に報告しなければならない。

２　学部教授会が卒業を認定したときは、当該学部長は、すみやかに文書により、学長に報告しなければならない。

第８条（学位記の交付）学長は、前条の報告に基づいてそれぞれ学位記を授与するものとする。

第３章　論文の公表、学位の名称の使用

第９条（論文要旨等の公表）本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から３月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

第10条（学位論文の公表）博士の学位の授与を受けた者は、当該博士の学位の授与を受けた日から１年以内にその論文全文を公表するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに公表したときはこの限りでない。

２　前項にかかわらず、博士の学位の授与を受けた者は、やむをえない事由がある場合には、研究科委員会の承認を受け、その論文全文に代えて要約したものを公表することができる。この場合、研究科はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

３　博士の学位を授与された者が行う前２項の規定による公表は、本学総合メディアセンターの協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

第11条（学位の名称の使用）学位の授与を受けた者は、学位の名称を用いるときは、当該学位を授与した本学名を、博士（工学）（東京電機大学）、博士（理学）（東京電機大学）、博士（情報学）（東京電機大学）、修士（工学）（東京電機大学）、修士（理学）（東京電機大学）、修士（情報環境学）（東京電機大学）、修士（情報学）（東京電機大学）、学士（工学）（東京電機大学）、学士（理学）（東京電機大学）、学士（情報環境学）（東京電機大学）、学士（情報学）（東京電機大学）のように付記するものとする。

２　学位記の様式は、別表第１から別表第４のとおりとする。

３　外国人留学生に対し、本人からの申請に基づき、別表第１から別表第４の学位記に代えて、別表第５の様式で英語版学位記を交付する。

第４章　学位授与の取消、学位記の再交付、学位授与の報告

第12条（学位授与の取消）学位を授与された者がその名誉を汚辱する行為があったとき又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、当該研究科委員会又は当該学部教授会の議を経て学位の授与を取消すことができる。

第13条（学位記の再交付）学位記（英語版も含む）の再交付は行わない。

第14条（学位授与等の報告）本学において博士の学位を授与したときは、学長は当該博士の

学位を授与した日から３月以内に所定の様式により、文部科学大臣に報告するものとする。

２　本規程一部改正等を行ったとき、文部科学大臣に報告するものとする。

付　　則（省略）

4　試験に関する細則

第１条（目的）本細則は、大学及び大学院の学則に定める試験について、その細部のことを定める。

第２条（試験の種類）試験は学期末試験、中間試験、追試験とする。

２　学期末試験は授業科目を履修する全学生を対象として、各学期末又は学年末に履修終了の認定のために行う試験をいう。

３　中間試験は授業科目を履修する全学生を対象として、学期の中間に随時行う試験をいう。

４　追試験は急病等真にやむを得ない事情により、学期末試験又は中間試験を受けることのできなかった学生を対象として、当該授業科目を担当する教員が必要と認めたときに随時行う試験をいう。

５　第１項に定めるほか再試験を加えることができる。

第３条（再試験）再試験は前条第２項に定める試験の成績不良のため履修終了が認定されない学生を対象として、当該科目を担当した教員が特に必要と認めたとき行う試験をいい、その成績をもって履修終了の認定にあてることができる。

第４条（受験資格）学期末試験又は中間試験を受験するには、定められた期間に当該科目に対し履修登録を行い、かつ、その授業に常時出席していなければならない。

２　第２条第１項に定める試験を受験するには、前項のほか、その期までの学費を納入していなければならない。

３　追試験は学期末試験の受験資格をみたし、かつ、学部事務部が指定する期間内に所定の手続きをした学生につき考慮するものとする。なお、中間試験における追試験については科目担当者の指示によるものとする。

第５条（追・再試験の手続き）追試験の受験を希望する者は、学部事務部の指定する期間内に所定の受験料を添えて追試験願を学部事務部に提出し、受験票の交付を原則受けなければならない。

２　特に指定して行われる再試験においては、前項に定める手続きをしなければならない。

第６条（学生証、受験票の提示）学期末試験の受験者は定刻までに試験室に入り、つねに学生証を机の上に置かなければならない。

２　追試験又は再試験の受験者は、前項によるほか、受験票を机の上に置かなければならない。

第７条（遅刻及び退室）受験者の遅刻は、試験開始後 30 分以内は認める。ただし、試験時間は延長しない。

２　受験者の退出は、試験開始後 40 分を経過してから許可する。

３　前２項については、当該学部教授会または研究科委員会の議を経て、取扱いを変更することができる。

第８条（試験監督者）試験監督者は、当該試験実施について一切の権限を有する。

２　試験監督者は、前項の権限に基づいて処置した事項について、試験終了後直ちに学部長（又はその代行者）に報告しなければならない。

３　試験監督者については、前２項に定めるもののほか、試験監督規程として別に定める。

第９条（不正行為）試験監督者は、試験中に不正行為を行った学生があるときには、その答案を取上げた上退室を命ずるものとする。

２　試験監督者は、試験中に受験態度不良若しくは試験監督者の注意に違反した学生があるときは、その答案を取上げた上退室を命ずることができる。

３　前２項の場合には、試験監督者はその試験終了後、直ちに学部長（又はその代行者）に事情を報告するものとする。

第 10 条（不正行為に対する処置）前条の場合には、学部長は教授会の議を経て、当該学生に対し次の各号のうち、いずれかの処置を行い、これを公示し、かつ、その学生の保証人に通知するものとする。

（１）当該試験の属する学期末試験の一部又は全部を無効とする。

（２）当該試験を無効とする。

付　　則（省略）

5　学生生活についての規程

第１条（目的）この規程は、本学学生が平和で秩序ある学生生活を営み、教育・研究の環境を適正に保つことを目的とする。

第２条（学生に対する通知・連絡）学生に対する通知・連絡は掲示又は電子媒体により行う。掲示又は電子媒体にて１週間掲載された通知・連絡事項は、関係ある学生全員に通知・連絡されたものとして扱う。ただし、緊急の場合は学内放送又は直接連絡により行うことがある。

第３条（学生証）学生証は入学の際交付を受け、その後は毎年４月に前年度の学生証を更新すること。また、学生は常時学生証を携帯し、本学教職員の請求があったときはいつでもこれを呈示すること。

２　学生証は卒業・退学・除籍の場合は直ちに返納の手続きを受けること。

３　学生証を紛失したときは直ちに諸手続きを経て再交付を受けること。

４　学生証は他人に貸与又は譲渡してはならない。

第４条（保証人）学生は、入学手続き時に父母又はこれに代わる者を保証人として届け出るものとする。保証人は原則、日本在住の者とする。

保証人を変更したとき又はその住所に異動があったときは、速やかに各事務部長あてに届け出ること。

第５条（現住所及び連絡先）学生は、その現住所及び連絡先（通常連絡がとれる電話番号等）を明らかにし、現住所及び連絡先に変更があったときは、直ちに変更届を各事務部長あてに提出すること。

第６条（学生による掲示）学内における学生による掲示は、掲示者の責任において行うものとする。ただし、掲示の内容は、事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

２　学内における学生の掲示場所は所定の学生掲示板とする。

３　掲示場所の円滑適正な運用は、学生自治会が行うものとする。

４　新入生オリエンテーション、学園祭等特別な行事の際は、所定の学生掲示板以外に特に各事務部長あてに提出された学生自治会の特別掲示許可の要望に基づき、期間を定めて掲示を許可することがある。

５　期間を経過した掲示物は速やかに撤去しなければならない。

第７条（学生による印刷物の発行・配布）学生による印刷物は、その学生の責任において発行・配布するものとする。ただし、印刷物の内容は事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

第８条（学生の学内集会）学生が学内で集会しようとするときは、次の事項を記載した集会願を各事務部長あてに提出すること。

ア　団体名

イ　団体の責任者の氏名

ウ　集会の目的

エ　集会の場所

オ　集会の日時
カ　参加者の人数
キ　学外者参加団体名及び人数
ク　その他

提出期限は原則として、開催日の１週間前とする。

２　集会において、本学の教育研究及び業務に支障をおよぼしたり、本学の近隣に対し迷惑をおよぼしたりするような行為をしてはならない。そのような行為があるときは、集会を中止させることがある。

３　集会は、東京千住キャンパスにおいては 22 時 20 分、埼玉鳩山キャンパス並びに千葉ニュータウンキャンパスにおいては 21 時までとする。

ただし、各事務部長が認めた場合は、それ以外の時間を別に定める。

４　学内の宿泊は禁止する。ただし、特別の事情がある場合は、事前に次の事項を記載した宿泊願を各事務部長あてに提出し、本学の許可を受けなければならない。

又、学生の宿泊に関する必要な事項は別に定める。

ア　団体名及び宿泊責任者の氏名
イ　宿泊場所
ウ　宿泊の目的
エ　宿泊人数
オ　宿泊する学生の氏名及び連絡先
カ　宿泊する学生の保証人の連絡先

５　本条で認められている事項は、第 10 条で定める手続きを行っている団体に適用される。なお、研究室における活動等教育研究に係る活動については別に定める。

第９条（学生の学外における正課外活動）学生の団体が学外において正課外活動を行おうとするときは、開始日の１週間前までに、所定の学外活動願を各事務部長あてに提出すること。

第 10 条（団体の結成）学生が新しく団体を設立しようとするときは、所定の用紙に会則等必要事項を記入し、責任者の署名捺印のうえ各事務部長あてに願い出ること。

２　団体の会則又はその他の事項を変更したときは、速やかに各事務部長あてに届け出ること。

３　学生の団体の継続については、毎年５月末日現在における所属学生の名簿を、各事務部長あてに届け出ること。

届け出のない団体については、各事務部長が解散したものとみなす。

付　　則（省略）

6　学生アドバイザーに関する規程

第１条（目的）この規程は、東京電機大学（以下「本学」という）の学生（学部）が有意義な大学生活を送るため、本学教員が、学生の在学期間中において、修学、就職指導、課外活動その他学生生活全般に関して、指導又は助言等を行う学生アドバイザーについて必要な事項を定める。

第２条（責務）学生アドバイザーは、学生に対し、次に関する事項について指導又は助言等を行う。

（１）修学に関する事項
（２）キャリア教育、進路、就職に関する事項
（３）学生生活に関する事項
（４）奨学金に関する事項
（５）学生の諸手続きに関する事項
（６）その他学生生活全般に関する事項

２　学生アドバイザーは、第１項に定める指導または助言等を円滑に行うため、週１時間のオフィスアワーを設け、自ら選定した場所に在室するものとする。

３　前項のオフィスアワー及び在室場所については、予め当該学部の学生に周知するものとする。

第３条（委嘱）学部長は、原則として、任期付教員及び特別専任教授を除く専任教員のうち、学科、学系から推薦された教員を学生アドバイザーとして委嘱する。

２　学部長は、委嘱した学生アドバイザーを当該学部教授会に報告する。

第４条（任期）学生アドバイザーの任期は、各学部において決定する。

第５条（授業責任時間に係る措置）学生アドバイザーに委嘱された教員の授業責任時間に「常勤大学教員の授業手当算出要領」に定める時間を加算する。

第６条（報告）学生アドバイザーは、担当する学生と面談した結果、相談された事案に対処できないと判断した場合、学生が所属する学科長又は学系長にその内容を報告するものとする。

２　第１項の報告を受けた学科長又は学系長は適切な対応を図るとともに、必要に応じて当該学部長並びに東京千住キャンパス事務部長に報告するものとする。

３　学部長並びに東京千住キャンパス事務部長は、第２項において報告を受けた事項について、必要な措置を講ずるものとする。

４　本条に関係する者は、知り得た情報をみだりに他に漏らしてはならない。

第７条（その他）この規程に定めるもののほか、学生アドバイザーに関し必要な事項は、各学部、東京千住キャンパス事務部（学生厚生担当）および関係部署と協議のうえ決定する。

第８条（規程の改廃）この規程の改廃は、学生生活支援委員会及び大学評議会の議を経て、各学部教授会の承認を経なければならない。

付　　則（省略）

7　部室使用に関する内規

第１条（目的）この内規は、東京電機大学がその教育方針に基づき、課外活動の健全な育成、発展をはかるために学生団体に貸与する専用部室の使用に関し、必要な事項を定める。

第２条（使用者）部室を使用できる者は、学生生活についての規程が定める学生団体及びそれに所属する学生とする。また、部外者が、みだりに立ち入ることを禁止する。

第３条（施設等管理者及び指導）部室の施設等管理者は、東京千住キャンパス事務部長、管財部長、総合メディアセンター長、部顧問とし、部室の管理運営上の指導を行う。

２　前項に加え、埼玉鳩山キャンパスの部室においては理工学部事務部長、千葉ニュータウンキャンパスの部室においては情報環境学部事務部長も施設管理者となる。

３　施設・設備の管理上及び防災上等で必要な場合に、施設等管理者及び施設等管理者の命を受けた者が部室に立ち入ることがある。

第４条（遵守事項）部室を使用する者は、次の事項を遵守し、施設等管理者の指示に従わなければならない。

（１）本来の目的のみに使用し、通常の課外活動に必要としない物品は持込まないこと。
（２）施設設備の改装等を行わないこと。
（３）整理整頓に心掛け、特に火災・盗難の予防ならびに衛生に留意すること。
（４）建物内では、下駄、スパイク等を使用しないこと。
（５）活動上不必要な掲示を行わないこと。
（６）部室内で飲酒・喫煙を行わないこと。
（７）暖房・電灯・水道及び電話等の使用について節約に努めること。
（８）使用時間内といえども、教育研究に支障をきたすような活動を行わないこと。
（９）使用が終わったときは、火気・戸締り等を点検の上、異常のないことを確認すること。
（10）その他学生としての良識に従って使用すること。

第５条（使用期間）部室を使用できる期間は１年間とし、学生生活についての規定が定める学生団体の継続手続をもって更新手続とする。新規使用については、部室の空室状況に応じて検討する。

第６条（使用時間）部室を使用できる時間は、東京千住キャンパスの部室においては東京千住キャンパス事務部、埼玉鳩山キャンパスの部室においては理工学部事務部、千葉ニュータウンキャンパスの部室においては情報環境学部事務部において別に定める。

第７条（使用責任）部室を使用する者は、この内規の定めるところに従って日常これを使用し、一切の使用上の責任を負うものとする。

第８条（破損の修理）施設、備品等を破損、汚損等した場合は、次に掲げる施設等管理者に速やかに届け出なければならない。

（１）東京千住キャンパスの施設、備品等　　東京千住キャンパス事務部長
（２）埼玉鳩山キャンパスの施設、備品等　　理工学部事務部長
（３）千葉ニュータウンキャンパスの施設、備品等　情報環境学部事務部長

２　正規の使用中で正当な行為による場合の他は、その学生団体又は個人がこれを修復又は弁

償する。

第９条（使用の禁止等）部室を使用する者が、この内規に違反し、または施設等管理者の指示に従わないときは、部室の使用を禁止することができる。

第 10 条（内規の改廃）本内規の改廃は、学生生活支援委員会の議を経て、東京千住キャンパス事務部長が決定する。

付　　則（省略）

8　理工学部学生の車両通学に関する取扱細則

第１条（目的）この取扱細則は、理工学部学生の車両通学及び埼玉鳩山キャンパスにおいて学生が運転する車両の駐車に関し必要な事項を定める。

第２条（車両の定義）この取扱細則でいう車両とは、道路交通法に基づく運転免許を要する車両をいう。

第３条（車両通学の許可願）車両を運転して通学を願い出る者（以下「車両通学者」という。）は、別紙により必要事項記入の上理工学部長あてに申請しなければならない。

第４条（許可）理工学部長は申請があった者の内で、次の条件を具備若しくは合致している場合は駐車許可証（以下「許可証」という。）を発行する。許可証の発行を受けていない者の車両による通学は認めない。

（１）公共の交通機関を利用して通学することが客観的判断に照らして著しく困難な者

（２）原則として運転免許証取得後６カ月以上を経過していること。

（３）自動車損害賠償責任保険及び次の自動車任意保険の適用を受けられる者

	対人賠償	対物賠償	搭乗者賠償
四輪	7,000万円以上	100万円以上	500万円以上
自動二輪	5,000万円以上	100万円以上	200万円以上

（４）道路運送車両法による１年毎の定期点検整備を受けていること。

第５条（許可証の有効期間）許可証の有効期間は当該年度内とする。

第６条（順守事項）車両通学者は、道路交通法等の関係法令及び学内諸規程を順守し、安全運転の励行に努めなければならない。

第７条（許可の取消及び違反者の処置）車両通学者が道路交通法等の関係法令及び学内諸規程に違反した場合並びに第４条の条件を具備若しくは合致しない場合は、理工学部長は車両通学許可を取消すことができる。

２　前項における違反者に対しては、次のとおり段階的に処置することとする。

①　本人に対する警告

②　前号の処置にもかかわらず、違反を重ねた者は、学部長より厳重に訓戒する。

③　第２号の処置にもかかわらず、違反を重ねた者は、車両通学許可を取消すこととする。

３　前項第３号により車両通学許可を取消された者が車両で通学した場合、学則第 51 条に則り、停学または退学処分とすることができる。

第８条（事故処理）車両通学者が運転中に起こした事故について大学は一切責任を負わない。

２　埼玉鳩山キャンパスに車両を駐車している間に生じた破損、盗難等の事故について大学はその補償を行わない。

３　前各項の事故が発生したときは、当事者はその内容を理工学部事務部（学生厚生担当）に連絡しなければならない。

第９条（安全運転講習会）大学は車両通学者を対象にした安全運転講習会を必要に応じて実

施することとする。

2　車両通学者は前項の講習会に出席しなければならない。理由なく欠席した者には駐車許可を取消すことがある。

第 10 条（その他の事項）駐車中は許可証を車内の見えやすいところにおかなければならない。

2　許可証は他人に貸与してはならない。

3　許可証を紛失したときは理工学部事務部（学生厚生担当）に直ちに届け出なければならない。

4　指定の駐車場以外には駐車をしてはならない。

付　　則（省略）

9　特別奨学生規程

第１条（目的）この規程は、学校法人東京電機大学が設置する学校の学生及び生徒であって、人物優秀にして学業成績良好であり、かつ、学費の支弁が困難な者に対して奨学金を給付することを目的とする。

第２条（基金）この奨学金の基金は、次の各号の基金をもって構成する。

（１）桜井虎三郎氏の遺志により桜井家から本法人に寄贈された基金

（２）その他の基金

第３条（奨学金）奨学金は、前条の基金から生ずる果実をもって充当する。

２　奨学金の各校への配分は、当該年度の予算に計上して行う。

第４条（給付額）奨学金の給付額は、各学校の学則に定める当該年度の学費の一部若しくは全額とする。

２　給付金は、学費に充当しなければならない。

第５条（奨学生の選考、決定、採用等）奨学生は、各学校ごとに設置された奨学生選考委員会の選考を経て、学校の長がこれを決定し、採用する。

２　前項により奨学生を採用したときは、学校の長は遅滞なく理事長あて（総務部長経由）に文書をもって報告しなければならない。

第６条（奨学生の資格の喪失）奨学生が次の各号のいずれかに該当し、奨学生として不適当と認められるにいたったときは、その資格を失うものとする。

（１）学則に違反して退学（除籍)、停学又はけん責等の処分を受けたとき。

（２）成績不良若しくは素行不良のとき。

（３）学校への提出書類等に虚偽の記載などを行ったとき。

２　奨学生が前項の事由によりその資格を失ったときは、既に給付した奨学金を返済させることができる。

第７条（事務）奨学生に係る事務は各学校の奨学金担当部署が行う。

２　前項の他に、本規程実施についての必要な事務は総務部（総務担当）において行う。

第８条（実施）この規程の実施についての必要事項は別に定める。

付　　則（省略）

10　東京電機大学大学院進学特別奨学金規程

第１条（目的）この規程は、東京電機大学の学生であって、本学大学院修士課程へ進学する成績優秀な者に対して、経済的支援のために奨学金を給付することを目的とする。

２　本奨学金の名称は、「大学院進学特別奨学金（以下「奨学金」という。）」といい、本奨学金を給付された者を「奨学生」という。

第２条（奨学金）奨学金の原資は、学校法人東京電機大学学術振興基金（第３号基本金）の奨学援助金をもって充当する。

２　奨学金の給付総額は、当該年度の予算の範囲内とする。

第３条（給付金）奨学金は、大学院修士課程入学初年次のみにおいて給付する。

２　奨学金は、本学大学院修士課程の授業料に充当しなければならない。

第４条（給付額）奨学金の給付額は、東京電機大学大学院学則に定める大学院入学初年次の授業料相当額（教育充実費を除く）とする。

第５条（奨学生の選考、決定等）奨学生の選考は以下のとおりとする。

（１）奨学金の給付を希望する者は、所定の願書を在学する学科長・学系長に提出する。

（２）奨学生の選考については、各学科・学系において選考を行い、入学先の研究科委員長に推薦する。

（３）研究科委員長は、当該研究科委員会の選考を経て奨学生候補者を学長に推薦する。

（４）学長は、大学調整連絡会議の議を経て奨学生を決定する。

（５）学長は、決定した奨学生を理事長へ報告する。

第６条（奨学生の資格の喪失）奨学生が次の各号のいずれかに該当し、学長が奨学生として不適当と認めたときは、その資格を失うものとする。

（１）大学院入学後、初年次に休学した者

（２）退学（除籍）、停学となった者

（３）学則に違反して処分を受けたとき

（４）成績不良若しくは素行不良のとき

２　前項にかかわらず、学長は、学生が奨学金出願書類等に虚偽の記載をしていたときは奨学生としての資格を取り消す。

３　奨学生が前項の事由によりその資格を失ったときは、既に給付した奨学金の全額を大学へ返納しなければならない。

第７条（事務）奨学生に係る事務は、各事務部（学生厚生担当）が行う。

第８条（実施）この規程の実施についての必要事項は別に定める。

２　この規程は、平成 27 年度大学院修士課程入学者から適用する。

第９条（規程廃止）この規程は、奨学生がいなくなったことが確認できた時に廃止手続を行う。

付　　則（省略）

11　東京電機大学学生救済奨学金貸与規程

第１条（目的）この規程は、教育の機会均等の精神に基づき、経済的事由が急変したために修学に困難をきたした者に、救済奨学金を貸与し（以下貸与された者を「救済奨学生」という。）、もって学業継続の機会を与えることを目的とする。

第２条（救済奨学資金）この規程による救済奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第３条（救済奨学生の選考・決定等）救済奨学生は、東京電機大学大学院及び東京電機大学のいずれかに在籍する学生であって、学業達成に意欲的で心身共に健康であり、かつ、主たる家計支持者の経済的事由の急変が次の各号のいずれかに該当し、学費の支弁が困難であると認められるとともに、救済奨学金の貸与により学業継続が可能であると認められる者のうちから採用する。

（１）失業又は事業の倒産
（２）被災
（３）長期療養
（４）死亡
（５）その他学費の支弁が困難であると救済奨学生選考委員会が認める事項

２　救済奨学生の採用は、救済奨学生選考委員会の選考に基づき、学長がこれを決定する。

第４条（救済奨学金の貸与額）東京電機大学大学院、東京電機大学工学部、工学部第二部（平成 17 年度以前入学者）、理工学部、未来科学部及びシステムデザイン工学部における救済奨学金の貸与額は、それぞれの学則に定める半期分の学費相当額とする。

２　東京電機大学工学部第二部（平成 18 年度以降入学者）及び情報環境学部における救済奨学金の貸与額は、当該学期の授業料基礎額及び履修予定単位数分の従量額並びに教育充実費相当額とする。

３　救済奨学金は学費に充当しなければならない。

第５条（採用）救済奨学生の採用は、原則として毎年４月又は 10 月とし、各校における在籍期間中１回とする。

第６条（救済奨学生の資格停止）救済奨学生が休学したときは、救済奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した救済奨学金を返還させることができる。

第７条（救済奨学生の資格取消）救済奨学生が次の各号のいずれかに該当し、救済奨学生として不適格と認められたときは、救済奨学生の資格を取り消す。

（１）退学したとき、又は除籍されたとき。
（２）学則に違反して処分を受けたとき。
（３）救済奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

２　前項により救済奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された救済奨学金の全額を返還しなければならない。

第８条（救済奨学金の返還）救済奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

２　救済奨学金の返還に係る手数料は、救済奨学生が負担する。

３　返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し５年間とする。

ただし、繰り上げて返還することは差し支えない。

第9条（利子）貸与した救済奨学金は無利子とする。

第 10 条（褒賞金の給付・返還の免除）次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、既に貸与した救済奨学金の一部または全部を褒賞金として給付することがある。ただし、褒賞金は返還金に充当しなければならない。

（1）卒業あるいは修了時に優秀な成績を修めたとき。

（2）卒業あるいは修了時に著しい学業成果を修めたとき。

2　救済奨学生が死亡又は不具廃疾のため返還不能と認められたときは、救済奨学金の返還の一部又は全部を免除することがある。

第 11 条（事務）救済奨学生の採用等に係る事務は東京千住キャンパス事務部（学生厚生担当）が、救済奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第 12 条（実施）この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付　　則（省略）

12　東京電機大学学生支援奨学金貸与規程

第１条（目的）この規程は、東京電機大学大学院、東京電機大学のいずれかに在学する学生に支援奨学金を貸与し（以下貸与された者を「支援奨学生」という。）、もって学生の有為な自己資質向上に資することを目的とする。

第２条（支援奨学資金）この規程による支援奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第３条（支援奨学生の推薦・決定等）支援奨学生は、東京電機大学大学院、東京電機大学のいずれかに在学する学生であって、人物優秀にして学業成績が良好であり、かつ、次の各号のいずれかに該当する者のうちから採用する。

（１）本学主催の海外英語短期研修に参加する者

（２）自己資質向上を目的とした教育装置等を購入する者

（３）その他自己資質向上の実現に意欲があると認められる者

２　支援奨学生は、次の各号のいずれかに該当する者を除く。

（１）休学中の者

（２）留学中の者

（３）所定修業年限を超えて在学している者

３　支援奨学生の採用は、東京千住キャンパス事務部長が推薦し、学長がこれを決定する。

第４条（支援奨学金の貸与額）支援奨学金の貸与額は、30 万円の範囲内で東京千住キャンパス事務部長が査定する。

２　支援奨学金は前条第１項の各号に定める使途に充当しなければならない。

第５条（採用）支援奨学生の採用は、各校における在学期間中１回とする。

第６条（支援奨学生の資格停止）支援奨学生が休学したときは、支援奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した支援奨学金を返還させることができる。

第７条（支援奨学生の資格取消）支援奨学生が次の各号のいずれかに該当し、支援奨学生として不適格と認められたときは、支援奨学生の資格を取り消す。

（１）退学したとき、又は除籍されたとき。

（２）学則に違反して処分を受けたとき。

（３）支援奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

２　前項により支援奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された支援奨学金の全額を返還しなければならない。

第８条（支援奨学金の返還）支援奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

２　支援奨学金の返還に係る手数料は、支援奨学生が負担する。

３　返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し５年間を限度とする。ただし、在学期間中を含め年賦返済又は繰り上げて返還することは差し支えない。

第９条（利子）貸与した支援奨学金は無利子とする。

第 10 条（事務）支援奨学生の採用等に係る事務は東京千住キャンパス事務部（学生厚生担当）が、支援奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第 11 条（実施）この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付　　則（省略）

13　東京電機大学学生応急奨学生規程

第１条（目的）この規程は、東京電機大学（以下「本学」という）の学生であって、人物優秀にして学業成績良好であり、かつ家計の急変により学費の支弁が困難な者に対して奨学金を給付することを目的とする。

第２条（奨学金）この奨学金は、学校法人東京電機大学への特定の寄付金をもって充当する。

第３条（給付金）奨学給付金は、本学の学則に定める当該年度の学費の一部とする。

２　給付金は、学費または学資に充当しなければならない。

第４条（奨学生の選考、決定、採用等）奨学生は、救済奨学金選考委員会の選考を経て、学長がこれを決定し、採用する。

２　前項により奨学生を採用したときは、学長は遅滞なく理事長あて（総務部長経由）に文書をもって報告しなければならない。

第５条（奨学生の資格の喪失）奨学生が次の各号のいずれかに該当し、奨学生として不適当と認められるにいたったときは、その資格を失うものとする。

（１）学則に違反して退学（除籍）、停学又はけん責等の処分を受けたとき。

（２）成績不良若しくは素行不良のとき。

（３）提出書類等に虚偽の記載などを行ったとき。

２　奨学生が前項の事由によりその資格を失ったときは、既に給付した奨学金を返済させることができる。

第６条（事務）奨学生に係る事務は東京千住キャンパス事務部（学生厚生担当）が行う。

第７条（実施）この規程の実施についての必要事項は別に定める。

付　　則（省略）

14　東京電機大学学生サポート給付奨学生規程

第１条 (目的) この規程は、本学学部に在学し、過去１年以内に家計急変があり、修学意欲がありながら学費支弁が困難な学生に対し、奨学金を給付することを目的とする。

２　本奨学金の名称は、「東京電機大学学生サポート給付奨学金（以下「奨学金」という。)」といい、本奨学金を給付された者を「奨学生」という。

第２条 (奨学金) 奨学金は給付型とし、奨学金の原資は学校法人東京電機大学サポート募金(奨学金使途指定）への寄付をもって充当する。

２　奨学生の人数は、年間若干名とする。

第３条 (給付額) 奨学金の給付額は、25 万円とする。なお、本奨学金の給付は本学学部の在学期間中１回に限る。

２　給付された奨学金は学費に充当しなければならない。

第４条 (奨学生の選考、決定、採用等) 奨学生の選考は以下のとおりとする。

（１）奨学金の給付を希望する者は、所定の願書を在学する学部の学生厚生担当へ提出する。

（２）東京千住キャンパス事務部において提出された願書について、本奨学生としての要件等を踏まえ書類選考を行う。

（３）書類選考を通過した者に対し、各学部学生厚生担当において経済状況の確認、および修学意欲について面接による審査を行う。

（４）東京千住キャンパス事務部長は面接による審査結果に基づき、各学部事務部長と協議の上、奨学生候補者を決定する。

（５）東京千住キャンパス事務部長は奨学生候補者について、学生生活支援委員会の議を経て、学長に推薦する。

（６）学長は、大学調整連絡会議の議を経て奨学生を決定する。

（７）学長は、決定した奨学生を学校法人東京電機大学サポート募金委員会委員長へ報告する。

第５条 (奨学生の資格の喪失) 奨学生が次の各号のいずれかに該当し、東京千住キャンパス事務部長が奨学生として不適当と認めたときは、その資格を失うものとする。

（１）学則に違反して退学（除籍)、停学又はけん責等の処分を受けたとき。

（２）給付を受ける年度において、休学をしたとき。

（３）成績不良若しくは素行不良のとき。

（４）学校への提出書類等に虚偽の記載などを行ったとき。

２　奨学生は前項各号の事由により、奨学生の資格を失ったときは、東京千住キャンパス事務部長と関係する学部長が協議し、学長が不適当と認めた場合は、給付された奨学金を遅滞なく大学に全額返還しなければならない。

第６条 (事務) 奨学生に係る事務は、各事務部（学生厚生担当）において行う。

第７条 (実施) この規程の実施についての必要事項は、別に定める。

第８条 (改廃) この規程の改廃は、学生生活支援委員会の議を経なければならない。

付　　則（省略）

15　東京電機大学科目等履修生規程

第１条（準拠）この規程は、東京電機大学学則第 54 条に拠り、本大学科目等履修生に関する事項を定める。

第２条（科目等履修生）本大学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目を履修することを希望する者は、本大学の教育研究に支障のない範囲内で、選考の上、授業科目の履修を許可することができる。

第３条（出願資格）科目等履修生として出願できる者は、本大学学則第 35 条に該当する者とする。

第４条（出願手続）科目等履修生として履修を希望する者は､学則に定める資格審査料（別表）を添えて、次の書類を提出しなければならない。

（１）履修願書（別紙様式）
（２）履歴書（別紙様式）
（３）最終出身学校の卒業証明書若しくは卒業見込証明書
（４）最終出身学校の成績証明書
（５）健康診断書
（６）その他必要と認める書類

２　科目等履修生として登録した者が５年以内に再び科目等履修生として出願をするときは、次のように取り扱う。

（１）資格審査料を免除する。
（２）前項に定める書類のうち一部については、前回提出の書類をもって充てることができる。

３　出願の手続は所定の期日までに完了しなければならない。

第５条（履修手続）科目等履修生として履修を許可された者は、指定の期日までに別表に掲げる履修料を納入しなければならない。

２　履修料を納入した者には、科目等履修証を交付する。

３　すでに納入した科目等履修費は返還しない。

第６条（履修許可の時期）科目等履修生の履修許可の時期は、原則として学年又は学期の始めとする。

第７条（履修期間）科目等履修生の履修許可期間は、当該年度限りとする。又、さらに引き続き履修を希望する者は、あらためて願い出なければならない。

第８条（履修科目）　科目等履修生が履修できる科目は、正規課程の学生の教育研究に支障が生じない科目に限る。

第９条（試験）科目等履修生は、履修した授業科目について試験を受けることができる。

第 10 条（単位）科目等履修生として試験に合格した授業科目については、その授業科目について定められた単位を与える。

第 11 条（単位取得証明）科目等履修生として取得した単位については、本人の請求により、単位取得証明書を交付することができる。

第 12 条（特別科目等履修生）本学との単位互換の協定に基づいて、本学学部で開設している一又は複数の授業科目の履修を許可された者を特別科目等履修生という。

2　前項に規定する特別科目等履修生については、学則及びこの規程に抵触しない限り、本学と締結した単位互換協定における取決めに従うものとする。

第 13 条（改正）この規程の改正は、各学部の教授会の議を経なければならない。

付　　則（省略）

別表　資格審査料及び履修料

学部名	資格審査料	履修料（1 単位につき）	
		講義・演習科目	実験・実習科目
工 学 部	10,000 円	11,000 円	17,000 円
工学部第二部		11,000 円	17,000 円
理工学部		11,000 円	17,000 円
情報環境学部		16,000 円	16,000 円
未来科学部		11,000 円	17,000 円
システムデザイン工学部		11,000 円	17,000 円

別紙様式　略

第13章
沿　革

1 沿　革

1907（明治 40 年）9. ・東京・神田に電機学校創立（9 月 11 日）
1949（昭和 24 年）4. ・東京電機大学開設＜工学部第一部電気工学科・電気通信工学科設置＞
1950（昭和 25 年）4. ・東京電機大学短期大学部開設＜電気科第二部設置＞
1952（昭和 27 年）4. ・工学部第二部開設＜工学部第二部電気工学科設置＞
1956（昭和 31 年）2. ・東京電機大学短期大学部を東京電機大学短期大学に名称変更
1958（昭和 33 年）4. ・東京電機大学大学院（夜間）開設＜工学研究科電気工学専攻（修士課程）設置＞
1960（昭和 35 年）4. ・工学部第一部電子工学科設置
1961（昭和 36 年）4. ・工学部第一部機械工学科・応用理化学科設置
・工学部第二部電気通信工学科設置
1962（昭和 37 年）4. ・大学院工学研究科博士課程開設＜電気工学専攻（博士課程）設置＞
・工学部第二部電子工学科・機械工学科設置
1965（昭和 40 年）4. ・工学部第一部精密機械工学科・建築学科設置
1975（昭和 50 年）4. ・工学研究科電気工学専攻（修士課程）（昼間）設置
1977（昭和 52 年）4. ・鳩山キャンパス開設・理工学部開設＜数理学科・経営工学科・建設工学科・産業機械工学科設置＞
1981（昭和 56 年）4. ・理工学研究科開設＜数理学専攻（修士課程）・システム工学専攻（修士課程）・建設工学専攻（修士課程）・機械工学専攻（修士課程）設置＞
・総合研究所開設
1983（昭和 58 年）4. ・理工学研究科博士課程開設＜応用システム工学専攻（博士課程）設置＞
1984（昭和 59 年）4. ・理工学研究科数理学専攻（博士課程）設置
1986（昭和 61 年）4. ・理工学部情報科学科、応用電子工学科設置
1990（平成 2 年）4. ・千葉ニュータウンキャンパス開設
・工学研究科情報通信工学専攻（修士課程）・電子工学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科情報科学専攻（修士課程）・応用電子工学専攻（修士課程）設置
1991（平成 3 年）4. ・工学研究科機械システム工学専攻（修士課程）･物質工学専攻（修士課程）設置
1992（平成 4 年）4. ・工学研究科情報通信工学専攻（博士課程）・電子工学専攻（博士課程）、建築学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科数理学専攻（博士課程）を数理科学専攻（博士課程）に名称変更
1993（平成 5 年）4. ・工学研究科機械システム工学専攻（博士課程）、物質工学専攻（博士課程）設置
・工学部第一部・工学部第二部電気通信工学科を情報通信工学科、工学部

第一部応用理化学科を物質工学科に名称変更

1995（平成 7 年）4. ・工学研究科建築学専攻（博士課程）設置

1997（平成 9 年）4. ・超電導応用研究所、建設技術研究所設立
・産官学交流センター設立

1997（平成 9 年）6. ・ハイテク・リサーチ・センター設立

1999（平成 11 年）4. ・理工学部数理学科を数理科学科、経営工学科を情報システム工学科、建設工学科を建設環境工学科、産業機械工学科を知能機械工学科、応用電子工学科を電子情報工学科に名称変更
・フロンティア共同研究センター設立

2000（平成 12 年）4. ・理工学部生命工学科、情報社会学科設置

2001（平成 13 年）4. ・情報環境学部開設＜情報環境工学科、情報環境デザイン学科設置＞
・大学院工学研究科機械工学専攻（修士課程・博士課程）、精密システム工学専攻（修士課程・博士課程）設置

2002（平成 14 年）4. ・工学部第一部情報メディア学科設置
・工学部第一部物質工学科を環境物質化学科、精密機械工学科を機械情報工学科に名称変更
・理工学研究科生命工学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科数理科学専攻（博士課程）を数理・情報科学専攻（博士課程）、数理学専攻（修士課程）を数理科学専攻（修士課程）、システム工学専攻（修士課程）を情報システム工学専攻（修士課程）、機械工学専攻（修士課程）を知能機械工学専攻（修士課程）に名称変更

2003（平成 15 年）4. ・理工学研究科応用電子工学専攻（修士課程）を電子情報工学専攻（修士課程）に名称変更

2004（平成 16 年）4. ・情報環境学研究科（修士課程）開設＜情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）設置＞
・工学研究科情報メディア学専攻（修士課程・博士課程）設置
・理工学研究科情報社会学専攻（修士課程）設置
・超電導応用研究所を先端工学研究所に名称変更

2005（平成 17 年）7. ・東京電機大学短期大学廃止
・工学研究科機械システム工学専攻（修士課程・博士課程）廃止

2006（平成 18 年）4. ・先端科学技術研究科（博士課程（後期））開設＜数理学専攻、電気電子システム工学専攻、情報通信メディア工学専攻、機械システム工学専攻、建築・建設環境工学専攻、物質生命理工学専攻、先端技術創成専攻、情報学専攻設置＞（※工学研究科博士課程、理工学研究科博士課程を廃止）
・理工学研究科建設工学専攻（修士課程）を建設環境工学専攻（修士課程）に名称変更
・情報環境学部情報環境学科設置（※情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科学生募集停止）

2007（平成 19 年）4. ・学園創立 100 周年（9 月 11 日）

・未来科学部開設＜建築学科、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科設置＞
・工学部開設＜電気電子工学科、環境化学科、機械工学科、情報通信工学科設置＞（※工学部第一部電気工学科、電子工学科、環境物質化学科、機械工学科、機械情報工学科、情報通信工学科、情報メディア学科、建築学科の学生募集停止）
・理工学部理工学科設置＜４学系体制：サイエンス学系、情報システムデザイン学系、創造工学系、生命理工学系＞（※理工学部数理科学科、情報科学科、情報システム工学科、建設環境工学科、知能機械工学科、電子情報工学科、生命工学科、情報社会学科の学生募集停止）

2008（平成 20 年）4. ・工学部第二部電気電子工学科設置（※工学部第二部電気工学科、電子工学科の学生募集停止）

2009（平成 21 年）4. ・未来科学研究科（修士課程）開設＜建築学専攻、情報メディア学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻設置＞
・工学研究科電気電子工学専攻（修士課程）設置（※工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）、精密システム工学専攻（修士課程）、情報メディア学専攻（修士課程）、建築学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・理工学研究科理学専攻（修士課程）、情報学専攻（修士課程）、デザイン工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）、知能機械工学専攻（修士課程）、電子情報工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）、情報社会学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・情報環境学研究科情報環境学専攻（修士課程）設置（※情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・理工学部理工学科学系再編＜５学系体制：理学系、生命理工学系、情報システムデザイン学系、電子・機械工学系、建築・都市環境学系へ再編＞

2010（平成 22 年）4. ・工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）の廃止
・理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）、知能機械工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）、情報社会学専攻（修士課程）の廃止

2010（平成 22 年）9. ・工学研究科情報メディア学専攻（修士課程）の廃止

2011（平成 23 年）3. ・建設技術研究所の廃止

2011（平成 23 年）4. ・工学研究科精密システム工学専攻（修士課程）、理工学研究科電子情報工学専攻（修士課程）、情報環境学研究科情報環境デザイン学専攻（修

士課程）の廃止
・情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科の廃止

2012（平成 24 年）4. ・東京千住キャンパス（100 周年記念キャンパス）開設（先端科学技術研究科（東京神田キャンパス所属）、工学研究科（修士課程）、未来科学研究科（修士課程）、工学部、工学部第二部、未来科学部が東京神田キャンパスから東京千住キャンパスへ移転）
・情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）の廃止
・理工学部情報科学科、情報システム工学科、電子情報工学科、情報社会学科の廃止

2012（平成 24 年）10. ・研究組織等の改編に伴い、研究推進社会連携センター設立

2013（平成 25 年）4. ・理工学研究科電子･機械工学専攻（修士課程）、建築･都市環境学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科デザイン工学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・工学研究科建築学専攻（修士課程）の廃止
・工学部第一部機械情報工学科、情報通信工学科の廃止
・理工学部数理科学科、建設環境工学科、知能機械工学科の廃止

2013（平成 25 年）9. ・工学部第一部環境物質化学科の廃止

2014（平成 26 年）4. ・工学部第一部電気工学科の廃止
・理工学部生命工学科の廃止

2014（平成 26 年）8. ・インスティテューショナル　リサーチ　センター設立

2014（平成 26 年）9. ・工学部第一部建築学科の廃止
・理工学研究科デザイン工学専攻（修士課程）の廃止

2015（平成 27 年）4. ・工学部第一部情報メディア学科の廃止
・工学部第二部電気工学科の廃止

2015（平成 27 年）9. ・工学部第一部機械工学科の廃止

2016（平成 28 年）4. ・工学部第一部電子工学科の廃止
・工学部第一部の廃止

2016（平成 28 年）6. ・地域連携推進センター設立

2017（平成 29 年）4. ・工学部電子システム工学科、応用化学科、先端機械工学科設置（※工学部環境化学科の学生募集停止）
・システムデザイン工学部開設＜情報システム工学科、デザイン工学科設置＞
・情報環境学部情報環境学科の学生募集停止
・ものづくりセンター千住設立
・工学部第二部電子工学科廃止

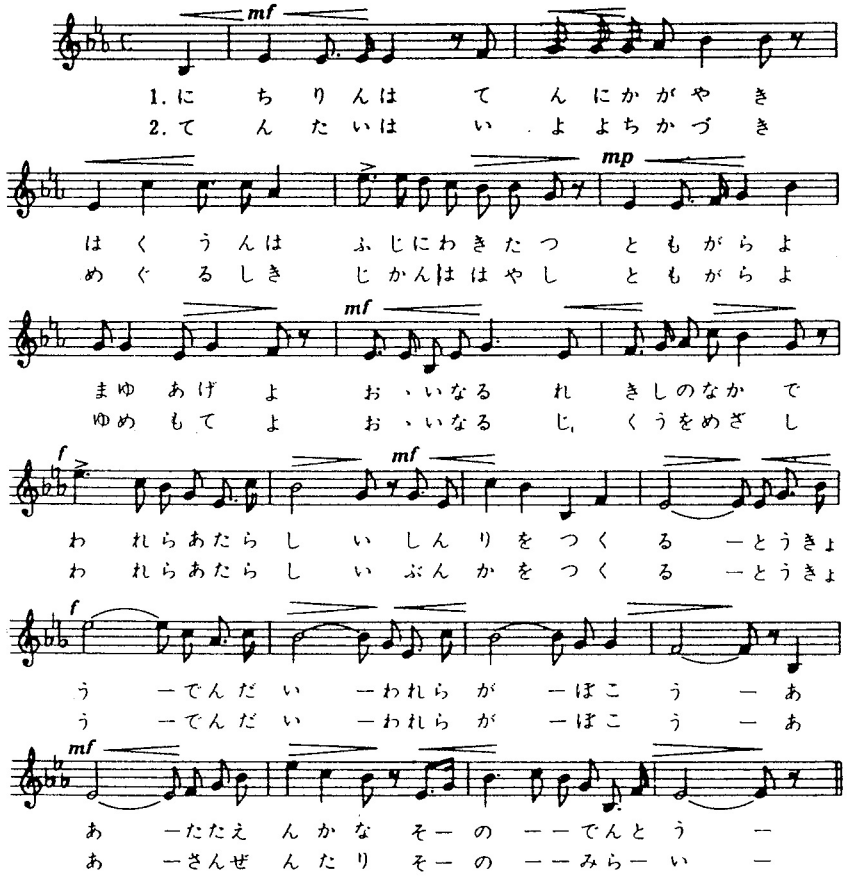
2018（平成 30 年）4. ・理工学部理工学科生命科学系、機械工学系、電子工学系設置
・情報環境学部、情報環境学研究科が、千葉ニュータウンキャンパスから東京千住キャンパスへ移転
・工学部第二部社会人課程（実践知重点課程）設置

第 14 章
大学校歌・学生歌

東京電機大学　校歌

歯切れよく　雄大に

草野心平 作詞
平岡照章 作曲



東京電機大学校歌

一

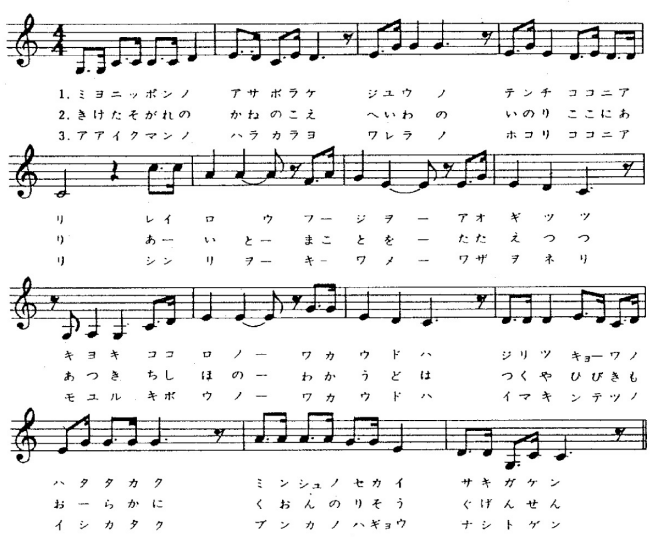
日輪（にちりん）は　天にかがやき
白雲（はくうん）は　富士に沸（わ）きたつ
朋（とも）がらよ　眉（まゆ）あげよ
大いなる　歴史のなかで
われら新しい　真理を創（つく）る
東京電大　われらが母校
あゝ讃（たた）えん哉（かな）
その伝統

二

天体は　いよよ近づき
めぐる四季　時間は早し
朋（とも）がらよ　夢もてよ
大いなる　時空（じくう）をめざし
われら新しい　文化を創（つく）る
東京電大　われらが母校
あゝ燦然（さんぜん）たり
その未来

東京電機大学　学生歌

望月直文作詞
田辺尚雄作曲



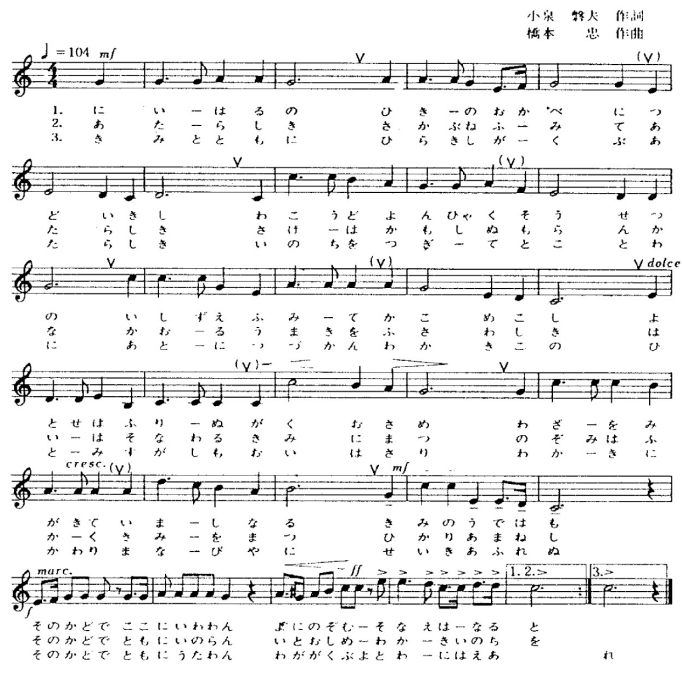
一、見よ日本のあさぼらけ　自由の天地ここにあり
玲瓏富士を仰ぎつつ　高潔き心の若人は
自律協和の旆高く　民主の世界先駆けん

二、聞け黄昏の鐘の音　平和の祈願ここにあり
信愛と誠実をたたえつつ　熱き血潮の若人は
撞くや響もおほらかに　久遠の理想具現せん

三、ああ幾万の同胞よ　我等の誇りここにあり
真理を究め技術を錬り　燃ゆる希望の若人は
今金鉄の意志かたく　文化の覇業なしとげん

東京電機大学理工学部　讃歌

小泉磐夫作詞
橋本忠作曲



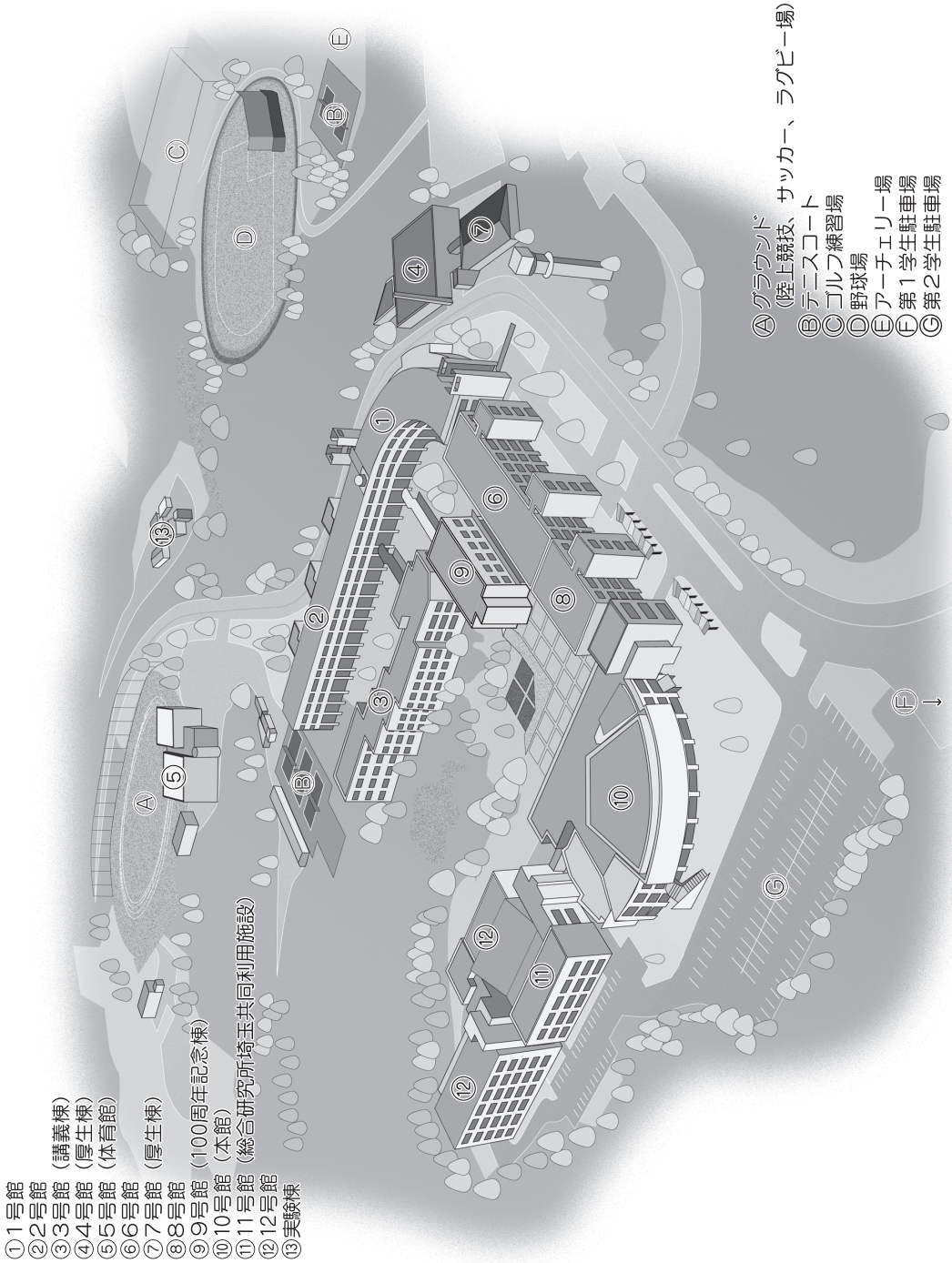
一、新春の比企の丘辺に　集い来し若人四百
創設の礎踏みて　固め来し四年は経りぬ
学修め業を磨きて　今し鳴る君の腕はも
その門出茲に祝わん　世に臨む備は成ると

二、新しき酒槽踏みて　新しき酒は醸しぬ
盛らん哉香る甘酒を　ふさわしき杯は備る
君に待つ望は深く　君に待つ光汎し
その門出共に祈らん　自愛しめ若き命を

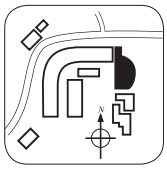
三、君と共に拓きし学部　新しき生命を継ぎて
永遠に後に続かん　若き等の瞳清しも
老は去り若きに代り　学舎に生気溢れぬ
その門出共に唱わん　「吾が学部よとわに栄あれ」

第 15 章
埼玉鳩山キャンパス案内図

埼玉鳩山キャンパス案内図

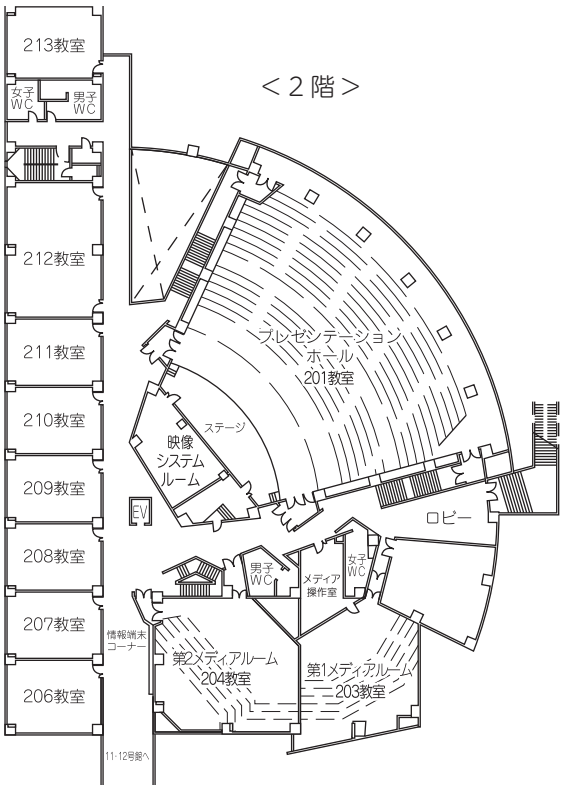


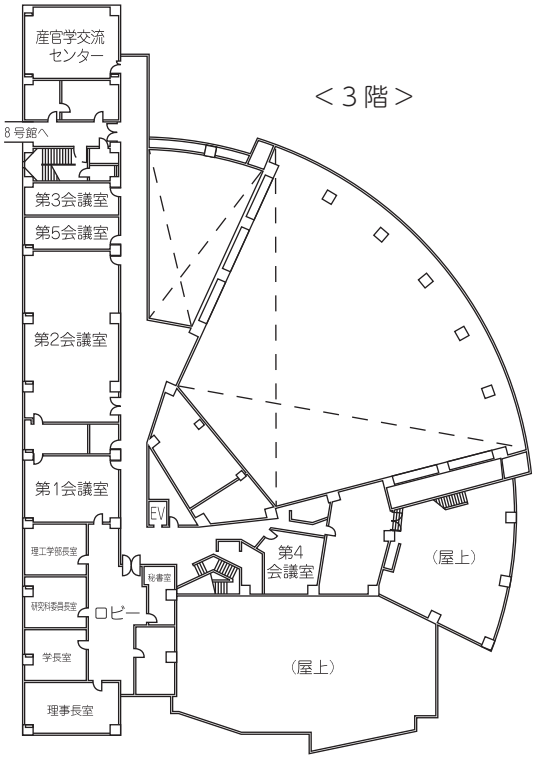
全体図



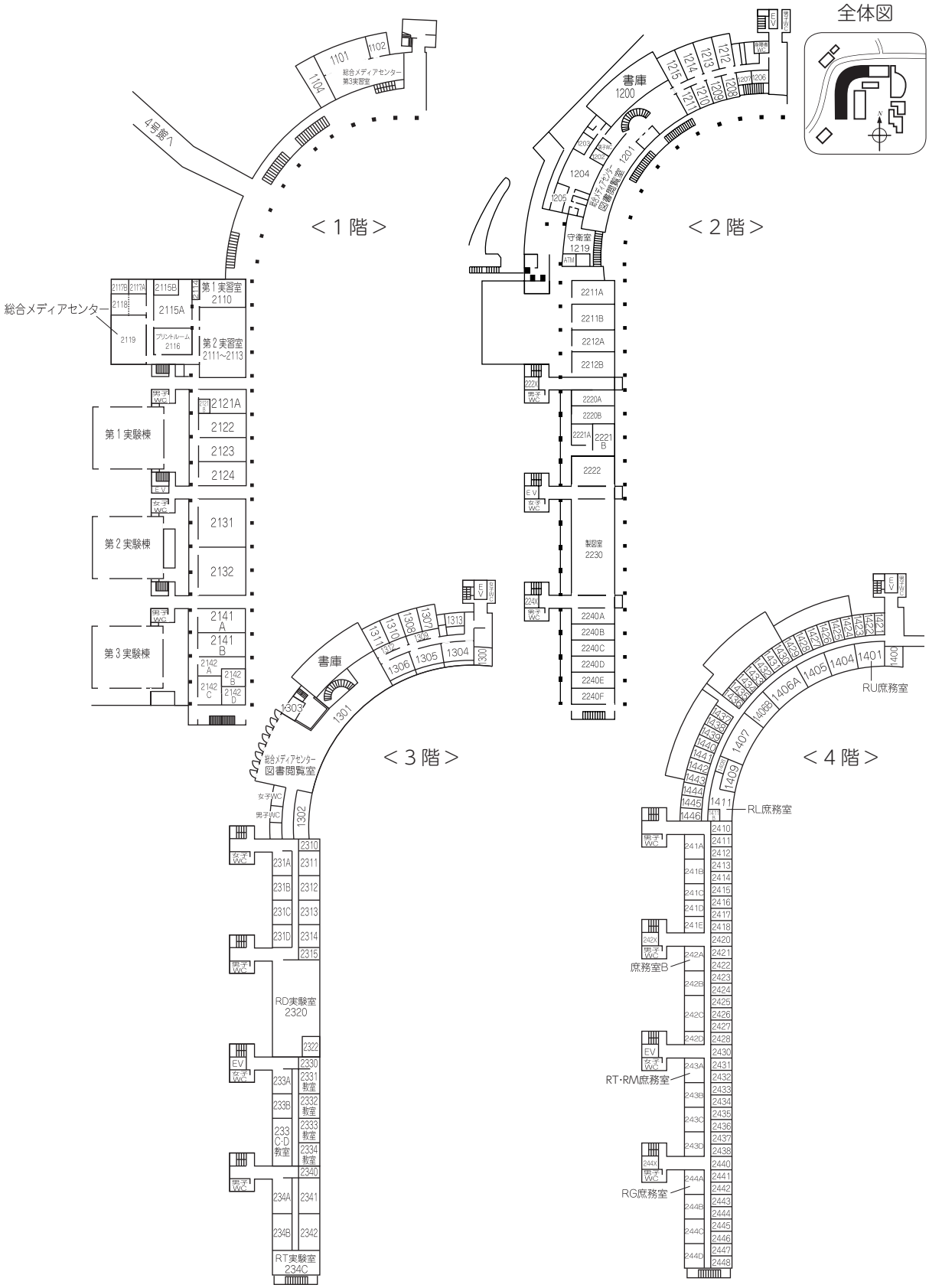
10号館(本館)


スクールバス
待合室
ピロティー
＜1階＞
エントランスホール
庶務担当
教務担当
講師室
学生厚生担当
健康
相談室
掲示ホール
就職
資料室
EV
115教室
男子
WC
パソコン
準備室
女子
WC
学生相談室
情報端末
コーナー
パソコン教室
117教室

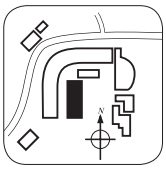

213教室
女子
WC
男子
WC
＜2階＞
212教室
211教室
210教室
209教室
208教室
207教室
206教室
プレゼンテーション
ホール
201教室
ステージ
映像
システム
ルーム
EV
ロビー
男子
WC
女子
WC
メディア
操作室
情報端末
コーナー
第2メディアルーム
204教室
第1メディアルーム
203教室
11・12号館へ


産官学交流
センター
8号館へ
＜3階＞
第3会議室
第5会議室
第2会議室
第1会議室
EV
理工学部長室
第4
会議室
（屋上）
秘書室
研究科委員長室
ロビー
学長室
（屋上）
理事長室

1号館・2号館

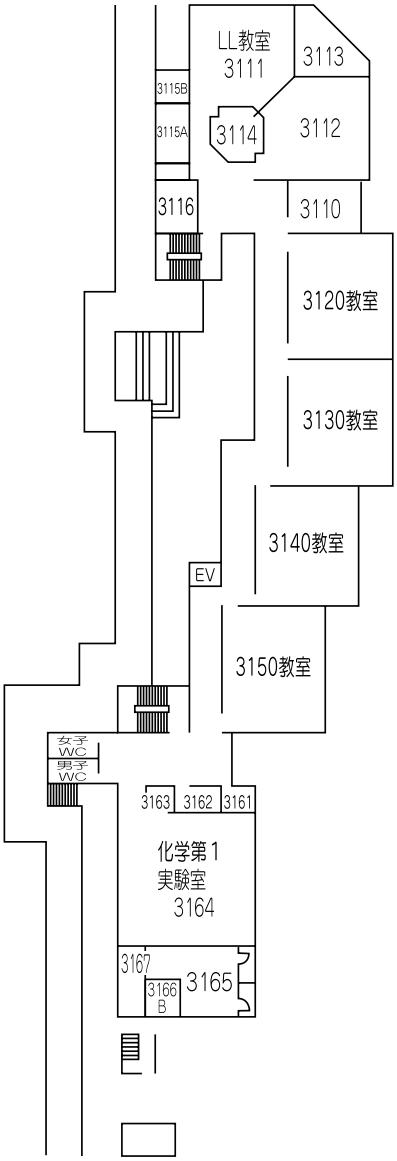

全体図
＜1階＞
＜2階＞
＜3階＞
＜4階＞
総合メディアセンター
第1実習室 2110
2115A
2115B
プリントルーム 2116
第2実習室 2111~2113
2119
第1実験棟
第2実験棟
第3実験棟
2121A
2122
2123
2124
2131
2132
2141 A
2141 B
2142 A
2142 B
2142 C
2142 D
4号館へ
1101
1102
1104
総合メディアセンター 第3実習室
書庫 1200
1201
1204
1205
総合メディアセンター 図書閲覧室
守衛室 1219
ATM
2211A
2211B
2212A
2212B
2220A
2220B
2221A
2221B
2222
製図室 2230
2240A
2240B
2240C
2240D
2240E
2240F
1301
1302
1303
1304
1305
1306
1307
1308
1309
1310
1311
1313
総合メディアセンター 図書閲覧室
女子WC
男子WC
RD実験室 2320
RT実験室 2340
1400
1401
1404
1405
1406A
1406B
1407
1409
1411
RU庶務室
RL庶務室
庶務室B
RT・RM庶務室
RG庶務室

全体図

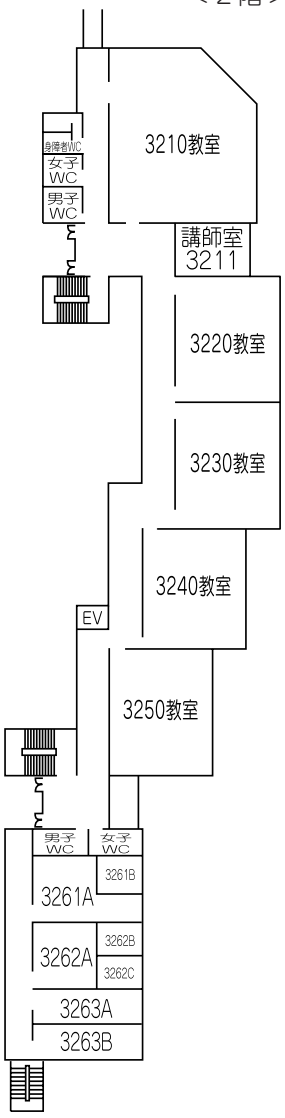


3号館（講義棟）

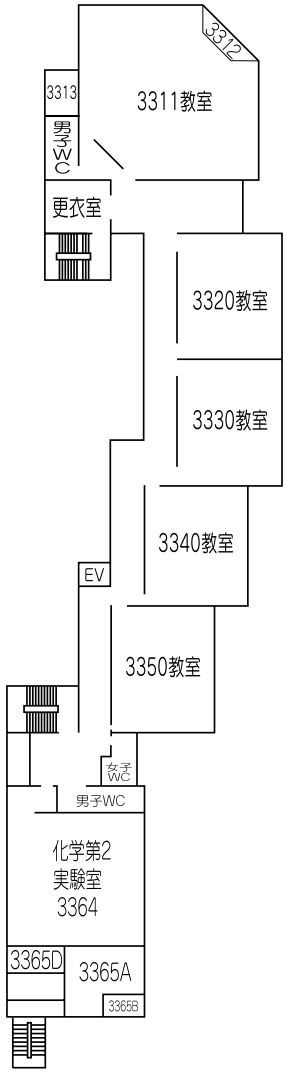
＜1階＞



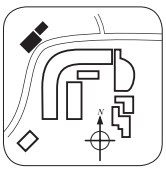
＜2階＞



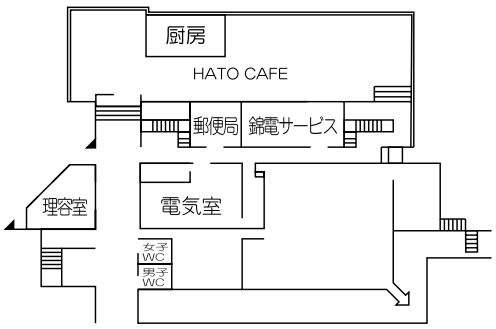
＜3階＞



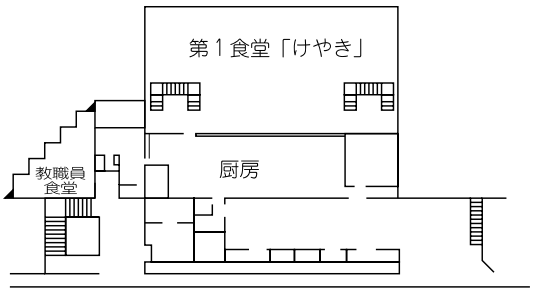
全体図



4号館（厚生棟）

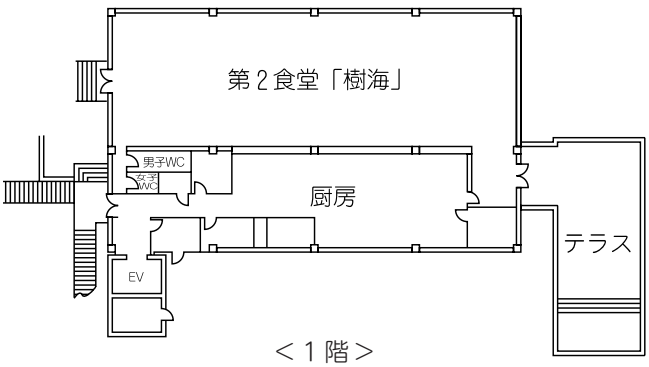


＜1階＞



＜2階＞

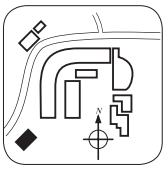
7号館（厚生棟）

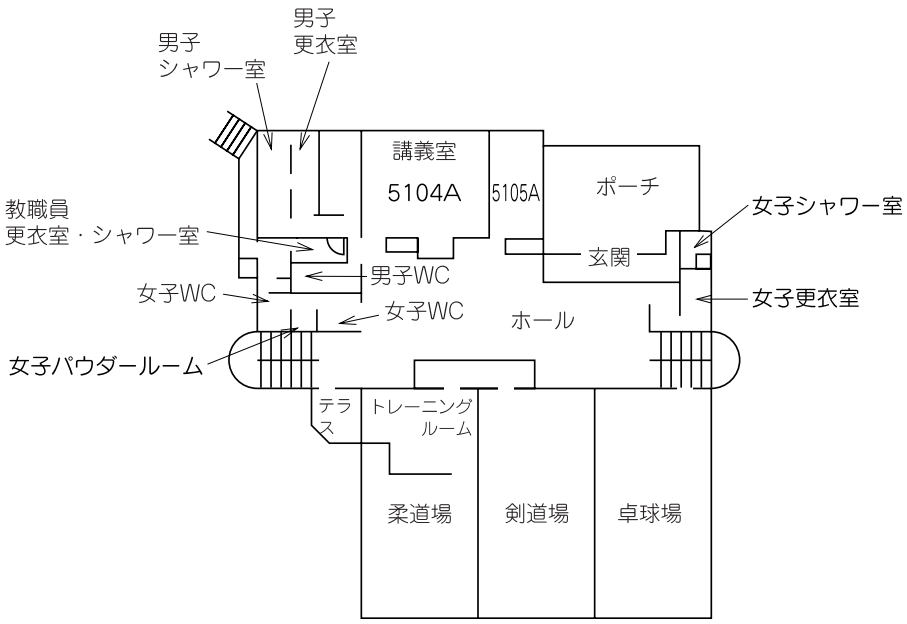


＜1階＞

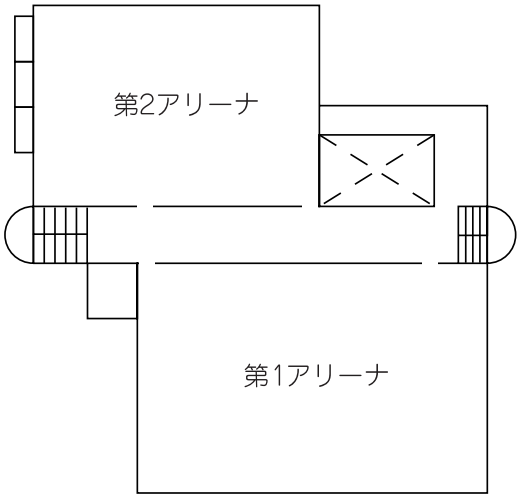
5号館（体育館）

全体図



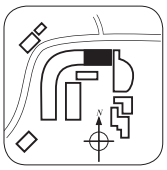


＜1階＞

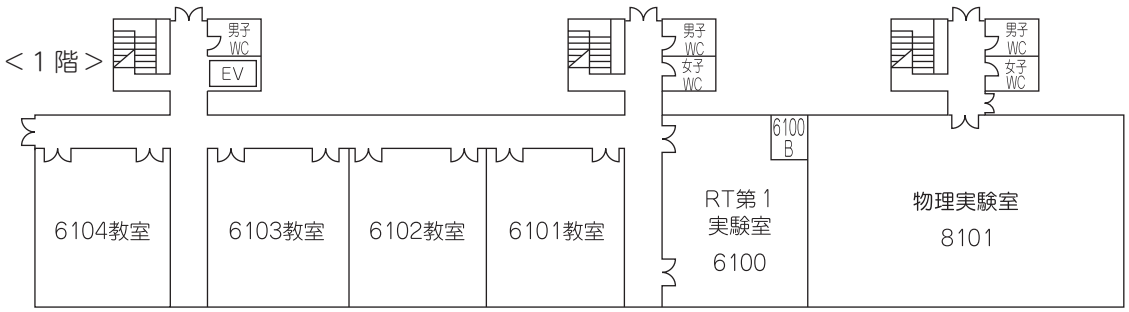


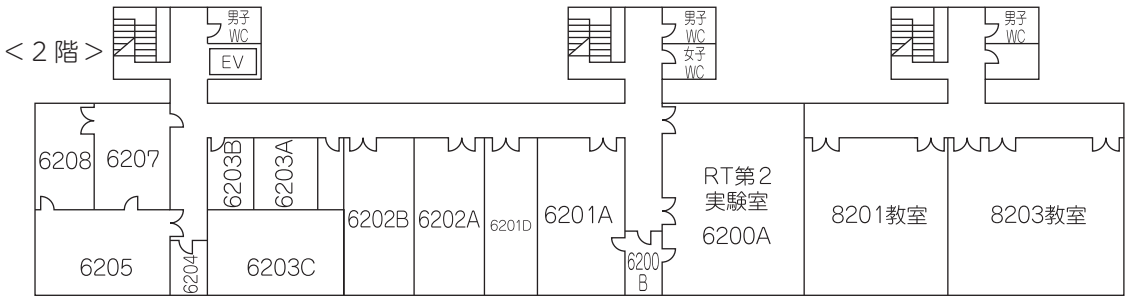
＜2階＞

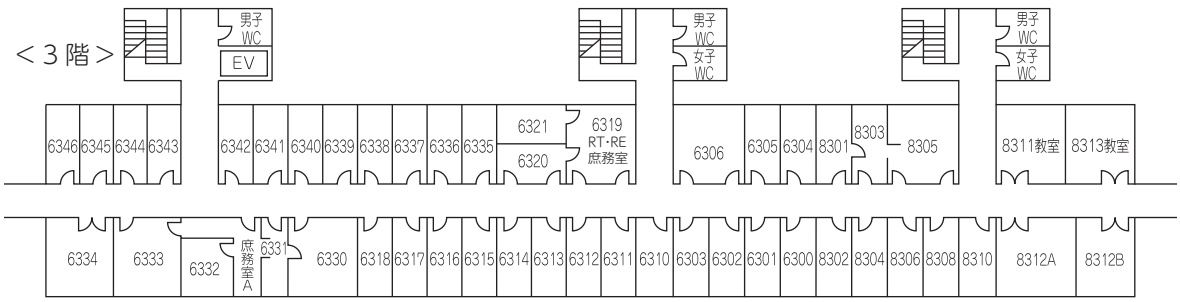
全体図

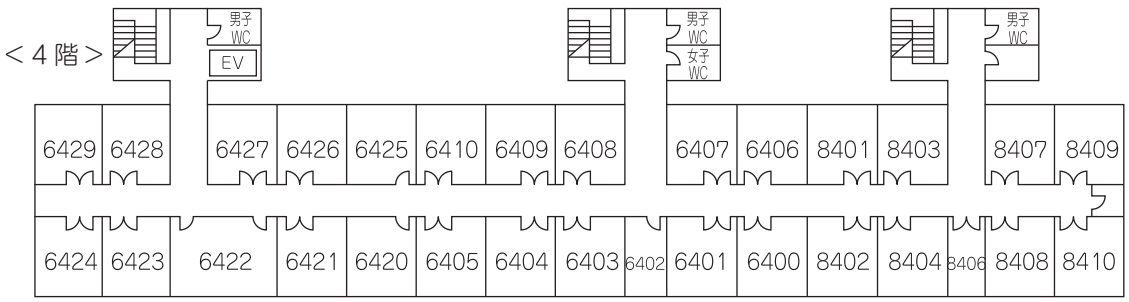


6号館・8号館

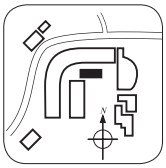

＜1階＞
男子WC
EV
女子WC
6104教室
6103教室
6102教室
6101教室
6100B
RT第1実験室
6100
物理実験室
8101


＜2階＞
男子WC
EV
女子WC
6208
6207
6203B
6203A
6205
6204
6203C
6202B
6202A
6201D
6201A
6200B
RT第2実験室
6200A
8201教室
8203教室


＜3階＞
男子WC
EV
女子WC
6346 6345 6344 6343
6342 6341 6340 6339 6338 6337 6336 6335
6321
6320
6319 RT・RE 庶務室
6306 6305 6304 8301 8303 8305
8311教室
8313教室
6334 6333 6332 庶務室A 6331 6330 6318 6317 6316 6315 6314 6313 6312 6311 6310 6303 6302 6301 6300 8302 8304 8306 8308 8310 8312A 8312B

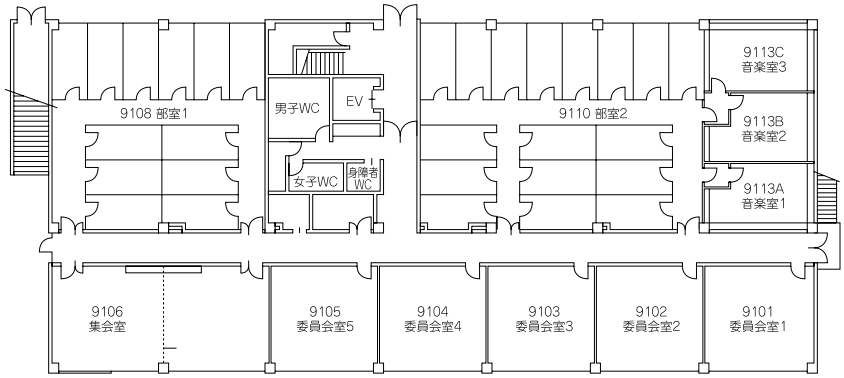

＜4階＞
男子WC
EV
女子WC
6429 6428
6427 6426 6425 6410 6409 6408
6407 6406 8401 8403
8407 8409
6424 6423 6422 6421 6420 6405 6404 6403 6402 6401 6400 8402 8404 8406 8408 8410

全体図

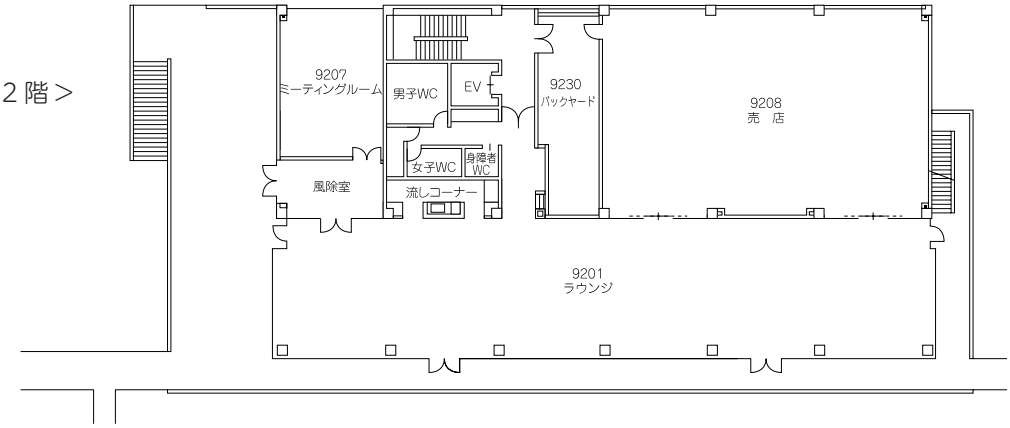


9号館

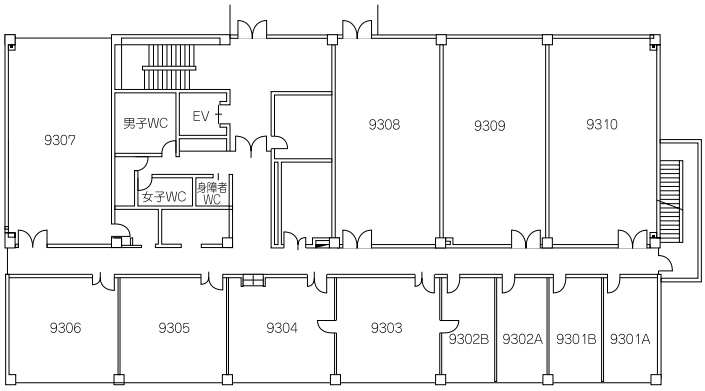
＜1階＞



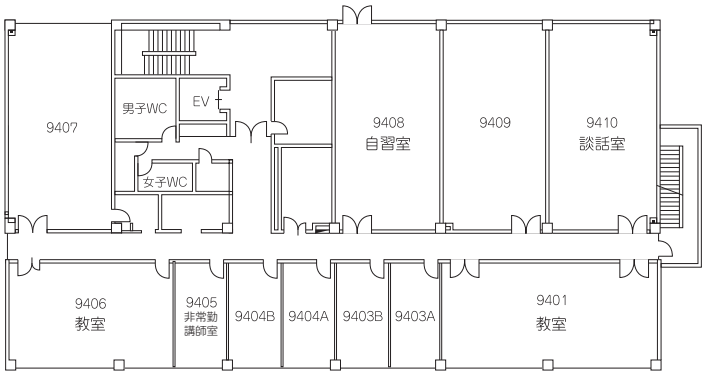
＜2階＞



＜3階＞

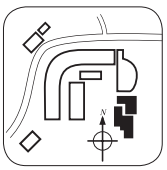


＜4階＞

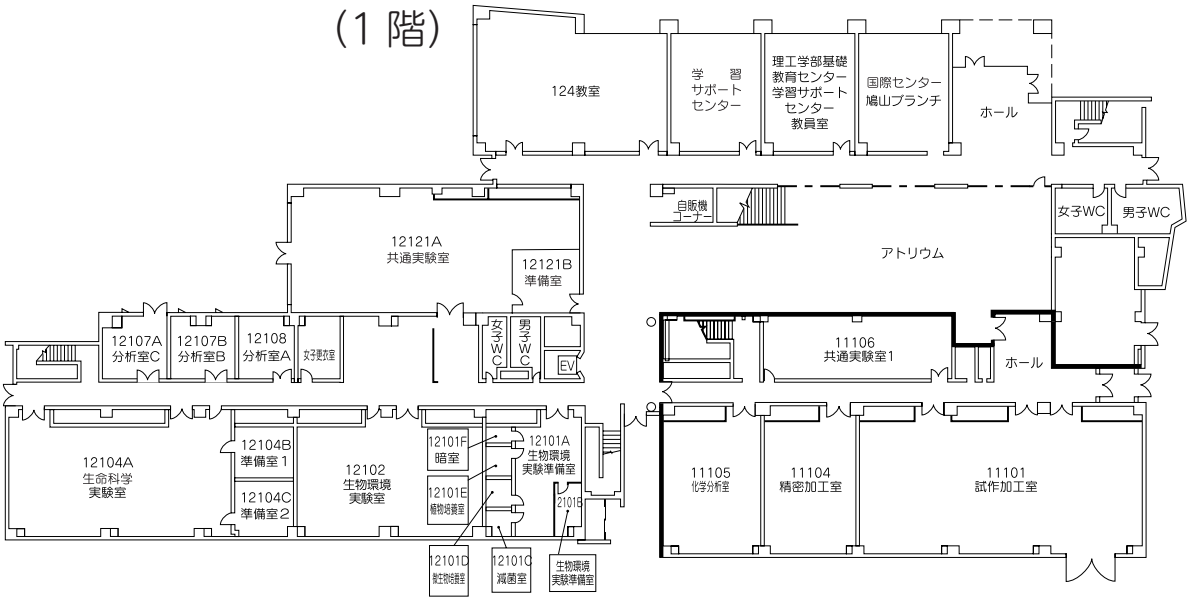


11 号館（総合研究所埼玉共同利用施設）・12 号館

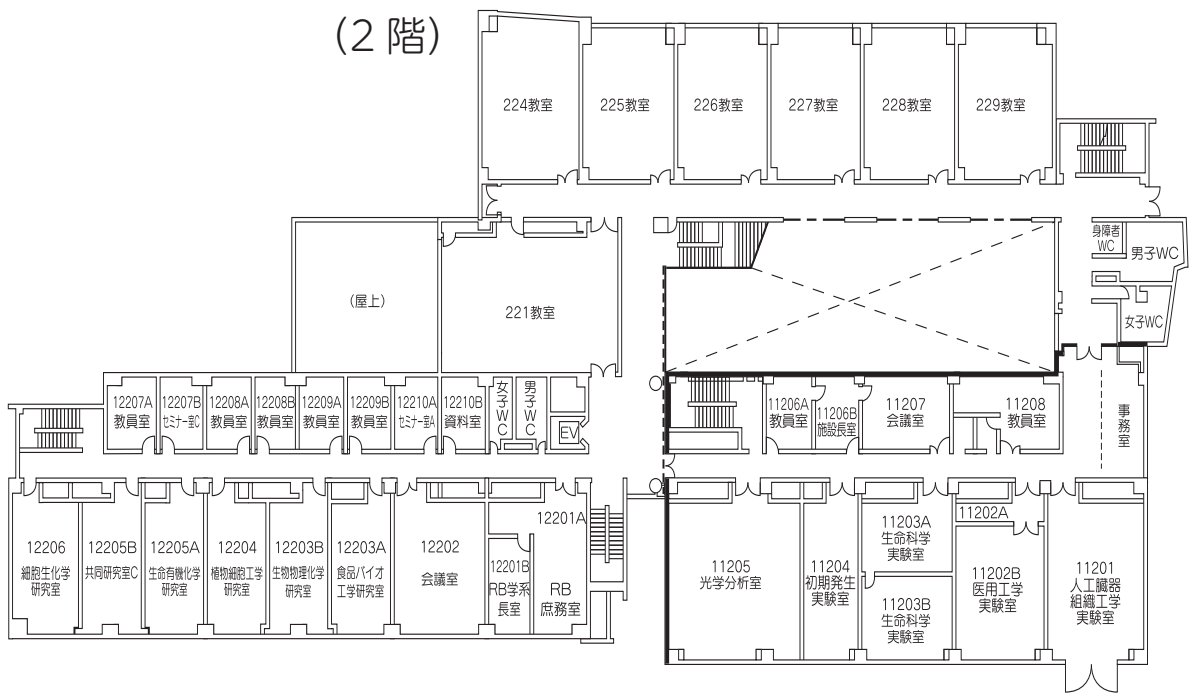
全体図



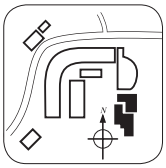
(1 階)



(2 階)



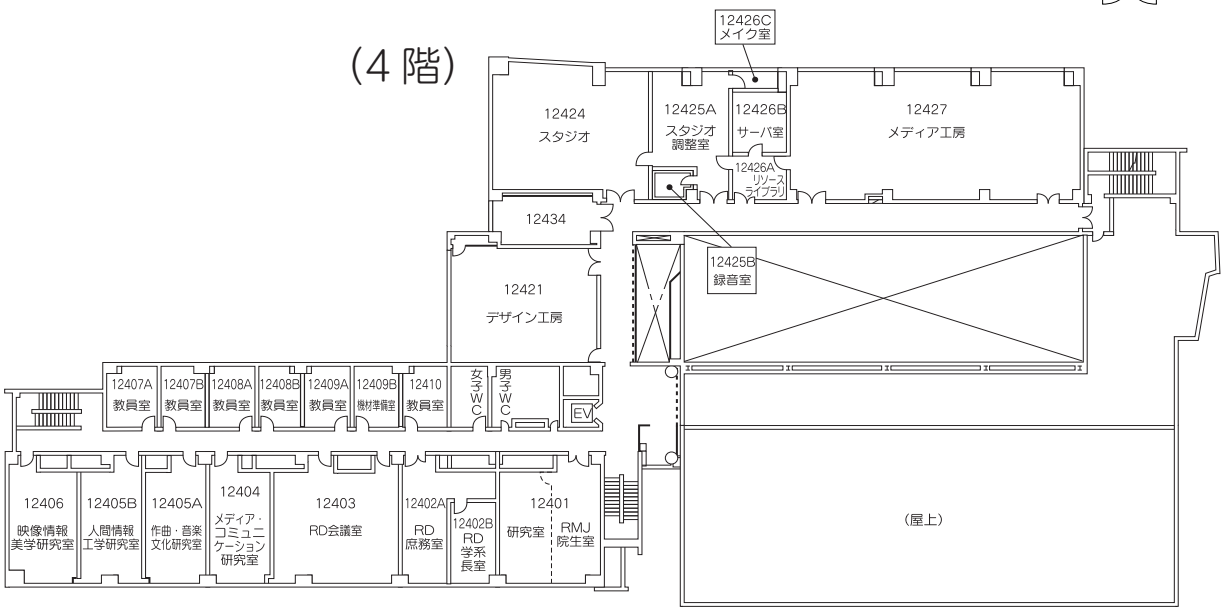
全体図



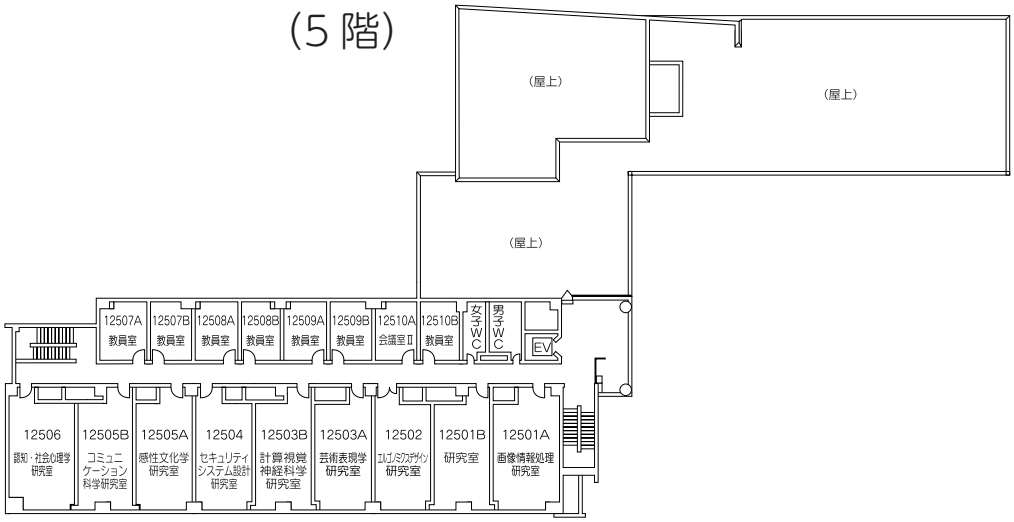
(3階)

324教室
325教室
326教室
327教室
328教室
329教室
321教室
身障者WC
男子WC
女子WC
12307A 教員室
12307B 教員室
12308A 教員室
12308B 教員室
12309 教員室
12310 セミナー室B
女子WC
男子WC
EV
11306 組織化学実験室
11307 再生医工学実験室
11308A 電子計測室
11308B 顕微鏡室
12306 細胞分子生物学研究室
12305B 情報分子生物学研究室
12305A 分子発生生物学研究室
12304 生体組織工学研究室
12303 共同研究室B
12302 共同研究室A
12301 RD実習室
11305A
11305B 半無響室
11304 細胞工学実験室
11301C 組換DNA実験室
11301B 共通実験室3
11301A 微細加工室

(4階)


12426C メイク室
12424 スタジオ
12425A スタジオ調整室
12426B サーバ室
12427 メディア工房
12426A リソースライブラリ
12434
12425B 録音室
12421 デザイン工房
12407A 教員室
12407B 教員室
12408A 教員室
12408B 教員室
12409A 教員室
12409B 機材準備室
12410 教員室
女子WC
男子WC
EV
12406 映像情報美学研究室
12405B 人間情報工学研究室
12405A 作曲・音楽文化研究室
12404 メディア・コミュニケーション研究室
12403 RD会議室
12402A RD庶務室
12402B RD学系長室
12401 研究室
RMJ 院生室
(屋上)

(5階)

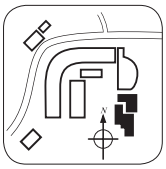

(屋上)
(屋上)
(屋上)
12507A 教員室
12507B 教員室
12508A 教員室
12508B 教員室
12509A 教員室
12509B 教員室
12510A 会議室II
12510B 教員室
女子WC
男子WC
EV
12506 認知・社会心理学研究室
12505B コミュニケーション科学研究室
12505A 感性文化学研究室
12504 セキュリティシステム設計研究室
12503B 計算視覚神経科学研究室
12503A 芸術表現学研究室
12502 エルゴノミクスデザイン研究室
12501B 研究室
12501A 画像情報処理研究室

埼玉鳩山キャンパス教員室一覧

全体図

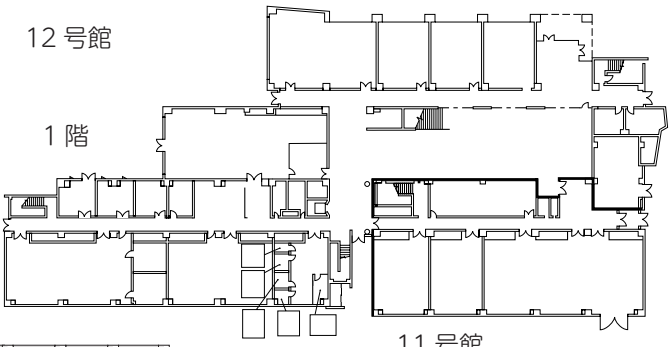


全体図



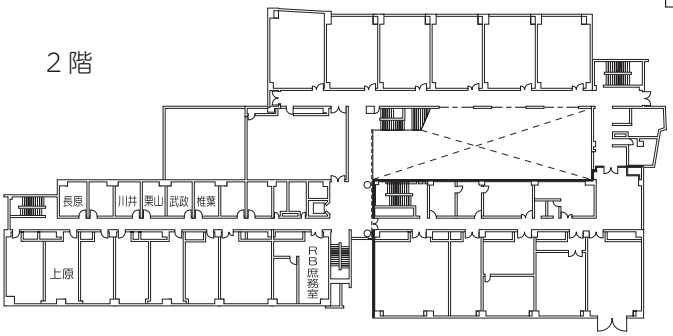
12 号館

1 階

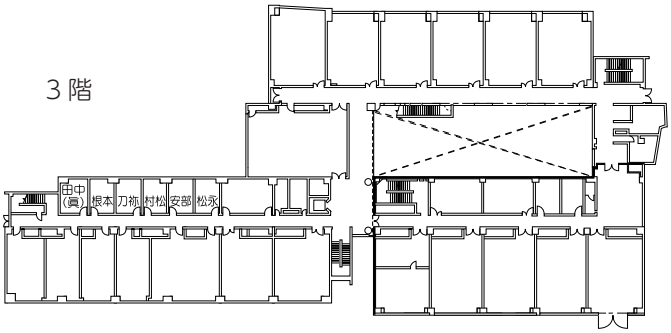


11 号館

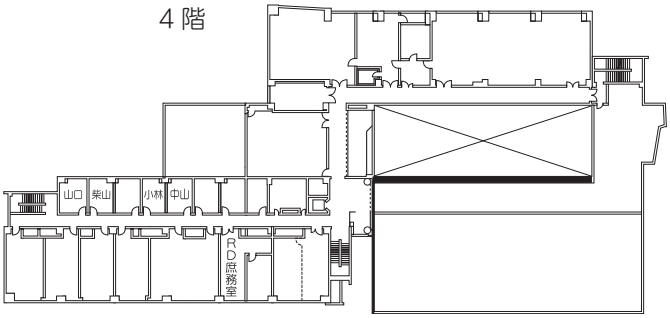
2 階



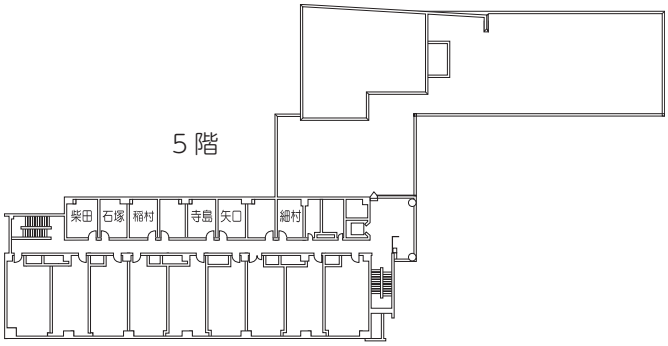
3 階



4 階



5 階



教員一覧

（平成 30 年 4 月 1 日現在）

＊は学系長、群主任

理学系

氏名	職名	室番号
＊ 中野哲夫	教授	1425
安食博志	教授	6341
石原聖司	教授	6338
大塚尚久	教授	6316
小川英生	教授	2142D
勝野裕文	教授	6317
硲文夫	教授	6303
向山義治	教授	3262 B
山形周二	教授	1422
足立直也	准教授	3165
井上真	准教授	8301
越智禎宏	准教授	1430
仲光邦昭	准教授	6304
日髙章理	准教授	6336
細田真妃子	准教授	6301
本橋章	准教授	6300
山岸日出	准教授	1431
山室憲子	准教授	3365 B
類家正稔	准教授	2428
小黒隆	講師	1427
髙橋秀慈	講師	1421
石井聡	助教	6302
宮里裕二	助教	3261 B
山田祐理	助教	3261 B

生命科学系

氏　名	職　名	室　番　号
＊ 村松和明	教　授	12308 B
川井　悟	教　授	12208 A
栗山　昭	教　授	12208 B
椎葉　究	教　授	12209 B
田中眞人	教　授	12307 A
長原礼宗	教　授	12207 A
刀祢重信	特任教授（生命理工学専攻）	12308 A
武政　誠	准教授	12209 A
根本　航	准教授	12307 B
安部智子	助　教	12309
上原　歩	助　教	12205 B
松永直樹	助　手	12309

情報システムデザイン学系

氏　名	職　名	室　番　号
＊ 佐藤定夫	教　授	6305
石塚正英	教　授	12507 B
柏崎尚也	教　授	2420
神戸英利	教　授	2416
小林春美	教　授	12408 B
陳　致中	教　授	1424
寺島悦恩	教　授	12509 A
中山　洋	教　授	12409 A
町原文明	教　授	6346
山口正二	教　授	12407 A
細村　宰	特任教授	12510 B
泉　智紀	准教授	2413
柴田良二	准教授	12507 A
柴山拓郎	准教授	12407 B
高橋達二	准教授	6344
築地立家	准教授	6339
藤本　衡	准教授	6345

氏　名	職　名	室　番　号
松浦昭洋	准教授	2412
矢口博之	准教授	12509 B
徳田太郎	講師	6315
稲村勝樹	助教	12508 A
笹川隆史	助教	6318

機械工学系

氏　名	職　名	室　番　号
＊渡利久規	教授	2427
内田干城	教授	2426
遠藤正樹	教授	2422
榊原洋子	教授	2431
古屋　治	准教授	2432
山崎敬則	准教授	2433
小平和仙	講師	222X
金子雅直	助教	2425
酒井康徳	助教	2425

電子工学系

氏　名	職　名	室　番　号
＊本間章彦	教授	6311
内川義則	教授	8308
羽根吉寿正	教授	2421
宮脇富士夫	教授	8310
荒船龍彦	准教授	6312
大越康晴	准教授	8302
大西謙吾	准教授	2424
田中慶太	准教授	8306
矢口俊之	准教授	6314
住倉博仁	助教	6310
塚原彰彦	助教	6310

建築・都市環境学系

氏　　名	職　　名	室　番　号
＊ 井浦雅司	教　授	2437
岩城和哉	教　授	2444
島田政信	教　授	2435
高田和幸	教　授	2436
近津博文	教　授	2443
中井正則	教　授	2447
見波　進	教　授	2445
石川敬祐	准教授	2446
鳥海吉弘	准教授	2441
佐藤大作	助　教	2434
宗政由桐	助　教	2438

共通教育群

氏　　名	職　　名	室　番　号
＊ 小島　勇	教　授	1400
石村多門	教　授	1442
岡林　茂	教　授	1437
小山内　大	教　授	1433
越川邦夫	教　授	1436
前島康男	教　授	1445
松平圭一	教　授	1446
張　建	特任教授	1429
池田瑞音	准教授	1443・5105Ａ（体育館）
遠藤晶子	准教授	1432
河上　睦	講　師	2411
小沼史彦	講　師	1439
ジェームス・ヨーク	講　師	1423
ジェフ・ブローデリック	講　師	1438
塩谷奈緒子	講　師	2417
新谷真由	講　師	1434
デイ・マシュー・マーティン	講　師	2410
中島浩貴	講　師	1444

氏　　名	職　　名	室　番　号
野田達也	講　師	5105A（体育館）
花元宏城	講　師	1435
福島祥一郎	講　師	1441
福富信也	講　師	1426・5105A（体育館）
柳原良江	助　教	1440
山本宏樹	助　教	2415

大学キャンパス所有地

埼玉鳩山キャンパス

理工学部

理工学研究科（修士）、先端科学技術研究科（博士）

〒 350 − 0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂

【理工学部事務部窓口取扱い時間】

月～土　　9：10 ～ 17：30

（休憩時間）　11：30 ～ 12：30

東京千住キャンパス

工学部、工学部第二部、未来科学部、システムデザイン工学部

工学研究科（修士）、未来科学研究科（修士）、

先端科学技術研究科（博士）

〒 120 − 8551 東京都足立区千住旭町 5 番

本冊子は新入生のみ配布されます。
卒業するまで大切に取扱いください。

平成 30 年 4 月 1 日　発行

編　者　　理工学部事務部教務担当
発行者　　東京電機大学理工学部
〒350-0394　埼玉県比企郡鳩山町石坂
電話　049（296）0430

印刷所　　関根印刷所
〒360-0113　埼玉県熊谷市御正新田 413-5
電話　048（536）0162

〔非売品〕

UD FONT by MORISAWA
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。


TDU